



# 第10回



## 関西元気な地域づくり発表会 報告書

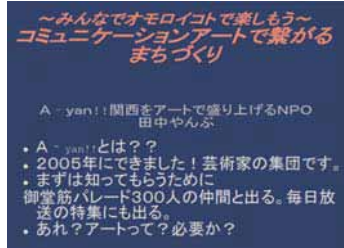
平成27年2月23日(月) 14:00～17:30



京都府京丹後市大宮町  
南大野区長 川口 勝彦  
長岡中央商店街地域活性化委員会 木本喜博



全国ご当地鍋フェスタ実行委員会



主催：「関西元気宣言」発信運動本部



# 目次

|      |       |
|------|-------|
| 開催概要 | p.003 |
|------|-------|

## 【第1部】

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| 基調講演 地域資源を活かした活性化への思い | p.007 |
|-----------------------|-------|

## 【第2部】

|               |       |
|---------------|-------|
| 第1分科会【観光交流部門】 | p.032 |
|---------------|-------|

|              |       |
|--------------|-------|
| 田舎を活かしたまちづくり | p.033 |
|--------------|-------|

|                          |       |
|--------------------------|-------|
| 全国ご当地鍋フェスタ「鍋ー1グランプリ」について | p.039 |
|--------------------------|-------|

|                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 地域資源の掘り起しと地域情報誌発行を活かしたまちづくり | p.045 |
|-----------------------------|-------|

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| 地域主体の連携による環境にやさしい街づくり | p.051 |
|-----------------------|-------|

|                    |       |
|--------------------|-------|
| ピンチをチャンスに変えた花の街づくり | p.057 |
|--------------------|-------|

|                            |       |
|----------------------------|-------|
| 野菜と花と緑のタテニワ菜園花壇で地域の環境緑化づくり | p.066 |
|----------------------------|-------|

|              |       |
|--------------|-------|
| 〔自由討論・意見交流会〕 | p.073 |
|--------------|-------|

|                 |       |
|-----------------|-------|
| 第2分科会【地域資源活用部門】 | p.077 |
|-----------------|-------|

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| 人と自然が共生するカタクリ100万本の里山 | p.078 |
|-----------------------|-------|

|                   |       |
|-------------------|-------|
| 京田辺市の自然を活かしたまちづくり | p.084 |
|-------------------|-------|

|                               |       |
|-------------------------------|-------|
| 全ての人が出すごみを媒体としたまちづくり、人づくりを目指す | p.095 |
|-------------------------------|-------|

|                            |       |
|----------------------------|-------|
| 東堅町の地域環境と伝統文化を生かした生活とまちづくり | p.103 |
|----------------------------|-------|

“めざせ1トン 学校地域をあげての生ごみ回収”

|               |       |
|---------------|-------|
| 小学生でもできる循環型社会 | p.114 |
|---------------|-------|

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 貝塚市の豊かな自然再発見のまちづくり | p.120 |
|--------------------|-------|

|              |       |
|--------------|-------|
| 〔自由討論・意見交流会〕 | p.127 |
|--------------|-------|

|                      |       |
|----------------------|-------|
| 第3分科会【コミュニティ・防災減災部門】 | p.137 |
|----------------------|-------|

天王寺区下寺町における地域課題解決

|                     |       |
|---------------------|-------|
| プロジェクト「お寺 de ハロウィン」 | p.138 |
|---------------------|-------|

|                         |       |
|-------------------------|-------|
| 地球温暖化防止活動の推進による明舞団地の活性化 | p.144 |
|-------------------------|-------|

たのしく！むりなく！みんなでつくろう！五月田の避難所運営マニュアル

|                        |       |
|------------------------|-------|
| ～事業避難所運営訓練 HUG（ハグ）の実施～ | p.153 |
|------------------------|-------|

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| 東堅町の地域環境を生かした生活とまちづくり | p.162 |
|-----------------------|-------|

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| 書を通じて青少年の防災教育を担うまちづくり | p.173 |
|-----------------------|-------|

～みんなでオモロイことで繋がる～

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| コミュニケーションアートで繋がるまちづくり | p.178 |
|-----------------------|-------|

|              |       |
|--------------|-------|
| 〔自由討論・意見交流会〕 | p.182 |
|--------------|-------|

## 【第3部】

|       |       |
|-------|-------|
| 全体交流会 | p.189 |
|-------|-------|

|                      |       |
|----------------------|-------|
| 自治体からの施策紹介パネル / 添付資料 | p.203 |
|----------------------|-------|

# 開催概要

主催:「関西元気宣言」発信運動本部  
後援:一般社団法人近畿建設協会

- ・日時:平成27年2月23日(月) 14:00~17:30
- ・会場:大阪合同庁舎1号館 第1別館、新館

## ■第1部 14:00~14:50

### 基調講演

第1別館2階  
大会議室

演題:地域資源を活かした活性化への思い

講師:高岡 裕司氏 株式会社吉田ふるさと村 代表取締役社長

平成17年 5月 中国地域ニュービジネス特別賞受賞  
平成19年 3月 日本たまごかけごはんシンポジウム実行委員会が  
平成18年度地域づくり総務大臣表彰を受ける。  
平成21年 3月 経済産業省「ソーシャルビジネス55選」選定  
平成24年10月 日本醤油協会「醤油地域貢献賞」受賞

## ■第2部 15:00~16:30

### 分科会(応募団体による活動内容の発表)

※ 各会場への入退室は自由です。3つの会場で計18の団体が発表します。

第1別館2階  
第2会議室

第1分科会【観光交流部門】

座長 : 森重 昌之氏

(阪南大学 准教授)

第1別館3階  
第4会議室

第2分科会【地域資源活用部門】

座長 : 横山 葵氏

(NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長)

新館3階  
A会議室

第3分科会【コミュニティ・防災減災部門】

座長 : 田端 和彦氏

(兵庫大学 教授附属総合科学研究所長)

## ■第3部 16:40~17:30

### 全体交流会

第1別館2階  
大会議室

コーディネーター横山 葵氏

(NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長)



# プロフィール

## 高岡 裕司 氏(株式会社吉田ふるさと村 代表取締役社長)

S32年に島根県吉田村生まれ。大学時代を東京で過ごす(株)吉田ふるさと村設立準備のため帰郷し入社。H24年代表取締役社長就任、現在に至る。創業期は営業を中心に時には餅つきまでこなし、新規事業は常に先頭となり取り組む。H14に全国で初の卵かけごはん専用醤油「おたまはん」を販売するなど全国に卵かけごはんブームのきっかけをつくった。H24日本醤油協会「醤油地域貢献賞」を受賞。その他「可能な限り自分たちでやる」ことを基本に、水道事業やバス事業など多数の事業を展開。現在、観光振興による定住促進、地域振興に挑戦中!!



## 森重 昌之 氏(阪南大学 国際観光学部准教授)

阪南大学国際観光学部准教授。大阪府生まれ。北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院博士後期課程修了。民間企業を経て、2011年より阪南大学国際観光学部国際観光学科専任講師、12年より現職。研究テーマは、観光まちづくり、観光を通じた地域社会の再生。NPO法人観光創造アカデミー第3回前田弘記念観光学賞受賞。朝来市商工会：着地型観光連携事業委員会委員、京都市西京区：大原野「地域ブランド」戦略検討部会アドバイザー等に就任。共編著に『地域資源を守っていかすエコツーリズム』、『観光の地域ブランディング』など。



## 横山 葵 氏(NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長)

NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会事務局、(有)エイライン代表取締役。大阪府生まれ。技術士(総合技術監理、都市及び地方計画／道路)。人と自然が、人と人が心豊かに共存できるまちづくりを軸に、環境の創造・再生を行う活動と共に、まちづくりや環境団体の活動促進やネットワーク・交流の企画、コーディネート、行政との橋渡しなどを行っている。また、地域が元気になる為に地域の食材をプロデュースし、地域の情報と共に首都圏を中心とした食材の販路拡大の実践も手がけている。



## 田端 和彦 氏(兵庫大学 生涯福祉学部教授、附属総合科学研究所長(兼))

兵庫大学生涯福祉学部教授、附属総合科学研究所長。三重県生まれ。広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程後期修了。93年に広島大学助手、95年、兵庫大学講師、同大学経済情報学部経済情報学科准教授を経て、08年に生涯福祉学部発足により、現職。専門は地域経済学、地域政策論、地域福祉学。07年まで兵庫県の外郭団体である(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構地域政策研究所で、主任研究員を務め、地域再生や競争力向上、コミュニティビジネス等に関する研究にあたった。著書に『参画と協働－理論と実践』他、また論文に「地域の産業創発の国際比較」、「地域の競争力向上とガバナンスのあり方」など。



# 分科会発表者一覧

## 第1分科会:観光交流部門

| 発表タイトル                          | 団体名                            | 府県市町        |
|---------------------------------|--------------------------------|-------------|
| 田舎を活かしたまちづくり                    | 奥大野区                           | 京都府<br>京丹後市 |
| 全国ご当地鍋フェスタ<br>「鍋-1グランプリ」について    | 全国ご当地鍋フェスタ実行委員会                | 京都府<br>笠置町  |
| 地域資源の掘り起しと<br>地域情報誌発行を活かしたまちづくり | NPO法人 奥播磨夢倶楽部                  | 兵庫県<br>宍粟市  |
| 地域主体の連携による環境にやさしい街づくり           | 長岡中央商店街地域活性化委員会                | 京都府<br>長岡京市 |
| ピンチをチャンスに変えた花の街づくり              | 六甲アイランドCITY自治会<br>ローズガーデンファミリー | 兵庫県<br>神戸市  |
| 野菜と花と緑のタテニワ菜園花壇で<br>地域の環境緑化づくり  | ララファーム                         | 兵庫県<br>西宮市  |

## 第2分科会:地域資源活用部門

|                                          |                    |             |
|------------------------------------------|--------------------|-------------|
| 人と自然が共生するカタクリ100万本の里山                    | 矢環境緑化実行委員会         | 福井県<br>大野市  |
| 京田辺市の自然を活かしたまちづくり                        | NPO法人 やましろ里山の会     | 京都府<br>京田辺市 |
| 全ての人が出すごみを媒体としたまちづくり、<br>人づくりを目指す        | ふるさと倶楽部            | 和歌山県<br>御坊市 |
| 東堅町の地域環境と伝統文化を生かした<br>生活とまちづくり           | 亀岡市東堅町自治会文化委員会文化部門 | 京都府<br>亀岡市  |
| “めざせ1トン 学校地域をあげての生ごみ回収”<br>小学生でもできる循環型社会 | 長岡京市立長岡第四小学校       | 京都府<br>長岡京市 |
| 貝塚市の豊かな自然再発見のまちづくり                       | 橋本夏次               | 大阪府<br>貝塚市  |

## 第3分科会:コミュニティ・防災減災部門

|                                                                |                          |             |
|----------------------------------------------------------------|--------------------------|-------------|
| 天王寺区下寺町における地域課題解決<br>プロジェクト「お寺deハロウィン」                         | 特定非営利活動法人<br>MIRAI PLUS  | 大阪府<br>大阪市  |
| 地球温暖化防止活動の推進による<br>明舞団地の活性化                                    | NPO法人環境21の会              | 兵庫県<br>明石市  |
| たのしく!むりなく!みんなでつくろう!五月田の<br>避難所運営マニュアル<br>～事業避難所運営訓練HUG(ハグ)の実施～ | 五月田校区自治連合会               | 大阪府<br>門真市  |
| 東堅町の地域環境を生かした生活とまちづくり                                          | 亀岡市東堅町自治会文化委員会環境部門       | 京都府<br>亀岡市  |
| 書を通じて青少年の防災教育を担うまちづくり                                          | 特定非営利活動法人<br>健康まちづくり推進協会 | 兵庫県<br>神戸市  |
| ～みんなでおモロイことで繋がる～<br>コミュニケーションアートで繋がるまちづくり                      | A-yan!!関西をアートで盛り上げるNPO   | 大阪府<br>東大阪市 |



## 第1部 基調講演

地域資源を活かした活性化への思い



# 基調講演

## 地域資源を活かした活性化への思い

株式会社吉田ふるさと村 代表取締役社長 高岡 裕司氏

S32年に島根県吉田村生まれ。大学時代を東京で過ごす(株)吉田ふるさと村設立準備のため帰郷し入社。H24年代表取締役社長就任、現在に至る。創業期は営業を中心に時には餅つきまでこなし、新規事業は常に先頭となり取り組む。H14に全国で初の卵かけごはん専用醤油「おたまはん」を販売するなど全国に卵かけごはんブームのきっかけをつくった。H24日本醤油協会「醤油地域貢献賞」を受賞。その他「可能な限り自分たちでやる」ことを基本に、水道事業やバス事業など多数の事業を展開。現在、観光振興による定住促進、地域振興に挑戦中!!



平成17年 5月 中国地域ニュービジネス特別賞受賞

平成19年 3月 日本たまごかけごはんシンポジウム  
実行委員会が平成18年度地域づくり  
総務大臣表彰を受ける。

平成21年 3月 経済産業省「ソーシャルビジネス55  
選」選定

平成24年10月 日本醤油協会「醤油地域貢献賞」受賞



## 地域資源を活かした活性化への思い

株式会社吉田ふるさと村代表取締役社長 高岡裕司

島根県は雲南市からやってまいりました。吉田ふるさと村の高岡と申します。本日は、吉田ふるさと村が生まれて 30 年間、ここまでどうやってきたかというお話をさせていただきたいと思います。

その前に、島根県雲南市をご存じの方はいらっしゃいますか。——どこへ行ってもわからないと言われます。数年前に島根県は日本でも知名度が一番低い県として有名になりましたが、ましてや雲南市は 10 年前に合併で生まれた市ですので、知られないのが当たり前かと思います。中国の雲南省と本当によく間違えられますが、中国地方の雲南市です。

吉田村の場所はこちらで、面積は 113.98 平方メートル、山が 9 割を占め、人口は 1,900 弱、高齢化率は 40%超です。

雲南市は 10 年前に 6 町村が合併して誕生した市で、人口は 4 万ちょっと、たたら製鉄があります。この菅谷たたら山内は鉄をつくるために形成された集落で、日本で唯一この吉田町に残っております。そういう資源を守るために、たたらを中心にいろいろな活動をしております。宮崎駿監督もここで「もののけ姫」の構想を練られました。国の文化財にも指定されている炉も昔のまま残してあります。

三日三晩寝ずに鉄をつくっておりました。最盛期は江戸時代、当時は日本の鉄の 7 割を奥出雲地方で生産していた鉄の町でした。日本刀をつくるにはこれしかないと言われるほど純度の高い鉄で、今も細々と製鉄をしています。

その鉄の文化、技術を伝え、それを何とか生かしていこうということで、昭和 61 年に鉄の歴史村宣言をして、今に至っております。

町並みの一部の写真です。この蔵は鉄山を運営していた田辺家のもので、今もこのまま残っています。鉄にまつわる資料館などもございます。

そんな中に私どもの吉田ふるさと村はあります。昭和 60 年にできました。私は 59 年に吉田へ U ターンしてきて、1 年間の会社設立の準備を経て、今に至っております。このままでは村がなくなるという危機感から、仕事をつくら

う、産業振興して村を元気にしようという目的で、第3セクター方式の会社がつくられました。会社を1つ起こして物事が済めば簡単な話で、最初は議会も、赤字を出して村の財政支援が必要になるだけだ、うまくいくはずがないと猛反対でしたが、我々は、4年目以降は黒字にする、行政の支援は出資金だけということを出発しました。

私どもの株主は村民です。我々は村の出資、つまり税金を使ってつくる会社なので、村の人たちの賛同を得て、できれば株主になってもらおうと考えて、全戸に趣意書を配り、説明会をして、1株5万円で株主を募集しました。村の出資の500万円は決まっていたので、株で1,000万円集めようと考えたところ、ふたを開けると109人、2,750万円が集まりました。不安いっぱいスタートでしたが、おかげさまで住民の強力なバックアップがありまして、大きな原動力になっています。

資本金は1,500万からスタートし、増資をして今は6,000万円、現在の株主の構成は雲南市が4分の1、あとは地元の法人、個人の皆さん方です。1株株主が圧倒的に多いです。630世帯あるうちの6分の1の世帯が株主です。

私を含めて6人の社員、パートでスタートし、今は70人ほどいます。年商は4億4,500万です。

業務内容についてお話しします。何屋さんなのかといつも言われますが、メインは特産品の開発、製造・販売で、地元の農産物を使っていろんな商品をつくっています。年商4億4,500万のうち、食品が4割、温泉・宿泊施設が23%、水道工事、バスなどもやっています。

メインの食品加工で我々がこだわったのは安全です。添加物を使わない加工食品をやっていこうということで30年前にスタートしました。経験者は全くおらず、手探りの中でのスタートでしたが、地元の皆さんの協力を得てこつこつとやってきました。

この写真は、平成7年に補助金でつくっていただいた工場と本社の社屋です。最初は、自分たちの出資金や民間からの借り入れでプレハブの工場からスタートして、10年後にこのような姿になりました。立派な工場なり施設があって、それを運営するために3セクをつくるのがセオリーですが、我々は思いだけで会社をつくったので、何もありませんでした。なので、最初は民間の建物を借

りて、干し椎茸の加工・販売から始めました。

これは工場の様子です。20 年前にエアシャワーをつけて食品加工をしているところは珍しかったです。

基本、手づくりです。これは焼き肉のたれをつくっているところで、機械はほとんどなく、人が手づくりしています。

これは端午の節句用の笹巻きです。

餅もいろんな種類があります。白い丸い餅から、玄米餅、五穀餅、そば餅等、通年食べてもらえるようにいろいろなものを考えました。

こちらはスライス餅で、しゃぶしゃぶやスープに入れていただきます。若い人にも食べてもらえるように、おしゃれなものを考えました。東京でよく売れています。

こちらは冷凍の大福餅です。うちは添加物を一切使いませんので、日持ちさせるために何でもかんでも冷凍しています。

ほかにも雑穀の焼きおにぎり、スイートポテト、椎茸、調味料、焼き肉のたれなどいろいろありまして、生協さん、宅配さんで販売していただいています。

吉田村で何で焼き肉のたれなのかと言われますが、株主の奥さんがつくっておられた焼き肉のたれがおいしかったので、それを商品化させていただきました。原料はほぼ 100%地元のもので、26～27 年売っています。子ども向けのものなど、いろいろな種類があります。

こちらは、おにぎり用に特化したみそです。最初は「唐辛子みそ」とか「しょうが味噌」として販売していましたが、名前やスタイル、量目を小さくしたところ、よく売れるようになりました。

ノンオイルのドレッシングです。最近のドレッシングにない素朴なラベルで、商品棚に並べていただくと、一番地味で逆に目立っています。

こちらは豚丼のたれです。受験生に豚丼を食べてもらって、トントン拍子に合格してもらいたいという思いでつくった商品です。味はすごくいいですが、余り売れていません。

唐辛子を使った商品がいろいろあります。雲南市は農商工連携協議会でいろんなプロジェクトを立ち上げておりまして、その一つであるスパイスプロジェクトで、雲南市内のスパイスを使った商品開発を連携事業としてやっております。



実は雲南市は唐辛子の生産量が日本一です。なぜそうなったかというと、畑にイノシシや熊などが入って作物が全滅する、何とかならないかということで思いついたのが唐辛子だったのです。動物も辛い唐辛子は食べませんので、獣害のない唐辛子の生産がわっと広まりました。中でも「オロチの爪」という商標をとった唐辛子があります。雲南市はヤマタノオロチ伝説発祥の地でもありますから、ヤマタノオロチの爪みたいにでかい唐辛子ということで、15センチぐらいの大きな唐辛子をつくっています。

スライドの「青とうがらし&ニンニク」という商品もその唐辛子を使っていて、平成22年度に商工会の会長賞をいただきました。

我が社を一躍有名にしたのが、この卵かけご飯専用醤油「おたまはん」です。今、卵かけご飯専用醤油は全国で60種類ぐらい出ていますが、これが元祖です。

こちらはタイガースバージョンの「おとらはん」です。阪神百貨店の八百屋さんで売っています。決してグッズコーナーではありません。阪神球団の認証もいただいています。

これは、吉田くんバージョンのラベルです。吉田くんは島根県吉田村生まれで、島根のスーパー大使もしています。

地元のお米と卵と醤油のセットもあります。8年ほど前に「ちちんぷいぷい」で放送されたところ、ネットサーバーがパンクするほど注文をいただきました。

平成14年に発売した「おたまはん」は、平成17年にブレイクして、単品で年間1億ほど売りました。

これらの商品の販売は、3～4割が東京、残りが地元とか大阪近辺で、直販は1割ほどです。うちの商品の説明商品で、店頭に並べるだけではわかりにくいので、ちゃんと説明していただけたところとお付き合いさせていただくということで、酒屋さん、お米屋さん、本屋さんにもあります。

我々は工場もないところからのスタートで、少しずつ大きくしてきましたが、一番最初にベースをつくったのは餅つきです。餅つき道具一式と米を持ってトラックで出かけて行って、松江や出雲のスーパーの店頭で餅つきをさせていただきました。多いときには1日4チームがあちこちへ行って稼いできました。これのいいところは、現金収入、設備投資不要、目標が明確であるという点です。男女2人1組でチームを組んで、30キロの米袋を1袋分つくとペイ、それ



以上つけばその分だけ儲け、多いときで2袋つくこともありました。一番すごかったのは阪神百貨店さんで、朝の開店から 19 時まで行列が途切れることなく、1 週間の催事をやらせていただきました。あのときは1日で6～7袋分の餅をつきました。

その後、補助金で工場をつくっていただいて、そこから東京をターゲットに販路拡大を図り、東京から全国に広がりました。うちは量販さんとのつき合いはないので、大量に物が動くことはありません。1 ケース 20 個とか 30 個の小口の商品を宅配でそれぞれのお店にお届けするという商売ですが、それを 30 年かけて徐々に全国に広げてきました。おもしろいもので、うちの商品が東京経由で地元に出てくることもあります。小さいお店が圧倒的に多いですが、全県にあります。アメリカ、台湾、中国にも出荷しております。

自社で使う原料もつくっています。例えば、黒ゴマです。ゴマは面倒くさくて誰もつくってくれませんので、仕方がないので自分らで無農薬でつくっています。希少価値が高いので引き合いはありますが、うちの商品に使うので手一杯で、外には出してません。椎茸も始めて5年ほどになります。

市民バス、いわゆる過疎バスの運転もやっています。民間事業者が撤退される中で、住民の足を守るということで行政から委託を受けて運転させていただいています。30 年前に始めて、雲南市のメイン路線を全部やらせていただいています。10 人の運転手さんが働いています。

水道工事もやっています。当時、吉田には業者がおりませんでしたので、水道がとまると一晩中水が来ないということはざらでした。そこでみずから資格を取ってこの事業にも参入しました。合併前には水道工事がかなり出て、当時はこの売り上げが半分ぐらいを占めてウハウハでしたが、今は全然だめです。ただ、人がいる限りはついて回る仕事なので、赤字ですが何とかやっています。

そんな吉田村に大きな変革をもたらす出来事がありました。高速道路です。3月 22 日に全線開通予定で、一昨年3月に一部開通したところ、無料です。一般道の車が全部シフトしてきました。たまたまそれが吉田町を通っていて、吉田町の中には2カ所もインターチェンジができました。そのすぐそばに道の駅をつくったところ、それが物の見事に当たりまして、この高速道路を活用して観光を振興していこう、そして産業の振興につなげようとしています。

観光振興の一つとして、たたらという希有な資源を使っています。鉄づくりができる体験ツアーなどを年に数回やっています。吉田だからできることということで、まだ模索の状態ですが、今後、定番化して常にやれるようにしていきたいと思っています。

出雲神話の地でもありますので、こちらもいろんなツアーをつくっています。スサノオの伝承地めぐりは定番化して4年続いています。

温泉もやっています。築50年の建物でぼろぼろです。4年後に新しくしてもらえますが、指定管理で入ってやっています。1,300年前からわき出ている非常に歴史のある美肌の湯ですので、これを生かしていこうということで、全く無知な我々が無謀にも飛び込みました。去年、10年目にしてやっと黒字になりました。

道の駅「たたらば壱番地」は650平米しかない小さな建物ですが、インターチェンジのすぐそばにつくったので、まるでサービスエリアです。出雲大社の遷宮のあった一昨年には、物すごい車と人がこの高速道路を使って出雲大社に行けました。

「たたらば壱番地」という駅名の由来は、吉田くんの生誕地の地番がたたらば壱番地なので、吉田くんの生まれ故郷だよということと、たたらの歴史ある町なんだよということをあらわす駅名にしました。

十割そば、産直市、土産物屋、地元の卵を使ったプリン、シュー、地元の唐辛子を使った汁なし担々麺やソフトクリーム、「おたまはん」を使ったソフトクリームもあります。あと、新しい技術を使った観光案内もしています。

初年は5億、50万組の方がおいでになりました。これはレジの通貨人数ですので実際はもっと多いと思いますが、圧倒的に広島県の方が多いです。そのほかは岡山、山口等の山陽方面、来館目的はトイレと休憩、それにプラスして買い物、目的地は出雲大社でした。来月全通しますと四国と高速道路がつながりますので、四国からのお客様がふえと見えています。

私どもの会社は株式会社ですので、利益を上げて、それを地域に還元していくことが我々の仕事です。ただやみくもに儲ければいいというのではなくて、儲けたものをどうやって地域に還元していくかが我々の使命です。

その中の1つとして、10年前に日本たまごかけごはんシンポジウムを開催し

ました。「おたまはん」のヒットが我々の根底にありますので、日本人の大好きな卵かけご飯で何かできないかということで、このイベントを思いつきました。開催理由はいろいろありますが、その一番の理由は、合併を機に吉田村のような小さな村は過疎が起こるだろうから、それを覆したい、小さな村でもいろんなことができるんだよということを示したいということでした。

周りからは、こんな大層な名前をつけて山の中で何ができるのか、ばかなことをするなと言われましたが、やったところが大変なことになりました。この写真は、東京医科歯科大学の先生が、卵かけご飯は嚥下障害のある方にとってすばらしい食品だという論文発表をさせていただいているところです。

ネットで作文、論文、写真、レシピ、何でもいいので募集したところ、非常に興味を持っていただきました。フジテレビの番組でも取り上げられて、ダウンタウンのまっちゃんが作品を応募してくださったので、それも発表しました。あるいは、島根大学の学生が1カ月連続で卵かけご飯を食べたという発表もありました。勝手に10月30日を卵かけご飯の日に制定して、日本記念日協会に登録もしたので、Googleでもちゃんと出てきます。このように大変賑わって、テレビカメラが13台、NHKは衛星放送車を持ってきて生放送されました。当時人口2,000人の村が一瞬倍になりました。それを毎年やっていて、去年で10回目を迎えました。

この「おたまはん」とシンポジウムが小さな村に大きな効果をもたらしたということで、総務大臣の表彰もいただきました。

地域を元気にするための会社ということで、村の人から出資をいただいてつくられたのが私どもの会社ですので、今もそれに向かって進んでいます。特に大事にしているのが、自分たちでやろうという点です。アウトソーシングもしますが、取っつきは自分たち、考えるのも自分たち、商品のラベルも自社の人間が書いたものを使っています。

今メインに取り組んでいるのは観光です。少なくなった人口をどうカバーしていくか、まず交流人口、そしてそれを定住につなげていくということをやっています。それから、農業です。自社でも農園を持ってやっています。一番大きいのが「人財」の育成です。人が少なくなると当然優秀な人材もいなくなります。また、1ターンしてきた人たちはモチベーション高くバリバリやって

くれますが、地元の間人は割合のんびり、おっとりとしていますので、その辺のギャップに悩んでいます。しかし、絶対的人数が少ないので、みんながレベルアップしてやらないと成り立たないということで、今は四苦八苦しながらやっています。

吉田村の状況、会社のお話を駆け足でさせていただきましたが、実態はとても大変です。去年は何とか黒字にしましたが、一昨年までは3期連続でちょっとした大きな赤字、今期もなかなか難しいです。4期目から小さな数字を積み重ねてきていますが、ここに来て大きな事業に携わってきていますので、非常に苦しい経営をしつつ、10年後には観光で多少飯が食えるようになることを夢見て、今一生懸命頑張っているところです。

これで私のお話を終わらせていただきます。ありがとうございました。



## 地域資源を活かした活性化への思い

～吉田ふるさと村の歩みから～



平成27年2月23日

## 鉄の歴史村宣言

鉄は日本の文化、産業に大きく貢献してきた。  
吉田村は、日本のたたら製鉄の中心地であり、  
鉄とともに栄えてきた村である。  
その鉄の風土と歴史、そして文化の遺産を正しく  
保存し公開することが私たちの使命であり、  
ここに「鉄の歴史村」を宣言する。

昭和61年3月16日

吉田村



## 「よしだむら」の概要

H26.12現在

面積：113.98km<sup>2</sup>

山林：103.03km<sup>2</sup>

人口：1,883人

世帯数：659戸

高齢化率：39%



吉田ふるさと村

## 会社概要 ①



|     |                                |
|-----|--------------------------------|
| 会社名 | 株式会社吉田ふるさと村                    |
| 所在地 | 〒690-2801<br>島根県雲南市吉田町吉田1047-2 |
| 設立  | 昭和60年4月1日                      |
| 背景  | 急速に進む人口減少<br>高齢化 → 「むら」消滅の危機感  |
| 目的  | ・ 地域産業の振興<br>・ 雇用の場の創出         |

吉田ふるさと村

## 会社概要 ②

H27.2.1現在

資本金 6,000万円

|      |            |               |
|------|------------|---------------|
| 出資構成 | 雲南市        | 1,500万円 (25%) |
|      | 法人・団体 (19) | 2,815万円 (48%) |
|      | 個人 (106)   | 1,685万円 (27%) |

年商 4億4千5百万円 (平成25年度実績)

従業員数 68名 (パート含む)

ホームページ <http://www.y-furusatomura.co.jp/>



## 食品加工のこだわり

吉田ふるさと村では、皆様に安心して召し上がっていただける食品づくりのために、原料は地元農家と契約し栽培された野菜やお米を使用し、食品添加物を一切加えない**安全な食品加工**と、環境にやさしい農業を行っています。また、機能的・衛生的な環境の整った設備のもとで生産しています。



## 業務内容

- ① 特産品の開発及び製造・販売
- ② 公共団体の行う業務の受託
  - ・雲南市民バスの運転業務
  - ・簡易水道施設の管理
- ③ 管工事業及び水道施設工事業
- ④ 温泉宿泊施設「清嵐荘」の経営
- ⑤ 野菜と原木椎茸の栽培
- ⑥ 地域資源を活用した旅行商品の企画・販売
- ⑦ 飲食店の経営
- ⑧ 道の駅「たたらば壱番地」の管理



## 契約栽培農家のみなさん



## 商品ラインナップ

餅



調味料



乾椎茸



冷凍食品



吉田ふるさと村

## スパイスプロジェクト開発商品



平成22年度「むらおこし特産品コンテスト」  
全国商工会連合会長賞受賞

吉田ふるさと村

## スライスもち



吉野町産物

## たまごかけごはん専用醤油 「おたまはん」



吉野町産物



## 原料生産部



胡麻の刈り取り

しいたけの楯木



吉岡村

## 管工事業及び水道施設工事業



- ◇ 給排水衛生設備工事
- ◇ 上水道配水管布設工事



吉岡村

## 雲南市民バスの運転



車 両： 8 台  
運転手： 10 名



雲南市民バス

## 高速道路の活用

◇中国横断自動車道尾道松江線◇

～中国やまなみ街道～

平成27年3月22日全線開通!!



全線無料!!



雲南市民バス

## たたら製鉄の歴史と技術を学ぶ

～観光事業部～

- ① 鐵の道紀行
- ② たたら操業体験ツアー
- ③ 鍛冶体験ツアー
- ④ 鐵のものづくり大学



出雲湯村

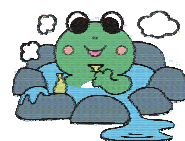
## 千三百年の歴史を誇る名湯

～出雲湯村温泉～

くろぎの掛け流しの宿 清風荘



- ◇ 日帰り入浴
- ◇ 宿泊
- ◇ 宴会



出雲湯村

～観光事業部～

- 神威の聖王

島根県雲南市を地元観光カイトと巡る節



ヤマトオノ子  
伝承祭

スサノオ子  
伝承祭

悠久の輪を結んで魅惑をみずく道治伝説の浜へ




平成25年4月〜11月催行!

ヤマトオノ子  
伝承祭

**第2土曜日**

各催行日の15日前  
開行します。

|       |       |          |
|-------|-------|----------|
| 出品販売日 | 出展締切日 | 9:30 出展  |
| 9月16日 | 9月15日 | 9:50 出展  |
| 9月17日 | 9月16日 | 10:10 出展 |

スサノオ子  
伝承祭

**第4土曜日**

27名(最少催行人数10名)  
お一人様 大人 4,000円  
小人 3,000円  
※当日午後開始

|      |     |
|------|-----|
| 開催要項 | 参加料 |
|------|-----|

※いすのりやスサノオ伝説をめぐりながらの催行となります。  
※お天気の都合により、催行が中止となる場合があります。

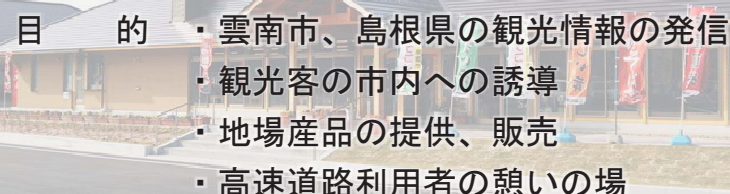


オープン 平成25年3月30日

事業費 2億7,600万円

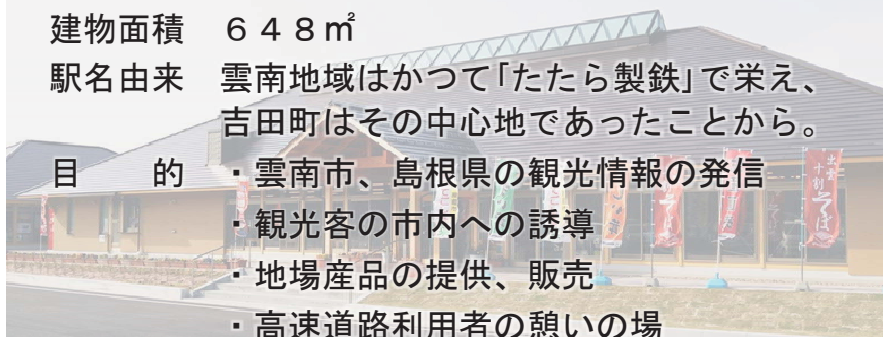
建物面積 648 m<sup>2</sup>

**駅名由来** 雲南地域はかつて「たたら製鉄」で栄え、吉田町はその中心地であったことから。



**目 的**

- ・雲南市、島根県の観光情報の発信
- ・観光客の市内への誘導
- ・地場産品の提供、販売
- ・高速道路利用者の憩いの場



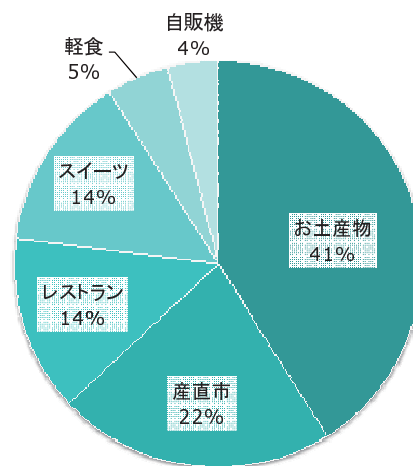


## 道の駅「たたらば壱番地」

### 平成25年度実績

来館者数 516,000組

総売上高 4億8,670万円  
(消費税抜き)



部門別売上比率

吉田町

## 日本たまごかけごはんシンポジウム



吉田町



## 日本たまごかけごはんシンポジウム

- ① 日本人の食の原点であり地域の特産品である「米・卵・醤油」の消費拡大を図り、中山間地の農業の活性化を図る。
- ② 中山間地域の魅力である「豊かな自然」「豊かな食」を再発見し、全国に発信する。
- ③ 疲弊する中山間地域ににぎわいと元気を起こす。



## おたまはんとシンポジウムの効果

- ・ たまごかけごはん専用醤油という新しいジャンルを創造
- ・ 全国的にたまごかけごはんブームを巻き起こす
- ・ 専用調味料ブームを引き起こす
- ・ 米や卵、醤油の消費拡大に寄与し、地域経済のみならず全国的に市場の活性化に貢献
- ・ 島根県、雲南市の知名度アップに貢献
- ・ 小さな過疎のむらでもアイデアと実行力で全国にアピールできることを実証



平成18年度 地域づくり総務大臣表彰受賞



## 株式会社吉田ふるさと村の特徴

- ① 地域貢献のための会社
- ② 民間主導型の第3セクター
- ③ 経営者・社員は全員民間人・むらびと
- ④ 社員はみな地域を愛し誇りを持つ
- ⑤ 可能な限り自分たちの手で
- ⑥ むらの時間で時(とき)を刻む



「静聴ありがとうございました」

ありが





## 今後の課題

---

### ◎ 交流型事業の推進

- ・地域資源を活用した旅行商品の企画・実施
- ・交流人口の拡大

### ◎ 安全な農産物の生産

- ・契約栽培農家の確保
- ・自社での農薬生産
- ・健全な農地の維持・保全

### ◎ 人財の育成

## 第2部

### 分科会

(テーマに分かれ地域づくり活動団体からの発表)

第1分科会：観光交流部門

第2分科会：地域資源活用部門

第3分科会：コミュニティ・防災減災部門

# 第1分科会：観光交流部門

座長：森重 昌之 氏（阪南大学 準教授）

## 第1分科会：観光交流部門

| 発表タイトル                          | 団体名                            | 府県市町        |
|---------------------------------|--------------------------------|-------------|
| 田舎を活かしたまちづくり                    | 奥大野区                           | 京都府<br>京丹後市 |
| 全国ご当地鍋フェスタ<br>「鍋-1グランプリ」について    | 全国ご当地鍋フェスタ実行委員会                | 京都府<br>笠置町  |
| 地域資源の掘り起しと<br>地域情報誌発行を活かしたまちづくり | NPO法人 奥播磨夢倶楽部                  | 兵庫県<br>宍粟市  |
| 地域主体の連携による環境にやさしい街づくり           | 長岡中央商店街地域活性化委員会                | 京都府<br>長岡京市 |
| ピンチをチャンスに変えた花の街づくり              | 六甲アイランドCITY自治会<br>ローズガーデンファミリー | 兵庫県<br>神戸市  |
| 野菜と花と緑のタテニワ菜園花壇で<br>地域の環境緑化づくり  | ララファーム                         | 兵庫県<br>西宮市  |

## 座長

### 森重 昌之 氏（阪南大学 国際観光学部准教授）

阪南大学国際観光学部准教授。大阪府生まれ。  
北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院博士後期課程修了。  
民間企業を経て、2011年より阪南大学国際観光学部国際観光学科専任講師、12年より現職。研究テーマは、観光まちづくり、観光を通じた地域社会の再生。  
NPO法人観光創造アカデミー第3回前田弘記念観光学賞受賞。朝来市商工会：着地型観光連携事業委員会委員、京都市西京区：大原野「地域ブランド」戦略検討部会アドバイザー等に就任。共編著に『地域資源を守っていかすエコツーリズム』、『観光の地域ブランディング』など。





## 観光交流部門

### 田舎を活かしたまちづくり

京都府京丹後市大宮町奥大野区 区長 ○川口勝彦

#### 1. 活動方針・目的

キャッチフレーズ「倉垣花の庄 心のふるさと 奥大野へようこそ！」

基本方針 ①豊かな自然環境保全と伝統文化を軸とした地域活力づくり

②区民が健やかで安心して暮らせる安心安全な地域づくり

③人口の増加で元気な村づくり

#### 2. 活動内容

##### ①美観づくり

- ・ さくら草のプランター700個を沿道に配置（3月～4月）
- ・ 倉垣（くらがき）桜公園の整備（桜700本植樹）
- ・ オープンガーデン、オープンカフェの開催

##### ②安心安全づくり

- ・ 高齢者見守り隊、青色パトロール隊の設置（子供から高齢者まで）
- ・ 区防災会議の設置（地区防災計画書作成中）

##### ③元気な地域づくり

- ・ 他地区との連携による里力再生の取り組み  
加工グループの発足（大宮南おふくろSUN工房）  
大宮南手づくり市の開催（コンビニと連携）  
田舎ぐらしツアー、田舎コンの開催  
農家民泊の開業（4軒）
- ・ 大学連携による地域の情報発信
- ・ 奥大野田舎暮らし・新規就農支援センターによる移住、定住促進
- ・ イベント開催による人材育成と情報発信
- ・ ホームページ（おくおおの村、倉垣の庄）、ライブカメラによる地域発信

#### 3. 他の活動団体の参考となる事例

当地区の地域活性化の取り組みは、平成7年から始まり今年21年目（第3ステージの1年目）を迎えますが、第1ステージの10年間は荒れていた河川の草刈りとさくら草の取り組みを中心に実施してきました。しかし、飛びぬけたリーダーがいなかったこともあり、地味な活動期間であったが、第2ステージに入ると、人材も育ち、優秀な移住者の定住も進み上記のとおり活動の幅も広がり、情報発信も進み、都会からの交流人口が大幅に増加した。

#### 4. 今後の課題等

当地区特有の田舎らしい自然を活かしたいろんな活動を展開するなかで、私達と同様に豊かな自然の中でさまざまな田舎暮らしや自然体験をしたいと思う都会の方達が多くいることを区長の私や区民も理解することができたので、いままでの活動や地域資源を更に魅力ある商品にすることによって、来訪者を増やし、移住・定住に繋げていくことが今後の主要な課題である。

A group of seven people are posing in a field of green plants. They are holding up white signs with black Japanese text. The signs, arranged in two rows, read '来るのを待ってー！' (Waiting for you to come!). The people are dressed in casual summer clothing, and the background shows a lush green landscape under a clear sky.

# 奥大野区ってどこ？

- 



## 地域力を強化するために

### 奥大野区総合計画



#### ◇キャッチフレーズ

「倉垣花の庄 心のふるさと 奥大野へようこそ」

#### ◇活動方針

- ①美観づくり
- ②安心安全づくり
- ③元気づくり

### 広域連携で里力再生

### 大宮南地域里力再生計画



#### ◇キャッチフレーズ

「結の心でみんなが輝き 元気でにぎやかな大宮南」

#### ◇活動内容

- ①加エグループ大宮南おふくろSUN工房
- ②コンビニと連携した大宮南手づくり市
- ③田舎暮らしツアー、田舎コン(婚活)

## ①美観づくり(その1)

### 花いっぱい村

#### さくら草ロード



H7から実施

#### 倉垣桜公園



第1期(H14)～第4期(H25)  
オーナー322名 植栽計 700本



## ①美観づくり(その2)

### 女子力の活用

#### オープンガーデン



京丹後オープンガーデンネットワーク H17から開催

#### 1日だけのオープンカフェ



H25から開催

## ②安心安全づくり

### 子どもや老人の安全対策

「青色パトロール隊」  
「高齢者見守り隊」



### 地域の安全対策

奥大野区防災計画書  
奥大野区防災会議



### ③元気づくり(その1)

#### 都市と農村交流

農家民宿(4軒)で  
田舎暮らし体験



- ・横浜公文国際学園修学旅行生 28人
- ・東京荒川区少年団体指導者連絡協議会  
小学生25人、大人20人が来訪

大学連携で地域のPR



- ・大阪羽衣国際大学、京都立命館大学  
2年間延べ 学生53人参加

### ③元気づくり(その2)

#### 田舎暮らしツアー、田舎コン(婚活)開催

平成26年度都会から女性11名が参加



丹後の穴を探検



名物のばらずしでおもてなし



### ③元気づくり(その3)

#### 都市からの移住者が3年で8世帯

奥大野田舎暮らし、新規就農支援センター

自然農法で育てる野菜農家、  
加工グループや手づくり市など立ち上げに活躍



平成10年4月堺市から移住



平成26年5月枚方市から移住

### まず、京丹後市でNo.1の地域を目指す！

#### 田舎暮らし、新規就農を全国へ情報発信

アドレス

<http://Kuragaki.0.007.jp/>



アドレス

[Kuragaki-no-sho.jp](http://Kuragaki-no-sho.jp)



大宮南手づくり市のアドレス

<http://oomiyaminamitedukuri.blog.fc2.com/>



## 全国ご当地鍋フェスタ「鍋ー１グランプリ」について

全国ご当地鍋フェスタ

企画運営委員会 委員長      ○中西 隆夫  
京都府 笠置町 企画観光課      永江 匠

### 1. 活動方針・目的

笠置町は人口が京都府下で最も少ない町で、過疎化や少子高齢化が進展し、観光客の減少が続いています。全国ご当地鍋フェスタ実行委員会は、笠置町の商工観光振興の活性化を目的に、わかさぎ温泉 笠置いこいの館前広場にて、食と地域の文化交流イベント「全国ご当地鍋フェスタ」を毎年開催しています。平成23年秋に京都府内全域で国民文化祭が開催されることが契機となり、そのプレイベントとして平成22年に開催したのが当イベントの始まりです。笠置町の旅館全てで提供されている名物「きじ鍋」をはじめ、全国からご当地鍋やご当地グルメが集結する町の一大イベントです。

### 2. 活動内容

約20店舗が販売する全国のご当地鍋の中から、来場者の投票により決定する「鍋ー１グランプリ」がメインイベントです。そのほか、全国のご当地グルメの販売、きじ鍋をはじめとする笠置町内からの出店販売、歌唱や楽器演奏などのステージイベント、「まゆまる」や「せんとかん」などが集まるご当地キャラ（ゆるキャラ）イベント、子どもが手づくり体験を楽しめるキッズイベント等を実施しています。

### 3. 他の活動団体の参考となる事例

活気にあふれたイベントになるよう、笠置町の商工観光や地域振興に携わる各種団体により構成された企画運営委員会で開催に向けた検討を行っています。これまで笠置町では、季節ごとの主要なイベントを役場、商工会、観光協会の三本柱で行ってきました。全国ご当地鍋フェスタでは、これらに青少年育成委員会、老人クラブ連合会、社会福祉協議会、食生活改善推進員協議会、青年団なども参画し、協働で取り組んでいます。

また、近隣の公共施設へのチラシ・ポスターの配架依頼やフリーペーパーへの掲載依頼、新聞・ラジオ・テレビを使った広報活動にも注力しています。

こうした取り組みにより来場者数は年々増加傾向にあり、第1回の2,000人に対し、昨年の第5回は10,000人となりました。

### 4. 今後の課題等

イベント当日は多くの人々が笠置町を訪れている一方、笠置町の商工観光振興の恒常的な活性化には至っていないのが実情です。観光商工関連業者以外の町民の自主的な参加を促し、他の魅力ある観光資源との活用による着地型集客交流につなげていくことが求められます。



# 全国ご当地鍋フェスタ 鍋-1 グランプリ

## 全国ご当地鍋フェスタ「鍋-1グランプリ」について

全国ご当地鍋フェスタ実行委員会（京都府相楽郡笠置町）

### 笠置町の基礎データ

- ◆ 人口  
1, 529人（平成27年1月1日現在）  
日本で2番目に人口が少ない町
- ◆ 面積  
23. 57平方キロメートル
- ◆ 歴史  
後醍醐天皇と鎌倉幕府による「笠置山の戦い」  
の舞台として有名
- ◆ 自然  
木津川河川敷の桜（桜の名所100選）  
笠置山もみじ公園の紅葉（ライトアップ有）
- ◆ 観光・レジャー  
笠置寺（磨崖仏など）、木津川河川敷キャンプ場、  
わかさぎ温泉笠置いこいの館、布目川甌穴群、  
カヌー教室、ボルダリング など



京都市

笠置町



# 笠置町が目指す地域づくり

地域資源の発見・発信

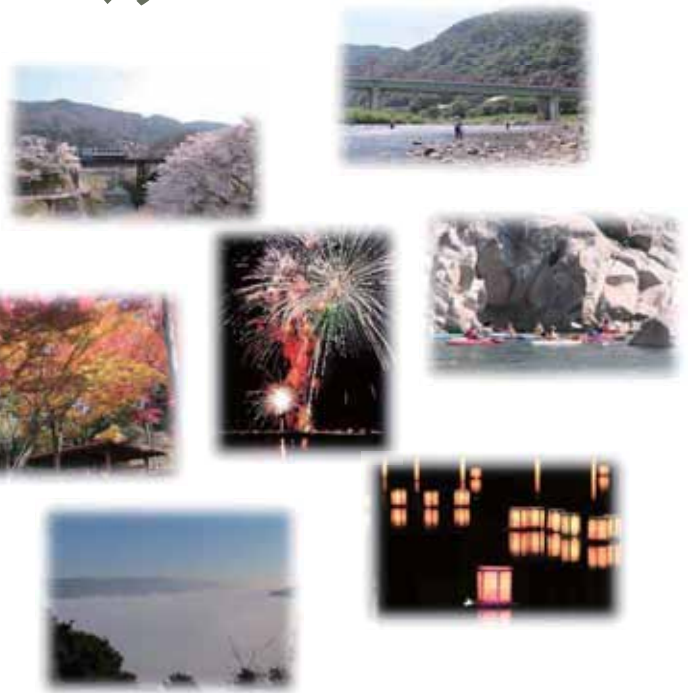
商工観光振興の活性化

産業・雇用の創出

定住・交流人口の増加



魅力的なまち 笠置町



3

## 全国ご当地鍋フェスタ「鍋ー1グランプリ」



笠置名物「きじ鍋」をPRする機会として、なおかつ全国のさまざまなご当地鍋・ご当地グルメが味わえる食と地域の文化交流イベントとして、鍋が美味しい季節である毎年12月の第1日曜日に「全国ご当地鍋フェスタ」を開催しています。

4



## 過去5回の開催実績

|                                   | 来場者数    | 出店鍋団体数<br>(販売数) | 出店グルメ団体数<br>(販売数) |
|-----------------------------------|---------|-----------------|-------------------|
| 22年度 第1回ご当地鍋フェスタ<br>(国民文化祭プレイベント) | 2,000人  | 11団体(2,268食)    | 10団体(1,929食)      |
| 23年度 第2回全国ご当地鍋フェスタ<br>(国民文化祭)     | 6,500人  | 23団体(6,380食)    | 14団体(4,710食)      |
| 24年度 第3回全国ご当地鍋フェスタ<br>N-1グランプリ    | 7,000人  | 25団体(6,880食)    | 14団体(3,410食)      |
| 25年度 第4回全国ご当地鍋フェスタ<br>鍋-1グランプリ    | 12,000人 | 22団体(6,909食)    | 15団体(6,112食)      |
| 26年度 第5回全国ご当地鍋フェスタ<br>鍋-1グランプリ    | 10,000人 | 21団体(未集計)       | 16団体(未集計)         |

平成23年秋に京都府内全域で国民文化祭が開催されることが契機となり、そのプレイベントとして始まりました。以後、名称を変えながらも同じコンセプトで開催し続けています。来場者数は年々増加傾向にあります。

5

## ご当地鍋の紹介



やせうまだんご汁  
(やせうまだんご汁チーム)



恭仁京鍋  
(男子厨房に入ろう会)



京・村人なべ(ぼたん鍋)  
(京・村人なべプロジェクト)



松本亭きじ鍋  
(松本亭)



各務原キムチ鍋  
(キムチ日本一の都市研究会)



かも鍋  
(御所市観光協会)



みまさかホル鍋  
(みまさか商工会)



高校生がつくるちゃんこ鍋  
(京都廣学館高等学校)

6



## 第5回全国ご当地鍋フェスタの様子



出店団体のブース内は大忙し



笠置の子どもたちによる太鼓演奏



「まゆまる」登場！



「いづみ姫」と記念撮影♪



色々なご当地鍋が味わえます



鍋で心も体も温まります

7

## 第5回全国ご当地鍋フェスタの様子



地域活性化プロジェクトの展示



山梨のご当地キャラも



井手町の「いでたん」大人気！



フラッシュ・モブでサプライズ！



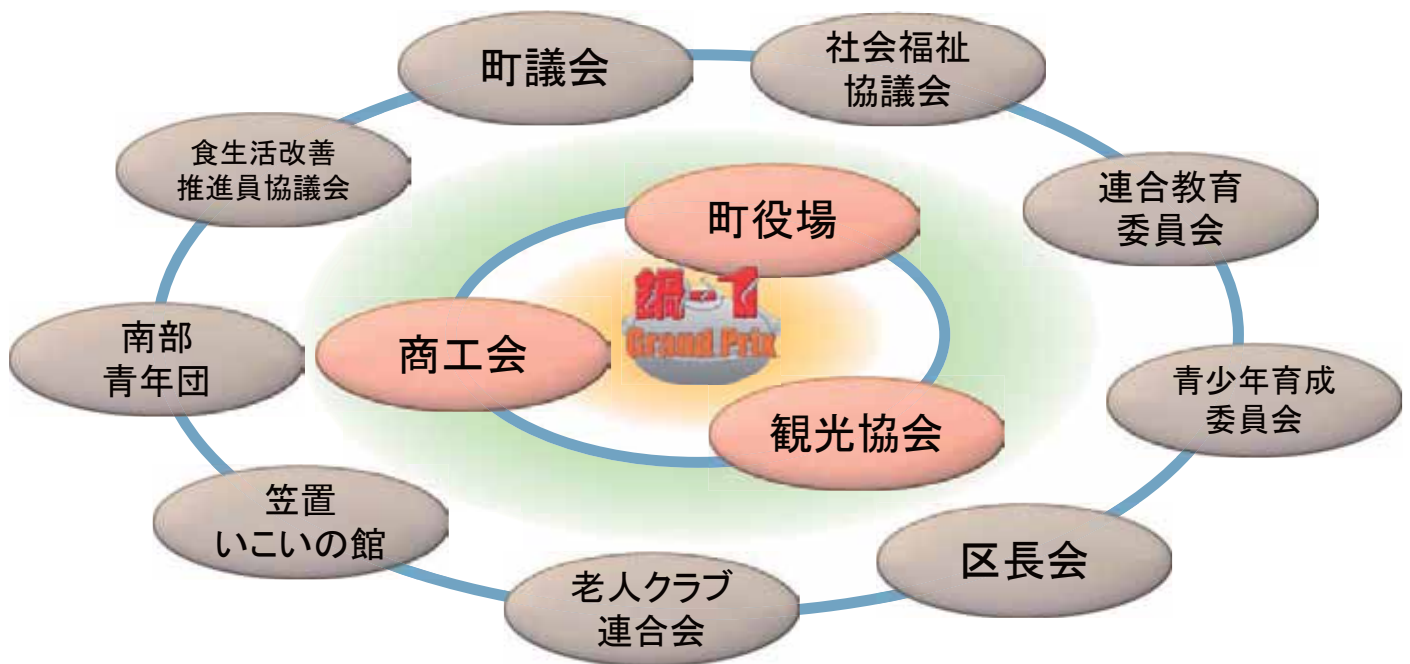
新鮮な地元の野菜です



笠置中学校によるお茶サービス

8

## 鍋が繋げる人と人



9

## 今後の課題・目標

- 商工観光振興の恒常的な活性化
- 町民の自主的な参加
- 他の観光資源との組み合わせによる着地型集客交流
- 外部団体(学校など)との連携

10

## 観光交流部門

### 地域資源の掘り起しと地域情報誌発行を活かしたまちづくり

NPO 法人 奥播磨夢倶楽部 理事長 ○春名千代  
事務局長 和井秀明

#### 1. 活動方針・目的

開かれた奥播磨をめざして、若い人が希望を持って生活できる住みやすい地域にしていくように提案する事業を展開している。

#### 2. 活動内容

- ・地域資源発掘と域情報誌など編集・発行作業を継続した広報活動
- ・地域づくり団体のネットワーク支援と交流会開催
- ・ふるさとウォーク企画・開催とふるさとマップ作成
- ・近隣地域や県際地域との交流ツアー企画・開催
- ・奥播磨暮らし体験ツアー企画・運営
- ・奥播磨学検定の主催
- ・奥播磨ファンクラブ設立
- ・ナビステーション

#### 3. 他の活動団体の参考となる事例

宍粟市にある地域資源にスポットを当て、雑誌に掲載していく。

取材を通して見えてきたことは、

- ① 宍粟市には、他地域に負けない素晴らしい未開の魅力が眠っている
- ② 地域の情報発信を継続的に取り組むことが地域の活性化につながる
- ③ 宍粟市には、その特性を生かしたまちづくり活動が根付いており、誇れるまちづくり団体をつなぐ、情報のネットワーク作りが必須である
- ④ 隣接する他市や他県との交流を深めることで、もっと視野を広げる

地域の情報を客観的に紹介する作業を行うことで、地域を知ることができる。

地域の魅力や宝の再発見もできるが、同時に今現在地域が抱えている問題や課題が顕在化し、再認識できる。それらの解決について事業を行い、元気なふるさとの活性化につなげる活動に取り組んでいく。

#### 4. 今後の課題等

「夢や希望が持てるふるさとづくり」と「地域活性化を担う人づくり」



# 地域資源掘り起こしと 地域情報誌発行を活かした ふるさとづくり

特定非営利活動法人 奥播磨夢倶楽部

理事長 春名 千代

1

## 奥播磨地域ってどこ？



兵庫県西部の中山間地域

＊穴栗市 ＊佐用町

＊姫路市安富町

＊姫路市夢前町

＊市川町 ＊神河町

西播磨と中播磨の奥座敷とも  
呼ばれている

北は、養父市と朝来市

南は、姫路市とたつの市

東は、多可郡と加西市

西は、岡山県と鳥取県に隣接



## 奥播磨ってどんなところ？

- ✳️ 兵庫県下で広大な面積を占める
- ✳️ 一級河川が流れ、美しい山々に囲まれた豊かな自然広がっている
- ✳️ 古来からつたわる伝統や文化が根付いている
- ✳️ 資源の宝庫にあふれている
- ✳️ 地域の特徴をいかした取り組みがさかんに行われている
- ✳️ 地域づくり団体のネットワークがない
- ✳️ 外に向けた情報発信が少ない地域
- ✳️ 地域住民のふるさと意識が顕在化しにくい地域



## 情報誌発行の目的は？

- ✳️ ふるさとの未開の魅力を発掘する
- ✳️ 地域の人にふるさとの良さを再確認、再発見してもらうテキスト作り
- ✳️ 地域住民のふるさと愛を育む
- ✳️ 次世代にふるさとの伝統や文化を受け継ぐ手引き書を残す
- ✳️ 地域づくり団体の活動を広くアピールする
- ✳️ 情報共有して、横へのつながりを作る
- ✳️ 奥播磨ファンや奥播磨通を増やす
- ✳️ 他地域への情報発信ツール
- ✳️ 他地域との交流を広めるきっかけ作り



## ページ構成①

- 特集記事

- ✳️地域の特性を活かした取組み
- ✳️地域づくり団体の活動紹介
- ✳️地域にまつわる歴史上の人物とかかわり
- ✳️地域にゆかりのある人物とその生き方

- ふるさとめぐり

地域内にある自治会(ふるさと)を巡って、そこに眠っている資源や言い伝え、史跡、神社や寺院などの地元ネタを掲載



## ページ構成②

- 人物の紹介

- ✳️各分野で活躍されている人…まちの有名人
- ✳️各分野の専門家、芸術家 …匠

- 食べ物の紹介

- ✳️特産品…旬食採譜
- ✳️スイーツ



- 元気スポット

地域を元気にしている活動

- エコシリーズ

地域資源を活用したエコへの取組



## ページ構成③

- ふるさとにエール  
地域に関係ある著名人からのメッセージ
- 自然…滝，花，巨樹巨木
- 伝統行事
- 逸話（昔話）  
伝統行事  
地域に伝承されている習わし
- 城跡
- 方言
- 観光施設案内



## 読者と共に！ 住民参加型取材を企画

### ✳ふるさとめぐり記事

他地域住民が取材に同行

『日本酒発祥の地』

宍粟市一宮町庭田神社

『古来の伝統を守り続ける里』

宍粟市波賀町安賀



## 発掘・掲載した地域資源を 活かしたツアーを企画・実施



2014年春号 特集記事  
『官兵衛と穴栗』  
～穴栗ゆかりの地巡り～

✳2014年8月10日  
戦国歴史を満喫する旅

✳2014年11月9日  
篠ノ丸城周辺を巡る穴栗山崎の旅



## 奥播磨夢倶楽部がめざすもの

- 情報誌の継続発行による  
地域の魅力発信
  - ✳受け継ぎたいものと  
伝え、残したいもの
  - ✳地域特有の情報
  - ✳眠っている資源発掘
- 問題提議と課題抽出
  - ✳地域が抱える課題
  - ✳危機感を共有する
- 多くの人が参加できる  
イベント企画と運営



- 開かれたふるさと実現！
  - ✳今あるものを認識・魅力を再  
発見し、郷土愛を育む
  - ✳好奇心を持って、明るい  
未来を語る
  - ✳夢や希望を見出せる
  - ✳しがらみにとらわれず  
住みやすい地域を作る
  - ✳世代や地域を限定せずに  
交流する



元気な人づくりと  
楽しいふるさとづくり



## 地域主体の連携による環境にやさしい街づくり

京都府長岡京市環境業務課      ○木本 直樹

### 1. 活動方針・目的

地域住民にとって身近な商店街が、地域コミュニティの担い手として地域の様々な主体と連携しながら社会貢献活動を展開することにより、地域の活性化に繋げるとともに真に地域に必要とされる存在としての社会的価値を高めていく。

### 2. 活動内容

商店街が中心となった地域社会の創生を図るため、商工会や市民団体、行政、教育委員会など地域の多様な主体と連携を図りながら、商店街地域活性化委員会「チームアゼリア」を結成し、地域協働で「街路灯用 LED ランプの自作」、「小学校の環境学習」、「小学生の絵画コンクール」、「オリジナル『アゼリ傘』の貸出」などの社会貢献活動を企画、展開している。

### 3. 他の活動団体の参考となる事例

商店街地域活性化委員会は商工会や行政、教育委員会、市民環境団体、地元大学生等、地域の様々な立場の人々との連携により組織されている。委員会が行う活動の企画はメンバーの大学生ら若い世代に主体性を持たせるようにし、若い感性を街づくりに活かしながら、活動に携わることにより、若年層にあたる人々に街に愛着を持ってもらうきっかけとなることを期待している。

活動にあたっては活動を共にする環境団体や市内の小中学校などに直接出向いて目的や趣旨を丁寧に説明し、信頼関係大切にする事で地域社会との結びつきを強固にしている。

2008年に商店街が自作した街路灯用LEDランプは全国の街路灯に取りつけられているLEDランプのプロトタイプとなり、2013年から行っている小学生の絵画募集は、市が小学校4年生を対象に行う環境教育プログラムと結び付け、最優秀賞は市のごみ収集車にプリントするなど広く啓発を行った。これらは地球温暖化問題や市が課題としている「ごみの減量」に向け、地域全体の環境意識の向上を意識したものである。

### 4. 今後の課題等

全国の商店街は後継者問題や少子高齢化により組合員数が減少し、かつての活力を失いつつある。長岡中央商店街でも全盛時には百数十を数えていた組合員数が、現在は60数店舗にまで減少している。地域に根付いた老舗の店舗が後継者問題によって廃業し、空店舗には全国画一的なフランチャイズ店が出店するなど形態が様変わりした故郷に、地域の人々にどのようなして愛着を持ってもらい、そこに住み続けてもらうか。現在の地方都市が直面する課題となっている。

また、高齢化社会が進行する中で、商店街の衰退は買い物難民という新たな問題を浮き彫りにしている。地域住民の生活圏に位置する商店街では、高齢者が歩いて気軽に買い物に行けるという立地を生かしながら、若い世代にも受け入れられるようなサービスと品揃えをもって生き残りを模索していかなければならない。

長岡中央商店街の地域活性化委員会「チームアゼリア」は、そのような社会的課題についてともに考え、地域社会に何をもって貢献していくかを考えて行くための組織であり、今後も時代の要請に応えるための活動を企画、実施していきたいと考えている。



# 地域主体の連携による 環境にやさしい街づくり

長岡中央商店街地域活性化委員会 木本直樹



花いっぱい運動

天ぷら油回収



打ち水大作戦



職場体験





街路灯用LEDランプの自作

## 長岡京市の環境教育





**アゼリア通り 長岡中央商店街(編)**

みんなで来てね!

**おいでやす祭**

6月29日(土) 3時~5時 **ガラガラ抽選会** **ロングヒル 特設会場**

★特賞 2,000円...10本  
★1等 500円...50本  
★映画賞 映画「ひまわりと子犬の7日間」特別招待券...30本

空くじなし!

ひまわりと子犬の7日間  
京都府長岡京記念文化会館上棟  
2016年8月22日(土)  
＜上映時間＞11:30 14:00  
＜観覧券＞一般1,000円(当日1,500円)  
シニア(60歳以上)・障がい者・高校生以下800円(当日1,000円)  
前売券発売中

6月29日~★★★★★  
七夕祭り用の短冊を配布!  
「七夕祭り付け会場」で短冊に願い事を書いて飾り付けてください!  
7月4日アゼリアストリートが「七夕ストリート」に変わります!!

環境への想いを絵にしよう!  
アゼリアエコチャレンジプロジェクト  
最優秀作品は市のごみ収集車に描かれて、街を走ります!!

ガラガラ抽選券  
★必ずこのチラシの地図にのっている中央商店街協賛のお店2店でお買い物をし、スタンプをもらってください。  
★チラシ1枚で、1回のガラガラ抽選ができます。  
★抽選はお一人様最大5回までが限度となります。5回以上は、受付できません。ご了承ください。

協賛店でお買い物をし、スタンプをもらってね!

上と下は別々のお店をお願いいたします!

協賛店でお買い物をし、スタンプをもらってね!

上と下は別々のお店をお願いいたします!

アゼリア通り

アゼリア通り

アゼリア通り

アゼリア通り

あなたの家の商店街で楽しもう  
裏面のお得情報をお見逃しなく!

長岡中央商店街のホームページもよろしくね! <http://www.azalea-pierrot.org/> 長岡中央商店街 検索 クリック!

## 商店街地域活性化委員会チームアゼリア

| 役職   | 氏名  | 所属               |
|------|-----|------------------|
| 委員長  | ... | 長岡中央商店街振興組合 理事長  |
| 副委員長 | ... | 長岡中央商店街振興組合 副理事長 |
| 委員   | ... | 長岡中央商店街振興組合 専務理事 |
| 委員   | ... | 長岡中央商店街振興組合      |
| 委員   | ... | 長岡中央商店街振興組合      |
| 委員   | ... | 京都府立大学 学生        |
| 委員   | ... | 京都造形芸術大学 学生      |
| 委員   | ... | 立命館大学 学生         |
| 委員   | ... | フリーター            |
| 委員   | ... | フリーター            |
| 委員   | ... | 長岡京市環境業務課        |
| 委員   | ... | 長岡京市商工観光課        |
| 委員   | ... | 長岡京市教育委員会        |
| 委員   | ... | 長岡京市観光協会         |
| 委員   | ... | 長岡京市商工会          |







**アゼリアエコチャレンジプロジェクト 2013**  
**「環境への想いを絵にしよう」最優秀作品決定！**



アゼリアチームも作品選考に参加させてもらいました！  
うーん、迷う！



アゼリアチームメンバーがそれぞれ真に入った絵を持ってバシャリ！絵背17点には長岡市中央商店街アゼリア賞が贈られます。

10月から  
市内で  
活躍するよ！

長岡市内の小学校に協力していただき、小学4年生を対象に「環境への想いを絵にしよう」作品を募集しました。

集まった絵はなんと **310点!!!**

ごみ収集車に載せられる作品は4点だけですが、どの作品も個性があり、見ていて楽しかったです。

**最優秀賞（長岡市教育長賞）**

|                                                                                                                  |                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <br><small>長岡市小 新井 蓮花さん</small> | <br><small>長岡市小 小野 舞月さん</small> |
| <br><small>長岡市小 西 真夢さん</small>  | <br><small>長岡市小 片山 知真さん</small> |

選ばれた絵は長岡市のごみ収集車に描かれ、子どもたちの夢とともに約15年間街を走り続けます。



商店街 × 小学生



## 観光交流部門

### ピンチをチャンスに変えた花の街づくり

六甲アイランド CITY 自治会 会長 前野 正美  
○RIC ローズガーデンファミリー 實光良夫

#### 1. 活動方針・目的

海上文化都市六甲アイランドの中心地を流れる人工の川を、行政、学校、住民の協働でバラ園に変え、維持管理作業やバラ祭り等のイベントを住民・学生が協働で開催することで、バラを通して魅力的な街づくりを行っている。

#### 2. 活動内容

住民からバラ園の維持管理作業やバラ祭りなどのイベントを開催するボランティアグループを募集して、現在 43 名体制で活動しています。

日常のバラ園の維持管理作業や、バラの剪定等の講習会、バラ祭り等のイベントの開催、バラ園等の見学会等を開催しグループ内のコミュニケーションを深めています。

バラ祭りの期間では、ワインやローズティの無料サービスを行い、住民とのコミュニケーションを図るとともに、新規会員の獲得を行っています。

#### 3. 他の活動団体の参考となる事例

人工の川を埋めて花壇にすることに住民は大反対でしたが、全住民のアンケートを取り、本流は将来も川で残すこととし、行政が花壇を造成、神戸国際大学の白砂先生がバラ園を設計、住民が維持管理を行うなど、お互いの立場を尊重することで行政・学校・住民の協働でバラ園を造ることが出来ました。手のかかる無農薬栽培とし、バラだけでなく宿根草との混植をしています。素人ばかりなので、バラの講習会の開催、バラ園の見学会、バラ祭りなどを開催し、コミュニケーションを図っています。当番を決めて、目立つようにオレンジのジャンパーを着用して、水曜日の 9 時から 1 時間程度水やり等の維持管理作業をしています。

#### 4. 今後の課題等

六甲アイランド CITY 内には庭のあるマンションがたくさんあります。その庭がローズガーデンになれば、六甲アイランド CITY はバラの街になります。そのためには、メンバーの増員はもちろんのこと、バラ園の維持管理のノウハウを蓄積するとともに、各マンション内にリーダーとなる人材を養成していかなければならないと考えています。

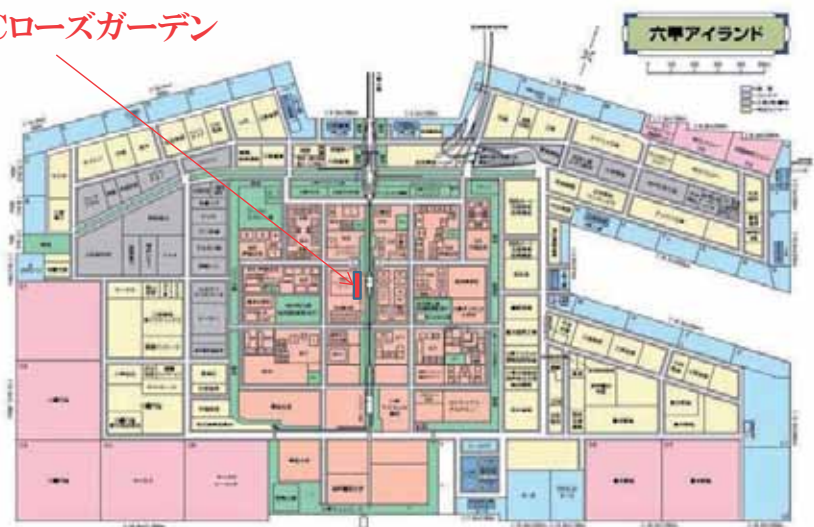
# ピンチをチャンスに変えて 花のまちづくり

六甲アイランドCITY自治会  
ローズガーデンファミリー

代表: 實光 良夫

## 六甲アイランド全体マップ

RICローズガーデン



神戸市が海上を埋め立てて造った海上文化都市

・1972年12月に埋め立て着工。総面積は580ha

・1998年3月から入居開始。人口18,400名

RICローズガーデンは六甲アイランドの商業ビル街の中心にあります。

## 活動のきっかけ(人工河川からバラ園へ)

### ☆2010年7月

- \* 神戸市から「阪神淡路大震災の被害を受けたあと、経年劣化が進み、多数の水漏れが発生していた一部支流について、完全な修復はコスト面で困難との結論になり、支流の人工河川を平地として埋めて維持管理を住民がするのであれば花壇にしたい」との話があった。

- \* 住民は、まちのシンボリックな川を埋めることに  
**大反対**

## 活動のきっかけ(人工河川からバラ園へ)

### ☆2010年11月

- \* 全住民にアンケートを取り  
意見やアイデアを募集
- \* プロジェクトチームを立ち上げ  
神戸国際大学の白砂伸夫教授に相談  
官・学・民が協働してバラ園に



## 人工河川の支流をバラ園に



漏水のあった人工河川支流



人工河川支流を花壇に変更

## バラ園の構想

- \* 水まき等の維持管理がしやすい
- \* 無農薬栽培
- \* 病気や害虫に強い
- \* 一年中花が咲いている
- \* バラだけでなく宿根草との混植

# 散水栓・注意看板の設置

散水栓とホースの収納場所



注意看板の設置



## バラ園の特徴

- \* バラと宿根草を混植
- \* 大きさ: 面積240m<sup>2</sup> 幅3m 長さ80m
- \* バラの種類: 41種類、200本
- \* 場所: ビル街の中心地、中央に石畳の通路があり、バラを身近に感じられる
- \* 安心: 無農薬栽培

## ローズガーデンファミリーの概要

- \* 目的 : RICローズガーデンの維持管理
- \* 組織 : 自治会内の無償のボランティアグループ  
\* 全員ボランティア保険に加入
- \* メンバー: 六甲アイランドCITY内の住民
- \* 構成 : 女性 25名 男性18名 合計43名  
(2015年2月現在)

## 活動で努力している点

- \* 「ローズガーデンファミリー」と命名、オレンジ色のジャンパーを着用、家族のような温かい雰囲気を大事にしています。
- \* 維持管理の講習会を毎年夏冬の2回実施
- \* 他のバラ園を訪問し、意見交換会を通じて、維持管理のノウハウを学んでいます。

## 活動で努力している点

\* アブラ虫などの害虫も手作業で駆除

\* バラの病気予防のため、風通しを良くして花殻や落葉の除去など、ガーデンの美観を保つことを心がけています。

※ 作業を見て通る住民からの温かい声にファミリーはいつも励まされています。

## バラ祭りの開催

### 《ワインと音楽のつどい》

\* オープニング（ワイン無料サービス）

2015年5月16日（土） 13時～14時

翔ユリ子さん（シャンソン歌手）

神戸市立六甲アイランド高校吹奏楽部 他

\* 案内所開設

5月17日（日）～5月31日（日） 10時～16時

ローズティの無料サービス、アンケートの記入

パンフレットの無料配布

※パンフレット作成：1,500 枚、チラシ作成：8,000枚、予算：30万円



## 活動の成果

- \* 「川で残すよりも、ローズガーデンにして良かった」との声
- \* バラ祭りのアンケート調査で、ローズガーデンは、まちづくりに役立つとの意見が大多数
- \* 私たちがバラ園を通じて楽しく活動を広げていくことがまちの活性化になる

## 今後の展開

- \* バラ園の維持管理できる人材確保  
(ローズガーデンファミリーの増員)
- \* 六甲アイランド内にあるマンションの庭にバラ園を拡大
- \* バラ祭りを通じて六甲アイランドの素晴らしいさをアピール

## バラと宿根草を混植したバラ園



ご静聴ありがとうございました。



## 野菜と花と緑のタテニワ菜園花壇で地域の環境緑化づくり

兵庫県 西宮市

○中尾 吉治

### 1. 活動方針・目的

地域の住民・企業・教育関係と連携し、市販部材や廃棄資材などを有効利用し、タテ空間を利用した省スペース型(都市型)緑化の提案。

地域の教育現場で自然や命の循環教育環境醸成のきっかけづくりや地域の景観向上などの貢献を目指す。

### 2. 活動内容

「ララファーム」は大型ショッピングモール「ららぽーと甲子園」を事務局にして、地元住民と企業と周辺大学及び教育関係と連携した緑化ボランティアグループです。

「ららぽーと甲子園」の沿道と同園内には、当グループが独自開発したタテ空間を利用した様々なタイプのタテニワ菜園花壇を7基設置し周辺地域の景観向上に貢献しています。

タテニワ菜園花壇は、市民が楽しみながら、ジャガイモやサツマイモなどを含めた様々な野菜と花や緑を育て、観賞し、収穫して味わうことができる、世界で初めての垂直栽培技術です。

[これまでの活動]

2007年 神戸大学・農学部とタテニワ菜園花壇の協同研究

2008年 企業協賛及び武庫川女子大学・甲子園短期大学と協同でタテニワ花壇3基設置

2009年 鳴尾小学校に教育用にタテニワ花壇設置 兵庫県井戸知事視察

2011年 六甲アイランドの2小学校に教育用にタテニワ花壇設置 タテニワ4基目設置

2012年 「西宮フラワーフェスティバル」市長賞受賞 タテニワ5・6基目設置

2013年 「西宮フラワーフェスティバル」市長賞受賞 タテニワ7基目設置

阪神南ふれあい祭典出展と親子でサツマイモ掘り＋防災訓練イベント実施

第15回「人間サイズのまちづくり賞」兵庫県知事賞

2014年 「西宮フラワーフェスティバル」市長賞

「ひょうごまちなみガーデンショー」市長賞

### 3. 他の活動団体の参考となる事例

「タテニワ菜園花壇」の垂直緑化は最新の園芸技術なので、市民の認知と理解が殆どないのが現状である。しかしながら、ガーデンショーでは話題性と注目度が高く度々入賞を得ておる事から、将来において、コスト面と簡便性を解決すれば一般的な市民園芸となると考えられる。

### 4. 今後の課題等

- ① タテニワ菜園花壇・垂直緑化の知名度UPと普及活動
- ② 垂直緑化技術を用いた新たな地域の環境緑化活動への提案
- ③ タテニワ菜園花壇を、さらに市民のための使い易さとローコストを追求した技術開発
- ④ 次世代を担う幼稚園・小学校・中学校など教育現場で技術提供や活動支援
- ⑤ 活動の継続や普及促進に必要な人材育成
- ⑥ 自主財源づくりや各種補助金などの活用



# 野菜と花と緑のタテニワ菜園花壇で 地域の環境緑化づくり

2015・2・23

## Lala farm

代表 中尾 吉治

## Lala farm

「ララファーム」は  
「ららぽーと甲子園」を  
事務局にして  
地域住民と  
周辺大学、企業と連携し  
タテニワ菜園花壇を使って  
地域の景観向上を目指す  
環境緑化ボランティアグループです。

2013・第15回  
「人間サイズのまちづくり」  
兵庫県 知事賞受賞

- 活動開始 2008年11月  
(前身 環境園芸ボランティアグループ)
- 活動人数 10名
- 活動日数 10日/月





## ララファーム・6タイプのタテニワ菜園花壇



●瓦の生垣風 2008.5



●ジャングル風 2009.4



●タイルの生垣風 2008.9



●コルゲート型 2012.5



●キューブ型 2010.10



●サークル型 2013.5

## 「何処にでも簡単に移動設置」の特徴を生かした出展

### 西宮フラワーフェスティバル

2012 市長賞

2013 市長賞

2年連続市長賞

### 子どもたちの環境ポスター展・神戸



### ひょうごまちなみガーデンショー・明石

2013 デモ展示

2014 市長賞

### ひょうごふれあいの祭典

2013 in 尼崎

2014 in 但馬





## 大学・企業との協働連携

### ららぽーと甲子園



社員ボランティア



### 甲子園短期大学・家政学部



園芸療法への研究



タイル花壇の設置

### 神戸大学・農学部



垂直栽培の研究.

### 武庫川女子大学



学生ボランティア

### 立体花壇支援団体一覧

東洋ゴムグループ環境保護基金 / (財)大阪コミュニティ財団

武庫川女子大学 生活環境学科・三井不動産(株)

パネル工業所・読売ゴルフ(株)・(有)赤木庭園

東拓工業(株)・(株)カクダイ・信和工業所・(株)三栄

甲子園短期大学・ららぽーと甲子園

(株)大林組・キッズニア甲子園

名古屋モザイク工業(株)・野水瓦産業(株)

甲子園筋緑化ボランティアグループ

臨港線沿いの3つの立体花壇は上記団体のご支援で設置いたしました。

## 小学校・環境学習用のタテニワ菜園花壇

### 鳴尾小学校



### 鳴尾イチゴの復活



### 六甲アイランド 小学校



### 向洋小学校





# Lala farm



鳴尾いちご

ほとんどの  
野菜が  
栽培可能



ジャガイモ



大根類



稲・コシヒカリ



バジル



ナスビ



水菜



セロリ



トマト類



カリフラワー



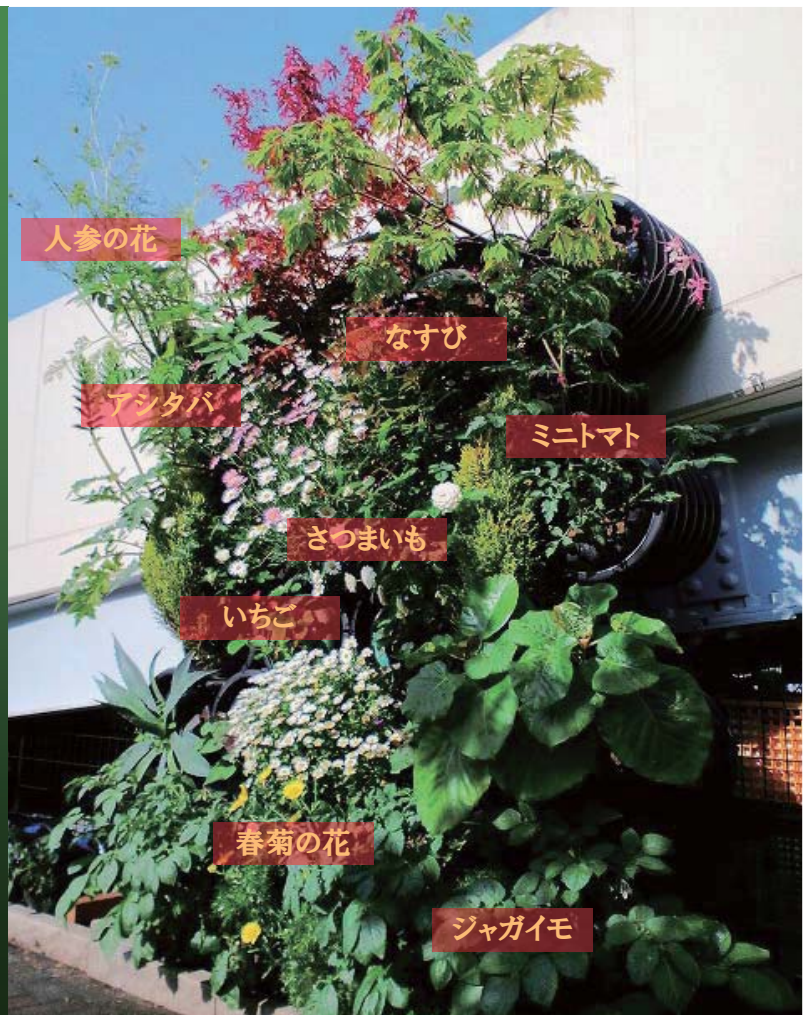
聖護院蓴



フェンネル



ピーマン



## Vertical container garden system





## 美しく進化し続ける世界の垂直緑化・Vertical Garden



シンガポール



パリ



ロンドン



メキシコ



市役所



日銀支店

## 大阪の新しい緑イメージ・Osaka Vertical Garden Street



千日前



御堂筋





**Let's enjoy the vertical garden**

**ご静聴ありがとうございました。**



**Lala farm**

---

田舎を活かしたまちづくり

奥大野区

Q：1つの区でされているということですが、お金はどうされているんですか。

A：地域の村づくり計画と里力再生計画を立てて、奥大野が中心になって5地区で連携してやっております。奥大野区が5地区の中で一番大きい地区ですから、私が区長兼リーダーとして活動させていただいております。事業そのものは区だけではなかなかできませんので、里力再生計画を立てて、京都府や国の事業を入れながら、ハード事業、ソフト事業をさせていただいております。

Q：小さな町のような取り組みの仕方ですか。

A：大宮町は集落としては16しかないんですが、2,000人の集落から20人ぐらい集落までありまして、自治区に職員がいますので、そういった自治運営をしております。

---

全国ご当地鍋フェスタ「鍋ー1グランプリ」について

全国ご当地鍋フェスタ実行委員会

Q：始まりは個人からですか、行政からですか。

A：国民文化祭が京都府であったのですが、それに合わせて町でも何かしなさいということで、行政から各種団体にお声がけをして実行委員会を開催しました。

Q：鍋というアイデアは誰が出したんですか。

A：町の副町長が、キジ鍋が有名ですので、それを使ったイベントはないかということで全国を調べたところ、関東には鍋のイベントがあったんですけども、近畿地方では行われていなかったので取り組みました。

Q：きょう報告されたのは町全体の取り組みだと思いますが、スライドに区長会というのもありましたが、各集落の活性化とこのイベントがどうつながっていくのかが見えていたら教えてください。

A：おもてなしの心で、町外からどれだけ全国ご当地鍋フェスタに来てもらうか、どうやったら笠置町の観光とか地域のことをわかってもらえるかということで、実行委員会とか企画委員会で区長さんや教育委員会など全ての団体から意見をいただいて行っただけですけども、区長さんとのつながりは見えないというか、難しいところではあります。

Q：町全体のイベントにスタッフとして入っておられる方は、地域から出ておられる人と

かいりあるあると思いますが、そういう方の人材育成につながっているかどうかのポイントだと思うんです。その人が地域に帰って、またそこで盛り上げるという仕組みがないと継続しないと思っているんですが、そこら辺がどうかなということが聞きたかったんですが。

A：笠置町は小さい町ですので、区長が参加されればその地域は勝手にわいてくるというところがあります。ですので、そういう連携はあると思います。今までは観光協会、商工会という形で、住民からすると、勝手にやってるわという感じだったので、今回は各種団体に入ってもらったので、それなら協力しようかということで盛り上がって、その日1日はおもてなしの精神で行こうという感じになっています。

座長：鍋をきっかけにいろんな人がつながるというのはおもしろい取り組みだと思いますし、鍋で一過性に終わらずに、次のイベントでもそのプラットフォームが生かせるといいなと思いました。おもしろい発表でした。

### 地域資源掘り起こしと地域情報誌発行を活かしたふるさとづくり

#### NPO法人 奥播磨夢倶楽部

座長：情報誌の作成を通じて元気な人づくりと楽しいふるさとづくりを目指そうという活動でしたが、発行のお金をどういうふうに集めていらっしゃるのかをお聞かせいただければと思います。

A：これまでは宍粟市の事業でしたので、印刷代は市から出していただいていたのですが、取材、執筆、編集、発行は全くのボランティアで5年間やってきました。このたびこの事業は発展的に解消し、NPO法人を立ち上げて、これからは独自に運営していくことになっています。

座長：収入源はなるんですか。

A：奥播磨ファンクラブというものを立ち上げて、賛同していただいた方に会員になっていただくのと、寄附金、市の事業で載せられなかった広告をこれからは載せていくことを考えています。

Q：つくられたものはどういう方法で出されているのか。

A：1冊100円で、道の駅や公共施設に置いておりました。行政はほとんど販売促進はしてくれていなかったなので、私たち編集委員のついでで独自の販路を見つけて売っていました。

座長：作成段階と読む段階の二重で地域資源に気づく段階をつくられているのはおもしろ



いなと思いました。発行を続けていただくことが地域の宝にもなると思いますので、ぜひこれからも続けていただければと思いました。

地域主体の連携による環境にやさしい街づくり

長岡中央商店街地域活性化委員会

座長：環境×商店街ということで、最初は私もハテナという感じでしたが、内容はよくわかりました。いろんな人がかかわるおもしろい取り組みだと思いますが、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

Q：環境というのは非常に地味なテーマだと思いますが、長岡京市さんはなぜ環境というキーワードを選択されたのでしょうか。

A：商店街が行政に相談に行かれると、商工とか商工観光課が窓口になりますが、こういう活動は本来の活動ではないということで、なかなか行政の参画が得られませんでした。そこで、商店街の理事長が私のほうに相談にいられて、環境であればかかわれるから環境一本で行こうということで、私を巻き込むために環境をキーワードにされたというのが正直なところですね。ただ、環境というのは非常に重要なキーワードですので、当初のきっかけはそうであったとしても、うまく時代に乗っているんじゃないかと思っています。

Q：環境の長岡京市ということですか。

A：今回、長岡京市からはこの発表会にも長岡第四小学校が環境で出ておりますが、長岡京市というのは特に観光資源もなく、商業についても、京都市の河原町に近いですし、交通の便がよくて梅田にもすぐ出られますので発展しないということで、地味ではありますが、環境都市を目指していくという姿勢を市は打ち出しております。

Q：私は奈良市ですが、平城京から長岡京に行かれたということで、由緒のある町同士、非常に親しみがあります。

A：長岡京市は「古の都から環境の都へ」というスローガンを打ち出しておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

座長：都つながりができたところで、お時間になりました。



---

ピンチをチャンスに変えて 花のまちづくり

六甲アイランドCITY自治会ローズガーデンファミリー

---

座長：ちなみに見ごろはいつですか。

A：バラ祭りの5月16日からの2週間あたりです。追加させていただきますと、マンションの中にある庭をバラに変えようということで今動いていまして、中に広げていくという活動をしています。

座長：ボランティアの方の活動頻度は。

A：毎週水曜日1時間、水やりをしています。雨が降る時期はやりません。ボランティアが今43名、60歳以上が3分の2、女性が多いです。手間はかかりません。バラの秘訣は思い切って切ることです。いろいろ勉強しましたが、やはり経験を積むのが大事だと思っています。

座長：単にバラを植えるだけでなく、お祭りをするとか、いろんな人がかかわるきっかけをつくったということがおもしろいなと感じました。

---

野菜と花と緑のタテニワ菜園花壇で地域の環境緑化づくり

ララファーム

---

Q：全くの素人ですが、土とか、水やりとかのメンテはどのようにされているのか。それから、植物はどのように成長していくんでしょうか。

A：初めは横向きですが、年を重ねていくと上のほうに伸びていきます。

メンテナンスは、普通のコンテナであれば夏場の水やりが大変で、1日2回ぐらい必要ですが、これは自動灌水をつけていますので、水やりの手間から完全に解放されます。それから、地面に植えますと5月、6月になると雑草との戦いになりますが、これは雑草は99%生えません。ですので、雑草からも解放されます。それから、入れかえが自由自在ですので、そのシーズンのものを入れると見え方が全く違いますし、そこにトマトがなったりということで、おもしろい景観ができます。そういうことが評価されて西宮の市長賞を2回いただいたり、兵庫県のガーデンショーでも市長賞をいただけたと思います。新しいやり方なので、これからだと思っています。

Q：肥料なども水と一緒にやるんですか。

A：そうです。普通の植木鉢を横にしかたけですから、普通の園芸技術が100%使えます。全く新しい技術なので実際やってみないとわからないところが多々あると思いますが、やってみると作業は非常に楽です。今コンテナの個数にして700やっていますが、普通700のコンテナを地面を植えると管理できません。

# 第2分科会：地域資源活用部門

座長：横山 葵 氏（NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長）

## 第2分科会：地域資源活用部門

|                                          |                    |             |
|------------------------------------------|--------------------|-------------|
| 人と自然が共生するカタクリ100万本の里山                    | 矢環境緑化実行委員会         | 福井県<br>大野市  |
| 京田辺市の自然を活かしたまちづくり                        | NPO法人 やましる里山の会     | 京都府<br>京田辺市 |
| 全ての人が出すごみを媒体としたまちづくり、<br>人づくりを目指す        | ふるさと倶楽部            | 和歌山県<br>御坊市 |
| 東堅町の地域環境と伝統文化を生かした<br>生活とまちづくり           | 亀岡市東堅町自治会文化委員会文化部門 | 京都府<br>亀岡市  |
| “めざせ1トン 学校地域をあげての生ごみ回収”<br>小学生でもできる循環型社会 | 長岡京市立長岡第四小学校       | 京都府<br>長岡京市 |
| 貝塚市の豊かな自然再発見のまちづくり                       | 橋本夏次               | 大阪府<br>貝塚市  |

## 座長

### 横山 葵 氏（NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長）

NPO法人「人と自然とまちづくりと」理事長、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会事務局  
局長、(有)エイライン代表取締役。

大阪府生まれ。技術士（総合技術監理、都市及び地方計画／道路）。人と自然が、  
人と人が心豊かに共存できるまちづくりを軸に、環境の創造・再生を行う活動と共  
に、まちづくりや環境団体の活動促進やネットワーク・交流の企画、  
コーディネート、行政との橋渡しなどを行っている。また、地域が元気になる為に地  
域の食材をプロデュースし、地域の情報と共に首都圏を中心とした食材の販路拡  
大の実践も手がけている。





## 人と自然が共生するカタクリ 100 万本の里山

矢環境緑化実行委員会 会長 ○宮本 敬一  
矢環境緑化実行委員会 事務局長 高松 誠  
福井県 大野市 建設整備課 今村 智子

### 1. 活動方針・目的

大野市矢地区は、背後を山に囲まれ、前面には水田が広がる農村集落です。時代の流れとともに里山は荒廃し近づくことさえなくなりました。その里山を区民の協力のもと、整備し桜の名所を目指して桜を植樹。整備を継続していたところ、山の斜面にカタクリの群生地を発見。整備を継続し、年々カタクリの群生地を拡大。カタクリ 100 万本の里として「訪れた人に感動を与える」を目標にスケール、美しさなどオンリーワンを目指しています。

### 2. 活動内容

平成 18 年、区民により整備開始。雑木を伐採し、桜を 120 本植樹。平成 19 年、切り花用の桜を植樹。現在、市内で販売し、雇用を創出。カタクリ群生地を発見。平成 20 年、桜とカタクリの里整備拡大。里山を一般公開することを決定。林内遊歩道を整備。平成 21 年、第 1 回春の花まつりを開催。オープニングイベント、テント市を実施。交流広場、駐車場を整備。平成 22 年、第 2 回「かたくりまつり」を実施。園路整備。整備協力金の徴収を開始。赤そば、クリンソウ、菜の花、コキアも栽培。平成 25 年、活動拠点施設・ビジターセンターを開設。平成 26 年現在、カタクリ 3ha、100 万本（西日本最大）、桜 400 本、あじさい 1000 本、カエデ 200 本。かたくりまつり来場者 3000 人。

### 3. 他の活動団体の参考となる事例

当初は補助金を利用し整備していたため、イベントなどソフト事業は全て持ち出しとボランティアでした。かたくりまつりは、毎年のことですし、事務局としても区民に頼みづらく感じていました。そこで、入場者に整備協力金として、一人 300 円をお願いすることにしました。その収入から、手当を出し、区民のモチベーションを上げる仕組みを取り入れました。また、補助金の対象外となる整備などにも、自由に使える資金ができました。

### 4. 今後の課題等

当地区もご他聞にもれず少子高齢化の波が訪れています。それに伴う人口減少と世代間交流が減りこのままでは地域コミュニティーが成り立たなくなるのではと危惧しています。それを食い止める良い方策は見つかりませんが、今住む人が楽しく元気に暮らすことが今一番大事と考えます。そこから新しい展望も開けてくるのではと考えています。

現在行っている環境保全活動やカタクリ祭りなどのイベントなどに地域以外の団体や学校等に癒しの空間と時間を提供し、われわれは交流を通して地域に活性化の風を入れたいと思いますが、交流をしていただける方を求めています。その方法などがあれば教えていただきたい。

また、実際のカタクリの感動は、写真では伝わりません。本当に素晴らしいので、多くの方に来ていただきたい。そこで、他の団体で行っている PR 方法を教えていただきたい。

# 第10回関西元気な地域づくり発表会



## 人と自然が共生する カタクリ100万本の里山 ～矢環境緑化実行委員会～

矢環境緑化実行委員会 委員長 ○宮本 敬一  
矢環境緑化実行委員会 事務局長 高松 誠  
福井県 大野市 建設整備課 今村 智子



## 福井県大野市 矢地区の紹介





## 整備前の里山 平成17年頃



## 区民で整備を開始



## お寺の周囲の桜の名所としよう





## 裏山の整備を開始



カタクリの群生地を発見。公開へ。



## 柵 歩道 駐車場の整備





# かたくりまつり



地区全体に  
花と緑を



矢ばなの里



# 「交流仲間募集中」 矢ばなの里deふれあい交流



## 地域資源活用部門

### 京田辺市の自然を活かしたまちづくり

京都府京田辺市田辺深田15 常務理事  
NPO 法人 やましる里山の会理事長  
副理事長

○山村武正  
深田三郎  
播川司

#### 1. 活動方針・目的

自然を大事にする仲間の輪を大きくする

#### 2. 活動内容

休光電放棄田を復旧し自然を調査を行って、農業体験 炭焼き体験等里山体験を展開して、生態園を充実させ、地域の子どもたちの体験場とする。同時に過疎化高齢化する地域の農業団体やサークルと連携して街づくりを行う。

#### 3. 他の活動団体の参考となる事例

炭焼き体験を通じ生産した竹炭を使って川の水質改善を行った。

オオムラサキの生育調査を 16 年間継続して一般公募して調査観察を行った。

地域の植物調査を行い、期初いう植物を多く発見した。ホタル野集いを開催し、里山音楽会を継続して開催している。

またカスミサンショウウオを発見し、京都府からその保全活動団体として移植指定を受けている。

木津川読本「木津川はどんな川？」を発行して、京都府京一句委員会山城教育局によって管内全小学校に 50 冊を分配した。

木津川堤防の植物を調査し、生育植物 917 種の標本を作製しその保存管理を行っている。

木津川での親と子の魚とり体験を開催し、川への関心を広めている。

活動をいち早く知らせるために毎週木良い鶴日に週刊ニュース発刊 550 号になる。

年間活動を会誌里山の自然 180 頁を年間 2 回発行し広く市民に理解の場を提供している

事務局会議を毎週水良い鶴日に開催して活動の推進力としている。

京都府の助成金申請や決算報告等助成金申請において書類を作成が大変である。民間企業での経験(現場作業員)にとっては苦痛そのものである。助成目的以外に支出があつて、減額処分されて大弱りとなった 臨時総会を開催し減額分を特別寄付を募り難局を乗り切らなければならなかった。

#### 4. 今後の課題等

会員の高齢化に伴って、次世代引継ぎ人を育成すること 活動経費の確保のために会員 300 人へ到達したい。会費納入会員 210 人

会議レジメや申請書類、報告書の作成、記録の取り方などの処理と会計帳簿の記載処理と決算等のデスクワークが大変苦手である。定年退職された公務員の皆さんがご協力いただくと非常に有りがたい。



第10回 関西元気な地域づくり  
京田辺市の自然を生かした  
まちづくり

自然を大切にする仲間を大きくする

やましろ里山の会  
常務理事 山村武正

木津川に関して（1）親子魚とり



## 木津川に関して（２）親子魚とり



## 木津川に関して（２）七草摘みと七草粥









## 里山の会活動（２）

### カヌーで大阪湾まで下る



#### 笠置ー大阪 カヌーでつなぐ

##### リバーツーリング交流会

##### 参加者ら輝く川面に感激

「遊びカヌー発祥の地」の笠置町から大阪市北区までの木津川・淀川(約80km)をカヌーで下るリバーツーリング「第2回カヌーでつなぐ笠置・淀川流域」(笠置町・淀川流域連携交流会主催)が19日、始まった。土曜、日曜を利用した3日間の日程で、初日は笠置が京田辺市までの約28kmを下った。

川面からゆっくりと街や山々を見渡し、「生命の源」の水を見つめなおそうと企画された。昨年は同じ区間で4日間の日程を組んだが、最終日が雨天で中止と

なった。今年は1日の移動距離を長くして1日短くした。

午前10時過ぎ、笠置町のカヌー広場前を出発。午後3時半ごろ、京田辺市の近鉄難波付近に着いた。好天に恵まれ、カヌーに乗り込んだ参加者は青空や犀谷の緑、白い砂浜に目を輝かせていた。交流会の鈴木康久代表幹事は「技研です。水がきれいだった」と感激していた。

川下りは、2日目の25日には大阪府枚方市の淀川河川公園まで、最終日の26日には大阪市北区の毛馬坂之宮公園にゴールする。

【南段晴雄】



## 木津川に関して（６）

### 春の野草を食する会





○ レンリソウ 4





## 木津川に関して（4）

## 植物調査



## 木津川に関して（6）

## 調査観察を通じて発刊した資料







## 里山農園（3）

## 野菜栽培





## 里山農園（４）田植え体験破竹のお土産

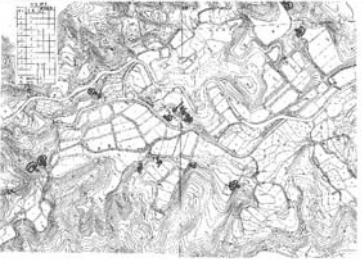


## 里山農園（５）稲刈り体験 御輿巡行



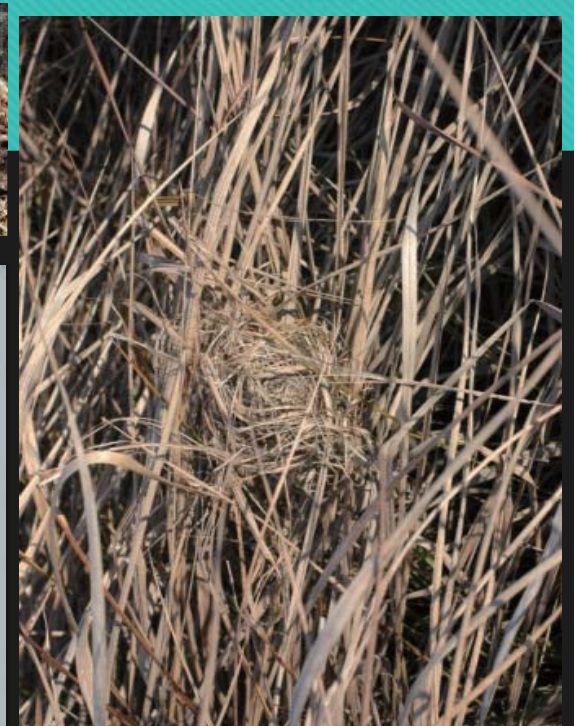


## 里山農園（7）オオムラサキ（国蝶）



## 里山農園（8）カスミサンショウウオ

## カヤネズミの巣





## 里山農園（１）

## 放棄田の復旧と里山整備



## 里山農園（２）

## 炭焼きと里井やましる里山の会手入れ



## 全ての人が出すごみを媒体としたまちづくり、人づくりを目指す

和歌山県御坊ふるさと倶楽部

○会長 白井 忠

副会長 湯川 忠

### 1. 活動方針・目的

#### 理念

「物を大切にする」&「互いに声かけ合える」ような人々が暮らす地域、元気のある地域をめざす。

#### 具体策

全ての人が出す「ごみ」を媒体として人づくりを目指す。

### 2. 活動内容

家庭塵の削減活動を通して

老人には社会貢献と体を動かすことにより何時までも元気に

若者には「みやこ姫よさこい祭り」等を利用して元気に

障害者には国体イベント等を利用した雇用の拡大と賃金アップを

### 3. 他の活動団体の参考となる事例

#### (1) 理念

団体等設立した時理念がはっきりしていないと、数年後活動がゆき詰まった時や停滞した時に軌道修正を掛けると思いますが、理念がしっかりしていないと活動の方向が当初とちがってきます。

#### (2) 長期目標、年間目標を定めるも、日々は一步前進二歩後退の行動

#### (3) 活動を続けてゆく為に、賛同して頂く議員さん等周辺のグループ等からのアドバイスが大きいと思います。

### 4. 今後の課題等

#### (1) 行政との協働化

ごみ問題も含めて行政が主体となるべきと思いますが、行政は長期ビジョンもなく只処理しているだけの行政をどの様にして変えてゆけるのか。

#### (2) 住民の意識改革

超高齢化社会を迎えている中で例えば介護保険は1万円に近づいています。もし徳島県上勝町の様にごみ処理を実施すれば介護保険分以外に少子高齢化社会へも税金が回せる可能性があります。この様な事を広く知って頂く為の方策??



# 全ての人が出すごみを媒体とした まちづくり、人づくりを目指す

- 家庭ごみの削減活動を通して
  - 老人には社会貢献と体を動かすことにより  
何時までも元気に
  - 若者には「みやこ姫よさこい祭り」等を利用して  
元気に
  - 障害者には国体イベント等を利用した雇用の拡大  
と賃金アップを



和歌山県御坊市  
「ふるさと倶楽部」  
会長 白井 忠

## 地域の紹介



1.和歌山県の中中部で農林漁業、商業と工業の混在した地域です。

2.対象地域は御坊を中心とした1市5町で、林業では製材所多数あり又一方農業では柑橘類の栽培等も盛んであり、家庭菜園も盛んな土地です。

3.しかしご多分にもれず高齢化地域です。



## 発足の背景、環境

農林業等  
一次産業、  
商業、工業  
の混在地域  
で家庭菜園  
も  
盛んです。

この地域は  
「米糠」や製  
材時の  
「ひき粉」が  
沢山あります。



## ふるさと倶楽部の発足

平成18年<sub>(2006)</sub>10月4日

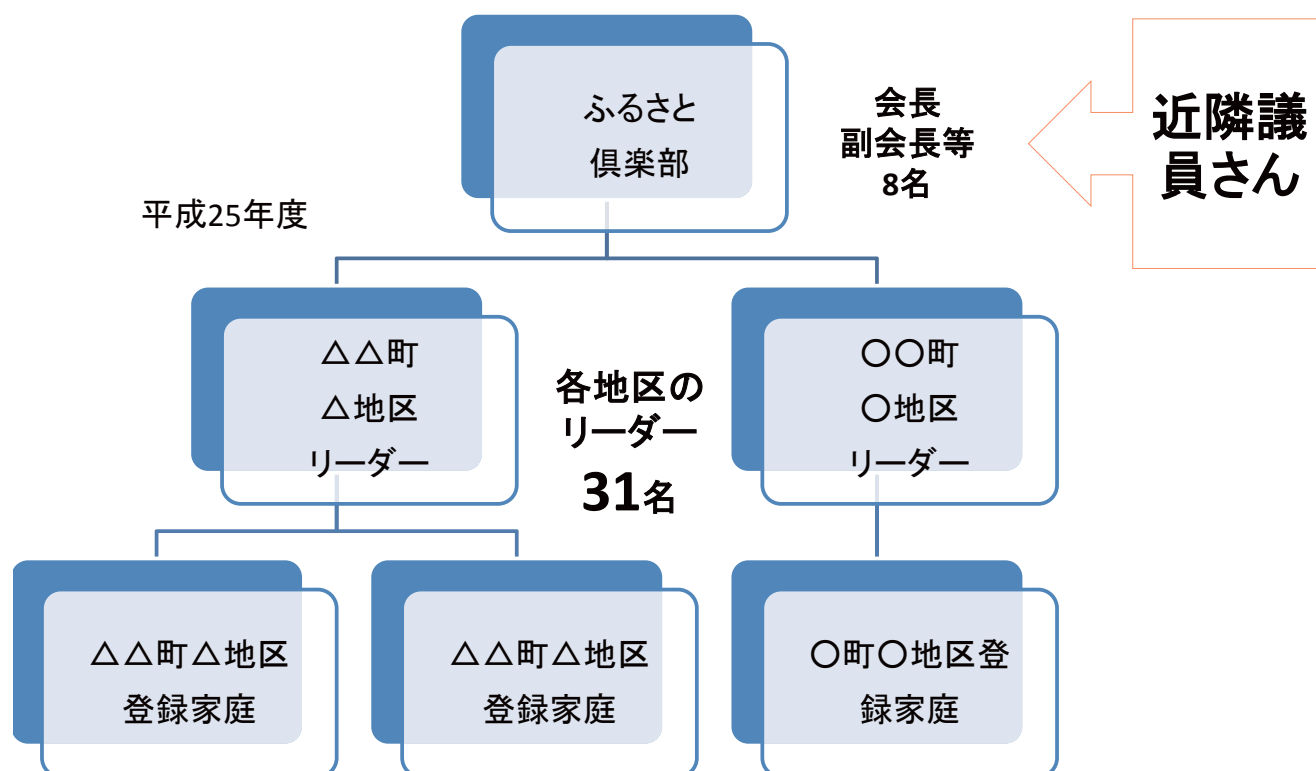
### 家庭ごみの削減 理念

「物を大切にする」&「互いに声かけ合える」  
ような人々が暮らす地域、  
元気のある地域をめざす。

↓

全ての人が出す「ごみ」を媒体として  
人づくりを目指す。

# ふるさと倶楽部の体制



登録家庭 512軒

## 生ごみ堆肥化の特徴

地域に合った材料(米糠、引き粉)等を利用したシンプルな方法とフォローの実施

(1) 立地特性を活かした取組。

(2) 参加家庭に合った方法。



(3) 私達は「実施説明会」以降5回のフォローと、その後毎年定期的なフォローを実施しています。

現地で実施説明会  
(発酵促進剤の作り方)

1週間後のフォロー  
(発酵促進剤の出来具合)

1ヶ月後のフォロー  
(虫等の発生)

3ヶ月後のフォロー  
(堆肥化の進捗)

6ヶ月後のフォロー  
(実施上の問題点)

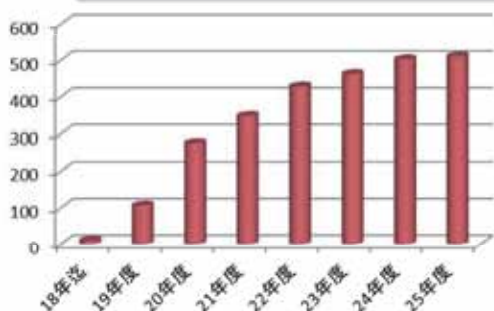
1年後のフォロー

臭い、虫の発生防止。

可燃<sub>2</sub>の減量化の具体例

# 生ごみ堆肥化登録軒数

## 登録家庭の推移



10軒から510軒  
となりましたが、  
対象地域の2%です。

美浜町三尾地区では休耕田を利用した花づくり

- 1.現在は一人生らしの家庭の生ごみを堆肥化して利用。
- 2.今後は見守り隊としてボランティアさんが、一人生らしの家庭を廻り生ごみを回収する事を検討中。

## 生ごみ堆肥化から新たに展開



生ごみ堆肥化は  
従来通り進める  
新たに残ったごみにも  
注力する。

イベントでゴミ分別への  
取り組み

イベントでゴミ処理  
に困っている。

- (1)ごみの量が3(t)のトラック満杯のごみ
- (2)夜暗くなる迄整理にかかる。
- (3)翌朝、臭いとカラスに荒らされたのを処理している。



# 子供たちを元気に!ふるさとを元気に!

- ・ 民間団体が「みやこ姫よさこい祭り」

「ふるさと」倶楽部も実行委員として参加し、  
主として静脈産業を担当

- 1.利用された方々がさわやかな気持ちになって頂く様なトイレ清掃。
- 2.参加者とのふれ合いを大切に!場内清掃
- 3.参加者にごみは自ら分別して頂ける様支援してごみの削減

福祉団体と協働で実施する。

- 1.会場内にはごみ箱を置かないで  
ごみ分別ステーション1ヶ所設ける。
- 2.ごみは参加者自身で分別して頂く。
- 3.私達はごみ分別を実施しないで支援する。

## みやこ姫よさこい祭り



実施前は  
3(t)の  
トラック満杯

実施したら軽トラ  
で済みました。



26年度  
オムツ、  
その他  
可燃ごみ  
は焼却に

## 堆肥



①生ごみは堆肥に



②藁は堆肥に

## 26年度は13品目の分別



### ペットボトル

- ③キャップはワクチンに
- ④ペットボトルは衣類に



⑥段ボール類は雑誌類に



- ⑩トレー類
- ⑪プラスチック類は燃料に



- ⑧紙コップ類、
- ⑨トイレットペーパーの芯はトイレットペーパーに



⑦瓶類はリサイクルして再度瓶類に



⑤缶類リサイクルして缶類に



- ⑫オムツ、
- ⑬その他可燃ごみは焼却に



## 資源として回収

# 国体リハーサル大会(ホッケー)



学生達も参加



## 資源として回収



缶類



ペット、ラベル、キャップ



ダンボール



紙コップ



トイレットペーパーの芯



ごみとしては  
オムツ 1/2 と  
タバコの吸い殻  
その他のごみ  
2袋でした。



## 堆肥化

生ごみ



梅干しの種



箸





## 常設の資源物回収施設



## 常設から次は

## よさこい祭り

**JA農器用祭り等  
他のイベントで実践。  
国体リハーサル大会で実践**

**常設資源物、回収施設の設置**  
(福祉団体の施設内に)

## 他の町等での実践

## 常設バザー室 の併設



## 地域資源活用部門

### 東堅町の地域環境と伝統文化を生かした生活とまちづくり

- 東堅町自治会文化委員会副委員長 達富弘之  
東堅町自治会文化委員会委員長 渡邊昭  
東堅町自治会文化委員会委員

#### 1. 活動方針・目的

住民の自治と文化力を高め、環境に留意して住みよい町作りを推進する。

#### 2. 活動内容

地域に残る伝統文化、生活の中に息づく伝統文化は生活の知恵です。過去の食文化に学び、現在に生かすことにより、将来の食生活を展望する。

#### 3. 他の活動団体の参考となる事例

和食が世界文化遺産に登録されたことは周知の通りです。その根幹をなす稲作、農耕民族の伝統を守り、機械化の進んだ今日でも、伝統の形式を伝える『御田植祭』があります。現地に足を運び、行事に参加し、体験を通じて文化を検証します。学んだ内容は講座で皆に伝え、知識を共有します。内容は出来るだけビジュアル化して理解を助けます。

さらに、現地に赴き直に文化に触れたい、このような意欲を掻き立てる取り組みになるよう努力をしています。

#### 4. 今後の課題等

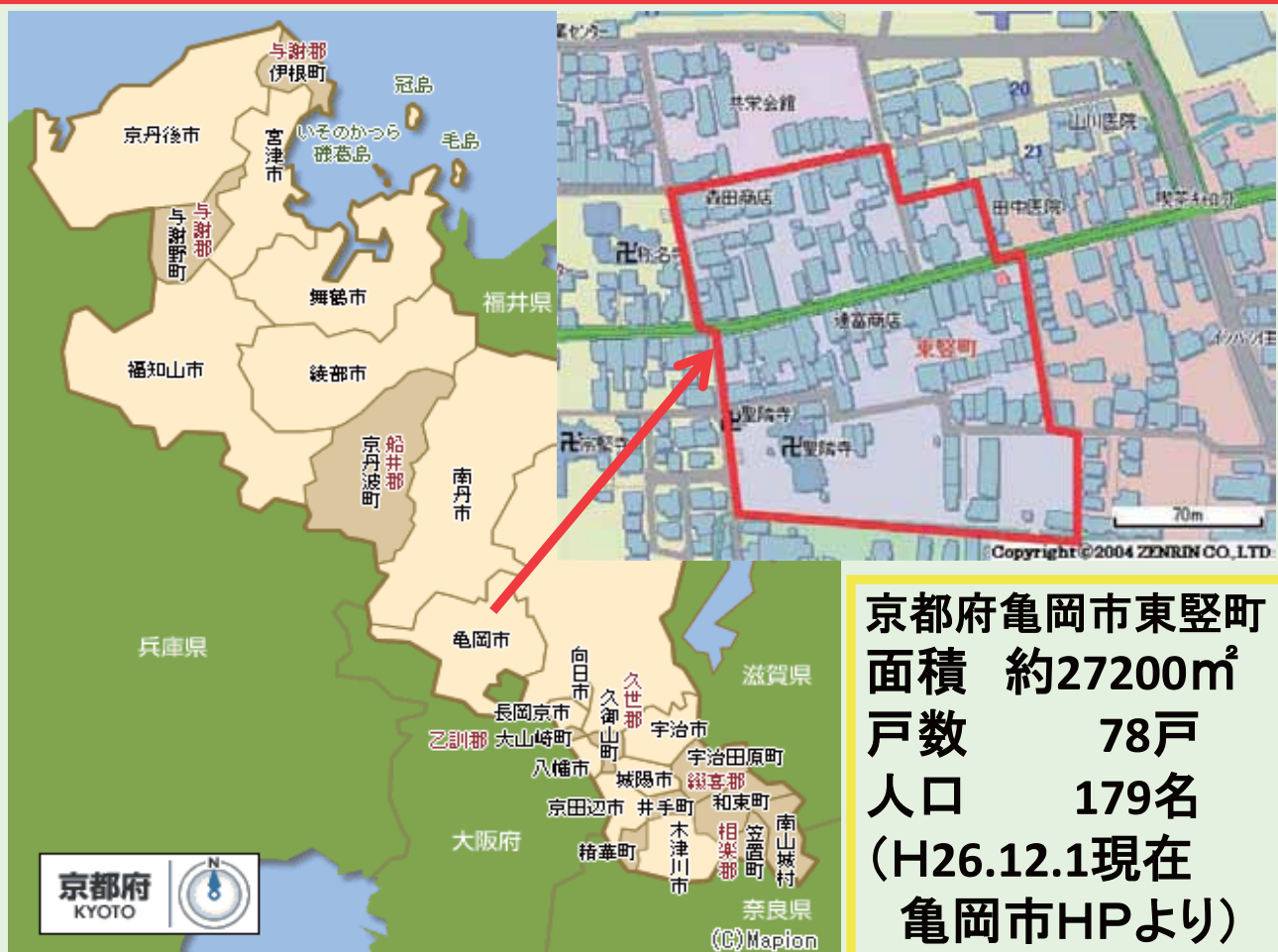
地域社会の中で、其々が創意工夫を凝らし、積極的に取り組んでいる事例は多々あります。私たちの取り組みも同様で、町内だけではすぐに限界を迎えます。本年度は積極的に他団体との交流を持って事業をすすめました。文化部門では亀岡市中央公民館切り絵サークルの方々と、異集団交流です。コラボして御田植祭の行事を追いました。

参考までに、環境部門では亀岡市地球環境子供村の事業の一端を担い、常に話題に上がる温暖化効果ガスCO<sub>2</sub>の学習に取り組みました。文化部門と環境部門、明白な区別があるのではなく常に絡み合っています。総合的な学習と実践こそ将来を展望する重要な取り組みと考えます。

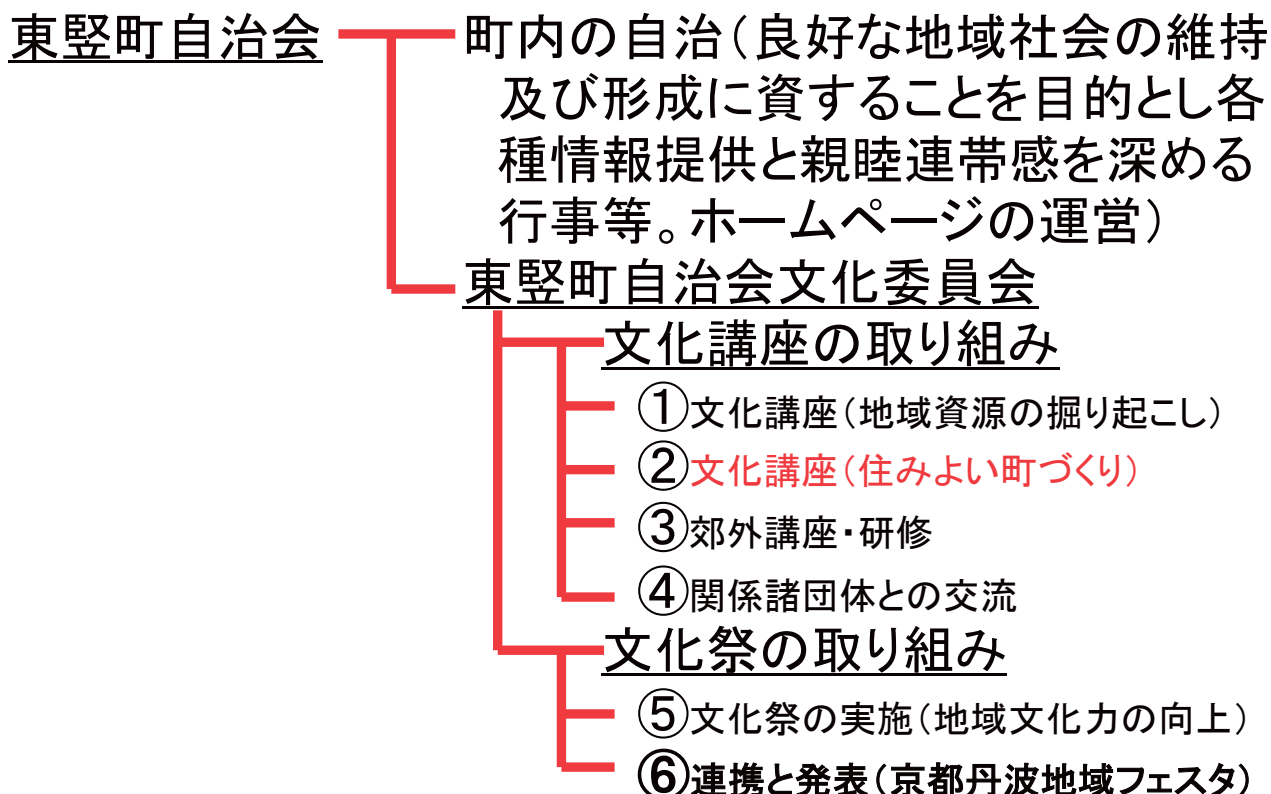
取り組みを進める中で、常に新たな発見があるのも事実です。ふと手にした1幅の掛軸、『炎帝聖像』図、これから派生して色々な史実の検証が進みました。室町時代から乱世を経て江戸時代に入るこの時代の丹波亀山の医療状況、京の都、大阪道修町との交流、古文書には明智光秀も織田信長も、後光明天皇も登場します。熱病有り、疱瘡有り、内容は多岐にわたります。多くの目で研究し、検証を深めることの大切さを痛感します。異文化集団との有機的な連携を模索していきたいと考えています。

# 小さな自治体・東堅町のまちづくり 伝統文化の継承と発展 神農神と御田祭 東堅町自治会文化委員会

発表者  
副委員長 達富弘之



# 自治会組織図



## 文化委員会の基本理念と取り組み

- 小さな地域のささやかな活動、地域内に存在する歴史的建造物、文化財、人脈を活用し、歴史に学び、未来を展望し、地域住民相互のコミュニケーションと連帯を保ち、望ましい共生環境を整える。
- 少子高齢の中、町内の活性化の為文化委員会を発展させ、町内の未来を展望する取組を実践する。文化講座の新たな展開。
- 町内に残る文化財の保存、活用に取り組む。
- 他団体との連携を図る。



## 京都丹波の御田植祭

## 出雲大神宮(亀岡市)



## 京都丹波の御田植祭

## 多治神社(南丹市)1



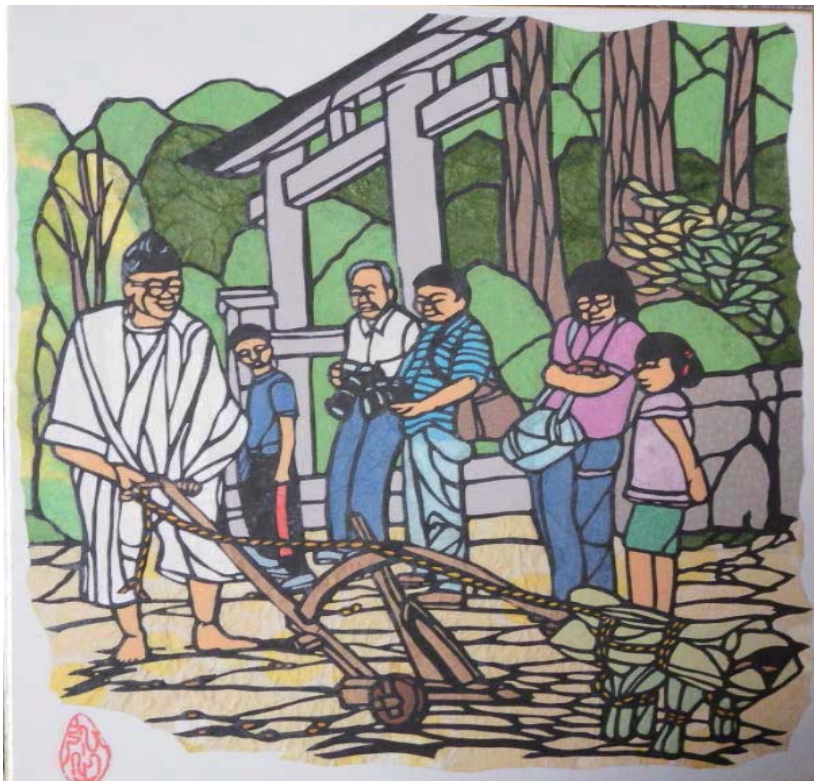


## 尾長野・八坂神社(京丹波町)

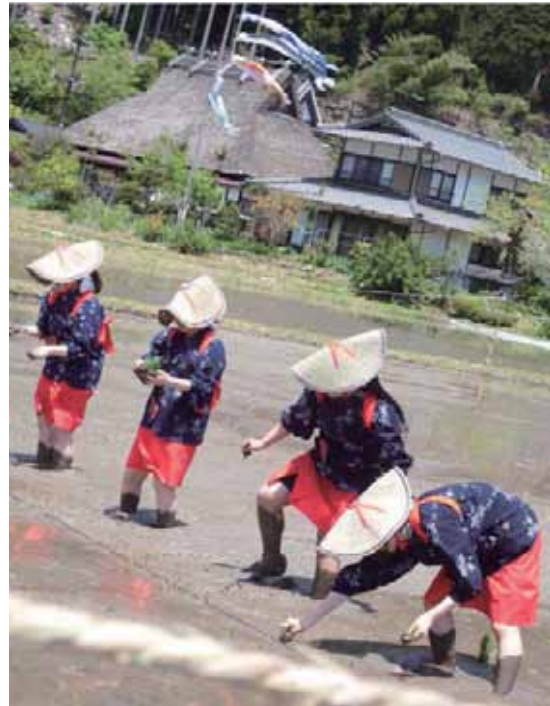


五穀豊穰と安寧祈る

## 犬甘野・松尾神社の御田植祭



## 美山・茅葺きの里の御田植祭



## 摩気神社の御田植祭





## 名医の名は寿伯院近藤桂庵

- 丹波医学を学び医師となったのが近藤桂安です。丹波亀山・荒塚城主・近藤秀国(1467－1552)の嫡男・秀尚の嫡男です。

荒塚城は三男の秀政が継ぎ、明智光秀に城を譲り在野に下りました。

桂安は春日信仰厚く、医術も堪能で後光明天皇の幼少時の大病を治癒しています。名声高く、関東にも赴き、時の将軍の姫君の疱瘡も治したと記録に残っています。

これらの功績で寿伯院の号を戴き、壽伯院家として医術を受け継ぎ寿伯院白峯、壽伯院丹山と続いています。

神農神は往時の医師の守護神です



## 丹波医学のルーツは安行山



磐榮神社（安行山）のお火焚き祭

# 安陪の晴明と丹波康頼



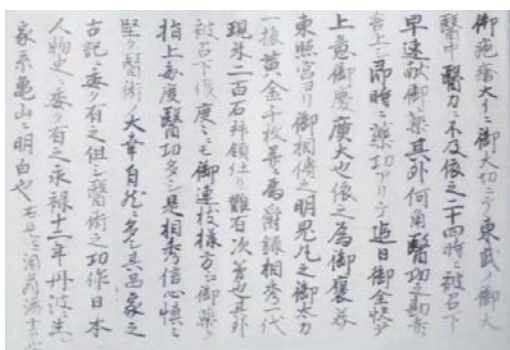
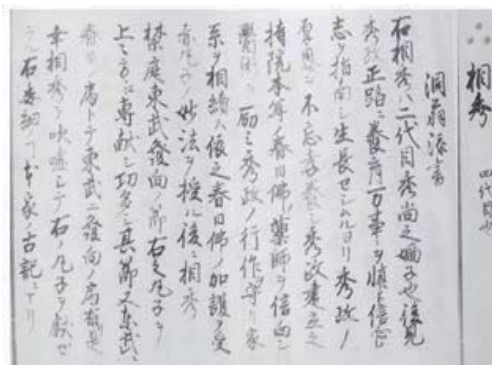
安陪晴明  
921－1005



丹波康頼 912－995

## 桂安の人となりと業績

明和5年に転写された文書





# 京都丹波EXPO2014キッズ体験

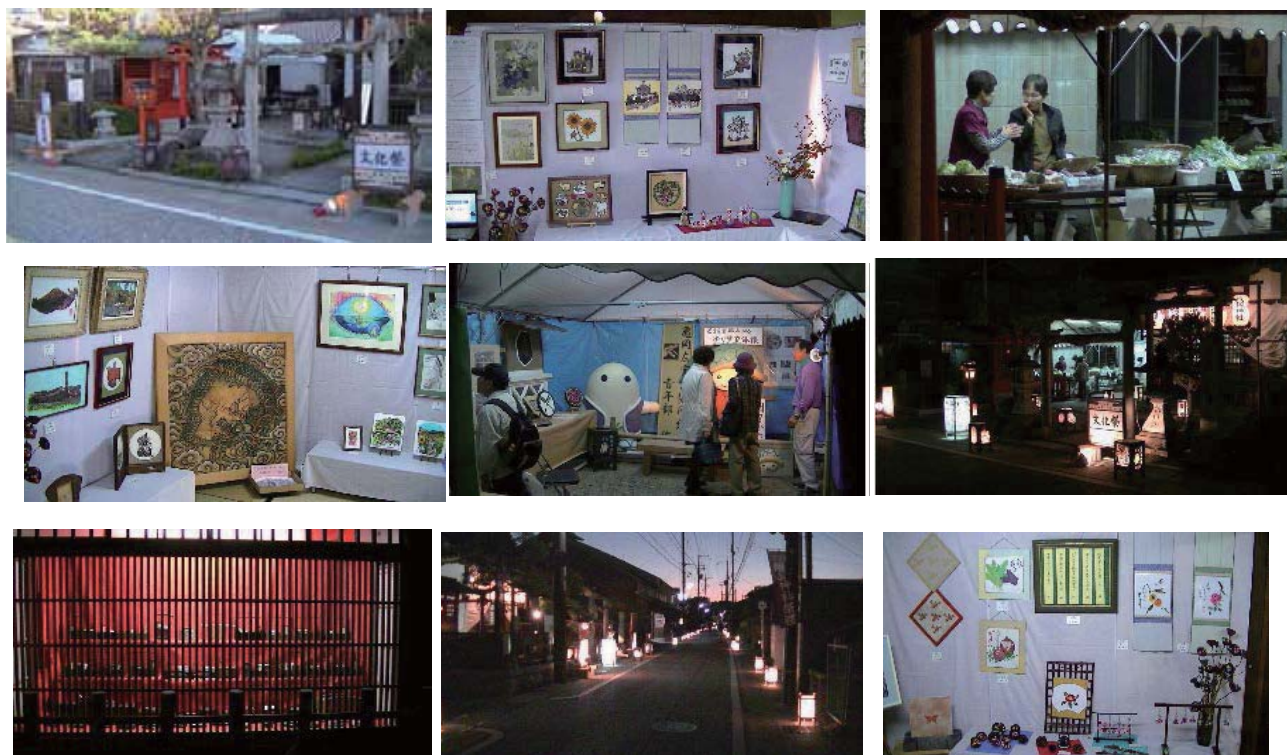


## 文化講座





## 第9回東豎町文化祭



## まとめ(年間の活動記録)発行

継続の意義は大きい



# ホームページ運営で情報の発信

## 東堅町自治会・文化委員会 ホームページ



教室で今回の目的等を解説。



11月22日(日)実施  
亀岡子ども村開催行事  
「**亀岡生き物大学環境教室初級**」  
をお手伝いしました。  
文化委員会から見た報告します。  
正式報告は子供村HPを見てくだ  
さい。

外へ出て樹木の高さの測定方法  
を説明しています。暖かい1日で  
なによりでした。

報告のページへジャンプ



12月20日(土)実施  
亀岡子ども村開催行事  
「**亀岡生き物大学**」  
閉校式報告



11月30日(日)開催の  
「**京都丹波EXPO2014**  
キッズ切り絵体験教室」報告

東堅町文化委員会より報告

「**京都丹波の御田植祭**」

10月18日(土)13:30～16:00  
東堅町文化委員会主催



10月18日  
13:30 開場  
14:00 開式  
14:30 御田植体験  
15:00 子供村展示場  
15:30 子供村展示場  
16:00 閉会

東堅町文化委員会

報告のページへジャンプ

平成26年度 東堅町自治会 第2  
回文化講座  
「**京都丹波の御田植祭**」調査報告

10月18日(土)13:30～16:00  
京都丹波に残る伝統行事「御田  
植祭」他に焦点を当てて伝統文化  
を検証します。  
当日は取材ビデオの上映があり  
ました。  
祭りを歴史というとらえ方で考察し  
ています。ご参加して頂きありが  
とうございました。

平成26年度 東堅町自治会  
第2回文化講座  
「**京都丹波の御田植祭**」報告



会場入り口



会場内の展示風景

左端は会場内のCO2濃度表示  
パソコン。  
環境部から初めて展示をしまし  
た。

\*\*\*\*\* 記 \*\*\*\*\*

10月23～26日  
東堅町自治会会議所、町内一円  
にて文化祭が今年も行われました。  
出品頂きました皆様に厚く御礼い  
たします。  
報告のページを設けましたのでご  
覧下さい。

平成26年度 東堅町自治会  
第9回文化祭 の報告の  
ページへジャンプ

## 努 力 目 標

1. 伝統文化を大切に
2. 町内の生活史に学ぶ
3. 新しい文化の創造
4. 高齢化社会の生活を豊かに

## 地域資源活用部門

### “めざせ１トン 学校地域をあげての生ごみ回収”小学生でもできる循環型社会

長岡京市立長岡第四小学校 ○校長 太田 伸彦

#### 1. 活動方針・目的

地球温暖化を防止するために小学生でもできる取り組みはないのか  
低炭素社会をめざして

#### 2. 活動内容

- (1) 生ごみ処理：家庭の生ごみを学校に持ってきて、コンポストで処理をする取組  
(地球温暖化防止)
- (2) グリーンカーテンネットワーク：校区・地域住民に呼びかけ生ごみと交換に苗を提供し、  
校区にグリーンカーテンを広める(省エネルギー)
- (3) 雨水タンク：地元ビール会社から廃ビールタンクを寄贈いただき、校区地域コミュニティ協議会の支援で雨水タンクにリサイクルした。(水の節約)

#### 3. 他の活動団体の参考となる事例

- (1) 生ごみ処理
  - ・活動を広めるために、児童が手作りポスターを作成し、自分の住む地域に呼びかけた。  
当初、生ごみはレジ袋やポリ袋に入れて持ってきていたが、袋がゴミになるということで、専用容器(密封容器)を用意する家庭が増えた。
  - ・生ごみをコンポストに入れるだけでは、発酵するのに時間がかかることがわかり、でスコップ等で粉碎すると、効率が良い。
- (2) グリーンカーテンネットワーク：成長の様子を学校ホームページに掲載させていただき広報する。

#### 4. 今後の課題等

公立の小学校としての使命は、学校を文化と情報の拠点として、地域と双方向に情報発信をすることだと考えています。

- (1) それぞれの団体の皆様の情報発信の考え方や手段等について
- (2) 世代交代の際の伝承の方法



# めざせ 1トン！！

学校のコンポストで  
生ごみ进行处理する取組



平成27年2月23日  
長岡京市立長岡第四小学校



# 循環型農業

## 説明

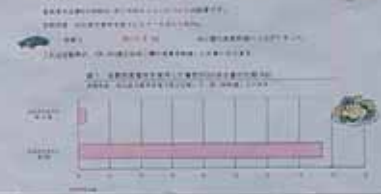
農業に用いられる肥料や農薬、農具などを循環利用する事。畜産や農業家庭などで出るはいき物を肥料にしたりする。



## 感想

私たちは、循環型農業を知って、良い取り組みだと思った。でも、たいいんな事なんだと思った。

自分たちが作った大根を給食で食べると...  
長岡京市立第四小学校では  
フードマイレージ計算結果



1/11の大根収穫で  
**14.9** KgのCO<sub>2</sub>削減

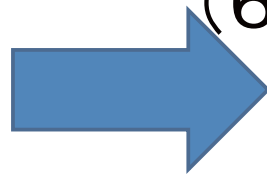


車で106km走った時  
に出る量  
京都から姫路まで  
行ける距離

100キログラム  
ゴミ

燃やすと

CO<sub>2</sub>をたくさん出す  
(62キログラム)



CO<sub>2</sub>をへらしたい

コンポストの利用



目標は  
生ごみ1トン



CO<sub>2</sub>  
サッカーボール  
62000こ分



コンポストに

いっぱいになった生ごみを

1週間封印しました。





# 地域の方の協力



**生ごみは、密封容器や  
弁当箱に入れて持ってきます。**



**バケツに入れて  
計量します。  
もちろんバケツの重さは  
差し引きします。**





貝塚市の豊かな自然再発見のまちづくり

元近木川流域自然大学研究会代表 ○橋本夏次

1. 活動方針・目的

まちづくりとは、「自然の息づかいを感じて活動する、地域社会の形成」とし、「地域が目線で考え、地域の動きで活動する」ことをかけ、貝塚市の豊かな自然を見つめなおし、目的を、一先人が築いてきた「人と自然とのいい関係」再発見から新たなコミュニティづくりにおく。

2. 活動内容

平成元年から、7年まで「花いっぱい運動」を大阪府立貝塚高校園芸科(当時)の生徒たちを中心に町会、婦人会、小・中学校、幼稚園、保育所が参加全市的に活動した。平成2年大阪鶴見緑地で開催された「花の万博」に市花「コスモス」の花壇を3回出展・金・銀・銅賞を受賞。

これをまちづくりに活かすため、その拠点施設まちの小さな博物館「市立自然遊学館」平成5年開設。さらに平成5・9年と二度全国ワーストワンになった近木川の水質改善のため、平成「近木っ子探検隊」を結成、「近木川の豊かな自然」再発見し、ここで「遊びから学ぶ」活動が定着した。さらに、総合学習・環境学習の始まりが追い風となって近木川全域にその活動が広がった。平成10年にワーストワン脱却し、その基準となるBODの数値(平成9年二度目のワーストワン)21mg/lから平成20年からは5前後で推移している。

活動は、探検隊から始まり、環境学習、それらをサポートする近木っ子会議平成8年結成、「子どもと大人の井戸端会議」の開催等、活動の動きに合わせた取り組みを行ってきた。

さらに継続するためのサポートができる組織の結成。くわえて活動で汗をかけた人に光が当たるように、合わせてプラットフォームの役割を担う近木川市民フォーラムは平成7年から22年まで毎年開催してきた。子ども中心の取組は全国的に評価され、国土交通省、文部科学省で紹介されている。2009年には「水都2009社会実験事業」で採択され「見て、聞いて、感じて、夢を水都に」をテーマに、小・中・高校生が参加、幅約2m長さ約14mの大絵地図を作成しその感性の豊かな表現に大人を感動させた。総括は、子どもの提案をまちづくりに：近木川流域自然大学:海・山・川の分校

3. 他の活動団体の参考となる事例

① 活動で汗をかく人が主役 ②取り組みは常にフォーラム等で全市的に対応 ③活動の熟度に応じた対応(サポート) ④子どものからの提案「遊べる近木川にしてください」に対応して⇒近木川流域自然大学:海・山・川の分校とし、貝塚市の施作計画に位置付けした。海山の分校は既設の施設、川の分校づくりを子どもの参画で進めた。

この取り組みは貝塚の自然のシンボルとしての近木川をまちづくりの柱にして、そこに存在する「ため池と近木川の関わり、さらに近木川に存在する「川ガキ文化」の再構築を目指すもので、貝塚市全体を束ねている。

4. 今後の課題等

筆者は、平成14年3月、定年1年早めに退職、市立自然遊学館の非常勤嘱託としてこの活動に専念した。しかし平成22年退職後は、行政の組織でかわりを持つことがむづかしくなった。そのとき、愛知産業大学大学院・延藤安弘教授(当時)の指導で大学院修士を終了、この活動を普遍化することができた。

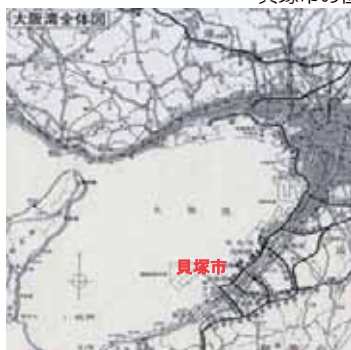


# 貝塚市の豊かな自然再発見のまちづくり

橋本夏次

貝塚市の位置と概要

自然：海(二色の浜)、山(和泉葛城山)、川(近木川)、国の天然記念物「ブナの原生林」



人口約9万人  
面積約44km<sup>2</sup>

市域の約4割(1762ha)近郊緑地  
歴史：本願寺が願泉寺(国重要文化財)に 寺内町が形成 国宝「釘無堂」「水間寺」  
文化：大小約600のため池と近木川を繋ぐ水文化 水と人のかかわり 「川ガキ」

平成の大修理を終えた願泉寺(国重要文化財)

和泉名所図会から



近木川は、東西約14.3km、南北約4kmの細長い市域を縦断する全長約18km流域面積約28K㎡。源流は、金剛生駒紀泉国定公園 和泉葛城山(857.3m)にある。山頂には国の天然記念物「ブナの原生林」がある。

1981年から約40年、貝塚市は、  
88年から6年半、高校生・市民中  
心で「花いっぱい運動」を育てた。  
サボートにコンクリート・ロードを敷  
設し、自ら環境で育ち、自然から  
自然を得た。「貝塚の豊かな自然」  
を次世代へ継承する活動につなぐた  
めその拠点施設「市立自然遊学館」  
の設置を提案、83年開設、95年ま  
で開いた。  
02年3月開設、7月から22年3  
月まで市立自然遊学館非営利施設。  
22年4月大学教員土壌学に学び24  
年3月終了(橋本夏次)



アマモ群生地約5千㎡

昭和30年代の「二色の浜」

現在の二色浜

国宝釘無堂



魚の荷揚げを手伝う子どもたち

①②子どもたちは魚の荷揚げを手伝い駄賃  
は魚。海の恵みを知り、豊かさを知る。③④  
⑤貝塚地先の海辺の様子⑥右下は潮干狩り  
昭和30年代前半 (出典・貝塚市史)

It is an appearance in an old  
beach. Help to which the  
child carries the fish is done.  
It is a present beach.







生活排水実践活動：BOD削減効果4割以上

昭和30年代大小約600のため池約8割が近木川から利水



| 年度 | 実施日               | 町会名               | 世帯数 | 削減効果  |       |       |       |       |
|----|-------------------|-------------------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
|    |                   |                   |     | BOD   | COD   | SS    | 濁分    | MBAS  |
| 6  | 平成6年12月1日<br>～10日 | 稲葉台               | 808 | 12.5% | —     | —     | 14.0% | 10.0% |
| 7  | 平成8年 2月1日<br>～10日 | 島中                | 339 | 40.0% | 23.0% | 22.0% | 20.0% | —     |
| 8  | 平成8年12月2日<br>～11日 | 府宮貝<br>塚森野<br>住自治 | 477 | 18.5% | 24.0% | 15.0% | 39.0% | —     |
| 9  | 平成10年3月1日<br>～10日 | 三ツ松<br>西ノ町        | 81  | 28.3% | 28.3% | 44.2% | 8.4%  | —     |
| 10 | 平成12年3月1日<br>～10日 | 船ヶ丘               | 190 | 18.8% | —     | —     | —     | —     |
|    | 平成12年3月6日<br>～15日 | 馬場                | 250 | 41.3% | —     | —     | 70.0% | —     |

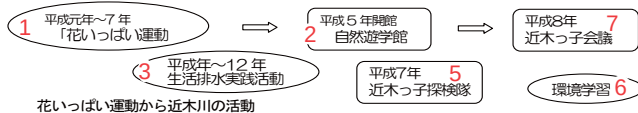
近木川の水質・2度全国ワーストワン

| 近木川下流（基準点・近木川橋）のBOD値の変化(単位mg/ℓ) |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | (ワーストワン) |      |  |  |
|---------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----------|------|--|--|
| 年度                              | 1993 | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012     | 2013 |  |  |
| 平均値                             | 25   | 25   | 23   | 19   | 21   | 8.6  | 9.1  | 9.8  | 11   | 8.8  | 7.8  | 7.8  | 7.2  | 6.3  | 6.7  | 5.5  | 3.9  | 4.5  | 4.1  | 3.6      | 5.6  |  |  |
| 75%値                            | 25   | 21   | 30   | 22   | 23   | 12   | 9.1  | 11   | 13   | 9.9  | 9.1  | 6.6  | 9.2  | 7.7  | 7.5  | 6.3  | 4.4  | 5.3  | 4.8  | 4.3      | 6.5  |  |  |

## 「多様な場の形成」

## 貝塚市立自然遊学館

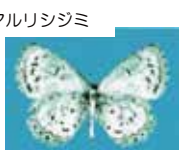
近木っ子探検隊→



花いっぱい運動から近木川の活動



写真5・6・7・8近木っ子探検隊の活動  
(近木川河口)



ムカシトンボ



写真7



写真8



写真9近木っ子探検隊の活動(中流)

### 市民の森、自然遊学館施設体系

基本方針  
市民のふるさと志向を自然とのふれあいの中に求め、  
郷土愛を育み「人と自然の共生」を奨励。

C I 3運動  
市民の願い＝暮らしに自然を取り戻す  
環境教育を進めながら  
積極的に海・山・川を暮らしの中に取り戻す。

貝塚らしさ  
郷土愛  
自然とのふれあい  
近木川水系の生態調査  
自然と市民生活の歴史

郷土の誇り  
豊かな自然、歴史の遺産など

自然遊学館

自然への理解

自然保護・再生

遊びと文化

都市像  
豊かな自然と共存  
する産業文化都市

近木川ルネッサンス

近木川流域自然大学  
山の分校(海の字の里)  
海の分校(自然遊学館)  
川の分校 → 子どもの館

「場」の提供

自然生態園  
貴重種のヤマトダ  
ラバットの保護活動

緑地音楽会(野外ステージ)  
自然文化フォーラム  
自然観察会、ウォッチング  
川ガキ  
緑道ウォークラリー など  
木の葉などを使ったもの作り

出合い……  
感動……  
余韻……

語り合える場 レストランなど

近木っ子探検隊 平成7年4月  
グリーンカレッジ 平成7年4月  
近木っ子会議 平成8年12月

写真10 11ハクセンシオマネキ



## 環境学習 小学校・中学校、高校

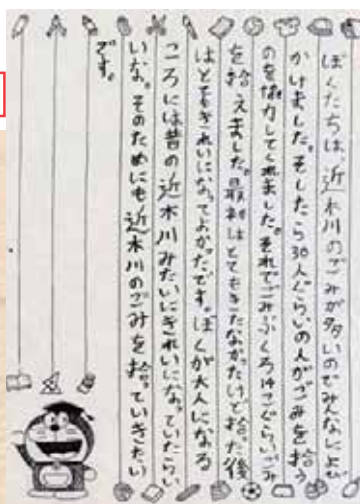
友だちがこけたので笑ったら自分もこけた。でも  
魚が跳ねたの見てよかった

### 小学校の環境学習(出前教室)

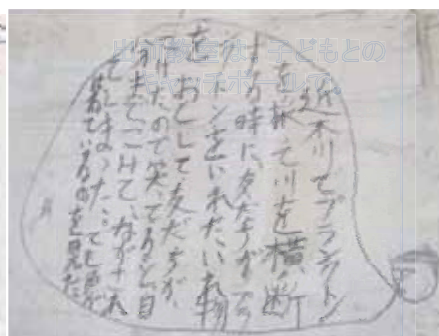
行政のサポート⇒ゴミの処分



↑南小学校 4年生自作の呼びかけ文と清掃⇒



川ガキその  
1遊び



### ② 中学生の出前講座



近木川の  
四季



一番感動した写真は、近木川の四季でした。貝塚は小さな市かもしれないけれど、他の市や県に負けていないのではないかと思います。生徒(中3)の感想。

その2自然を  
尊敬

その3即行動

### ③ 高校で出前教室(平成12年9月2日)

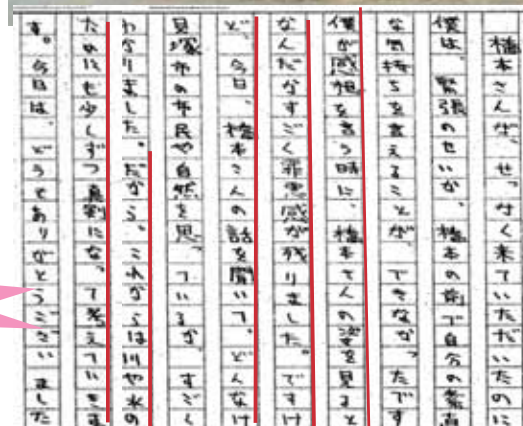
子どもの感想を看板にして河川管理者と一緒に設置する。

管理者と高校生をつなぐ大人との協働

自分たちで川をよごしているのに自分たちで掃除するのはなんかへん。はじめっから汚せへんかったらいいのに。(感想文の一部)

←看板たてた後の感想

看板に





## 「川ガキ」になる環境学習

問い 川で遊ぶの危ないとおいまか？ ○大人と一緒なら大丈夫↓ 50.2% ○場所によって違う 61.4% 3小学校 402名の児童から



聞き取り劇で発表 「大賞」を受賞  
かわっば Go!Go!

図画工作部員から。



紙漉きをしていた新田さんから聞き取り



遊んでるだけとちゃうで。掃除もしてるで。

かわっばクラブ京都「車座会議」で発表。彼らの言葉が新聞の見出しに



子どもは、川で遊べます。遊び方を知っています。  
遊ばなくなったのは大人では？



追いかける子

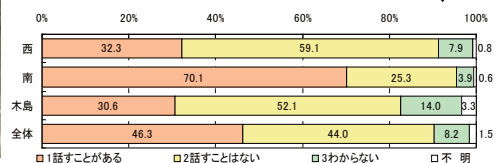
逃げて・助けてー



このイカダおとん作ったんやで。

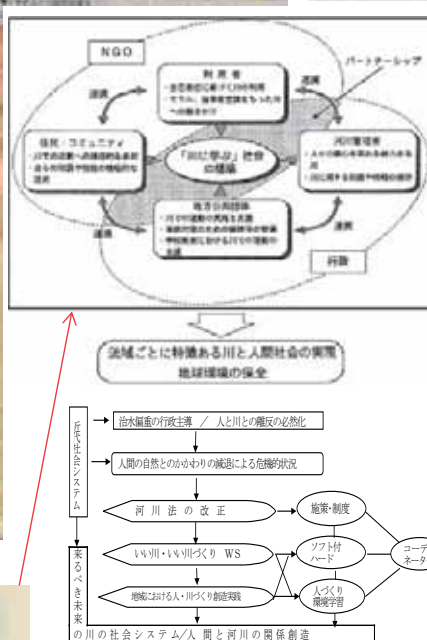
←平成20年6月 環境学習  
(近木川中流)

家庭で近木川の話をしですかアンケート  
調査で3小学校で児童402名から↓



河川法改正

日本の川を  
とりもどす

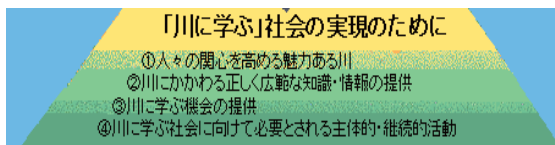


アインシュタイン博士  
・日本では、自然と人間は一体化  
しているように見えます・・・  
・たしかに日本人は、西洋の知的  
業績に感嘆し、成功と大きな理想  
主義を掲げて科学に飛び込んでい  
ます。けれどもそういう場合に、  
西洋と出会う以前に日本人が本来  
もっていて、つまり生活の芸術化  
、個人に必要な謙虚さと質素さ、  
日本人の純粋で静かな心、それら  
のすべてを純粋に保って忘れず  
にいて欲しいものです。

弘法大師  
「われ永く山に帰らん」  
満濃池改修灌漑システム  
安藤昌益  
「自然の世」  
柳田国男(民族学者)  
「画一的な農業の近代化は  
日本文化をダメにする」  
佐藤仁(東大客員教授)  
「画一的な土地利用は人と自然  
を切り離した」  
桑子敏雄(東工大教授)  
「近代的精神がそれまでの知の  
世界を隠蔽した」



## 河川法の改正 ⇒ 日本の川を取り戻す ⇒ 川に学ぶ社会の構築

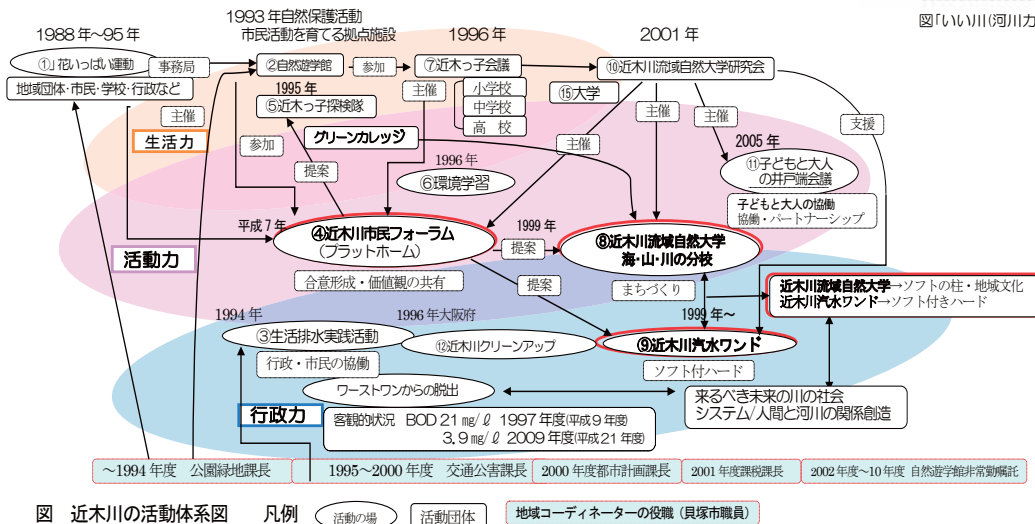


「いい川・いい川づくり」が図2のように連続的に実現するためには、子どもの環境学習や流域連携まちづくりの具体的活動を通して、住民の河川の多面的利活用と住民・行政の創造的協働により、その河川ならではの自然景観と原風景の回復・再創造に赴くことが必要である。このような川と人のつながりを実現し・u川に学ぶ社会を目指す」\*7河川の典型として近木川をとりあげる。それは国の政策指針「川に学ぶ」社会の実現の4つの基本方針「人々の関心を高める魅力ある川（づくり）」、「正しく広範な知識・情報の提供」、「川に学ぶ機会の提供」、「主体的・持続的な活動のための支援・枠組み」を実践し、かつ全国的状況を反映する典型として位置づけられる。



図1いい川(河川力)・いい川づくり(地域力)のしくみ

「いい川(河川力)・いい川づくり(地域力)のしくみ」  
 <生活力>とは、「日常の暮らしの中に川が流れる」「川の楽しさ・怖さの次世代継承」「祭り・文化の流れ」等の「多面的利活用」をいう。<活動力>とは、「子どもの環境学習」「住民参加の川普請」「流域連携まちづくり」等をさす。<行政力>とは、行政が担う政策形成、情報提供、技術力駆使に加えて、<活動力>との接点に位置づけられる「再生・育成の協働活動」「社会的調整・合意形成」のパートナーシップ力を意味する。「いい川づくり」とは、このような<生活力>と<活動力>と<行政力>のつながりによって育まれる「地域力」である。



## (5) 近木川流域自然大学

近木川流域自然大学

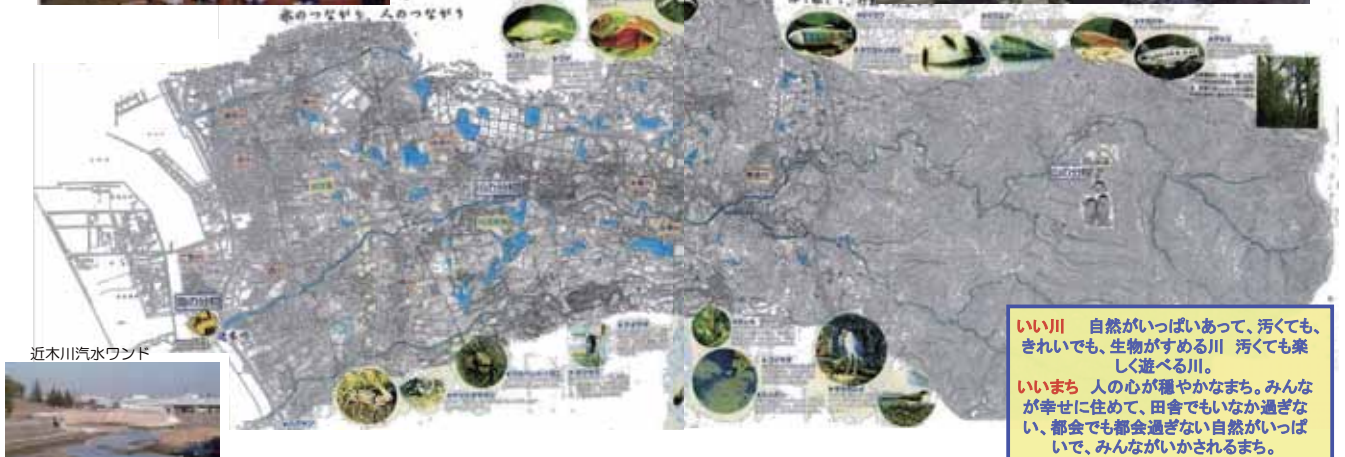
海の分校 川の分校 山の分校  
 (自然遊学館) (子どもの参画で) (ほの字の里)

でも、今はそれできません。フォーラムに集まっているみなさんの力で、ぼくたちが遊べる近木川をつくってください。ぼくたちががんばります。よろしくお願ひします。これで、わたしたちの夢をかなえます。

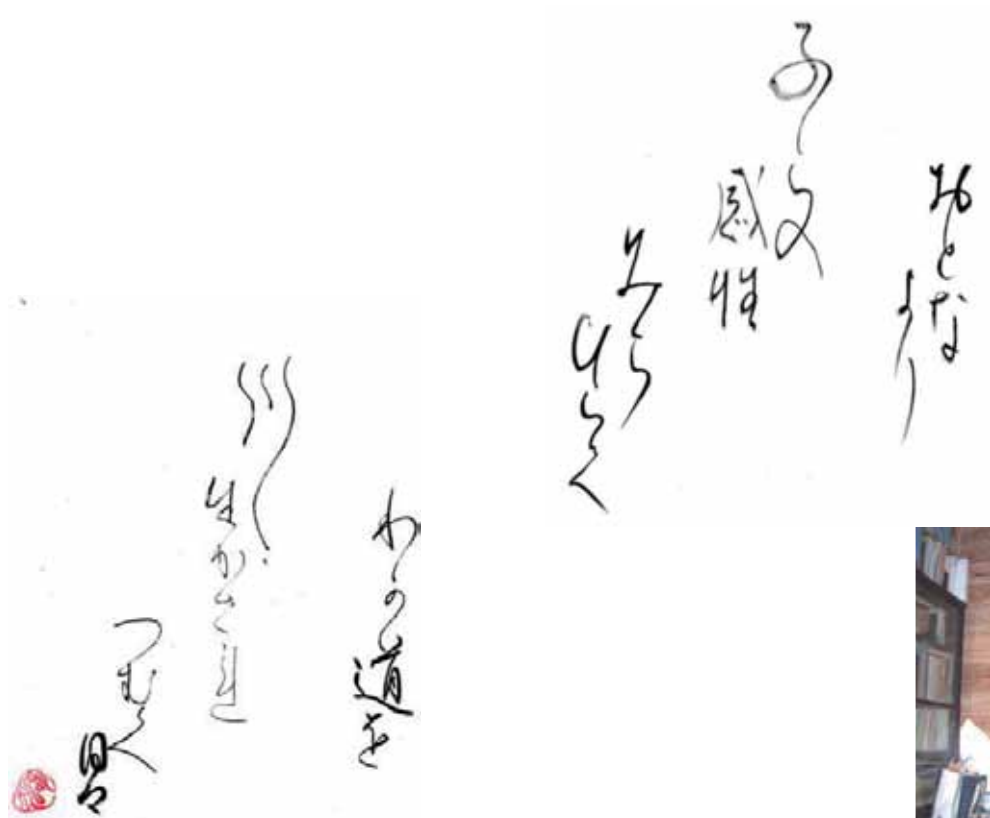
アクションリサーチ ロジャー・ハート教授

提言：↑↓

「大きなことを考えずに小さなことを積み重ねること」 ロビン・ムーア教授



いい川 自然がいっぱいあって、汚くても、きれいでも、生物がすめる川 汚くても楽しく遊べる川。  
 いいまち 人の心が穏やかなまち。みんなが幸せに住めて、田舎でもいなか過ぎない、都会でも都会過ぎない自然がいっぱいで、みんながいかされるまち。



ご静聴ありがとうございました



人と自然が共生するカタクリ 100 万本の里山

矢環境緑化実行委員会

座長：一言、パワー・力ということに関してお願いできますか。

A：力といっても、最近、どこでもそうですが、里山が大変荒れていますね。それをきれいに伐採しなければいけないのですが、初めはボランティアですから、できるかなと思って心配していました。しかし、1人で入って木を切り、草を刈っていたら、地区は26戸ですが、26戸全部の人が来てやっていただいたことが大変力になったと思います。ボランティアですから、それほど人は集まらないのではないかと考えていたのですが、全戸が来てくださいました。それで活動が始められたと思っています。それが今でも続いているのです。

「かたくりまつり」は今年で7回目ですが、参加者はだんだん多くなってきているような気がしています。

座長：みんな元気で、それでさらに元気になっていったという感じですか。

A：そうです。大阪からも日本旅行のバスが2台ぐらい来ますし、遠いところでは、東は横浜、西は山口県の人にも来ていただいています。その人たちの話を聞くと、大変元気が出ます。

座長：しかし、本当にきれいな写真でしたね。

A：最後の写真は、カタクリが多いところを撮ったわけではないのです。実際にこういう状態です。それで人に見ていただこうかなと思ったわけです。

Q：私は、実は「カタクリ大好き人間」でして、これはぜひ見に行きたいなと思いました。私は京都の亀岡に住んでいるのですが、京都でも、西山の大暑山の麓でカタクリが群生しています。ただし、鹿がやってきて食ってしまうので、矢地区では獣害の問題はないのでしょうか。

もう一つ、カタクリの移植はものすごく難しいですね。地域を広げて家のポットに植えるわけにはいかないから、どういう形で場所を広げようとしておられるのかなと思うのです。

A：うちの地区では、獣害はありません。

カタクリは、種もできますし、球根でも殖えます。種が地面に落ちて、7～8年は花は咲きません。

Q：アリが運ぶのですね。

A：上のほうに上がるということは、アリが運ぶのでしょうか。

Q：カタクリは、アリの卵によく似たにおいを出すので、アリが自分の卵と勘違いして運ぶのです。

A：この写真の1ヘクタールは、自然そのままです。あとまだ2ヘクタールあります。

Q：私が心配するのは、きれいだからといって採る人がいることです。採っても根づかないことをみんなに知ってもらいたいと思います。

A：私の息子が京都の伏見に住んでいまして、近くの桃山あたりにカタクリが咲いているらしいのですが、そのあたりの人はあまり宣伝していません。言うとなられてしまうのです。

私たちのところも、採ることは許可していません。仲間に入っています。

カタクリのいいところは、1つの花でもさまになることです。桜は、たくさん咲いていなければ人も来ないし、写真にもなりません。カタクリは、1つの花できれいな写真になります。

座長：カタクリ愛がすごく伝わってきますね。

Q：ただし、いつ行っても見られるわけではないのですよ。太陽の動きとともに咲いたり閉じたりします。

A：そうなんです。日が差さないと花が開きません。遠いところから来ていただいても、曇っていたり雨が降っていると、花が開かないのです。それが一番の欠点です。

Q：事務局の高松ですが、補足します。

我々のところは、増やす努力はしていません。我々も最初は、増やす努力をして一面を紫のじゅうたんのようにしようと思ったのです。愛知県や岐阜県でも、群生地があって、種を蒔いたりしているところもありますが、よく考えると、この写真でもそれほど密集していないように見えるでしょう。我々が整備する前からこの間隔なのです。これがカタクリにとって一番いい間隔、つかず離れずの間隔だと思うのです。これを無理に我々が種を蒔いたり、球根を間に植えて増やすことは、果たしてカタクリ

にとって幸せかなと思ったので、我々は自然のままにしているのです。

来られた方の中には「まばらやな」と言われる人もいますが、「絶妙なつかず離れずの間隔で咲いているのですよ」といつも言っています。これが長く保存できる間隔ではないかなと思っています。人に見せることよりも、カタクリにとって一番いい条件を模索しながら、我々は整備しています。

これは、大阪や滋賀や京都から来られた山菜愛好家の方が教えてくれたことです。そういうことで接しています。

---

### 京田辺市の自然を活かしたまちづくり

---

#### NPO 法人 やましろ里山の会

座長：パワーについて一言お願いできますか。

A：私たちの力の1つは、毎週水曜日の9時半から昼まで、事務局会議を開いていることです。これは、誰が来てもよくて、お茶を飲みながら、ワイワイガヤガヤやっています。これが一番大きな力かなと思います。

全ての事業・イベントを合わせますと、1年間に100回はあります。1日に3つぐらいある日もあります。そういったことは、すべてオープンでやっています。会員だけの取り組みではありません。

もう一つは、「週刊ニュース」を木曜日に出します。これは550号を超えました。また、会誌を半年に1回、500円ほどかかるのですが、180ページの原稿を集めて、「おいで、おいで」と呼びかけても、畑に来れない、木津川にも来れない人たちに、「どうしているのか」を伝えるために発行しています。

普通は言い出した人が一番頑張らなければいけなくなって、これが一番つらいです。世話人になるのが嫌がられる原因になります。しかし、私たちは、基本的には、責任を追及せずに、みんなでやれることをやろう、そして、楽しくやろう、遊び心でやっています。こういったことが力になっているのかなと思います。



全ての人が出すごみを媒体としたまちづくり、人づくりを目指す

ふるさと倶楽部

座長：力ということで一言お願いします。

A：私には「夢」がある、これが力です。

Q：上勝町では 55 種類に分別しているそうですが、住民の方は本当にきちんとやられているのですか。

A：分けられていますね。私は、本当は生ごみを見たかったのですが、そこだけしか見せてくれなかったんです。横でお母さん連中が遊んでいる中を、3歳の子どもが持ってきて順番にボックスの中に入れていました。考えたらえらいことです。

徳島県上勝町の町長は、その当時、「うちでは焼却炉はつくらない。将来は資源ごみになる」と言って、最初は 34 分別でやり始めたらしいんです。でも、これではお年寄りなどはわからないからと、できるだけ細かくしたそうです。例えばライターは、6 分別ぐらいだと、どこに入れたらいいかわからないでしょう。それで 55 分別にして、将来は 100 分別にするとおっしゃっていました。

収集しないですから、そういう費用も少なくて済みます。一般的な自治体では、ごみ処理関連で税金が 1 人大体 2 万円かかっているんですが、ここは 9,300 円です。

一度上勝町へ行ってください。ただし、3 万円要ります。まず、泊まらなければいかん。泊まったら買い物をしなければいかん。見学科も 1,000 円要ります。



東堅町の地域環境と伝統文化を生かした生活とまちづくり

亀岡市東堅町自治会文化委員会文化部門

座長：すごくすばらしい切り絵がいっぱい出てきましたが、町の人も切り絵をつくられているということでした。

パワーについては、気を使って途中でいろいろとおっしゃっていただきましたので、今の活動に対してご質問はありませんか。

Q：「継続は力なり」と言われましたが、全くそのとおりだと思います。10年間継続する力があったから、10年間続けられたのだと思います。

資料の最後に努力目標として4つ挙げておられます。この中で、1番目の「伝統文化を大切に」は、今のお話でわかりました。2番目の「町内の生活史に学ぶ」も、今のお話の中で説明がありました。4番目の「高齢化社会の生活を豊かに」もわかります。しかし、3番目の「新しい文化の創造」について私は非常に関心を持ちました。この「新しい文化」というのは、具体的にどういうことをお考えになっているのですか。

A：文化に対する評価は後から出てくるものですから、我々が過去や現在のことをいろいろと記録に残していくことを、未来の人がどのように評価してくれるかなのです。我々は、自信を持って、できる精いっぱいの努力をしながら進めていく、そういう生きざまが新しい文化だと思っています。

うちの自治会は、環境問題にも取り組んでいます。いろいろなことに取り組んでいるのですが、一つのもは一つのもで終わりません。必ず関連します。そういうものが総合してみんなのものになれば、それが新しい文化になっていくと思っています。

Q：私が受け止めたのは、今お話になったことはいろいろとあって、あまりにも分散し過ぎて焦点がぼけるのではないかと思います。私がこれかなと思ったのは、横山先生もおっしゃった切り絵です。文化史の表現の仕方として、切り絵をつくってこられているんですね。ですから、これを表現の力に変えていかれたら、それこそ新しい文化に育っていくのではないかと思います。せっかくこういう立派なものできているのですから、そこをもう少し強調されたほうがいいのではないかと思います。あれもある、

これもあるというのでは、かえって焦点がぼけて、いいものが埋没してしまうような気がします。

A：私自身は、結果を求めていないのです。この切り絵を始めた動機も、私は高校の教師をやっているとして、荒れた生徒と一緒に始めたのがきっかけです。初めのうちは切った紙の後始末ばかりしていましたが、作品ができ始めると、生徒の作品を集めて、公民館を借りて展示会をしました。それが新聞に載りますと、生徒たちに対して周りの人から、「バイクを乗り回してばかりしていると思っていたら、こんないいこともやっているんだな」と言われて、だんだんと悪さができなくなってきたのです。

さらに評価が進んでくると、小学生の横をバイクで通るときには、エンジンを止めて押して通るぐらいまでになっていったのです。黙っていてもそういうことをしてくれるようになりました。

私はずるくて、生徒指導は大変でかなわないから先に手を打っただけの話ですが、そういうことから始めて、もう 40 年ぐらいやっています。もちろん生徒と一緒に始めたので、独学です。

今は、それをお年寄りたちと一緒にやっているのですが、初めのうちは、「手が動かんし、絵心もないし」と言っていた人も、でき始めたら自信がついてきます。

そういうことで、私はこの切り絵に助けられて、そういう人たちとの輪もできたなと思っています。困ったときに助けてくれたというのが、私と切り絵との関係です。

Q：横山先生が「力は何ですか」と聞かれて、「継続する力ですよ」とおっしゃったのは、そうだと思います。私は、それにプラスして、成果として表現する力を形にされたと思うのです。生活史は文化そのものです。その生活史を切り絵という表現であらわしていく、それを地域の大きなシンボルにされると、明確になっていいのではないかと、まさしく力になるのではないかと思います。

A：ありがとうございます。そのお言葉が、私たちの一番の大きな力になります。



“めざせ1トン 学校地域をあげての生ごみ回収”小学生でもできる循環型社会

長岡京市立長岡第四小学校

座長：先生の「活動の力」は、どういうものでしょうか。

A：もちろん地域の皆さんは協力してくださったのですが、地元企業の皆さんが支援してくださることは予想もしていませんでした。「環境は四小やろ」という感じで名前が通っているみたいです。

ペットボトルのキャップを860個集めたら1人分のワクチンになるという運動を、皆さんもご存じだと思います。長岡京市には10の小学校があって、あちこちでキャップ集めをしています。ところが、JR長岡京駅の副駅長さんから電話がありまして、「駅でキャップを集めているんやけど、あんたそこで引き取ってくれるか」と言われました。駅に一番近い小学校は、本校ではないですし、一番近い小学校でもキャップを集めているのです。しかし、うちに連絡をいただいたことも、わからない力が支援をしてくださっているのかなと思います。それは、地域の方々の口コミで広がっていることの証拠かなと思って、それが大きな力になっていると思います。

Q：非常におもしろい発表でした。バイオマスのCO<sub>2</sub>換算をされているのですが、私たちの東堅町も同じようにバイオマスCO<sub>2</sub>換算ができるような形にしています。しかし、算出するのが結構ややこしくて、それはどういう形で子どもにやらせておられるのですか。

もう一つ、例えば大気中のCO<sub>2</sub>濃度をここにおられる方はどれくらいご存じなのでしょうかね。それがとても気になります。今は「温室効果ガスの削減」とは言わないですね。「排出量の削減」と言っているし、排出量を減らす形で取り組んでおられるのですが、その観点で、私たちもちょうど今やっていますので、関心があります。

A：私は、平成24年度から本校に着任しているのですが、本校は、20年度からエネルギー・環境教育の指定を受けて実践しています。21年度に最優秀賞をもらい、22年度は優秀賞、23年度も優秀賞をもらっているのです。私は24年度に赴任して、「えらいとこに来たな」と思いました。前年にたまたま四小の研究発表を見に行ったのですが、難しく何もわかりませんでした。

実は、京都教育大学の山下宏文先生という環境教育に熱心に取り組んでおられる先生が、20年度から本校に指導に来ていただいています。たまたまですが、その山下先生の門下生が本校の教務主任で6年間いたのです。CO<sub>2</sub>の算出については、ルートマイレージなどを調べる時もそうですが、数式が入っていて、数字を入れるだけでポンと出てくるようなコンピューターのソフトをもらっていたのです。本来なら難しい計算をしなければいけないと思うのですが、数字を入れれば答えが出るという形になっています。

あとは、いろいろお世話になったのですが、私自身も、初めて聞いたときには、難し過ぎてわかりませんでした。小学校、まして公立の小学校は、学者を育てるところでもありませんので、「なぜかな」とか、「ほんとかな」という疑問を自分たちの実験なり観察で解決することが大事だと思います。

ですから、「生ごみを集めれば肥料になると言われているが、本当に肥料なのか」という疑問を解決するために試したのですね。コンポスト容器の横にヒマワリのこぼれ種がありまして、成長し始めたときには一番低かったのですが、真夏の8月を超えると、これが一番大きくなって、物干し竿ぐらいの太さになりました。一番初めに大きくなっていったところの太さをはるかに超えてしまったのです。これは、カンカンに暑くても、生ごみの水分を土中から吸い上げ、生ごみのエキスを吸い上げて、こんなに大きく育ったんだとなりまして、ヒマワリが明らかに証明してくれたかなと思っています。

そこから次に、つる性のグリーンカーテンをするときに、市販の肥料ではなく、生ごみでやってみたいという子どもたちの発想が生まれまして、臭いけれども、一輪車に積んで運んでいくことになると思います。来年はさらに立派なグリーンカーテンができるかなと思っています。

Q：実は今年は「国際土壌年」なのです。今の活動は、ぴったりそれにマッチした取り組みになりますので、国連のほうからの表彰があるかもわかりませんよ。この土壌年に合わせてやっていただいたらありがたいなと思います。

CO<sub>2</sub>の計算式は、うちのホームページにも数値を入れたら計算できるようなものを載せています。

また、CO<sub>2</sub>の30秒おきの動態観察をした結果も公開していますので、東堅町のホームページを見ていただいたら、亀岡市の現在のCO<sub>2</sub>の濃度がわかります。400～500ppm ぐらいの濃度になっています。

学校のほうですと、保健関係で環境調査が冬にありますね。それで教室の濃度がどれぐらいかを見ていただいたらわかると思います。亀岡の高校では、4,000ppm で換気の必要があるというレベルなのに、平気で授業をしていました。私は、「生徒が寝てても怒れへんで」と言ったこともあります。

### 貝塚市の豊かな自然再発見のまちづくり

#### 橋本夏次

座長：力について一言お願いします。

A：力は、黒子役の喜びを知ることだと思います。それは、サポートに徹することです。

行政マンは、サポートはするが、コントロールしないのが本筋なのです。ボランティアで活動してもらったら、行政は助かります。川がきれいになったら、川掃除をしなくてもいいわけです。そういうことを地域の人たちから教えてもらいました。

Q：素晴らしい内容のお話で、しかも、資料もきめ細かく構成されていて、非常に感服して拝見しました。

この活動をする組織の構成はどういう形になっているのですか、具体的に教えてください。

A：例えば環境学習については、学校の先生を中心にして、先生方がしやすいように行政がバックアップしていく組織です。そういうことができる近木っ子会議というものをつくっています。

「近木っ子探検隊」は、平成7年につくりました。それは、大人も子どもも川で遊ぶことによって学びがあるという考え方です。

Q：その中には、当然、子どもも入っているわけですね。

A：もちろんそうです。「近木っ子会議」は、環境学習をサポートするために、小・中・高の先生方を中心に、大学の先生にはアドバイザーとして入っていただいて、行政は、



事務局を担当して雑用をしています。

Q：ということは、純民間ではなく、学校の先生方も含めた行政の組織を使った会になるのですね。

A：私たちはほとんどボランティアです。

Q：公職の方もボランティアですか。

A：そうです。私は管理職でしたから、例えばごみを運ぶときには公用車を出さないときません。そういう場合は、時間外命令を出して、公務になります。

Q：いわゆる市民活動ではないのですね。

A：行政マンも貝塚に住んでいますから、市民活動的な要素が多分に濃いんですね。ですから、コントロールはしません。



# 第3分科会：コミュニティ防災減災部門

座長：田端 和彦 氏（兵庫大学 教授 / 附属総合科学研究所長）

|                                                                |                          |             |
|----------------------------------------------------------------|--------------------------|-------------|
| 天王寺区下寺町における地域課題解決プロジェクト「お寺deハロウィン」                             | 特定非営利活動法人<br>MIRAI PLUS  | 大阪府<br>大阪市  |
| 地球温暖化防止活動の推進による<br>明舞団地の活性化                                    | NPO法人環境21の会              | 兵庫県<br>明石市  |
| たのしく!むりなく!みんなでつくろう!五月田の<br>避難所運営マニュアル<br>～事業避難所運営訓練HUG(ハグ)の実施～ | 五月田校区自治連合会               | 大阪府<br>門真市  |
| 東豎町の地域環境を生かした生活とまちづくり                                          | 亀岡市東豎町自治会文化委員会環境部門       | 京都府<br>亀岡市  |
| 書を通じて青少年の防災教育を担うまちづくり                                          | 特定非営利活動法人<br>健康まちづくり推進協会 | 兵庫県<br>神戸市  |
| ～みんなでオモロイことで繋がる～<br>コミュニケーションアートで繋がるまちづくり                      | A-yan!!関西をアートで盛り上げるNPO   | 大阪府<br>東大阪市 |

## 座長

田端 和彦 氏（兵庫大学 生涯福祉学部教授、附属総合科学研究所長（兼）

兵庫大学生涯福祉学部教授、附属総合科学研究所長。三重県生まれ。広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程後期修了。93年に広島大学助手、95年、兵庫大学講師、同大学経済情報学部経済情報学科准教授を経て、08年に生涯福祉学部発足により、現職。専門は地域経済学、地域政策論、地域福祉学。07年まで兵庫県の外郭団体である(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構地域政策研究所で、主任研究員を務め、地域再生や競争力向上、コミュニティビジネス等に関する研究にあたった。著書に『参画と協働－理論と実践』他、また論文に「地域の産業創発の国際比較」、「地域の競争力向上とガバナンスのあり方」など。



## 天王寺区下寺町における地域課題解決プロジェクト「お寺 de ハロウィン」

特定非営利活動法人 MIRAI PLUS 事務局長 ○出水 季治  
特定非営利活動法人 MIRAI PLUS 企画担当 浅松眞由美  
西照寺 住職 正木 唯真

### 1. 活動方針・目的

天王寺区における地域課題として、「地域への愛着・誇り」、「地域における人々のつながり」、「人々が集う賑わいのある場の創出」、「多文化共生への理解促進」の4点を挙げ、同じ地域に暮らす住民としての相互理解や相互交流を促進し、様々な地域課題を自らが解決する・解決できる担い手の発掘や育成を行うこと。

### 2. 活動内容

大阪市天王寺区下寺町の「西照寺」を会場に、地域住民や在住外国人を対象に「ハロウィン」をテーマとする地域の歴史・文化と海外の伝統行事を融合させた文化理解のイベント「お寺 de ハロウィン」を開催し、英語ゲストによるハロウィンについてのレクチャーや、寺の住職による妖怪話のほか、地域の伝統産業である和紙を用いてジャックオランタンを作り、寺町を練り歩くハロウィンパレードを実施した。

### 3. 他の活動団体の参考となる事例

海外の伝統行事である「ハロウィン」を日本の「お寺」で開催することで、ハロウィンの持つ根源的な意義である、秋の豊穡への感謝の念とコミュニティの結束を表現するとともに、地元の歴史資源としてのお寺の存在意義についても多くの人々に実感してもらうことができた。

100名を超える地域住民がお寺に集い、日本語と英語でのレクチャーやアクティビティを通じて日本と海外の文化の違いや共通点を楽しみながら学ぶ機会を提供できた。「お寺」を単なる宗教の場としてとらえるのではなく、地域における学びの拠点としての位置づけで、さらには海外経験を有する住職との協働事業として海外の文化にも目を向ける活動として実施できたことは主催者としても意義深かった。

### 4. 今後の課題等

単なる一過性のイベントに終わることなく、参加者のみならず地域住民のニーズや関心にも配慮し、お寺を拠点とした学びの活動を地域として盛り上げ、継続させていくにあたり、資金面を含めた協力をどれだけ得られるのかが課題である。



天王寺区地域課題解決担い手発掘事業認定

# お寺 de ハロウィン

特定非営利活動法人MIRAI PLUS

事務局長 出水 季治

光明山西照寺

住 職 正木 唯真

## 天王寺区の現状



- 大阪市のほぼ中央部に位置し、  
人口は約70,000人。(20/24区・260万人)
- 交通の至便性  
(地下鉄谷町線・千日前線、近鉄線)
- 医療機関の充実  
(赤十字病院・警察病院・NTT病院など)
- 文教地区としての認知  
(大阪府下における有名校が多数立地)



新たに天王寺区へ転入する区民の増加

## 天王寺区の歴史①



- 日本仏法最初の官寺・和宗総本山四天王寺
- 日本書紀に記される・生魂國神社

区内には200を超える寺社が存在し、上町台地西側には南北に寺ばかりが続く「下寺町」が形成されている。



- 大坂城唯一の弱点と言われた南側の防御のため、日本で初めて作られた寺町が起源
- 家康が好んだ浄土宗には広大な敷地が与えられることとなった。

## 天王寺区の歴史②



- 日本最初の国際交流拠点である四天王寺
- 日本の玄関口となる難波津・難波長柄豊碕宮（上町台地・中央区）
- 市の国際交流拠点・大阪国際交流センター（旧大阪外国語大学跡地）
- 多数の日本語学校



約4000人の在住外国人が居住

## 目的①

地域への愛着・誇り

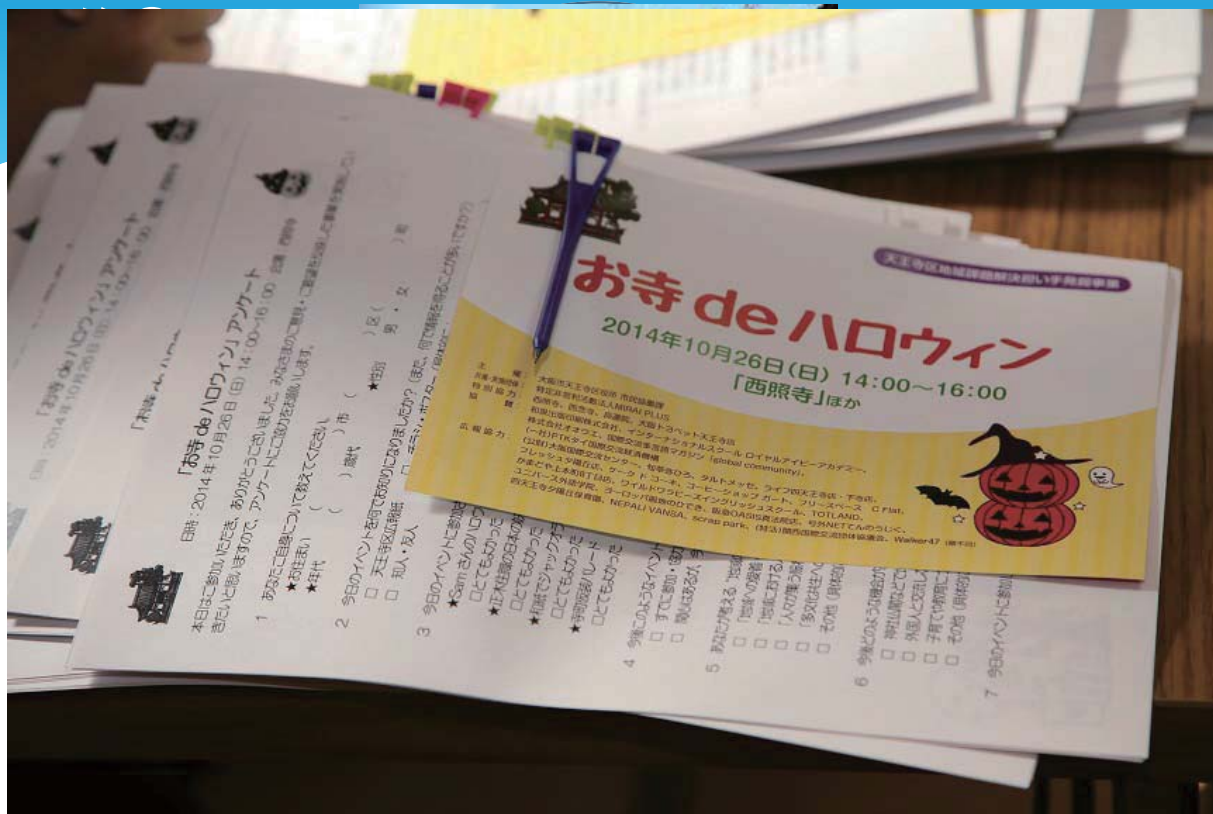
地域における人々のつながり

人々が集う  
賑わいのある場の創出

多文化共生への理解促進



同じ地域に暮らす住民としての相互理解や相互交流を促進し、  
様々な地域課題を自らが解決する・解決できる担い手の発掘・育成を行う。





## 活動内容①



○下寺町「西照寺」を会場に、地域住民や在住外国人を対象。



○海外の伝統文化である「ハロウィン」について  
米国人ゲストによる英語でのレクチャー。



○住職による妖怪話。

## 活動内容②



○地域の伝統産業である和紙を  
用いてジャックオランタン作りの  
ワークショップ。



○寺町を練り歩くハロウィンパレード。

## 活動内容③



西照寺本堂にてレクチャー



和紙で思い思いの  
ジャックオランタン作り



一斉に点灯



寺町を練り歩く



行く先々でお菓子をもらう



フィリピン領事もご参加くださいました

## 今後に向けて





## 地球温暖化防止活動の推進による明舞団地の活性化

○NPO法人環境21の会理事長 竹重 勲

NPO法人環境21の会理事 塩野 勝

### 1. 活動方針・目的

「NPO 法人環境21の会」（環境21の会）は、環境問題、特に市民に低炭素社会を作ることの意義を理解してもらい、実践させることを目的として、明石舞子団地（明舞団地）を拠点に「地球温暖化防止」のための活動を啓発・推進している。

今年度、「まちびらき50周年」を迎えた明舞団地では、各種記念イベントの実施等により、様々なコミュニティ活動が明らかになってきた。この期を捉え、他の各種活動とも連携して行きたい。

### 2. 活動内容

環境21の会は平成11年設立後、明舞団地の木造平屋の空き家を事務所とし本邦1号となる屋根一体型太陽光発電（4.5kw）の設置、ケナフによる緑のカーテンなど温暖化防止活動を開始、その後各方面からの支援で教材を充実、平成23年には太陽光発電（256w）と風力発電（33w）を独立電源として設置、また0.4kwと0.7kwのフレネルレンズも設置し、兵庫県知事からまちの寺子屋（寺子屋）として認定された。同時に、活動拠点としている夢前町の里山と五色町に寺子屋と炭窯を設置、ここで製造した炭を温暖化防止活動の目玉教材とした。平成24年には啓発をより拡大する為に明舞第1センタービル内に分室を設置、松が丘小コミュニティセンター、明舞まちづくり広場、松が丘交流広場とも提携し、「地球温暖化防止」の活動を推進している。

### 3. 他の活動団体の参考となる事例

「見える化」と「体験」をキーワードにした活動が各方面から評価を得ている。

- ・見える化：太陽光発電の各種計測と分析を行い、発電量を数値化（グラフ）化して紹介。

【効果】節電による電気代の削減効果が理解され、近隣の8住宅でも設置された。

- ・体験：自分で発見、体験することが有効。

①実験：最初の説明は短く。【効果】子供のみならず、大人も興味を示し主体的に取り組む。

②実地体験：寺子屋分校（夢前町・五色町）での里山保全、ケナフの栽培、竹林保全、すだちの栽培、各種炭焼き等体験。教科書とも連動（「森を育てる炭作り」の話をするなど。）。

作った木炭での餅焼きや芋焼きの実施。【効果】体験者の記憶に、より強く残る。

### 4. 今後の課題等

地球温暖化防止のための取組の評価には、環境家計簿の作成などにより、家庭での発電・使用量について継続的に記録し「継続的」に見える化（数値化）することが必要である。

本会でも長年、東播磨県民局とタイアップして、夏休みに子ども達が家族と共に省エネ活動をするエコチャレンジを実施しているが、なかなか各家庭で継続されない。

太陽光発電で使用量等が表示（グラフ化）されるモニター設備が普及してきたので、これの活用も検討しつつ、各家庭で「地球温暖化防止」のための省エネ活動が継続されるように、今後取り組んでいきたい。



NO10関西元気な地域づくり

## 温暖化防止活動で明舞団地の活性化

NPO法人環境21の会

理事長 竹重勲

2017年2月23日

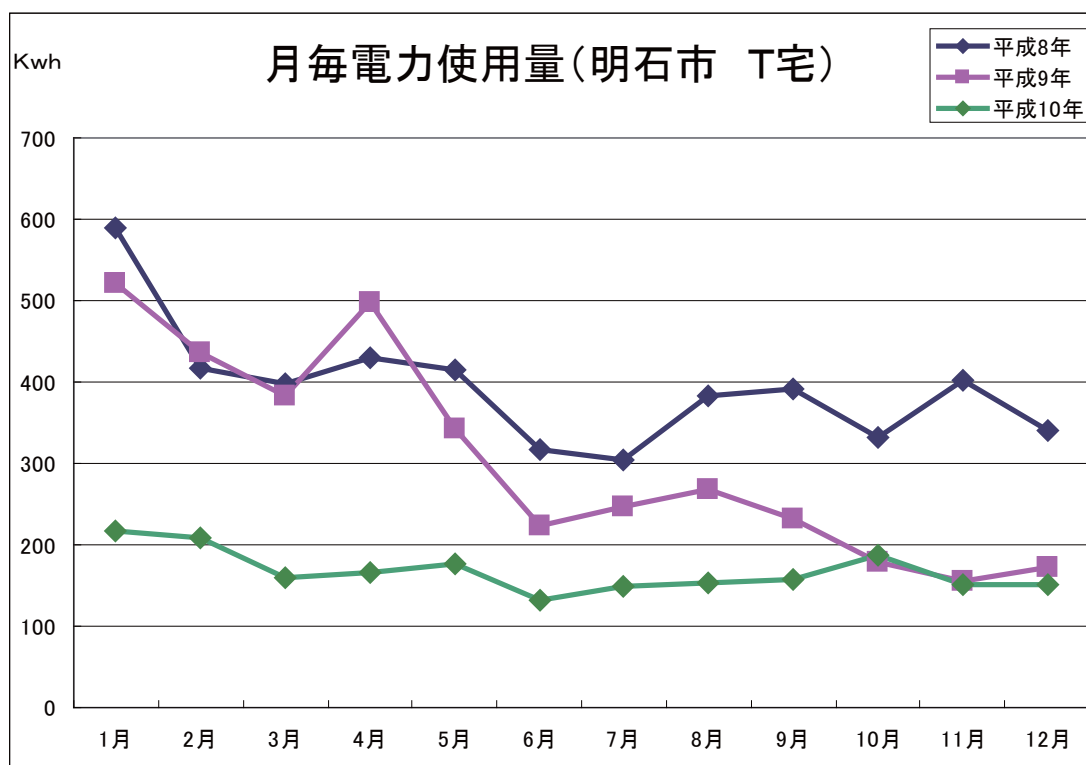
### まちの寺子屋の歴史

- 1970: 明舞団地に自宅建設(ガス電気計測)
- 1982: 自宅改装時太陽光温水器設置
- 1986: 両親が隣の木造平屋住宅購入移住  
(大丸の設計、宮大工、そのまま居住)
- 1995: 大震災、平屋は屋根重量で倒壊寸前  
(世界ではCOP1温暖化防止推進開始)
- 1996: 母親なくなり空き屋に、自宅温水器撤去
- 1997: COP3に関連し自宅の省エネ開始ケナフのカーテン、2年で半分にした、活動を全国に啓発
- 1999: 木造平屋な延命と温暖化防止対策で屋根一体太陽光発電設置、環境21の会の事務所

# 地震直後の屋根の状況(松が丘3丁目) (平成7年—1995年1月17日阪神淡路大震災)



## 各種対策後の電力変化



平成11年、本邦1号屋根1体太陽光発電設置  
環境21の会の事務所とし、有効活用開始



平成16年NPOに登録子ども達が太陽光とケナフ炭の学習





## 啓発により太陽光発電設置 (H21年7月、松が丘M氏の垂水の新築の家)



## 松が丘のまちの寺子屋・理科教室 炭の効用(遠赤外線)の実験で餅焼き、新聞社取材





## 木炭七輪で合鴨なべの交流会



## ガールスカウトリーダーがゴーヤとケナフで交流





## センターに分室、アメリカの子どもがケナフ学習



## 明舞分室、炭の活用で交流





## 夏休み理科教室でオルゴール工作



## 松が丘交流広場で炭の啓発と交流



## 木炭七輪で餅焼きと交流



## 神戸学院大生が五色の寺子屋で炭焼き体験





## コミュニティ・防災減災部門

### たのしく！むりなく！みんなでつくろう！五月田の避難所運営マニュアル ～事業避難所運営訓練HUG（ハグ）の実施～

さつきだ  
○大阪府門真市五月田校区自治連合会会長 猿渡 勝美  
NPO法人あいまち門真ステーション理事長 東田 正

#### 1 活動方針・活動目的

門真市の五月田小学校区で「いざ！」というときのために避難所運営マニュアルを作成することを目的に、校区内の自治会員や小学校の教職員、摂南大学の学生が参加し、「避難所運営訓練HUG（ハグ）」を実施しました。

日時：平成26年（2014年）5月25日（日） 午後2時～午後4時30分

場所：門真市立五月田小学校体育館

主催：五月田校区自治連合会、摂南大学

共催：NPO法人 あいまち門真ステーション

協力：門真市

#### 2 活動内容

大学教員の講義等を通じ、地域と大学の連携事業の紹介等を行い、地域での新たな取り組みを促進するため、門真市が実施した「平成25年度かどま市民講座」の中で、「地域のまちづくりにも役立つ防災対策事例を学ぶ～実践的防災教育プログラムと地域活動の取り組みを通じて～」という内容の摂南大学が取り組んでいる防災に関する講座がありました。

この講座を受けて、防災に対する地域での取り組みの重要性を認識したことから、摂南大学との協働事業として、五月田小学校区で例年開催されている、「五月田フォーラム」の中で、参加住民を4組のグループに編成し、避難者の年齢、性別及び国籍等それぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館及び教室に見立てた平面図に、どれだけ適切に配置できるか、また、避難所で起こる様々な事象にどのように対応するかを模擬体験する図上訓練、「避難所運営訓練HUG（ハグ）」を実施しました。なお、「避難所運営訓練HUG（ハグ）」は静岡県開発のゲームです。

#### 3 他の活動団体の参考となる事例

この事業を通じ、地域・NPO・大学・行政の4つの主体がそれぞれの特長を活かしながら、協働事業として開催できた点です。五月田フォーラムは19回を迎えましたが、毎年テーマを変えながら行っており、地域の各種団体が参加し共通認識を深める重要な機会です。

#### 4 今後の課題

5月に「避難所運営訓練HUG（ハグ）」を実施し、地域の共通認識がつけられましたが、一過性の勉強から活動の定着化するための意識づくりが求められます。また、4つの主体それぞれがHUGを理解し、定着することを目指し、「ふりかえり」を行うことにより、「いざ！」というときに備えたいと考えております。

当初の予定では、26年末までに「ふりかえり」を終えて、まとめた意識の発表会・作品展示を考えておりましたが、地域行事の繁忙時期と重なり、次のステップに進めていないことが、五月田校区自治連合会の課題となっており、時期を検討しているところです。



# たのしく！むりなく！みんなで作ろう！ 五月田の避難所運営マニュアル

## ～避難所運営ゲームHUG(ハグ)の実施～



大阪府門真市五月田校区自治連合会  
会長 猿渡 勝美



NPO法人 あいまち門真ステーション  
理事長 東田 正



門真市は、大阪府北河内地域に位置し、面積が12、3平方キロメートル、人口12万6千人で、河内レンコンやパナソニックで知られております。



| 平成26年度 五月田小学校区行事予定表      |                                                                                                                                                                                                    | 平成26年度4月22日 日付表                                                                            |                                                                                             |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自治会・町会・学区・地区・校区・学区・地区・学区 | 子ども会・児童会・児童会・児童会                                                                                                                                                                                   | 五月田小学校                                                                                     | その他                                                                                         |
| 4月                       | 4/1(日) 町民交流フェスティバル大会 雨天中止<br>4/20(日) 新緑のうさぎふくふく会(延長)延長<br>4/25(土) 体育祭委員会 中央自治会<br>4/25(土) 二高定通運動会 警察官見守り<br>5/15(日) 五月田フェスティバル(雨天中止)延長<br>5/15(日) 五月田フェスティバル(雨天中止)延長<br>5/15(日) 五月田フェスティバル(雨天中止)延長 | 4/4 入学式 4/21,22,24,25 家庭訪問<br>4/8 始業式 日程未定 通学<br>4/17 PTA学習発表会 参観日<br>4/22 全国学力・学習状況調査(1年) | 4/24-5/2 家庭訪問<br>5/17(日) 五月田小学校区<br>5/17(日) 五月田小学校区<br>5/17(日) 五月田小学校区                      |
| 5月                       | 5/15(日) 五月田フェスティバル(雨天中止)延長<br>5/15(日) 五月田フェスティバル(雨天中止)延長<br>5/15(日) 五月田フェスティバル(雨天中止)延長                                                                                                             | 5/7 15:00- 参観日<br>5/13 大田区運動会(予定)                                                          | 5/9-5/11 参観日 5/12,13 参観日<br>5/13 PTA会<br>5/22,23 中野中3年                                      |
| 6月                       | 6/15(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>6/21 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>6/21 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長                                                                                                                | 6/8 オープンスクール 学校開放<br>6/8 5年市道通学バス<br>6/12 児童会発表<br>6/17 プール開校<br>6/25 参観日延長                | 6/8,6 オープンスクール<br>6/8 参観日 オープンスクール 6/9 代休<br>6/12,13 参観日<br>6/13 3年市道通学バス<br>6/25,26,27 参観日 |
| 7月                       | 7/19 (土) 参観日(五月田小学校区) 雨天中止<br>7/19 (土) 参観日(五月田小学校区) 雨天中止<br>7/19 (土) 参観日(五月田小学校区) 雨天中止                                                                                                             | 7/1,7,8 参観日 参観日 参観日<br>7/19 参観日 参観日 参観日<br>7/22 参観日 参観日 参観日<br>7/25-7/27 参観日 参観日 参観日       | 7/10 PTA会<br>7/10-7/11 参観日<br>7/19 参観日 参観日 参観日                                              |
| 8月                       | 8/15(土) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>8/15(土) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>8/15(土) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長                                                                                                          | 8/6,6,7 ハロウィン<br>8/26 参観日 参観日 参観日<br>8/29 参観日 参観日 参観日                                      | 8/22 参観日 参観日 参観日<br>8/26 参観日 参観日 参観日<br>8/29 参観日 参観日 参観日                                    |
| 9月                       | 9/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>9/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>9/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長                                                                                                             | 9/4 参観日 参観日 参観日<br>9/5 参観日 参観日 参観日<br>9/20 参観日 参観日 参観日<br>9/25 参観日 参観日 参観日                 | 9/4 参観日 参観日 参観日<br>9/5 参観日 参観日 参観日<br>9/20 参観日 参観日 参観日<br>9/25 参観日 参観日 参観日                  |
| 10月                      | 10/4 (土) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>10/4 (土) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>10/4 (土) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長                                                                                                       | 10/1 参観日 参観日 参観日<br>10/2 参観日 参観日 参観日<br>10/20 参観日 参観日 参観日<br>10/25 参観日 参観日 参観日             | 10/1 参観日 参観日 参観日<br>10/2 参観日 参観日 参観日<br>10/20 参観日 参観日 参観日<br>10/25 参観日 参観日 参観日              |
| 11月                      | 11/1(土) PTA文化祭 野鳥の保護<br>11/1(土) PTA文化祭 野鳥の保護<br>11/1(土) PTA文化祭 野鳥の保護                                                                                                                               | 11/8 参観日 参観日 参観日<br>11/22(土) 参観日 参観日 参観日<br>11/25(土) 参観日 参観日 参観日<br>11/28(土) 参観日 参観日 参観日   | 11/7 参観日 参観日 参観日<br>11/11-11/13 参観日<br>11/20 参観日 参観日 参観日<br>11/25 参観日 参観日 参観日               |
| 12月                      | 12/1(土) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>12/1(土) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>12/1(土) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長                                                                                                          | 12/9-12/11 参観日 参観日 参観日<br>12/12 参観日 参観日 参観日<br>12/25 参観日 参観日 参観日<br>12/28 参観日 参観日 参観日      | 12/11 PTA会<br>12/12 参観日 参観日 参観日<br>12/25 参観日 参観日 参観日<br>12/28 参観日 参観日 参観日                   |
| 1月                       | 1/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>1/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>1/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長                                                                                                             | 1/8 参観日 参観日 参観日<br>1/13 参観日 参観日 参観日<br>1/20 参観日 参観日 参観日<br>1/27 参観日 参観日 参観日                | 1/8 参観日 参観日 参観日<br>1/13 参観日 参観日 参観日<br>1/20 参観日 参観日 参観日<br>1/27 参観日 参観日 参観日                 |
| 2月                       | 2/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>2/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>2/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長                                                                                                             | 2/8 参観日 参観日 参観日<br>2/13 参観日 参観日 参観日<br>2/20 参観日 参観日 参観日<br>2/27 参観日 参観日 参観日                | 2/8 参観日 参観日 参観日<br>2/13 参観日 参観日 参観日<br>2/20 参観日 参観日 参観日<br>2/27 参観日 参観日 参観日                 |
| 3月                       | 3/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>3/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>3/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長                                                                                                             | 3/8 参観日 参観日 参観日<br>3/13 参観日 参観日 参観日<br>3/20 参観日 参観日 参観日<br>3/27 参観日 参観日 参観日                | 3/8 参観日 参観日 参観日<br>3/13 参観日 参観日 参観日<br>3/20 参観日 参観日 参観日<br>3/27 参観日 参観日 参観日                 |
| 4月                       | 4/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>4/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長<br>4/1(日) 町民交流フェスティバル(雨天中止)延長                                                                                                             | 4/8 参観日 参観日 参観日<br>4/13 参観日 参観日 参観日<br>4/20 参観日 参観日 参観日<br>4/27 参観日 参観日 参観日                | 4/8 参観日 参観日 参観日<br>4/13 参観日 参観日 参観日<br>4/20 参観日 参観日 参観日<br>4/27 参観日 参観日 参観日                 |

平成26年度の行事計画はこの様になっています

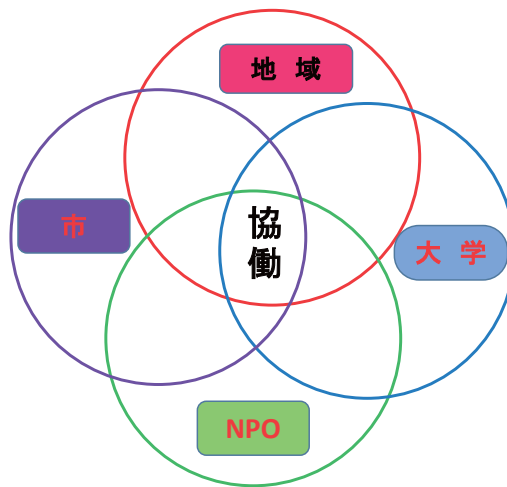
## 五月田フォーラム



平成5年より自治会会議のあり方も改称し、地域に大きく関係する事柄をテーマに、地域の皆様と共に考え、より住みやすい地域づくりに役立つことを目的に、五月田フォーラムを開催することになりました。



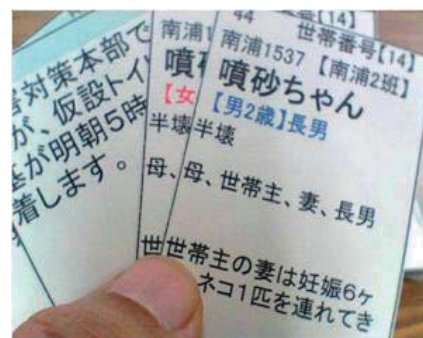
## 活動(HUG)の経緯



摂南大学理工学部建築学科  
准教授 池内淳子

地域防災の取組を考えていた五月田校区自治連合会へ呼びかけ、五月田フォーラムにおいて門真市立五月田小学校体育館で「避難所運営ゲーム(HUG)」を実施する運びとなりました。

## 避難所運営ゲーム(HUG)とは



HUGとは、静岡県が開発した避難所運営ゲームです。

ゲーム参加者が避難者を体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを<sup>もぎたいけん</sup>模擬体験するゲームです。

## HUGの実施概要（五月田フォーラム2014）

日時：平成26年5月25日(日曜日) 14:00～16:30

場所：五月田小学校体育館

HUG参加者：34名 五月田校区住民(32名) 門真市立第7中学校校長  
五月田小学校教頭  
摂南大学の学生7名 大学院生2名

摂南大学関係者：3名

住民見学者：55名

枚方土木事務所：3名 寝屋川市職員：2名 大東市市職員：1名

門真職員 7名 NPO 4名

報道関係：日本経済新聞 FMはなこ 門真市広報

平成26年5月25日、五月田小学校の体育館で学校の教員・大学生を交えて五月田校区住民がHUGを行いました。

参加者ならびに見学者の状況は、ご覧の通りで総勢121名、門真市以外からも多くの方に参加して頂きました。



グループの構成はこうになっており、子育て年代の女性グループを編成しています

## 事後報告会

日時:2014年7月13日(日) 13:30～15:00

場所:NPO法人あいまち門真ステーション

参加者:避難所運営訓練HUGの参加者 23名

プログラム:アンケート等の結果報告

五月田校区からの意見集約と質疑応答



学生からアンケート結果と分析の報告があり、防災に対する意見が集約されました。

## HUGの成果

### 地域の成果

- ・ 大学・行政・<sup>ちえん</sup>NPO・<sup>いきがくれんけい</sup>地縁団体との域学連携による、協働意識の構築ができた。
- ・ HUGを体験することにより、防災意識の向上が図れた



## 班別による特徴と成果

### 子育て班

- ・避難者を体育館へ避難させる
- ・幼い子供を抱えた避難者に別室を用意する配慮があった

### 地域班

- ・避難者を校舎へ避難させる
- ・避難者の年齢やそれぞれの事情を基準に避難者を振り分けた

子育て班は避難者の立場で、地域班は避難所を運営する立場で考えており、相互の理解が進んだ

## 振り返りと次のステップ

- ・ HUGを行い、訓練後に住民主体で避難所運営マニュアルを作成するためのワークショップを実施した。
- ・ マニュアル作成には至らなかったが、日常生活の立場の違いで、作成する避難所のレイアウトも異なることが理解でき、次へのステップにつなげていく。
- ・ HUGを経験した住民たちは、災害時に自主的に行動することができるため、住民をまとめられるリーダーとなる人財を増やしたい。



平成26年5月25日(日) 大学関係者・自治会長  
写真



平成27年2月6日(金)の 感謝状贈呈式  
(摂南大学2014年度建築防災研究室報告会にて)



ご清聴ありがとうございました



蓮ちゃん

## 東堅町の地域環境を生かした生活とまちづくり

- 東堅町自治会文化委員会環境部長 太田広  
東堅町自治会文化委員会委員 津山宏  
東堅町自治会文化委員会委員 中井隆

### 1. 活動方針・目的

住民の環境意識を高め環境にやさしい町づくりを推進する。

### 2. 活動内容

後世のためにより良い環境を残すために、私たちが出来る範囲内で啓蒙活動をする。

現在の環境汚染のツケを後世に引き継がせなくてもよいようにしたい。

### 3. 他の活動団体の参考となる事例

昨年度は環境問題の中でもごみ問題に焦点を当て活動してきました。

本年度は環境問題の中でも避けて通れないCO<sub>2</sub>排出量増加による温度上昇問題に焦点を当て活動しています。

CO<sub>2</sub>については空気、水等のように特に気にもとめない存在です。「あって当たり前、良くて当たり前」と皆さん関心がない方が多いのです。しかし環境は刻一刻と悪化しています。止めるのは今しかないのです。そのためにまずこのまま行けばどうなるのかを知ってもらうために啓蒙活動に力を入れています。まず自治会員、行政の環境教室に参加して私たちの活動を紹介することにより関心を持ってもらいました。又、CO<sub>2</sub>SOSとコラボして本年度から目に見えないCO<sub>2</sub>濃度を24時間30秒間隔でインターネットに公開しています。全国で12カ所ある測定ポイントの中、京都府では2カ所の測定ポイントになりました。CO<sub>2</sub>問題を論ずる中で大きな説得力がありました。

### 4. 今後の課題等

地球温暖化、異常気象、スーパー台風襲来…等環境は悪化の一途を辿っています。歯止めを掛けるには今しかないのです。「自分がやらなくても誰かがやってくれるだろう!」と期待するのではなく自分たちが率先して活動するしかありません。「行動するには今でしょう! ストップ温暖化!」を合い言葉に活動を進めていきます。しかし、町内だけでは限界があります。機会があれば積極的に他団体との交流も進めていきたいのです。昨年度は極狭いローカルな亀岡周辺での活動でした。今回この場を借りて、この活動を聞いて頂いた皆さんと共に連帯の輪を広げるために参加させていただきます。

大阪府、兵庫県、……の1府5県には現在CO<sub>2</sub>の測定ポイントはありません。まず各府県から来て頂いている団体の中で賛同して頂ける方と共に活動の輪を広げていきたいと思えます。その場でいくらCO<sub>2</sub>問題を語っても目に見えない雲をつかむような問題に耳を傾けてもらうためにはCO<sub>2</sub>濃度が現在いくらか、上昇傾向にあるということを知ってもらうことが一番なのです。

今回のように各方面で活動されているNPO等各団体の皆様にこのささやかな活動を知って頂き興味を持って頂ければ成功と思えます。皆さん! 私たちと一緒に活動しませんか?



ヒガシタツチョウ

# 東豎町の地域環境を生かした生活とまちづくり 環境にやさしいまちづくりの推進

東豎町自治会文化委員会 環境部会



発表者

太田 広 津山 宏



## 活 動 内 容 紹 介

約45億年前に地球が誕生した時の二酸化炭素濃度は約300ppmでした。偶然にも、たった0.03%に過ぎない二酸化炭素が太陽系第3惑星に生命を宿す原因となりました。

その後産業革命以後の1950年頃から急に濃度が上昇し始めました。このまま行けばいずれは温暖化が加速し住めなくなるかも知れません。この先未知数です。

地球温暖化を何とかストップさせるために立ち上がりました。行動するには今しかありません。ストップ温暖化が目標です。

臭いが無く目に見えないだけに皆さんあまり関心がありませんが後からでは遅いのです。関心を持ってもらうために啓蒙活動すべき立ち上がりました。

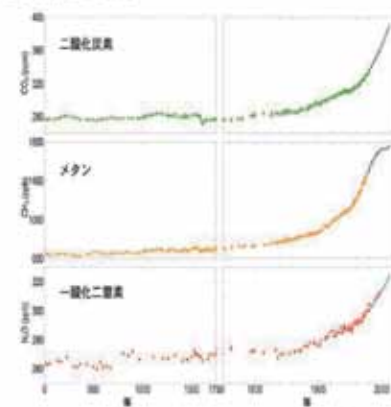
自治会、各イベントへ出向き、可能な限り啓蒙活動をしています。

その一部を紹介します。

温室効果ガスの濃度の変化

二酸化炭素の大気中の濃度は過去数百年にわたって280ppm(部)程度でしたが、18世紀半ばから上昇を始め、特にここ数十年で急激に増加しています。これは、動力などの燃料として石炭や石油が大量に使われるようになったためです。

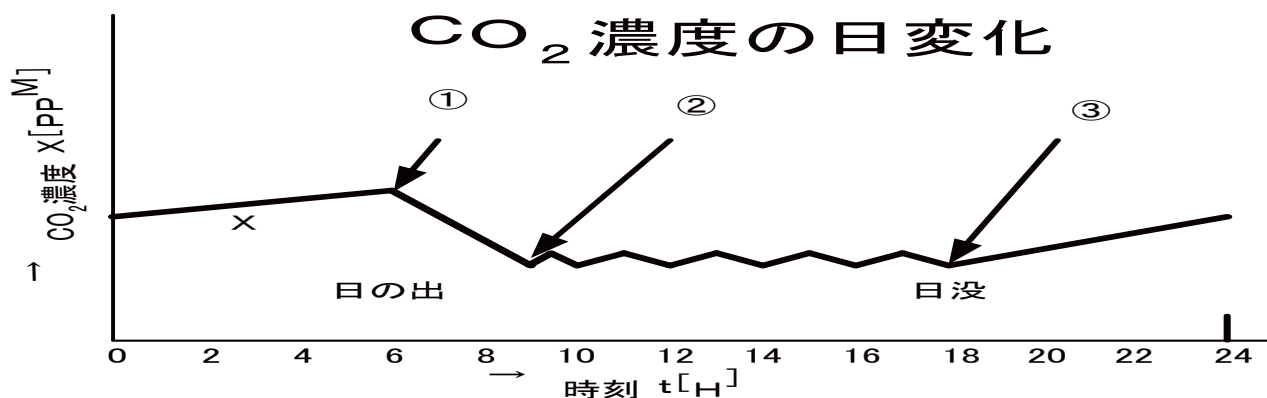
二酸化炭素以外の温室効果ガス(メタン、一酸化二窒素など)も、同時に18世紀半ばから急激に増加しています。これは、増加した人口をささえるための農業や畜産業などの開発化にともなう、耕地の拡大、肥料の使用の増加、家畜の増加などによるものと考えられています。



1860年から2011年までの主な温室効果ガスの大気中の濃度の変化  
(IPCC第5回評価報告書より)

キリスト誕生から現在迄の二酸化炭素濃度の推移グラフ

# C O<sub>2</sub> 濃 度 の 日 変 化



- ① 6 時頃の日の出頃に光合成が始まり CO<sub>2</sub> 濃度が低下を始める。
- ② 9 - 10 時頃から人間の活動が始まり CO<sub>2</sub> 濃度は低下しなくなる。
- ③ 18 時頃の日没頃から光合成が終わり、CO<sub>2</sub> 濃度が上昇を始める。
- ①に続く繰り返しとなる。

CO<sub>2</sub> は気体であるので風の影響を受けこの通りにならない時もある。  
 全国このような傾向で 350 ~ 550 [PPM] の範囲内で変化。  
 測定器周辺に人間が近づくと急に上昇するので測定には注意が必要。  
 東壱町では平成 26 年 3 月から、日吉町胡麻では 5 月から測定を開始。

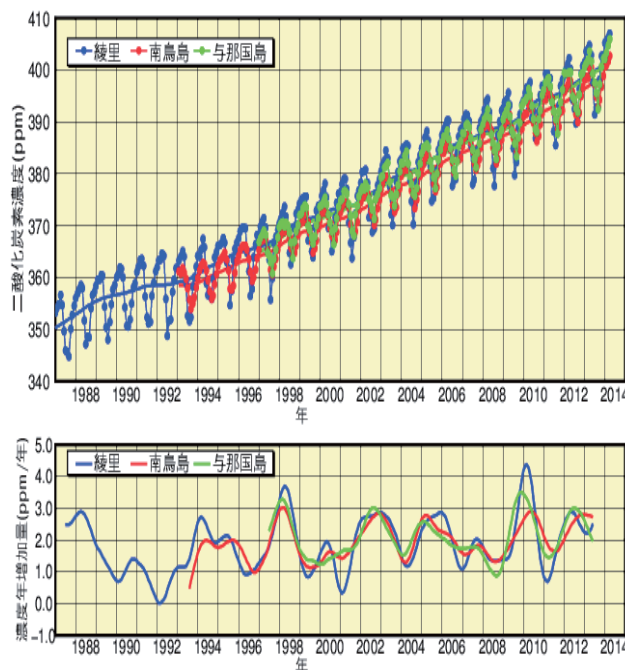
## CO<sub>2</sub> 濃度の経年変化

1950 年くらいまでは約 300 ppm で推移していたが、以降人口の増加、産業の発達等により上昇スピードが加速した。

まだまだ大丈夫という感じがありあまり関心がない。

CO<sub>2</sub>SOS の動態調査では 400 - 500 位。

まだまだ余裕があるが、温暖化、異常気象等弊害があるので食い止める必要がある。

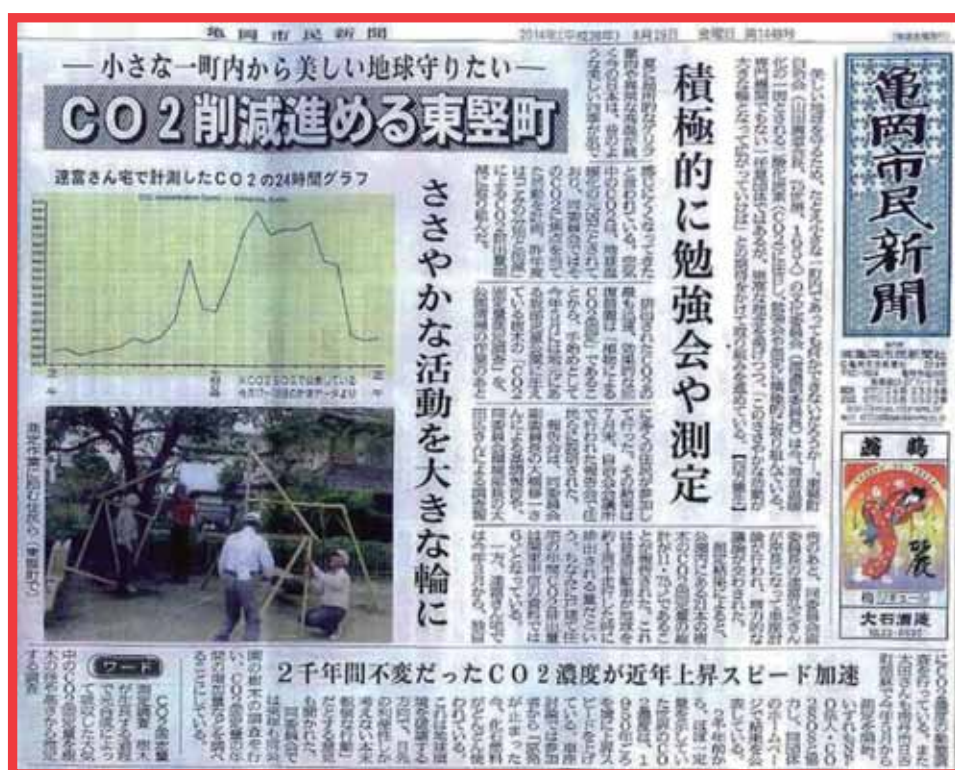


参考資料／気象庁のHPより

# 主 な 活 動 内 容 の 紹 介

| 実施日          | 名 称                      | タ イ ト ル                  | 結 果           |
|--------------|--------------------------|--------------------------|---------------|
| H26.5.25     | 第1回郊外講座                  | CO2(温室効果ガス・炭酸ガスの)固定量測定調査 | 40名参加         |
| H26.6.9      | 地域の森林固定量の調査<br>第1弾       | 千本松CO2固定量調査<br>文化委員4名参加  | 文化委員4名<br>参加  |
| H26.7.26     | 第1回文化講座                  | 坂部公園の樹木による固定<br>量測定調査    | 9名参加          |
| H26.10.23-27 | 第9回東堅町文化祭                | 京都丹波の伝統、食文化の<br>源流       | 来場記帳者<br>355名 |
| H26.11.22    | 地球環境子供村環境教室              | CO2について考えてみよう<br>50名参加   | 50名参加         |
| H26.12.20    | 地球環境子供村閉校式               | 環境教室の1年間の反省会             | 50名参加         |
| H27.1.18     | 行動するなら今でしょう！<br>ストップ温暖化！ | 京と地球の共生府民会議主<br>催の講演会参加  | 3名参加          |
| H27.2.28     | 第3回文化講座<br>(まとめの講座)      | 文化部門・環境部門の<br>総括         |               |

## H26.5.25／第1回郊外講座／CO2(温室効果ガス・炭酸ガスの)固定量測定調査の新聞報道





## H26.6.9／地域の森林固定量の調査第1弾／ 千本松CO2固定量調査



地元の年谷川の千本松樹木調査  
からスタート



## H26.7.26／第1回文化講座／ 坂部公園の樹木による固定量測定調査発表会

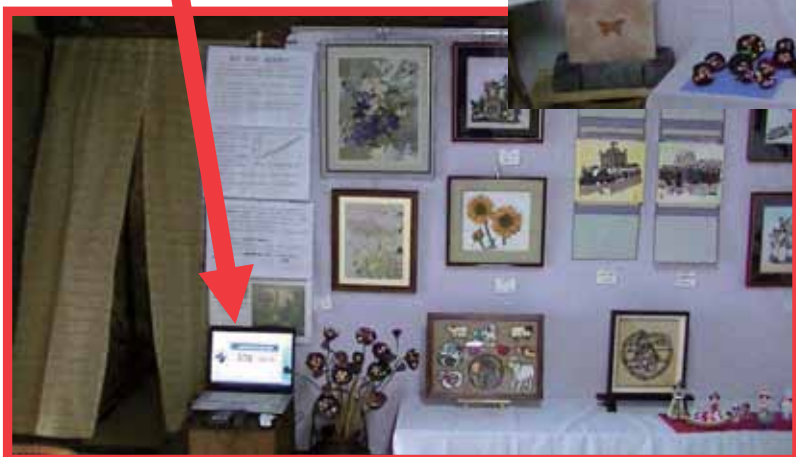


調査結果の発表会



## H26.10.23-27／第9回東堅町文化祭／ 京都丹波の伝統、食文化の源流

自治会会議所内でCO2濃度測定装置を公開。  
関心を持ってもらうための  
参加でした。





第9回東豎町文化祭  
夜景



H26.11.22／地球環境子供村環境教室／  
CO2について考えてみよう



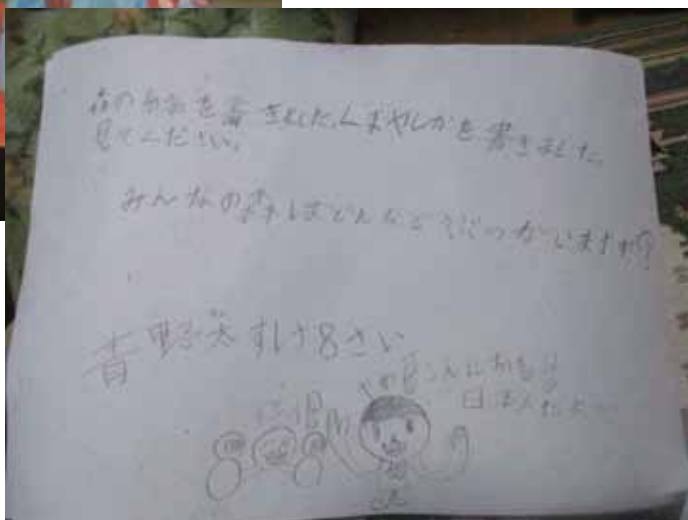
日本の未来をしょって立つ子どもさん  
達に難しいお話を分かりやすくお話し  
しました。  
私たち大人のツケを子供さん達に払  
わさないようにしなければなりません  
。







趣旨に賛同頂いた3人に書いて頂きました。  
ボルネオに持って行き交換します。



## H27.1.18／行動するなら今でしょ！ ストップ温暖化！ 京と地球の共生府民会議主催の講演会参加報告

京と地球の共生府民会議 環境意識セミナー

### 行動するなら今でしょ！ ストップ温暖化

～地球温暖化にどのように向き合っていくか～

気候変動・エネルギーの専門家である、世界自然保護基金（WWF）ジャパンの小西雅子さんを  
お迎えし、国連の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」第5次評価報告書の概要や、  
気候変動枠組条約締結国会議（COP20）における世界の最新の動きを伝えていただき、会場  
の皆様と一緒に、私たちが地球温暖化にどのように向き合っていくかを、あらためて考えます。

**とき** 平成27年1月18日（日）  
14:00～16:00（受付 13:30～）

**ところ** キャンパスプラザ京都 2階ホール  
（京京駅駅から徒歩5分）

**内容** 「行動するなら今でしょ！ ストップ温暖化」  
ごし 小西 雅子さん

■お申し込み・お問い合わせ先  
〒600-8501  
京と地球の共生府民会議事務局（京都府環境政策課内）  
TEL: 075-414-4704 FAX: 075-414-4705  
E-mail: [hacken@sef.kyoto.lg.jp](mailto:hacken@sef.kyoto.lg.jp)

■主催 京都府・京と地球の共生府民会議 ■共催 特定対策推進法人気候ネットワーク

1月18日世界自然保護基金(WWF)ジャパン  
自然保護基金が主催する「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」第5次評価報告書の概要や、  
気候変動枠組条約締結国会議（COP20）における世界の最新の動きを伝えていただき、会場  
の皆様と一緒に、私たちが地球温暖化にどのように向き合っていくかを、あらためて考えます。



IPCC第5次評価報告書、  
2010 COP16「カンクン合意」  
15年採択パリ議定書等について  
学習してきました。  
世界レベルの環境問題について聴  
講してきました。

**H26.2.28／第3回文化講座／  
文化部門「神農神と京都丹波の御田植祭」  
環境部門「東堅町の地域環境を生かした  
生活とまちづくり  
環境にやさしいまちづくりの推進」**

**本日23日ですので未実施。  
もし興味がある方は本自治会まで来てくださ  
い。お待ちしております。  
行事が終わればHPで報告しますのでそちら  
をご覧ください。**

**まとめ(年間の活動記録)発行**

継続の意義は大きい



# ホームページ運営で情報の発信

**東堅町自治会・文化委員会 ホームページ**



教室で今回の目的等を解説。



11月22日(日)実施  
亀岡子ども村開催行事  
「**亀岡生き物大学環境教室初級**」  
をお手伝いしました。  
文化委員会から見た報告します。  
正式報告は子供村HPを見てください。  
外へ出て樹木の高さの測定方法を説明しています。暖かい1日でしたねによりでした。  
報告のページへジャンプ



12月20日(土)実施  
亀岡子ども村開催行事  
「**亀岡生き物大学**」  
閉校式報告



11月30日(日)開催の  
「京都丹波EXPO2014  
キッズ切り絵体験教室」報告

東堅町自治会文化委員会  
「京都丹波の御田植祭」  
10月18日(土)13:30～16:00  
東堅町公民館会議室

10月18日(土)13:30～16:00  
京都丹波に残る伝統行事「御田植祭」他に焦点を当てて伝統文化を検証します。  
当日は取材ビデオの上映がありました。  
祭りを歴史というとならえ方で考察しています。ご参加して頂きありがとうございました。

平成26年度 東堅町自治会 第2回文化講座  
「京都丹波の御田植祭」調査報告



会場入り口



会場内の展示風景

左端は会場内のCO2濃度表示パソコン。  
環境部から初めて展示をしました。

\*\*\*\*\* 記 \*\*\*\*\*

10月23～26日  
東堅町自治会会議所、町内一円にて文化祭が今年も行われました。  
出品頂きました皆様に厚く御礼いたします。  
報告のページを設けましたのでご覧下さい。

平成26年度 東堅町自治会 第9回文化祭 の報告のページへジャンプ

## DO YOU KYOTO?

環境にいいことしていますか？

DO YOU KYOTO? ……環境にいいことしていますか？

世界では「DO YOU KYOTO?」が「環境にいいことしていますか」という意味で使われるなど、京都議定書誕生のまち・京都の名は、環境の面でも国内外に広く知られています。





## 努 力 目 標

1. 枯渇資源の消費を減らす
2. 町内のCO2濃度に関心を持つ
3. 環境保全を考える
4. 温暖化防止に正面から向き合おう

ご静聴ありがとうございました



東豎町自治会文化委員会  
環境部会

## コミュニティ・防災減災部門

### 書を通じて青少年の防災教育を担うまちづくり

NPO 法人 健康まちづくり推進協会 理事長 ○鎮静 俊哉  
事務局長 岩本 豪人

#### 1. 活動方針・目的

阪神淡路大震災と東日本大震災、さらに集中豪雨による昨年の土砂災害など、近年頻発する自然災害の教訓と経験を、後世に活かし備え伝えるために、全国の小中高校生を対象として、「書」を通じて青少年の防災意識の啓発と、被災地の復興支援、ひいては地域社会の活性に寄与することを目的とします。

#### 2. 活動内容

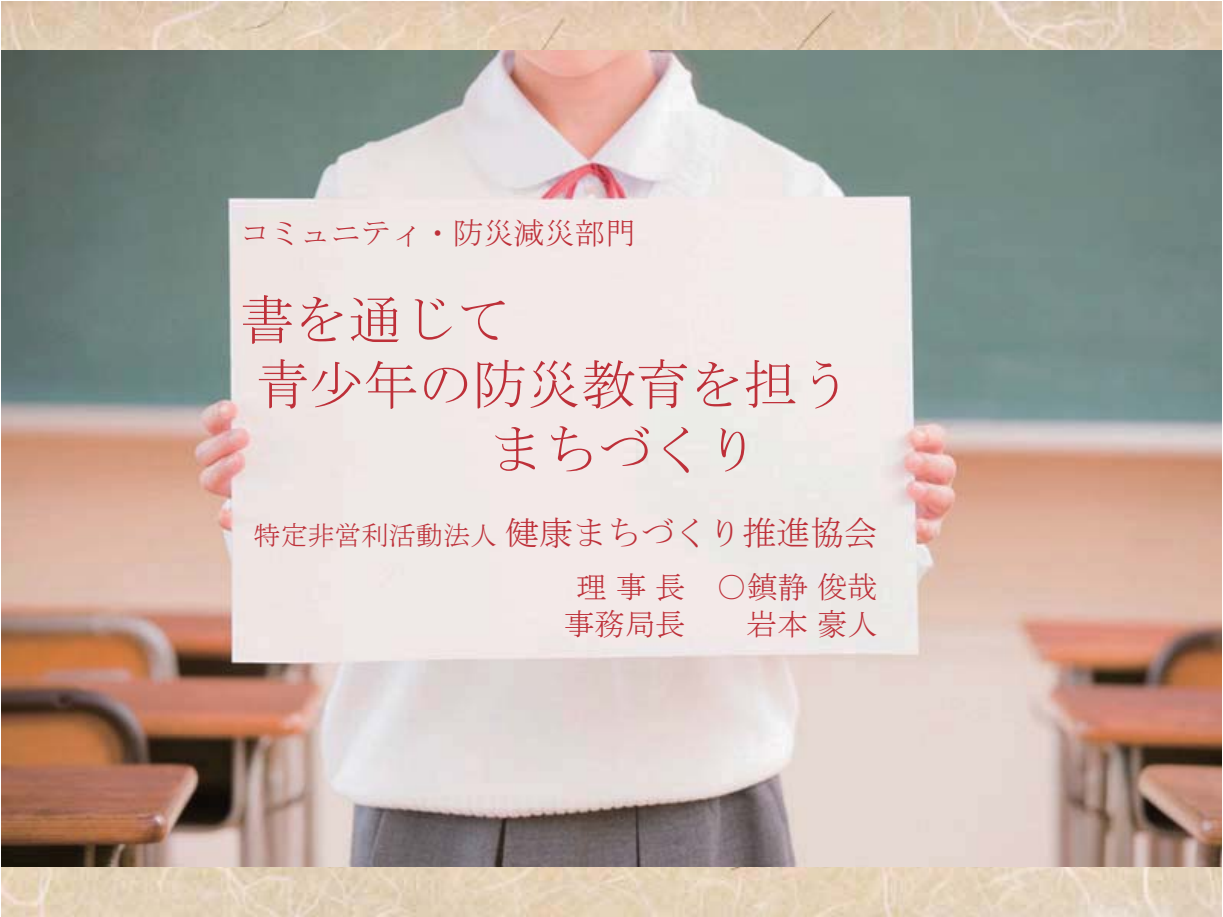
内閣府、復興庁、文部科学省、国土交通省他、被災地自治体と各教育委員会、報道機関の後援と、各関係諸団体の協力により、全国の小中高校生を対象として、「防災」をテーマとする学生書道展を毎年2月に開催し、優秀作品に対しては、文部科学大臣賞、国土交通大臣賞など各賞を表彰式で授与し、受賞の学生を讃えると共に、学校防災教育の啓発事業として今後全国的に実施して参ります。

#### 3. 他の活動団体の参考となる事例

諸団体の復興支援ライブや、絵画展、他の学生書道展の開催運営手法を参考に、郵送費をあまり費やさず、各都道府県の教育委員会を通じて、全国の各学校に案内をさせて頂きました。展示会場にて入賞者の表彰式と、席上揮毫の実施により、書を通じた学生の交流と意識啓発が可能になりました。

#### 4. 今後の課題等

全国公募となり事業活動が拡大するに伴って出品数が増え、作品の管理、選考、通知、その他印刷費や送料、筆耕や審査に要する時間、労力、人件費も儘ならず、無料奉仕も限界のため、今後必要となる出品料を設定し、広告協賛企業の募集等、財源の確保と、展示会の運営においてボランティア学生の動員が喫緊の課題です。皆様の率直なアドバイスが頂ければ幸いです。



コミュニティ・防災減災部門

書を通じて  
青少年の防災教育を担う  
まちづくり

特定非営利活動法人 健康まちづくり推進協会

理事長 ○鎮静 俊哉  
事務局長 岩本 豪人

## 活動の目的

「書」を通じて  
青少年の防災や救命に対する意識啓発  
と被災地の学生交流と復興を支援する

阪神淡路大震災と東日本大震災、さらに集中豪雨による昨年の土砂災害など、近年頻発する自然災害の教訓と経験を、後世に活かし備え伝えるために、全国の小中高校生を対象として、「書」を通じて青少年の防災意識の啓発と、被災地の復興支援、ひいては地域社会の活性に寄与することを目的とします。



## ①書道作品を募集

[illegible]

### 【对象】

防災救命や震災復興  
全国の小中高校生

## ②書道展開催

A group of four people are seen from behind, looking at a large display of vertical scrolls in a gallery. The scrolls are arranged in two rows, with the top row being taller and the bottom row being shorter. Each scroll contains vertical text in Chinese characters. The people are standing in a line, looking at the scrolls. The gallery has a light-colored floor and walls.



## 活動内容

### ③表彰・席上揮毫



## 活動内容

### ④プログラムに掲載・郵送

入賞者の作品と出展者全員の学校氏名をプログラムに掲載し、賞状と併せて入賞された参加者の学校宛に郵送。





## 他の活動団体の参考となる事例

● 諸団体の復興支援ライブや、絵画展、他の学生書道展の開催運営手法を参考

➤ 郵送費をあまり費やさず、各都道府県の教育委員会を通じて、全国の各学校に案内

➤ 展示会場にて入賞者の表彰式と、席上揮毫の実施により、書を通じた学生の交流と意識啓発が可能



## 今後の課題

財源の確保

ボランティアの動員

管理費・人件費の増加

保管管理通知等、事務無作業の増加

選考、審査の労力および時間の増加

出品数の増加

全国公募となり事業活動が拡大



## コミュニティ・防災減災部門

### ～みんなでオモロイことで繋がる～コミュニケーションアートで繋がるまちづくり

A-yan!!      代表      ○田中 やんぶ  
事務局長      泉田 ゆうこ

#### 1. 活動方針・目的

A-yan!!の合言葉は『みんなでオモロイことで楽しもう』

自分たちの持っているアートのチカラで、老若男女障がい者健常者全ての人が言葉でなくオモロイと感じられる『何か』で一緒にの時間と『楽しい』を共有して繋がりたい。

家庭で職場で学校で家事で育児で仕事で勉強でしんどい・・・そんな人たちが楽しく繋がることで、笑顔になり喜んでもらいたいと考えています。

芸術を志す者は時に不器用で、『普通』に言葉でコミュニケーションすることができない。だからパフォーマンスやモノづくりで伝えよう、繋がろうとするのです。

でも自分達がやりたいことを押し付けるような表現では、うまく繋がることはできません。

地域に出て地域の人と活動を共にする中でA-yan!!は変わっていきました。

喜んでもらえる人のために自分達の表現・アートが活用することができれば、その場・地域が盛り上がる一助となり、またが居場所と成り得ることを知りました。

居場所をより良くするために地域のチカラになれるようなアート表現活動をしていきます。

#### 2. 活動内容

地域イベントなどでの開催を目標に数回のワークショップを行い、「ご当地ヒーローショー」や「おばけ屋敷」「作って遊ぼう道場」他の催し物を考える。参加者は主に開催地周辺で募集。

地域の特徴や問題、郷土史や民話などをベースに、地域独自のコンセプトを参加者と共に考え、より共感を得やすい内容にすることを目指す。

#### 3. 他の活動団体の参考となる事例

地域と子どもが食いつくネタを考える。子どもが参加すればその親やおじいちゃんおばあちゃん世代も巻き込める。

また子どもには彼らを子ども扱いせずきちんとルール説明をして、彼らに考え作らせ宣伝してもらうことで、共にイベントを作っているという意識作りをする。

#### 4. 今後の課題等

- ・参加してくれるメンバーや協力者の拡大

地元企業・個人にこちらから協賛を求めるのではなく「ぜひA-yan!!にやってもらいたい」と言われる存在になり、口コミで会員を募る。

ヒーローショーの悪役での参加などで間口を広げ、社会貢献活動につながる事をアピール。

- ・活動資金の集め方

高額でなく小額で多くの人に賛同してもらう仕組み作り。ご当地ヒーローの背中に広告をのせるなど検討している。

# ～みんなでオモロイコトで楽しもう～ コミュニケーションアートで繋がる まちづくり

A - yan!! 関西をアートで盛り上げるNPO  
田中やんぶ

## はじめに

- A - yan!!とは??
- 2005年にできました! 芸術家の集団です。
- まずは知ってもらうために  
御堂筋パレード300人の仲間と出る。毎日放送の特集にも出る。
- あれ? アートって? 必要か?

## 必要とされるためには

- ・オナニーなモノはやめよう。
- ・町に出よう！
- ・顔出しかんばんアートプロジェクト。
- ・ご当地ヒーロー
- ・ヒミツキチプロジェクト
- ・57メートルの日本一長い壁絵を描く
- ・積極的にメディアに出て行こう！！
- ・SNSでつながる……！！

## こんなあるねん？ やってくれへん？？

商店街おこし町おこし→まちおこしという言葉を知り初めて知る。

会って知ってもらう。顔と顔で繋がる。

必要とされてきた。だが・・・。

→年50回

→しんどくなるメンバー



## 多くの人に本当に 必要とされる存在へ

- 最恐おばけ屋敷
  - →子どもの居場所作り
  - 多くの人と知り合う・・・だけ??
  - 同じことをいやそれ以上のことをやってるのに評価が高いが。
- 
- 

## 自分たちのやっていることに 誇りを持つ。

- 若者がいない
  - 新しい町会活動とは??
  - 新しい表現の形へ。
- 
-

天王寺区地域課題解決担い手発掘事業認定「お寺 de ハロウィン」

特定非営利活動法人 MIRAI PLUS

Q：天王寺は多文化共生でいろいろな国の方がおられるようですが、何カ国ぐらいの方が住んでおられるんですか。

A：そこまでデータは用意していないんですが、日本語学校に聞くと、アジアの方が一番多いようです。最近は東南アジア、中東の方も大分ふえているようですので、本当にいろいろな国の方がすぐそばにいらっしゃるということを改めて感じました。

座長：住職さん、せっかくですので何かございますか。

正木氏：「お寺 de ハロウィン」、皆さん、えっと思われたと思います。日本人は宗教に関して結構ファジーなところがあるかと思います。神社に行っては手を合わせ、結婚式は教会で行い、お葬式ならお寺に来られます。ですから、最初この話があったとき、ハロウィンだけど、収穫祭ということなら日本でも昔から五穀豊穡を祈って神社に奉納したりしていますので、そういうことを考えたら子どもたちにも何か伝えられるのではないかと思います。今回の企画に賛同させていただきました。私自身3年間ブラジルで日系人の方々に布教活動していましたので、日本でも布教活動ができればいいかなと思って、このNPO法人さんと一緒にさせていただきました。

座長：宗派は何ですか。

正木氏：浄土宗です。

Q：おばけ屋敷なんかをお寺でやる予定はないですか。コラボレーションできたらいいかなと思います。



正木氏：ぜひぜひできればいいと思います。今回は「箒神」という妖怪の話をしました。

家でちゃんとはいたりしなさいやと子どもたちに伝えと、家に帰ってからちゃんとお母さんのお手伝いをしたということをお聞きしましたので、成功だったなと思いますので、おばけ屋敷なんかもいいかと思います。

座長：長く続けるコツみたいなことを言われましたが、ここを聞きたいということはございますか。

A：スタッフの面、お金の面の両方なんですが、思いとしては、親子で体験する場を設けるということで、今回も大人 1,000 円、子ども 500 円という気軽に来れる料金設定をしておりますので、正直スタッフの持ち出しのほうが激しいところがあります。ただ、続けていくためにはそればかりではなかなか難しいなと。もうけるつもりはありませんが、運営していく上で何かいいお知恵があればと思います。

座長：国際交流ですので、寄附をどう集めていくのかというのが大きな動きだろうと思います。

#### 地球温暖化防止活動の推進による明舞団地の活性化

##### NPO 法人環境 21 の会

座長：炭に注目をした理由は何があるんですか。

A：日本は京都議定書から CO<sub>2</sub> を減らさないかんというんだけど、実際は 10% 以上ふえているわけです。京都議定書がオーケーになったのは何かということ、森林に CO<sub>2</sub> が吸収されて、その森林の吸収によって一応 6% がオーケーになったわけです。ですから、日本の温暖化防止については森林の保全が物すごく大事なんです。実際に省エネしろとか節電しろといってもなかなかできないなら、森林や竹やぶを保全して、できた木炭を使えと。そしたら、その分だけ化石燃料の使用が減るやないかと。だから、まず具体的なアクションとして炭を使うことによって竹やぶとか森林の保全ができるということです。

座長：CO<sub>2</sub> の吸収源を確保するためには、それがちゃんと有用に回らなきゃいけないと。そのためには森林保護を考えなきゃいけないんだということですね。



Q：炭が使われるのはいいんですが、竹や植物がCO<sub>2</sub>を閉じ込めたものを、燃やすことによってそれを出してしまうから、CO<sub>2</sub>自身についてはオフセットはしているけれども、結局はそれによって低減されたということにはならないんじゃないですか。

A：そこが一番ポイントで、そこを理解してもらわないかん。それを使ったことによってCO<sub>2</sub>は出るけれども、そのかわりに化石燃料は減っているわけです。同時に、私たちは竹炭やケナフというのを燃料だけに使うのではなくて、木炭を消臭に使うとかご飯に入れるとか畑やいろいろなことに使います。そうすると完全に固定し、それが非常に有効になるわけです。明舞団地には食事をつくる場所があって、そこでは必ずご飯に竹炭か木炭を入れますし、コーヒーをつくるためのお水に竹炭を入れるとコーヒーが物すごくおいしい。そういう両面から行っているわけです。

座長：CO<sub>2</sub>の循環量としてみれば、カーボンオフセットで低減になっていないんだけれども、化石燃料を使わない分だけ排出量は減らしているはずだということですね。

Q：京都の亀岡に「すいたん農園」というところがありまして、そこはどうしているかというと、炭に腐葉土とかをまぜてそれを畑にまきます。腐葉土は栄養になるなるけど、炭は栄養にならないんです。地面に固定して、それは何になっているかというと、消臭・殺菌効果があるから、それで農作物を生産しているということです。ただ、燃やしてはいけません。燃やすとカーボンオフセットになってしまって、せっかく閉じ込めたものを出してしまって、プラマイゼロになってしまって意味がないということで、すいたん農園ではそういう使い方はやっていないです。

A：生ごみの処理をするときにも炭の粉を入れたら物すごくいいです。

座長：竹重さんが活動されているのは住宅地ですが、住宅地と例えば農地との関係づくりはされているのでしょうか。

A：五色町に築150年の民家があって、周りは全部田んぼです。それをいかに活用するかということで、燃料にできない炭は粉にして、それをばらまくんです。そうすると、ケナフなんかは物すごくよく育ちます。そういう両面から行っています。カーボン・イクイバレントです。

Q：子どもさんがいっぱい来ていらっしゃいますが、こういうことをやるんだよという伝え方、広報はどういうふうに行われているのでしょうか。

A：私は、松が丘小学校、朝霧小学校の校長とも友だちなので、夏休み、冬休みはそこに行ってお知らせするようにPRしたり、明舞センターの交流広場とか食事どころと組んで

できるだけPRします。15年も前からやっているから、松が丘3丁目の竹重さんのところには太陽光発電の変なものがついとるということも評判になっていますし、そういうことで地域と一緒に頑張って啓発するということに努めています。

座長：竹重さんのところは小学校の総合学習にもかかわっておられて、学校とも関係をつくって子どもたちへのPRされてきたという歴史があるそうです。

### たのしく！むりなく！みんなでつくろう！五月田の避難所運営マニュアル

#### ～避難所運営ゲームHUG（ハグ）の実施～

#### 五月田校区自治連合会

座長：自治会、地縁組織、NPO、大学、自治体、こういう連携を非常に大事にされているということですね。

A：自治連合会の組織の全ての方々が1カ月に1回は絶対に寄りまして、そこで会議をして、地域の動きを皆さんにお知らせすることで、それが全体の動きの一番のもとになっていると思っています。

座長：あいまち門真ステーションさんからは何かありますか。

東田氏：いろんな団体が毎月1回顔を合わせて、お互いの団体と組織の悩みごとや問題点や今月の行事、年間行事を出し合って、お互い地域の者が皆知っているという感じの運営をしています。五月田フォーラムは、二十数年連続してやっている地域会議の1つです。地域に存在する問題点を皆で解決しようということで集合して話し合いをして皆で改善を図っていくという会議体です。

Q：HUGのチームとして地域班3つと子育て班がありますが、なぜ子育て班を別に設けられたのでしょうか。それと、子育て班はお母様方が多いようにお見受けしますので、男性では気づかなかったポイントはありますか。



A：まず、自治会長みたいなお父さんグループ、そして青年グループ、そして年は混ざりますが男中心のグループがあって、さらに、女性中心、お母さん方の意見を聞きたいけれども、例えば自治会長と子育て中のお母さん方が会いますと遠慮して意見が出てこなくなる、そうになったら意味がないというご意見が池内先生からありました。本当の緊急時なら遠慮するなんて絶対にならないのだから、もっと自分らの意見を出し合おうということでそういう班を年齢別に設けました。4つの班に分けたことで非常にわかりやすい現象が起こりました。お互いに理解し合って、この年代はこれや、この年代はこれやということが見えてきました。それが今回やってみてよかったなと思うところです。先ほど話がありましたように、最終的なまとめはできていないのですが、27年度は頑張って何とかやりたいという気持ちで、大学のほうも応援しますと言ってくれていますので、何とか進む方向で頑張っていきたいと思っています。

座長：大学との連携をされるきっかけは、市が仲介役をされたんですか。

A：そうですね。門真市の事業として市民大学であったり今回の行事がありまして、その中で防災の話ということで摂南大学と連携しておりますので、先生がご発表されてそれを我々が勉強したということがありました。その中で、地域をもっと盛り上げていこうということを考えるんですが、統一のテーマというのがなかなか見つからないわけですね。お互い考えることが違う。ただ、防災ということはいろいろ話題になりますし、自分の命を守る、地域を守る、それは多分利害は関係ないだろうと思って、防災ということに目をやったわけです。

#### 東堅町の地域環境を生かした生活とまちづくり

##### 亀岡市東堅町自治会文化委員会環境部門

Q：南丹町と亀岡のCO<sub>2</sub>の濃度差が物すごく大きいんですが、理由は何でしょうか。

A：私の南丹のほうが低くて、亀岡が高いのは、私は百葉箱を自分でつくって2階のベランダに置いていますから、家でストーブをたいても、百葉箱ですから濃度に関係ないんです。ところが、副委員長はベランダに置いているので、ストーブを燃やしたら二酸化炭素の濃度が変わるんです。センサーは防水仕様ではないので軒先に置かれているんですね。百葉箱を買えばいいのですが、町内会の中でやっているものですから、費用の問題があります。



座長：リアルタイムで情報を出されているので、そういったものも皆さんに見ていただけているということだと思います。

地球環境への取り組みというのは大変すばらしいですが、Think Globally、Act Locally とは言っても、自治会のお金を使ってこれをやることについて自治会の皆さんからはどういうふうにご賛同を得られているのでしょうか。

A：確かにごみ問題については賛同があるんですが、CO<sub>2</sub>に関しては、今現在はどうでもいいという雰囲気があると思います。CO<sub>2</sub>の問題をやってもおもしろくないから人が集まらない。ですから、関心がないところを何とかして盛り上げようということで、出前講座やら文化祭ではパソコンを置いて今何パーセントですということをやっているんですが、なかなか支持が得られないのが現状です。それを何とかしようということで日夜努力はしているんですが、正直、笛吹けど踊らずの状態です。目に見えない、においがしない、このままでも問題ないのに何でそんなんするんや、そんなことしたらお金を損するだけや、石炭使うたらええんや、ガソリンをまき散らしたらええんや、そういう考え方を改めていかないと、子どもたちにいい環境を残せない。私たちはそういうことに理解を得られるようにやっていきたいと思います。

座長：例えば環境家計簿で競わせると、この家は頑張っていますよとか、関心を持ってもらうという意味もありますし、そういうゲーム性を持たせるという方法もあるかと思っています。

A：我々が環境にできることは、やはりごみの分別ですね。資源ごみである新聞紙を燃やしたり混ぜたりするのではなくて、トイレットペーパーなどの再生に回すとか、決められた分類は守る。環境家計簿も手始めだと思います。

---

#### 書を通じて青少年の防災教育を担うまちづくり

#### 特定非営利活動法人 健康まちづくり推進協会

---

座長：書を使ってのこういう試みは、ほかでもなされているのでしょうか。

A：いえ、こちらが初めてです。

座長：きっかけは、鎮静さんが書をされていたということからですか。

A：それもあります。それと、防災をテーマにするといいかわからないので、結局、書道の先生が書かれた字をなぞるだけなんですね。そうすると、

どうしても飽きが来ますので、全国展示するとともに賞状をお渡しして、それを励みにしていただきたいと。それもできれば文科大臣賞とか喜ばれるような賞をお渡しできたらいいなと。何よりよかったなと思いますのは、子どもさんと一緒に親御さん、先生方、おじいちゃん、おばあちゃんが一緒に来て会場で喜んでいただけるんですね。そういう場をつくれたのはよかったと思います。そういう意味では、人はたくさん来ていただけるので続けていきたいと思っています。

座長：収益は余り考えないとおっしゃったんですが、相当かかりますね。

A：かなりかかります。持ち出しも多いですが、助成金を利用したり、現在ここまでできて継続できるという自信ができましたので、次回からは出品料を少しいただこうかなと考えています。

### ～みんなでオモロイコトで楽しもう～コミュニケーションアートで繋がるまちづくり

#### A-yan!!関西をアートで盛り上げるNPO

座長：A-yan!というのは、通常まちには余りいないタイプの方がまちに入ってきたらどうなるのか、こういうイメージだと思います。

A：こういうおかしな活動をやっているのは、多分日本で僕らぐらいだと思います。もし皆さんのまちで僕たちが必要とあれば呼んでいただければ、僕らはあらわれないなと思います。そこでお金が生まれる生まれへんというよりも、まず先にこういう問題をどないかでけへんかということを提案していただくと、僕らはそれをアートで、先ほどのおばけ屋敷だったりご当地ヒーローだったり、それ以外にもいろいろなことをまだまだやっています。そういうのでどんどん解決していったら、そして知ってもらう、気づいてもらうということをぜひやっていきたいと思っています。

座長：気づいてもらうということは大事なところだと思います。芸術家集団ですから、褒めてもらうとかいいねと言ってもらおうということが1つのモチベーションになっているかと思っています。こういう活動もまちづくり、あるいはコミュニティを支えていく1つの活動ではないかと思っています。社会悪、マナーを守らないことを悪人にしていただきましたけれども、これは防災などとも絡めていただいて、防災教育にも使っていただくとかさまざまな応用の範囲が広いかなと思いながら聞いていました。

## 第3部

### 全体交流会



横山：各分科会での発表内容を各座長からご紹介いただき、最もよかったグループをスマイル賞として表彰していきたいと思います。その後、力、パワーの源についてお話ししたいと考えています。

森重：観光交流部門では、2つのグループに分かれる形で議論が展開しました。

前半の3つは、まちづくりとか地域をどのように元気にしていくかが議論の中心で、明確に示したビジョンに基づいて活動を展開していく、さまざまな人がかかわってみんなで活動を盛り上げていることが伝わってくる発表でした。後半の3つは、緑を使って地域の環境を変えていく、人々の関係を変えていく、町の様子を変えていくというのが議論の中心になりました。

全体を通して見ると、町の美観や安全、鍋、情報誌、環境、バラ、立体花壇と、コアになっているコンセプトや資源はばらばらですが、その資源を使って活動を展開していく、しかもその活動を単体の1つの活動で終わらせるのではなく、次の活動に展開していくことで広げていく、その中でいろんな人とのかかわりをふやしていくことで活動を継続していくというのが、6つの団体に共通して見られました。

人のかかわりをどのようにふやしていくか、ビジョンやミッションを共有する仲間をどうふやしていくのかが、地域の活動をしていく上で非常に重要だと考えているのですが、たくさんのヒントが入っている発表だったと思いました。

観光交流部門のスマイル賞は、「ピンチをチャンスに変えた花の街づくり」、ローズガーデンファミリー六甲アイランド CITY 自治会殿になりました。



横山：地域資源活用分科会も6組のチームから報告がありました。

1つ目の「人と自然が共生するカタクリ 100万本の里山」では、桜の植樹から始めて、26軒の皆さんが植樹のボランティア活動をされているということでした。桜から始めて、カタクリの群生地をみずからつくっていったプロセスをご説明いただいたのですが、その過程で、自分たちの町がカタクリの群生地の真ん中にあるということにも気づかれて、100万本の整備を町の人を挙げて始めた。その後、次々と活動が起こって、1年を通じて花の見られる町にしたいということで、自分たちの町には何もないと思っていたのが、実は自然というのが大きな資源だということに気づかれたという発表をいただきました。

2つ目の「京田辺市の自然を活かしたまちづくり」では、最初は、楽しい取り組みをしようということで、木津川で魚とりやカヌー、春の野草を食べるという活動を13人でしていました。そうやって木津川とかかわってきた中で、木津川の希少な植物の発見もされ、川の取り組みとともにそれを残していくという活動もされていました。年に100回も事務局会議を開くこととか、責任追及をしないということが活動の力になるという発表をいただきました。

3つ目の「全ての人が出すごみを媒体としたまちづくり、人づくりを目指す」では、資源ごみを通して社会貢献をしようということでふるさと倶楽部を立ち上げて、生ごみについていろいろ考え、ちょっとしたフォローを常に行うことによって、10件だったのが510件になり、2,000件になったという活動を報告いただきました。

4つ目の「東堅町の地域環境と伝統文化を生かした生活とまちづくり」では、来年で10年になる文化活動をされているのですが、生きていることを楽しもうということで、歴史を掘り起こしていくと町も見えてくるし歴史も見えていくということで、そういうもの美しい切り絵で表現されて、情報収集をされて年に1度整理するという活動を続けられているとのことでした。

5つ目の「めざせ1トン 学校地域をあげての生ごみ回収」では、長岡第四小学校で、環境型農業にコンポストを利用するということを考えて、そこからさまざまな取り組みをされていました。子どもたちと一緒にごみを集める活動や、地域のビール工場や人々の協力を得て活動が継続されているという発表をいただきました。

6つ目の「貝塚市の豊かな自然再発見のまちづくり」では、貝塚市の昔の写真を通じて地域を振り返りながら、近木川の活動についてお話がありました。子どもたちと一緒に川ガキになる環境活動や、遊ぶことから学んでいくという内容についてご報告いただきました。

この分科会のスマイル賞は、やましろ里山の会にお送りしたいと思います。

田端：最初の発表は、MIRAI PLUS さんの「お寺 de ハロウィン」でした。そもそも仏教ではないハロウィンをお寺と組み合わせたというおもしろみがありますが、もともと天王寺区は四天王寺を初めとして寺院が多い、なおかつ、大阪外大があるので4,000人の外国人が定住されているという文化的な素養がありました。そこで、国際交流を考えられないかということで、伝統文化を理解した上で異文化を理解する、その重要性を日本人だけでなく外国の人にも理解していただくことはできないかということで、コミュニティが持っている歴史だけでなく、現代的な観点も踏まえた活動をされていました。

2番目はNPO法人環境 21 の会で、兵庫県明石と神戸の間にある明舞団地での活動です。ここはできて50年ということで、ある意味オールドニュータウン化しているところです。ここで環境問題に取り組んでおられる活動で、長く継続されています。屋根に太陽光パネルを張るところからスタートして、現在では炭づくりもされています。兵庫県のまちの寺子屋事業とも関連づけて、子どもたちを巻き込みながら、いわゆる地球環境問題に取り組んでおられました。特徴的なのは、明舞団地という住宅地で環境問題に取り組んでおられるという点です。通常、環境問題に取り組むとなると、公害があるとか、逆に自然豊かなまちが多いですが、住宅地で取り組むことのおもしろみがあったのではないかと、コミュニティを活用した取り組みだと思います。





3 番目は五月田工区自治連合様の活動です。HUG（避難所運営ゲーム）で、実際に避難所に行ったときのさまざまな課題を机上訓練しながら、ワークショップなどで意見を集約していくという活動を行ったということでした。しかも、それを自治連合会とNPO法人、摂南大学、門真市が一体となって実現したということでした。コミュニティを舞台にした4つの連携があって実現できたというところのおもしろみ、すごさがあると感じました。

4 番目の東堅町の地域環境を生かした生活とまちづくりでは、CO<sub>2</sub>の見える化が1つのキーになりました。シンクグローバリー・アクトローカリーと言いますが、地教環境を考えてローカルで活動することは非常に大事ですし、こういった地道な活動が最終的にはCO<sub>2</sub>を減らすことに寄与するのですが、それがなかなか浸透しない、理解が難しいということで、その見える化に取り組まれました。CO<sub>2</sub>排出量を計測して、インターネットでリアルタイムに見えるようにされています。コミュニティの内部のことを見える化していくというのは、CO<sub>2</sub>に限らず、いろんなところで使えるのではないかなと思いながら聞かせていただきました。

5 番目の「書を通じて青少年の防災教育を担うまちづくり」は、神戸市は阪神淡路大震災を経験し、防災や災害の問題に非常に取り組んできました。しかし、20年もたつとそういった思いは風化してくいく、あるいは子どもたちの間でそういった思いをどう引き継いでいくのかが常に課題になっています。この団体は、そうした状況を踏まえ、書と防災をコラボレーションすることで、防災にかかわる書道を募集して、全国から7,000件集まったということです。うち700件を神戸市の原田の森美術館で展示するという活動をされています。特に東日本大震災の被災地との交流を大事にされていて、そちらの方をお呼びして書を書いていただくというイベントもしているということです。子どもたちも含めて、防災というものをどのように記憶にとどめていくのか。書というのは心を落ちつけて、ある一つのことを一心に書くわけですが、そうした行動を通じながら思いを込めていただくといったことをされている団体です。

最後にA-yan!!関西をアートで盛り上げるNPOは、コミュニケーションアートを行っているケースで、芸術家集団が、ある意味勝手に町を盛り上げているというものです。ただ、最初は自分が楽しいからやっていたんだけど、それではいけな

い、皆さんに必要とされる活動にならなければいけないということに気づいたとい  
いますか、力になったということだと思います。必要とされることで皆さんのとこ  
ろに出向いてさまざまな活動をしている。顔出し看板をあちこちにつくるとか、ご  
当地ヒーローをつくって、いわゆる社会的マナーに反することを悪人に仕立てて盛  
り上げるという啓発活動を行っています。マナーを大事にしてほしいとか、地方を  
盛り上げたいということで、アートを使って活動されているということです。今特  
に力を入れているのが怖いお化け屋敷ということで、ハロウィンで始まりお化けで  
締めくくるとのことです。

スマイル賞は、NPO法人環境 21 の会様でございます。長く活動されているこ  
とと子どもたちを巻き込んで活動されていることが評価されたんだろうと思います。

横山：ことしは関西元気な地域づくり発表会の 10 年目に当たりますので、関西の元気づ  
くりということで、18 団体の方々の活動のエネルギーは何が源なのか、エネルギー  
というキーワードで気づいたことなどを教えていただきたいと思いますが、いかが  
でしょうか。

会場：自分たちのポテンシャルを公の場で公開して皆さんに知ってもらう、これがエネ  
ルギーではないか。これがある限り地域は発展するし、このポテンシャルをいかに継  
続していくかがポイントかなと思います。

實光：バラの美しさが我々のパワーの源になっています。3 年目で物すごくきれいになっ  
て、去年住民の方から評価していただいて、それが全国花のまちづくりコンクール  
の入賞につながりました。どうしたら町を活性化できるかという思いを込めてつく  
ったバラなので、普通のバラではない。立体感があるし、みんながさわれるし、に  
おいもかける、町 みんなが楽しめるバラ園になっています。



川口：私は、地域が大好きなんです。私は 62 歳ですが、地域から一步も出たことがない人間で、地域を愛しているということと、女性の力を前面に出す、女性の力のすごさが地域づくりには不可欠だということを痛感しております。

田中：自分はマイノリティーというか、芸術家というのは余り世間様に知られていないので、それを知ってもらいたい。ただ、知ってもらってもそのときだけで、「はい、さようなら」という感じになるので、自分たちはなぜ受け入れてもらえないのかという謎の怒りで動いています。皆さんみたいに明るくなくて、1 人だけダークな話になってしまったので、これからどう話を転がしていこうかなと思っています。

横山：怒りがパワーになっているんですか。表現することがパワーになっているんですか。

田中：表現の前の段階が怒りです。俺たちを受け入れろみたいな。

田端：パワーの源は恐らくお金ではないんですね。アンダーマイニング効果と言いまして、内発的に頑張ろうとしているところにお金を与えてしまうと、効果が薄れてしまう。芸術家集団は本来お金をもらって何ぼというところもなきしにもあらずなんだけれども、自分の表現の場所がどこまで広がっていくかという、お金で評価されないものがあるのかなと思いました。バラの美しさもそうだと思いますが、全てがそういういったところに集約されるのかなと思います。暗い怒りとおっしゃいましたが、まさに表現を広げていく舞台が欲しいという怒りだと理解しています。

そういう意味でいくと、書を通じて防災教育をされている健康まちづくり推進協会で、コミュニティを舞台にしながら、全国へ広げていこうというのはよほど大きなパワーがないとなかなかできないのかなと思いますので、一言お願いしたいと思います。





鎮静：1週間前に展示会を終えまして、へとへとです。

我々はまちづくりという名前なので、もともと予防医学とか補完医療をテーマにセミナーやシンポジウムの活動をしていたのですが、震災以降、防災のほうでも貢献できることはないかということでやってきました。ところが、語り部の方の講演会やシンポジウムでは難しい話になってしまいうし、年々防災意識も薄れていく。そういうときに東日本大震災が起こり、防災を見直して発信できることはないかと考えて、救命士の講習会もやってきたのですが、どうしても一過性になってしまう、子どもたち、特に青少年が無理なく取り組めるものがないかと考えました。しかし、学校教育の中ではそういう場もだんだん少なくなってくる、先生が防災教育をしようとしても難しくて取り組みにくい。それでは、防災をテーマに何か書きなさいと言えば、子どもたち自身がこういう言葉を表現したい、書きたいということで表現できる機会を全国一斉につくれるのではないかとということで、こういう取り組みをしました。

今回から全国公募にしたのですが、そうすると今度はたくさんの応募を管理するのにどうしたらいいかという運営上の悩みも発生しています。今までは半分ボランティアだったので、出品料なしにやってきましたが、次回からは少し出品料をいただいて、広告、協賛も募ってやっていきたいと考えています。

横山：その力はどこから生まれるんですか。

鎮静：やっぱり怒りでしょうか。

横山：国交省の企画調整官の清水さん、今の話を聞かれてどうですか。

清水：私が何で行政に入ったかというと、ただ働いてお金をもらう仕事ではなくて、自分のやった仕事そのまますの役立って、自分の暮らしもそのまますよくなると思ったからです。



外国に行ったときに、日本に生まれて損したなと思ったことがあったんです。公園に行くと、日本であれば入ってはいけない芝生の上にみんながくつろいでいて、ボランティアが子どもたちを集めて縄跳びをしている、何てすてきなところなんだろうと。それまでは、日本に生まれてよかった、平和だし経済も発展してるし、いいところに生まれたな、ラッキーと思っていたのが、日本に生まれて損したなと初めて思って、それは怒りでした。そうはいても、日本に帰ってくるとやっぱりちょっとほっとしたところもあったので、ここは自分のふるさとだから何とかせなあかんねんというのが今の仕事につながっていると思っています。それがやれているかどうかは甚だ疑問ですが、ぜひ皆さんからのお力添えをいただきたいと思いますが、ある意味共通しているところを感じます。

横山：うちの部会では、学校の先生もいらっしゃって、最初来られたときは、既にその学校がいろんな活動をされていたので、どうしようと悩まれたところからスタートされたということですが、今の続きでどうですか。

太田：着任した学校が、エネルギー・環境教育に平成20年から取り組んでいるところで、21年に最優秀、22年に優秀、23年優秀、私が24年に着任してすぐに、何もしていないのに長岡京市の環境の都賞をもらったんです。さて、私はどうしたらいいのというところからスタートしたのは怒りでしょうか。

そんなことがあって、エネルギー・環境教育を学んできた子どもたちが、まずごみ減量についてどうしようかということで、生ごみをコンポストに入れて、飼っているヤギの糞を肥料として活用する。除草のために除草剤はよくない、草刈り機もよくない、PTAは除草作業を嫌がる、ではヤギを使おうということで、学校中の草は1頭の雌ヤギが全部食べてくれている。天気のいい日は外に出して、夕方になると自分で勝手に帰ってくる。そういうヤギがいて、本校の環境教育はスタートしていったのかなという気がします。

反っくり返って木の枝の葉っぱを食べていまして、ちょうど冬季オリンピックでイナバウワーがはやったので、うちのヤギはイナバウワーができますと言ったところ、「めざましテレビ」が取材に来てくれて、テレビ放送も果たしたところです。

そのように楽しんでやっていると、あちこちからいろいろ支えていただけるのかなと、これが今のパワーになっているかと思っています。

横山：イナバウワーができるという視点のおもしろさはすごい着眼点だなと思っていますが、着眼点つながりで、天王寺区の「お寺 de ハロウィン」、何でこんなことになったのかとパワーの源を知りたいと思います。

出水：「お寺 de ハロウィン」、ネーミングだけで食いついていただけるとしています。

ハロウィン自体がここ数年急に日本で巻き起こったイベントですが、もともとハロウィンは宗教がスタートではなく収穫祭ですので、それが受け入れやすいところだったと思います。「お寺 de ハロウィン」、横山先生にも食いついていただきましたけれども、テレビにも食いついていただきまして、東京のキー局2極と東京だけの放送がありました。大阪の方は反応がなくて、東京の方に受けるのかと思いましたけれども、町歩きもできるというところまで続けたという意味では、ハロウィンを選んだのは正解だったのかなと思います。

パワーの源ですが、もともと私どもは日本文化と異文化と両方体験するというのをテーマにしております。私はホームステイを受け入れたときに、その国のことをいろいろ教えてもらいましたが、では自分の子どもが外国に言ったときに日本のことが説明できるのかと思いました。着物が着れるわけでもなく、お茶ができるわけでもない。国際交流という意味で言えば、英語がしゃべれるだけではなくて、日本文化をもっと知っておくべきではないかと思いましたので、外国のことを学ぶだけではなくて、日本のことも勉強する機会を提供していきたいという思いで今やっております。

横山：その思いがパワーの源でしょうか。

出水：私たちのスタートは役所が公募した地域の評議員会で、そのメンバーが役所のほうにいろいろ提案しても、年度予算がありますので1年後、1年半後になります。そんなスピードではだめだから、自分たちでやろうと。そこにも怒りが入ってるかと思いますが、そんな形でやり始めました。

正木：唯一の宗教者です。

「お寺 de ハロウィン」って何だと思われたと思いますが、もともとお寺は、寺子屋といって、みんなが集まって何かをするコミュニティの場です。

私は3年間、ブラジルに布教活動に行っていたことがありますが、日系人の方から京都のことを聞かれても、なかなかしゃべれないという経験をしました。



私は京都の田舎出身で、今は難波のど真ん中にいるんですが、自分は日本のことを全然知らないんだなと思いながら過ごしました。

帰国後、MIRAI PLAS さんとお話が合って、「お寺 de ハロウィン」では 100 人の子どもたちが来ました。私が住職になって 10 年、お寺にそれだけの子どもたちが集まるのは初めてで、すごく活気のあるお寺になりました。お寺の敷居を下げる、開かれたお寺にしてい、地域に合ったコミュニティの場としてお寺を開放していきたいという僕の一番の目的です。

山村：「自然を大事にする仲間の輪を大きくする」、これが N P O 法人やましる里山の会のスローガンです。

お配りした資料の黄色の背景が絶滅危惧種、赤色の背景が美しいと思われる木津川に生えている植物です。これがなぜ絶滅種なのか。ちょっと前まではどこにでもあったんです。ところが、自然の環境が終わって、地球の温暖化も含めて、そこにすめなくなって、今やっと一番よいところに生き残っているんです。それが絶滅しかかっているものだから大事にしないかと言われていているわけです。

その環境を悪くしたのは誰か。人間 1 人を 1 メートルの箱と考えたと、地球の人口 80 億人は 2 キロメートル四方の箱の中に全部入ってしまう。その人間が、植物やほかの生物がすめなくなる条件をつくっている、それもつい最近からということになります。こういうことを知ってほしいなと思っています。

もう一つ大事なことは、これを知ったら、ほかの人たちに伝えてほしい、みんなで一緒によくしていきたい、一緒によくなりたい、そのことが一番大事なことはないか。手をつなぐ絆ではないかと思います。人間同士仲よくしていくことに大きな力があるのではないか。知った人、わかった人はそういうことを伝えていかないとよくなれないと思います。怒りではなくて、手をつなぐところから始まっていくのではないかと思います。

田中：先ほどネタで怒りと言いましたが、本当に怒っていることがあります。普段は地域の図工の先生として、子どもたちみんなで何かをつくって、それを使って一緒に遊ぼう、ゲームをしようということをやっています。例えば輪ゴム鉄砲をつくって、それを使って何をしようか、輪ゴム鉄砲を人に向けていいのか、危ないやろう、嫌やったらどうするのか、的をつくってそこに当てよう、的に当てたら点数が入ったらおもしろい、それで点数の取り合いをしようというように、子どもたちと一緒に

そこまで考えながらゲームをつくるという活動をやっています。

こういう活動をしていると、地域の人は、「最近の子はピコピコ（ゲーム）ばかりや。君はこういうものをもっと広めてほしい」と言うんですが、今の子どもは本当に忙しいんです。土曜日なんか僕らのお化け屋敷とサッカーの戦いです。本当に子どもが集めにくい。少子化だし、塾に行く、習いごとに行く、学校の勉強をせないかん、子どもはいつ気が抜けるのか。それなのに、体を使って遊べと大人は言うんですが、子どもはしんどいんです。

子どもらは相談に来るんです。僕はお父さんでもなく、学校の先生でもない、ただの変なおっさんやから、みんな安心して心を開いて、言うたらあかんことをぼろっと言うんです。女の子が真剣な顔をして、「うちね、きょう母さんの彼氏来んねん」とか重たい話を聞かされたりするんですが、みんなしんどいんです。子どもが「しんどい」と言うなんてどう思いますか。逆に言うと、ピコピコをやるぐらいしか気を抜けるところがないんです。

体を動かして遊ぼうと思っても、公園ではボール遊びをしたらあかん、うるさいと怒られるんです。そういうところではみんなの意見を取り入れて、中庸なところで落としどころを決めてないとあかん。子どもは大事やと言いながら、一個も大事にされていない。それで僕は怒ってしまって、子どもの好き勝手やらせてやろうということで、東成区全区を使ったスタンプラリーをやらせてもらいました。僕は子どもを信じています。みんなは、安全は大丈夫なのかと言いますが、この地域はとてもすてきで、町会の方が普段子どもたちに安全のことを教えています。だから、事故はありませんでした。学校に 3,000 枚のこれをまいて、スタンプラリーの台紙を配って、子どもたちは 3 日間で延べ 350 人来てくれました。事故もなく無事終わりましたが、彼らは本当に伸び伸びと、自分の校区以外もばんばん走り回って遊びました。

大人が無茶を言うてると思います。ピコピコするな、外に出ろ、道ばたで遊べば、危ないと言う、公園は狭い、どこも遊ぶところがない。みんな 1 回転してきて、またピコピコです。やることがないんです。だから、自分が芸術家という無茶できる立場として子どもたちにいつも言うのは、家でもできないこと、学校でもできないこと、それをおまえたちに実現させてやるというのが僕の原動力です。これが怒りです。

横山：環境教育を通じて川ガキを育ててきた橋本さんはいかがですか。

橋本：私は二十数年間、貝塚市役所で子どもたちと環境学習をしてきました。河川法の改正で、川に学ぶ小委員会ができました。川での教育は教育でない、近づく、感じる、人間形成のスタート、子どもたちにとっては原体験の場であるという位置づけです。環境教育学会の小寺先生からいただいた本に、環境教育とは環境についての教育でない、人と自然、自然と地域、人と地域のかかわりについて教育することであるとあったんです。それを実際につくれたのは、貝塚の子どもたちなんです。

原体験、人間形成の始まりが非常に大切だと思うんです。命のとうとさはそこで学ぶことができると思います。私たちは子どもたちから、遊べる古木川にしてくださいということで、古木川流域自然大学と位置づけして、海、山、川の分校をつくったんです。山の分校はほの字の里、海の分校は自然遊学館、川の分校を子どもの参画としました。これを提唱しているニューヨーク市立大学のロジャー・ハート先生が貝塚へ来てびっくりして、こういうアドバイスをいただいたんです。

今、川で遊ぶ子どもたちは少なくなっていますが、そういう文化の財産を取り上げてほしい。いろんな事件を見たときに、命のとうとさをどれだけ理解しているのかなと思います。奥本大三郎先生は、昆虫採集で殺生するのは精神を養う殺生だという位置づけをされています。

横山：子どもたちとかかわりながら、病めている日本かなというのも気になるのですが、最後の締めとして、基調講演をしていただいた高岡先生からお話をいただければと思います。





高岡：皆さん、素晴らしい情熱を持って語っておられました。それがパワーの源だと思います。私自身もパワーの源は思いです。僕が生まれたところをなくしてはいけないという思い、これが僕のエネルギーです。皆さん方も全く同じだと思います。物すごい思いを持って語っておられたので、それをずっと持ち続けてやっていくことが大事ではないかと思います。

もう一つ大事なのは、続けることと人だと思います。我が社は127人の株主さんで構成されていますが、みんな村の人です。おまえ頑張れよと言って力を貸してただけた、それがここまで続いている大きな理由だと思います。1人では絶対できませんので、たくさんの力を集めることが大事だと思います。

これからも、続けていくことと、一人でも多くの賛同者を得ることに努力していただきたいと思います。僕の賛同者を得る方法は飲みニケーションです。とにかく一緒に酒を飲んで話すことです。頑張っ続けて、仲間をふやしていただけたらと思います。

横山：締めめににびったりのお言葉でした。

ここにおいでの方々は、いろんな思いを持って、またいろんな角度のアイデアを持って集まっていますし、これからも関西の元気づくりを続けていくには人の出会いが大事だと思っていますので、こういう機会に知り合いをふやして交流を深めていただきたいと思います。そういう側面を行政が支えていただければ、よりよくなるのかなと思っています。きょうは長時間ありがとうございました。



## 自治体等からの施策紹介パネル

### 添付資料

第7回「ゆめづくりまちづくり賞」／第29回「手づくり郷土賞」受賞団体概要

第1回～第9回「関西元気な地域づくり発表会」参加団体概要のパネル展示

発表団体募集／聴講者参加者募集チラシ・ポスター

発表団体決定／聴講者参加者募集チラシ・ポスター

## 奈良県施策のご紹介

奈良県では、協働型社会の実現を目指し、次の3本柱で各種施策を展開しています。

- ①地域貢献活動への参加促進
- ②地域課題の解決に取り組む団体の支援
- ③協働を推進するための体制整備及び、個別協働プロジェクトの推進

参画の推進

団体の支援

協働の推進

### 地域貢献サポート基金

県民・企業の寄付を原資として、地域社会の課題解決に取り組む団体を助成します。寄付者のみなさんの想いを団体の活動につなげる新しい社会のしくみです。  
※寄付実績、寄付者等は平成22年度の基金創設からの累計です。

寄付者が希望する活動テーマや地域で事業を募集

テーマ希望寄付

- ・寄付実績 21,951,932円（平成27年2月12日現在）  
下記のテーマにつき、延べ41団体にに対し助成
- ・寄付者
  - ・アサヒビール株式会社
  - 【奈良県吉野山のヤマザクラ保護・育成事業】
  - 【奈良が誇る文化財の保全事業】
  - 【奈良県の里地・里山保全事業】
  - 【奈良県の豊かな自然や文化の保護・保全】
  - ・株式会社タカトリ
  - 【地球温暖化防止事業】
  - 【緑化活動推進事業】
  - ・「小さな親切」運動奈良県本部
  - 【犯罪・交通事故被害者及びその家族等の支援事業】
  - ・大和信用金庫
  - 【大和川の水質改善事業】
  - 【大和川水系の水環境改善事業】
  - ・イオンリテール株式会社
  - 【奈良の文化遺産やまちなみの保全事業】

登録団体の中から支援したい団体を選べる！ 登録団体数70団体

団体支援寄付

- ・寄付実績 登録団体のうち31団体にに対し、68件の寄付
- ・寄付額計7,189,000円（平成27年2月12日現在）

広く地域課題の解決を進めるために活用します！

一般寄付

- ・寄付実績 9件
- ・寄付額計135,526円（平成27年2月12日現在）

協力企業のバナーをクリック！バナー掲載者を募集中です。

ワンクリック寄付

- ・寄付額 計32,930円
- ・バナー掲載者 奈良中央信用金庫、大和信用金庫、株式会社明成  
（平成27年2月12日現在）

### 地域貢献活動助成

NPO等が地域の課題やニーズに主体的に対応し地域貢献ができるよう、その自主・自発的な活動と協働への取り組みを支援しています。

＜対象となる団体＞

奈良県内に事務所を有し、県内で1年以上活動する次の団体が対象となります。

1. NPO法人、市民活動・ボランティア団体等
2. 一般社団・財団法人、公益社団・財団法人、特例民法法人等（※国・地方公共団体から出資金または運営補助金が出ている法人は除く）
3. 自治会・町内会、婦人会、老人会、PTA等
4. 複数のNPOで構成する実行委員会等

| 事業年度   | 採択数／応募数   | 成果報告会 ※（ ）内は実施会場    |
|--------|-----------|---------------------|
| 平成23年度 | 17事業／19事業 | 平成24年7月21日（奈良商工会議所） |
| 平成24年度 | 25事業／46事業 | 平成25年9月6日（奈良商工会議所）  |
| 平成25年度 | 18事業／25事業 | 平成26年10月3日（奈良商工会議所） |
| 平成26年度 | 12事業／13事業 | 平成27年9月頃予定          |

＜対象となる事業＞

1. 地域における課題及びニーズに対して、NPO等と市町村が適切な役割分担のもと、共通の目的をもって協働して実施することで相乗効果が見込める事業であること
2. 申請者の既存事業と同一の事業にあっては、それを拡充するものであること
3. 特定の個人や団体のみが利益を受ける事業でないこと
4. 営利を目的としない事業であること

### 地域プラットフォーム

平成32年度を目途に県内全域に小学校区程度の単位で地域プラットフォームを設置することを目標に取り組んでいます。（「奈良県協働推進指針」より）

地域の安全、環境美化、少子高齢化問題など、地域の課題はさまざまです。様々な主体（自治会、企業、NPO、学校、行政等）がそれぞれ単独で課題を解決するには限界が見られる場合があります。

地域プラットフォームとは、地域の課題やニーズに関心を持ち自らが積極的にかかわる住民や団体が集い、様々な立場を超えてそれぞれが得意とするネットワークや知恵を活かしながら、地域の将来像を考えるために話し合いを重ね、それぞれが単独で解決することが難しい地域の課題解決に連携・協働して取り組む場です。

県では、平成27年度も地域プラットフォームの設置に向けた支援を市町村を核に進め、よりくらしやすい地域づくりを目指します。

安全・安心なまちづくり

災害時の避難体制

防災・防犯対策

子育ての不安解消

環境保護・ゴミの削減

自治会など

NPOなど

地域プラットフォーム

事業所

市町村・県

学校

「協働」して地域の  
課題解決に取り組む

くらしやすい地域



## まちなか防災空地整備事業

神戸市では、防災性や住環境に様々な課題を抱える密集市街地において、安全・安心・快適なまちづくりを推進するため、火事や地震などの災害時に延焼防止や地域の防災活動の場となる『まちなか防災空地』の整備を進めています。



まちなか防災空地へ



このような場合はぜひ  
まちなか防災空地としての利用をご検討ください



火事や犯罪が心配なので古くなった空き家を取り壊したい



建築予定のない空き地を所有しているが管理に困っている

さらに 老朽建物を解体した跡地をまちなか防災空地としてご提供いただける場合は、**建物解体費に対する補助**があります。

すでに解体した場合は補助を受けることができません。事前にご相談ください。



一時避難場所



日常はコミュニティの場

### 対象となる土地

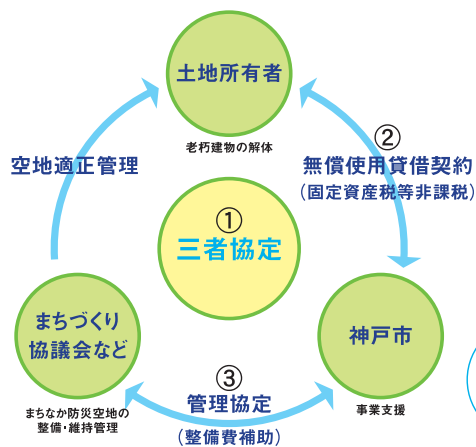
1～3のすべてを満たす土地を探しています

① 対象区域内にあること

② 少なくとも3～5年以上提供いただけること

③ まちの防災性向上に資する位置・区域面積であること

詳しくは神戸市まち再生推進課へお問合せください



### 事業の流れ

- ① まちなか防災空地整備事業を実施することについて、土地所有者、まちづくり協議会等、神戸市の三者で協定を締結します。
- ② 神戸市が土地を無償で借り受けます。＜土地使用貸借契約締結＞⇒固定資産税等が非課税となります。
- ③ まちづくり協議会等にその土地を「まちなか防災空地」として整備（神戸市の補助あり）及び維持管理していただきます。＜管理協定締結＞

お気軽にご相談ください

お問い合わせ先

神戸市 住宅都市局 まち再生推進課  
(神戸市役所2号館4階) 電話番号 078-322-6609

神戸市では、「密集市街地再生方針」に基づき“燃え広がりにくいまちづくり”を推進しています。





# 京都府京丹後市

## 地域資源を生かした元気の出る取り組みを紹介

- ①京都府地域力再生プロジェクト支援事業補助金 事業費全体の2/3
- ②京丹後市市民力活性化プロジェクト事業補助金 事業費全体の約1/5

①京都府

②京丹後市

### 二箇区 月の輪田プロジェクト



大昔に豊受大神(とようけのおおかみ)が天照大神(あまてらすおおかみ)のために稲作を始めたと言われている土地「月の輪田(つきのわでん)」を復活させ、地域の活性化に取り組んでいます。

月の輪田(昭和三年撮影)



場所:京都市京丹後市峰山町二箇区

月の輪田とは？

京都府京丹後市峰山町二箇区にある月の輪の型をした小さな水田です。広さは約7平方メートルあります。そばに石碑が建てられており、その碑文は次のように刻まれています。

「月の輪田はみかづき田とも云い、大昔豊受大神が苗代(なわしろ)の清水戸(せいすいど)に浸した稲をここに蒔き、とれた稲種を天照大神に奉ったという遺跡である。代々の領主は除地としてこれを保護し、二箇村の義右衛門は毎年身を清めて稲を作り、白米一斗三升を初穂として伊勢神宮に奉納し、蓋は全部この田に入れて翌年の肥料に当てたという。

昭和四十二年農業構造改革事業にともない、耕地整理のため北後十米の二本松稲荷前に移し、柿の本地蔵も併せて合祀し、これを保存すると共に、農業発祥の地の由来を記し、後世に伝えようとするものである

昭和四十二年十月建立 二箇区寄贈

また、この地方には天女伝説があり、「丹後風土記(たんごふどき)」によると、むかし、丹波郡比治里(たにわくみひじのさと)の比治山(ひじやま)の真奈井(まなゐ)の井戸で天女8人が水遊びをしていました。

その時、老夫婦が、1人の天女の羽衣をかくしてしまい、天に帰れなくなった天女は、その老夫婦の子として家に住む事になりました。

天女は酒を造るのが上手く、その酒が高く売れ、老夫婦はお金持ちになりましたが、十数年後に突然「汝はわが子ではない」と言われ家を追い出されてしまいます。

天女は「天の原 ふりさけみれば露立ち 家路までいて行方知らず」と歌を詠みながら泣き下ったそうです。その後、奈具の郷(京丹後市弥栄町)に安住の地を見つけ奈具神社に祀られたと言う事です。

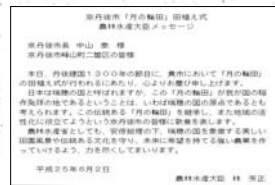
この天女が食物や産業を司る神「豊受大神」とされています。このようなことから、豊受大神はもともと天女であったと考えられています。



区民総出の田植え式 市長も毎年参加しています



一年間の活動の締めくくりは伊勢神宮(外宮)への奉納です



復活の年に林農水大臣(当時)から頂いたメッセージ



月の輪田の活動をまとめたホームページを開設「月の輪田」で検索が、こちらのQRコードでアクセスしてみてください

京丹後市市民部峰山市民局  
京都府京丹後市峰山町杉谷889番地  
Tel.0772(69)0711



整備前の月の輪田



お蔵の後の、種まき



整備開始 輪郭を整えます



よく肥えた土が入りました



水が張られ田植えを待ちます



歴史教室の開催

純米吟醸酒

丹後・みかづき田 新発売

平成26年12月21日(日) 清酒 丹後・みかづき田(商標登録出願中)が発売になりました。二箇区内で今年度に収穫されたコシヒカリを用いています。

醸造は、新進気鋭の若手醸造家として注目される行住佳樹氏が社氏を務める竹野酒造に依頼しています。

企画段階から空間デザイナーの高見慧氏を招いて商品開発を行い、ラベルデザインは市内在住のパッケージデザイナー・田中康夫氏が作成しました。

商品名は「丹後・みかづき田」精米歩合60%の純米吟醸酒で、香り高くフルーティで飲みやすい仕上がりになっています。

生産本数は720ml入りで1,000本限定です。ただ今、市内の酒屋で好評販売中です。







第7回「ゆめづくりまちづくり賞」／第29回「手づくり郷土賞」受賞団体概要





# 第7回 ゆめづくりまちづくり賞

地域から広がる元気なわ

募集

【募集テーマ】地域の特色や魅力を活かした賑わい溢れるまちづくり  
【応募期間】平成26年9月2日～10月31日

＜主催＞快適都市実現委員会 委員長：安藤忠雄（建築家）

「ゆめづくりまちづくり賞」では、個人や団体、企業、行政 〓応募要領・問合せ先・応募先〓  
において行われているまちづくりや地域づくりの取り組み ●事務局：国土交通省 近畿地方整備局 企画部 企画課  
事例を募集し、その中で特に優れたものについて表彰を 「ゆめづくりまちづくり賞」係  
行い、広く紹介し、関西において更によりよい都市形成や ●TEL:06-6942-1141  
地域活性化に向けた取り組みが進展することを目指して ●E-mail:genki\_happy@kkr.mlit.go.jp  
います。先進的事例として全国に発信できる取り組みを ●応募要領等：詳細は、右のQRコードからHPへ  
募集します。 (または、WEBで「第7回ゆめづくりまちづくり賞」を検索)



後援：(公社)関西経済連合会、(一社)関西経済同友会、大阪商工会議所、(一社)近畿建設協会、(独)都市再生機構西日本支社、  
(公社)土木学会関西支部、(一社)日本建築学会近畿支部、(一社)建設コンサルタンツ協会近畿支部 (順不同)

# 平成26年度 手づくり郷土賞

## 目 的

全国各地において、地域固有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な地域資源として再認識し積極的に利活用した、魅力ある地域づくりに成功している事例が数多く見受けられます。

このように、地域の魅力や個性を創出している良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘し、「手づくり郷土賞」として表彰するとともに、好事例として広く紹介することにより、各地で个性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が一層推進されることを目指しています。

## 部 門

### 手づくり郷土賞(一般部門)

### 募集対象

### 手づくり郷土賞(大賞部門)

地域の魅力や個性を創出している、社会資本及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果

これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を含む成果

## 選定のポイント

手づくり郷土賞の選考は、以下の視点に着目して行われます。

- ①社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫  
(地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての活用・育成 等)
- ②地域活動における創意・工夫、取組の独創性  
(新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組 等)
- ③地域づくりへの成果及び波及効果  
(地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果 等)
- ④今後の活動の継続性・発展性  
(住民が長く活動が続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫 等)
- ⑤他の参考となるような先進性・先導性
- ⑥その他(上記以外の特に優れた内容)

- ①社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫  
(地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての活用・育成 等)
- ②地域活動における創意・工夫、取組の独創性  
(新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組 等)
- ③地域づくりへの成果及び波及効果  
(地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果 等)
- ④今後の活動の継続性・発展性  
(住民が長く活動が続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫 等)
- ⑤他の参考となるような先進性・先導性
- ⑥その他(上記以外の特に優れた内容)
- ⑦社会資本の地域への定着状況  
(地域のシンボルとして広く認識されている、多くの地域住民が日常的に活用 等)
- ⑧活動の継続状況  
(規模を広げながら着実に継続している 等)
- ⑨活動の発展状況  
(新たな取組を創出している、他地域へ波及している 等)

## 応募団体

社会資本を有効活用し地域づくり等に取り組む活動団体が単体、又は社会資本を管理する地方公共団体(都道府県、市区町村)との共同で応募することができます。

## 選定委員会

|           |                          |
|-----------|--------------------------|
| 委員長： 齋藤 潮 | 東京工業大学大学院社会理工学研究科 教授     |
| 荻原 礼子     | 結 まちづくり計画室 代表・まちづくりプランナー |
| 佐々木 葉     | 早稲田大学創造理工学部 教授           |
| 鈴木 伸治     | 横浜市立大学国際総合科学部 教授         |
| 関 幸子      | 株式会社ローカルファースト 代表取締役      |
| 田中 里沙     | 株式会社宣伝会議 取締役副社長 兼 編集室長   |
| 森反 章夫     | 東京経済大学現代法学部 教授           |
| 瀧口 敬二     | 国土交通省総合政策局長              |

※ 詳細については、国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」ホームページをご覧ください。  
(<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tedukuri/index.html>)



## 第7回「ゆめづくりまちづくり賞」（優秀賞）

### 人と自然が共生するカタクリ100万本の里山

#### <矢環境緑化実行委員会>

時代の変化とともに薪から石油に変化し里山は荒れ果てた。これに危機感を感じ地区全体での里山整備の取り組みが始まった。単に整備して綺麗にしても継続的な整備が行われなければ意味がないとの考えから、整備した後に桜を植えてその桜を整備していくなどの工夫が盛り込まれた。その桜は切り花用として地元の商店に出品するなど産業を創出した。また、桜の整備中に発見したカタクリとともに地域一体を矢桜公園として整備しイベントを開催したことで、自分たちの住んでいる地区には誇れる地域資源が存在することを確認した。地区が総力を挙げて取り組んで活動し、多くの人に来てもらい、イベントで交流することで、地区外からの参加者が来るなど広く展開している。イベント協力者は当時、ボランティアだったが、イベントで得た資金から手当てを出すことでモチベーションを上げている仕組みを取り入れた。自分たちの住んでいる地区には地域資源は何も無いと思い込んでいたが、大いなる自然そのものが誇りであると認識するに至っている。



地域で里山を守るための整備の様子



120本の桜をみんなで植樹



地域の誇りカタクリ発見

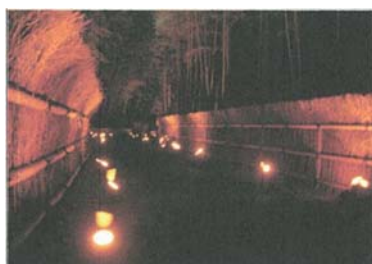
## 第7回「ゆめづくりまちづくり賞」（優秀賞）

### 竹の径・かぐやの夕べ

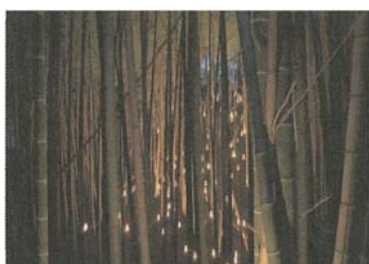
#### <向日市観光協会>

（京都府）

西ノ岡の竹林は良質なたけのこの産地として全国に知られているが、近年は放置竹林が増加していた。そこで、放置竹林で伐採した竹で竹筒を制作するなど、竹林の保護整備と地域振興を目的とした「竹の径・かぐやの夕べ」の開催に至り、竹を地域資源として活用することで、竹林の保全整備と地域の魅力づくり創出につながった。このイベントでは、演奏会の実施や京都府内の観光交流促進のためのPRブースを設けるほか、住民等による手作り作品を展示するなど、地域住民や団体等みんなで作り上げる向日市秋の風物詩として定着している。また、このイベントに市内の店舗が出店することで地域住民への店舗PRにつながっている。なお、このイベントで使用した竹筒は、希望者に配布し、迎春の門松や花瓶等に活用するなど、資源としての再利用を図っている。そして、会場となる竹の径は、日頃から地域の方の散歩道として親しまれるなど、良質なたけのこの産地としての魅力を構築した。



竹行灯で彩る幻想的な散歩道



保護整備された竹林から見る竹林灯



市内店舗の出店が地域の に

## 第7回「ゆめづくりまちづくり賞」（優秀賞）

### 『まちなか魅力スポットの創出』

～密集市街地の空き地・老朽空き家を魅力スポットに変身！～

＜兵庫区北西部まちづくり協議会＞

（兵庫県）

兵庫区北西部地区は地震時等に著しく危険な密集市街地であったため、災害時に防災活動の場となる「まちなか防災空地」の整備を実施した。近年、放置された空き地や老朽空き家が目立ち防犯や住環境の面からも改善が課題であったが、まちなかに防災機能を持った広場を確保することで、コミュニティの場も創出できた。

その結果、地域の方々の交流が増えたことで、新たなまちづくり人材の発掘につながり、まちづくり協議会の活動への参加者が増えた。また、魅力が認知され「自分の地区へも」と近隣地区へ整備が波及した。空き地や老朽空き家といった「負の資産」を単に無くすだけでなく、「新たな魅力資源」として再生する取り組みを実施している。



放置された空き地



防災空地の中に菜園を設けた「まちなか魅力スポット」



地域で検討している様子(まちづくり協議会)

## 第7回「ゆめづくりまちづくり賞」（奨励賞）

### 堺に縁ある”すずめ踊り”を絆とした「人が輝く元気なまち」づくり

＜堺すずめ踊り協賛会＞

（大阪府）

「すずめ踊り」は仙台城移転の儀式で堺から石垣造りに参じた石工衆たちが伊達政宗の前で踊ったとの伝説があった。この堺に縁のある「すずめ踊り」を普及し、活動を通じて人と人との絆を強くすることで、地域の元気づくりに貢献している。初めての参加者へのフォローに細心を尽くすことで、絆づくりやの喜びが実感でき地域の愛着心が醸成されるとともに、堺市内7区に少なくとも一つの祭連(まづら)が立ち上がるなど広く展開している。また、「すずめ踊り」で使用するハッピーや楽器は新たな地場産業の業容を拡大した。活動の持続可能性を見据え、実技者単位の連合組織「堺すずめ踊り連盟」と財政や事業企画支援を目的とする「堺すずめ踊り協賛会」を分離する仕組みを取り入れている。「人が輝き、地域を元気に！」を普及活動の理念(合い言葉)に、これまで堺にはなかったこの「すずめ踊り」を普及させることで地域の魅力を再発見し、堺市民の絆づくりと東日本大震災被災者の激励活動に取り組んでいる。



実技者がすずめ踊りを伝授



子ども達も大好きすずめ踊り



人との絆を強める(被災地の子どもを招待)



## 第7回「ゆめづくりまちづくり賞」（奨励賞）

### かばんを核にしたまちづくり～地場産業ブランドと地域拠点立ち上げ～ ＜豊岡まちづくり株式会社＞（兵庫県）

豊岡市は高齢化や人口減少のためシャッター通りとなっていたため、鞆の産地を活かした拠点をつくることで市街地への集客機能を創出し流入人工を増やした。長らく他社の製品をつくる街であったため、地域の方々は鞆が誘客する地域資源になるか不安があったなか、空き店舗を利用したイベント等を開催することで雰囲気づくりを実施する工夫をした。鞆企業においては地域団体商標「豊岡鞆」ブランドを作り豊岡製造に特化したオリジナル商材を製造しブランディングに取り組んだ。また、周辺ショップや観光地と連携し「鞆の街」の歴史やショップ等を説明するツアーを実施することで「鞆の街」が定着する雰囲気を醸成した。拠点施設は豊岡製の各社のオリジナル鞆の他、本事業で商品開発された鞆が販売されるなど新たな商品に結びついている。オリジナル商品開発に積極的に協力し集客のマグネットとして絶えず新たな鞆に出会える魅力のある店舗づくりを心掛けている。



地域づくりの拠点。集客のマグネット



商店街イベント「カバストマルシェ」



ショップを説明する「鞆の街」ツアー

## 第29回「手づくり郷土賞」（一般部門）

### 安曇川河畔林の竹林の保全をエコツアーにした取り組み ＜湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部＞（滋賀県）

安曇川では江戸時代からはん濫を防ぐために河畔に植えられた竹を使った扇骨（扇子の紙以外の部分）の生産が行われてきたが、輸入材の増加等から竹林が放置され荒廃が進んだ。そこで、平成11年に地域交流創出を目的に発足した「湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部」(197名)が平成19年に竹林整備部門を設立。4,500㎡の荒廃竹林を借り受け、竹林整備・自然観察・食育等をエコツアープログラム化した「新竹取物語」を展開。平成25年度は646人の参加があった。活動費は補助金に頼ることなく、その参加費から捻出している。竹林の適切な維持管理により、山野草や昆虫が増えるとともに、洪水氾濫防止や不法投棄対策として効果があった。



新竹取物語 竹林整備体験の様子



## 第29回「手づくり郷土賞」(一般部門)

### ストリートライブ能で美しいまちづくりと地域の賑わいづくり ＜公益財団法人 山本能楽堂＞ (大阪府)

公益財団法人山本能楽堂は大阪のまちに美しい都市空間を創出し、偶然居合わせた不特定多数の人に能の魅力を知ってもらうため平成16年より公共空間におけるストリートライブの活動を開始した。そして、平成17年に「水の大切さ」を喚起し水都大阪の魅力を周知するため、水の浄化をテーマに環境問題について考える新作能「水の輪」の活動を開始した。水辺の拠点として整備された公共空間で再演を繰り返し、平成25年には「中之島GATE」で10回目の公演を実施した。本活動によって、水辺空間を活用した賑わいが創出され同時に「水の大切さ」が喚起された。



御堂筋の道路沿いで能の公演



「中之島GATE」で能の公演

## 第1回～第9回「関西元気な地域づくり発表会」参加団体概要のパネル展示



## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

近木川流域自然大学研究会

### 日本一汚い川からのまちづくり

#### 郷に入ったら郷に従え

- ・二度のワーストワン 二級河川 近木川
- ・昔のまんまのええ川やん 近木川は 子どもが気づいた近木川のいいところ

#### 道ひから学ぶ

- ・子どもからの提案 遊べる川にしてください
- ・近木川流域自然大学 海→貝塚市立自然道学館、山→ほのきの里 川の分枝づくり⇒子どもの夢園で
- ・環境学習で育つ子どもたち
- ・少しぐらい汚いのうても良い、生き物が一杯、自然が一杯
- ・人の心が優しいまち→事件がないから、生き物にも優しいから
- ・まちづくりは郷土愛から
- ・大人より 子らの感性 みちひらく

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

江坂企業協議会

### 未知なる挑戦 競争から共創のまちづくりへ アドプト・ロードESAKA

#### 地域づくり方針・目的

これまでのまちづくりを考えたとき、個々が頑張る競い合うことでまちを創成させ、みんなが（競争）をしてきた感強いとおもわれます。江坂企業協議会では、より「きれい・安全・安心なまち」とすることを目的に、〈共創〉すなわち、まちで活動をおむ様々な人々が連携・協力し、お互いの利点を高めながら、様々な活動によって新しい江坂のまちづくりに取り組んでいこうと考えています。

#### 取り組み内容

- （経過）・昭和49年 南改札口早期開設促進期成会として発足。
- ・その後、西南すいた企業協議会→江坂企業協議会に名称変更。
- ・自主財源（加盟企業より入会金および年会費を徴収）により運営（目的に応じた様々な協議会等立ち上げ）
- ・「江坂まちづくり協議会」立ち上げ（地元自治会・学校・江坂駅と協力）
- ・アドプト・ロードESAKA（H14.3.1協定締結・延長2.5km）
- ①サインボード（「花のある街」結晶：4つの小学校から作品募集）
- ②毎月1日はクリンデイ！
- ③ミニ・アドプト・フラスポット（約25箇所）の世話人紹介（年4回の会合に）
- ④不法駐輪・駐車の手除け啓発実施
- ⑤ゴミゼロ運動！江坂音楽フェスティバル・クリスマスコンサート実施
- ・「神崎川野企業連絡会」立ち上げ（加盟する神崎川沿いの企業22社により）
- ・アドプト・リバー「水鳥」（H16.3.31協定締結・延長5.1km）
- ①クリーンUP作戦実施
- ②アラウーギョラリー設置
- ③さくらまつり開催等
- ・H17.4.1 江坂駅周辺地域を視察禁止地区に制定・啓発活動実施
- ・ホームページ「江坂っしょう」開設 <http://www.esaka.gr.jp>

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

しらやま振興会

### 人とメダカの元気な里地づくり（里地里山保全再生事業）

#### 地域づくりの方針・目的

- 【はじめに】
- ・福井県越前市白山（しらやま）地区は日本海よりに位置し、司法山に囲まれたのがとても美しい自然が広がる農村です。主な特産物はお米とスイカで、特にスイカについては「しらやまスイカ」として京阪神地方に出荷されています。
- ・私たちの地域では、昭和45年（昭和20年）に「くちばしの折れたコノノリ」が飛来し、小学校の児童会を中心に保護活動が行われ、翌年2月、捕獲され農園内に移送されました。その出来事は「くちばしの折れたコノノリ」という絵本にもなりました。
- ・また、白山地区には国内第1級の絶滅危惧種をはじめとして希少な野生生物が81種類生息していることが確認されています。また、国の重要湿地500選、県の重要湿地30選に指定され、昨年度には環境省の「里地里山保全再生モデル事業」実施地として全国4カ所のひとつにも選ばれました。
- 【目標】
- ・希少な野生生物が生息する自然環境を人の交流と協働により保全活用し、人も生き物も元気が出る里地里山を創る。
- 【5つの基本方針】
- ①希少な野生生物が生息する自然環境の保全（基盤の保全）
- ②地域外のひととの交流と協働（地域の活性化）
- ③環境学習と自然体験（活動の蓄積）
- ④希少な野生生物の保全を付加価値とした商品や仕事づくり（保全活用継続の糧）
- ⑤人材の育成（人づくり）

#### 取り組み内容

- ①基盤の保全
- ・安養寺町さき草王国による希少種「さざん草」の保護・増殖活動
- ・集落単位での休耕田を活用したビオトープ造成活動
- ②活動の蓄積
- ・地元小中学校による環境教育の推進（「ビオトープづくり」、生き物調査・まちづくり体験・ザリガニグット大作戦など）
- ・ホタル観察会・川遊び・森で遊ぶう・コノノリ「武士」一斉見回り事業 など
- ③人づくり
- ・里地里山セミナーの開催（年5回開催）
- ・希少野生生物保全監視員の養成
- ④地域の活性化
- ・エコキャンプ（都市と農村の交流）の実施
- ・Aコース：8月 6日～ 8日テーマ「ビオトープを創ってみよう！」
- ・Bコース：8月19日～21日テーマ「海池と里山の環境」
- ・安養寺町さき草王国による「さざん草展」の開催 8月6日～10日
- ・市民参加の森づくり活動

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

特定非営利組織 熊野本宮

### 世界遺産を活用した蘇りの地域づくり～熊野健康村構想～

#### 地域づくり方針・目的

- ・世界遺産「熊野」の保全と活用
- ・「熊野」アイデンティティの確立→「蘇りの聖地・熊野」
- ・世界遺産を活用し癒しや健康を通じた交流産業の創造
- ・持続可能な田舎型の経済システムを構築
- ・地域資源の活用、担い手としての住民、収入と生きがい

#### 取り組み内容

- ・熊野本宮を拠点とする「熊野健康村構想」の推進（産学官民連携）
- ・熊野古道の「癒し・健康効果」の科学的検証（県・国土交通省・厚生労働省）
- ・熊野古道を中核資源とした癒やしと健康の滞在メニューの開発、試行
- ・語り部の育成、蘇りの地にふさわしいスカルアップ研修（熊野本宮語り部の会）
- ・グリーンツーリズムなどスローライフ志向への対応（日本宮町）
- ・林業体験ツアー、伏拝地区による「じげのまちづくり」

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

リバークリーン・エコ炭銀行

### 加古川流域 129 支流の水質浄化プロジェクト

#### 地域づくり方針・目的

加古川水系で最も河口近くに位置する準用河川・養田川は、区画整理事業にともなって、付け替えられる予定でしたが、地元の中学生がトライやるウィークの一環で養田川の生物調査に取り組んだ際に、住宅や工場などに囲まれた市街地を縫うように流れながらも、多くの生き物が生息する環境が残されていることが判明します。

この結果をうけて、地元町内会が中心になったまちづくり委員会を結成（平成10年）、専門家や行政を巻き込んで、環境に配慮した川づくりを考えました。やがてこの取り組みが、行政を動かすことになり、コンクリート流りの新河川については、川底を自然のままに残した工法に変更され、奥川となる旧河川については、その一部が公園やせせらぎとして再生・整備されることになりました。

さらに、平成15年3月には、この公園を拠点に炭を利用して河川環境の浄化に取り組み「リバークリーン・エコ炭銀行」を設立しました。森林や竹藪で間伐した材料をこの公園まで運搬し、簡易な炭化装置を使って炭に転換することで、河川の水質浄化に役立てようとする取り組みです。自分で焼くことができなくても、間伐材や竹を預ければ、銀行の方で炭にしてくれて、預け入れ量に応じて炭が還元されるシステムで運営されています。活動全体に関わらなくても、それぞれにできる関わり方で、河川の水質浄化や、森林・里山の再生に役立つことができる、気軽さが魅力の活動になっています。

#### 取り組み内容

- 平成13年12月「兵庫の川サミットin加古川」養田町内会主催で開催
- 炭化装置の取り組みが紹介される。
- 平成16年 2月 第2回炭フォーラム（播磨町）
- 7月 別府血池に竹炭を試験埋設
- 平成14年 7月 井戸知事が養田川を訪ね、竹炭の試験埋設をはじめ実施。
- 平成17年 2月 第3回炭フォーラム（北別府）
- 9月 はじめての炭焼き講習会を開催（以降継続）
- 3月 第4回炭フォーラム（西脇市）
- 平成15年 3月 第1回炭フォーラム開催（養田）リバークリーン・エコ炭銀行設立
- 5月 リバークリーン・エコ炭銀行加西研究所設立
- 12月 嘉瀬川に竹炭を試験埋設

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

国土交通省 紀南河川国道事務所

### 紀南のみち・まちづくり

#### 地域づくり方針・目的

住みよく、快適で、生き生きとしたよりよい地域をつついていくためには地域の人々が、地域に誇りを持ち主体となって、行政と一緒に「まちづくり」「地域づくり」を行うことが重要です。

#### 取り組み内容

直轄国道においては、NPO団体や地元自治会等と道路管理者、市町村と協定を締結し、清掃、緑化等を協働で行う「ボランティア・サポート・プログラム」を進めており、紀南河川国道事務所においても6団体（平成17年11月現在）と協定を締結しています。

平成17年4月には、地域の活動団体が主体となって「未知音語近畿大会in紀南」を開催しました。

今後は「ボランティア・サポート」「未知音語」活動を通じて、産学官民協働のネットワークが強化されたことを受け、地域づくりの新しい取り組みとなる「シニニックバイウェー」を進めていきます。

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 環境教育技術振興会(CAN)

### 大阪湾ダイビングスポット創造プロジェクト

#### 地域づくり方針・目的

- 「汚い海」の代名詞である大阪湾を、市民の手で水をきれいにし、多くの生き物たちが豊か豊かな海に回復させ、最終的には全国から多くのダイバーが訪れるダイビングスポットの創造をめざす。
- 地域の小学生を対象とした環境学習の場として活用を図り、未来を担う子どもたちに、自分たちにとって最も身近な海＝大阪湾に興味と理解、愛着を持ってもらう。

#### 取り組み内容

- 「海のゆりかご」と呼ばれる「アマモ（海草）」を移植し大阪湾の環境改善
- （1）地元小学生を対象に環境学習会
- ・環境学習会
- 大阪湾の水質悪化や生き物の減少について
- ・子ども達がアマモの苗を育てる
- 「アマモ育成キット」を配布
- ・ボランティアダイバーらが植え付けを行い、その様子を子供たちが見学。
- （2）その他、竹炭魚籠の設置や海底清掃など適時実施

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

三国湊魅力づくりプロジェクト実行委員会

### 三国湊の魅力づくり

#### 活動方針・目的

- ・福井県「地域ブランド創造活動推進事業」
- ・地域資源の活用
- ・商品開発
- ・三国ブランドの創造

#### 取り組み内容

- ・エコツアーの実施
- ・グリーンツーリズムの実施
- ・商品開発
- ・受け入れ態勢の整備



## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

コウノトリ野生復帰推進連絡協議会

### コウノトリ 再び大空へ

#### 地域づくり方針・目的

我が国の野生コウノトリが最後まで生息していた兵庫県豊岡市において、コウノトリを再び大空に戻す「コウノトリ野生復帰推進計画」を進めている。

計画では、コウノトリが住める環境こそが、私たち人間にとっても安全・安心で豊かな環境であるとの視点に立ち、人と自然が共生する地域づくりを進めつつコウノトリの野生復帰をめざしている。

#### 取り組み内容

地域を挙げてのコウノトリの野生復帰に向けて、「コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」を設置し、住民・団体・学識者・行政などの様々な主体が協議、連携を図りながら環境整備や普及啓発等に取り組み、野生復帰の推進を図っている。

【保護・増殖・放鳥】

- ・平成17年12月現在、県立コウノトリの郷公園で109羽を飼育
- ・平成17年9月に9羽を放鳥（5羽／自然放鳥・4羽／段階的放鳥）

【環境整備】

- ・田園の自然再生（転作田のビオトープ化、冬季湛水稲作の推進、魚道の整備）
- ・里山林の整備（林間歩道の整備、松・広葉樹の植林）
- ・河川の自然再生（護岸や河川敷を多自然工法整備、魚道整備による連続性の確保）

【普及啓発】

- ・コウノトリ未来国際会議等の各種会議、イベントや環境学習を活用した普及啓発
- ・「コウノトリファンクラブ」活動の推進

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

和歌山ほんまもん体験倶楽部

### ほんまもんの体験のすすめ

#### 地域づくり方針・目的

- ・地域づくり方針・目的
- ・住民の自信と誇りの回復「地域再生」「都市と地方の役割分担」
- ・新規雇用の創出、Uターン者への環境と生活基盤整備
- ・伝統産業の技と文化の継承
- ・わがまち遺産再発見と整備、自然環境保護、景観整備、国土保全

#### 取り組み内容

- ・地域の地場産業や一次産業を柱とした心の交流を生み出す交流人口拡大
- ・交流から生まれる物流は信頼の橋。ITを活用した産直マーケットの開拓
- ・旅の目的作り

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

神戸市 都市計画総局 区画整理部

### 六甲道駅北地区のまちづくり

#### 地域づくり方針・目的

六甲道駅北地区は、JR神戸線六甲道駅の北側に位置する16.1㊦の区域である。

この地区は、JR六甲道駅周辺には商店街や市場が立地し、JR神戸線、阪急神戸線と国道2号線により神戸方面、大阪方面へ結ばれた利便性が高い地域である。しかし、阪神大震災前は、狭小住宅の集積、住宅の老朽化、道路等年施設整備の遅れなどの課題があった。阪神大震災により、この地区の約7割・683棟が全半壊・焼失の被害を受けた。

神戸市では、震災の教訓を生かし災害に強い安全で、安心して暮らせる町作りを目指し、「六甲道駅北地区震災復興土地区画整理事業」を進めている。

#### 取り組み内容

震災復興土地区画整理事業では、市民・事業者・行政による協働のまちづくりに取り組んでいる。

- ①まちづくり協議会の組織化
- ②まちづくり専門家の派遣
- ③現地相談所の設置

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 まちづくり役場

### 黒壁“長浜” ～多様な主体が街を変える～

#### 地域づくり方針・目的

昭和40年～50年代の高度成長期、車社会と大型店進出問題等で長浜においても中心市街地が衰退した。年の独自性や魅力作りを考える中で、市と民間がまちづくりの理念を共有していくための哲学といってもよい「博物館都市構想」がしろうわ57年に策定された。「伝統を現代に生かして美しく住む」この構想により長浜のまちづくりが胎動するきっかけとなり、長浜城の再興、黒壁の保存活動へとつながっていく。

#### 取り組み内容

長浜は秀吉が開いたまち。秀吉の城長浜城は、徳川の時代に取りつぶされて彦根に移された。城の再建は市民の夢。

総事業費10億円農地総額4億3000万円を市民が寄付し昭和58年に完成した。さらに5年度、町中に明治時代のあった銀行「国立百三十銀行」を保存。第3セクター株式会社「黒壁」が設立された。ガラスを始めたことにより外から人が訪れ商店街に活気が戻ってきた。

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 なら燈花会の会

### 地域が支える祭「なら燈花会」

#### 活動方針・目的

奈良には、古くからの伝統行事やまつりが、数多くあります。そのすべてが、社寺はもちろんのこと地元の人々が支え、育んできたからこそ今があります。なら燈花会も、単なるイベントではなく、奈良の地元の人々が支え合って、盛り上げて100年以上続く、夏の奈良の代表的なまつりに成長させようと考えています。

#### 取り組み内容

世界遺産に囲まれた奈良公園一帯を、約一万五千個のろうそくの明かりで幻想的に演出するため、毎日お手伝いいただける当日ボランティア延べ約3000名の募集や、広報、警備、会場ごとの演出、設え、ライブの開催、来年のろうそく代のための、募金活動やオリジナルグッズの販売、地元商店街や社寺との打ち合わせや折衝等、奈良公園や環境問題に配慮したリサイクルろうそくの再生…とにかくたくさんあります。

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

宇治市 市民環境部 商工観光課

### 源氏物語のまちづくり

#### 宇治市の紹介

- ・宇治市の概要（京都府南部に位置し、人口19万人の中核都市）
- ・観光政策推進体制（観光係3名、観光協会5名、観光ボランティア）
- ・宇治市の特徴（お茶、世界文化遺産、紙幣、硬貨）

#### 源氏物語のまちづくりの取り組み

- ・ふるさと創世事業（平成2年、市民公募による事業選定）
  - ・紫式部文学賞、市民文学賞の創設（女流作家の登壇的的位置づけ）
  - ・源氏ろまん事業の取り組み（文学賞表彰式、スタンプラリー、講座開設）
  - ・施設整備の取り組み（各施設をつなぐ「道」の整備、施設整備）
- 平成14年3月に「宇治市観光基本計画策定」

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

天神祭美化委員長 伴一郎氏

### 舟運による水都大阪の再生

#### 地域づくり方針・目的

- 国の都市再生プロジェクトを受け、国、大阪府、大阪市、経済界などで「水都大阪再生協議会」を設立し、大阪市内都心部を流れる堂島川、道頓堀川など「水の回廊」を対象エリアに平成15年3月、「水の都大阪再生構想」をまとめた。
- その他、水辺のイベントとして、「光のルネサンス」を冬に開催し、ライトアップされた中之島でイルミネーションシッパバレードやクルーズを実施している。

#### 取り組み内容

- 「第3回正解水フォーラム」（平成15年3月）の開催を契機に、住民、NPO、ボランティアを中心となって、大阪市内河川でクリーンバレードを実施する。
- その後、これを拡張し行政、企業も一体となって「舟運まつり」として春、秋に継続的に開催している。
- その他、水辺のイベントとして、「光のルネサンス」を冬に開催し、ライトアップされた中之島でイルミネーションシッパバレードやクルーズを実施している。
- 秋の舟運まつり 概要
  - ・期間 平成17年10月29日～30日
  - ・会場 大阪市北区南天満公園ほか（大川・中之島）
  - ・内容 舟運再現バレード、市場再現マーケット、体験クルーズ 水上レストラン（～11月6日）

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

（株）道頓堀スタジオジャパン

### 川の賑わいをまちの賑わいに～なにわコミュニティーズ～

#### 地域づくり方針・目的

大阪ミナミは、近世上方文化発祥の地。近代は、モダンシティとしてカフェ文化、道頓堀ジャズをはじめモダニズム文化を発信し続けてきた文化都市の中心地だった。「天下の台所」とした有名な食文化が花開き、大正14年「大大阪宣言」とともに近代都市として発展を続けてきた。その後大阪は、幾度も「曲がり角」を迎えながら、いつしかその輝きを失っていった。戦後は1970年万国博覧会を転機点として経済都市としての地位を急激と上りつづける。

～五座の賑に 芝居茶屋。通りを流れる「道頓堀川」で…賑のにおい、キヌメを皮で包み、カブエに集まる 文士に囲まれる音楽家。五色の旗に 酔い盛って 若い灯、若い灯、若の鼓より響きぬ。～

橋川節也編著「モダン道頓堀探検」創元社（表紙）

しかしながら、その輝きは本当に消滅したのであるか？

今この町にある店に、人に、通りや路地に…様々な伝わるなにかを備えと西暦2000年に創出されるOSAKAの魅力。水都大阪のシンボル「道頓堀川」に今も集まる数多の人々。

まさに「ミナミは、入場無料の博物館会場」\*次策進路

「タンクテーマパークミナミ」この町を愛する多くの人々によって文化集客エリアとして再生する。まちの人々に誇りを取り戻させ、町民が主人公となる集客観光ビジネスを展開して、まちを元気にしようではありませんか！

#### 取り組み内容

「とんぼりリバーウォーク」～特区による整備事業が進む「とんぼりリバーウォーク」船着場を活用して道頓堀川（その市内河川）遊覧観光の事業家へ向けての社会実験。

ガイドブックやホームページ等を通じての情報発信が活発になってきたにも関わらず、

「どこを、どのように楽しんでいるのか？分からない」という観光客のニーズに対応べく、ガイドとともに行く「まち歩きツアー」を刊行コンテンツとして提供し、その発信力を推進するための調査研究と実証事業の展開。

遊覧船事業とまち歩きツアーとの連携、両事業と地域（商店、商店街、施設）とのコラボレーションのあり方を実証実験中。

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

姉小路界隈を考える会

### 歴史的都心街区でのまちなか再生

#### 地域づくり方針・目的

- ・会の設立 平成7年10月
- ・会の目的

豊かな歴史と伝統を有する姉小路界隈において、この地で育まれ、継承されてきた、優れた精神性（こころ）の再認識を行い、まちを支える人とのつながりを大切にし、住みよい、安心して暮らせる環境作りや、まちに住み、働く人々に愛され、誇りに思える町並み作りなどを皆で考え、皆の手でまちづくりにつなげていくこと。

#### 取り組み内容

- ・会の活動 会主催の様々なイベントを継続して実施している。→「灯りでむすむ姉小路界隈」「花と緑でもてなす姉小路界隈」等
- ・地域共生の土地利用検討会の取り組み（平成12年1月～平成14年8月）
- ・会設立の契機となったマンション建設用地を対象に、事業者と地元住民と共に検討する「パートナーシップ型まちづくり」を実践。
- ・「姉小路界隈町目式（平成版）」の策定（平成12年4月）
- ・「姉小路界隈地区・松長町地区建築協定」締結（平成14年7月）
- ・NPO法人「都心界隈まつづくりネット」設立（平成15年1月）
- ・「姉小路界隈まつづくり協定」締結（平成16年9月）
- ・「姉小路界隈地区街並み環境整備事業」実施中（平成16年度から）

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

大小路界隈「夢」倶楽部

### “煌く風 堺” 大小路界隈の創造的活性化に向けて

#### 地域づくり方針・目的

大小路界隈「夢」倶楽部は、平成14年6月に設立し、大小路界隈で事業を営む事業者と住民で構成する会員148名が運営している「まちづくり市民団体」です。  
地域づくりの方針は、由来ある大小路界隈の歴史的・文化的資産を継承し、街並みや風土を守り育て、新しい付加価値を生み出すことによる経済振興やこの町を愛する人々による地域振興、暮らしの質と町の魅力を増す文化振興を核とした“まちづくり”です。

#### 取り組み内容

- 進取と挑戦の町大小路界隈（経済活動の活性化）
  - 「南蛮 ガラクタ市」の開催/「夢浪漫本舗」deショップの開設（平成17年12月下旬）
- 優れた街並みのまち大小路界隈（町並みの保全）
  - 「大小路筋 イルミネーション」の点灯/「大小路筋 フラワーロード事業」の実施/「大小路シンボルロードの景観形成（案）」の説明/「朝日港周辺の整備計画（案）」の提案
- 文化をはくくむまち大小路界隈（文化の育成）
  - 「夢庵」サロン&ギャラリーの開設/「開口神社（海会寺）金龍井戸」の復活/「地域幼稚園内での米づくり」の実施
- 知を集め、知を伝え、知を受け止める大小路界隈（情報の受発信）
  - 「夢創庫」瓦版の発行/「夢創庫」deサロンの開設（平成17年12月下旬）

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

（社）奈良まちづくりセンター

### 奈良町の保全と再生～市民の手による持続可能なまちづくり～

#### 地域づくり方針・目的

- ・元興寺界隈を中心に歴史的町並みの保全・再生と活性化を図る
- ・それらを通じて奈良のまちを持続可能で、住みやすく、活力あるものとしていく

#### 取り組み内容

- ・道路問題で元興寺界隈が更に劣化することを憂えた14人の若者が1979年に奈良地域社会研究会を立ち上げた（5年後に社団法人化）
- ・ます界隈の約60㍽を奈良女子大の学生の協力を得ながら調査し、その成果を地元に関連するともに行政に政策提言をした
- ・その後関連する調査活動や、地元の人々がまちの歴史と暮らしを思い起こす活動を重ねた

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

からほり倶楽部

### 空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト

#### 地域づくり方針・目的

- 美しく歴史のあるまちの保存、再生
  - イキイキとした活力あるまちづくり
  - 新旧世代、文化の共生
- これらの考え方をもとにして“まちのあり方”を問いたそうとしています。

#### 取り組み内容

- 長屋物件説明会
- 長屋再生事業「怒」「練」「萌」など
- 「からほりまちアート」の企画・運営
- 「直木三十五記念館」運営支援
- その他、広報活動および交流活動

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 長堀21世紀計画の会

### 「御堂筋を人間のためのにぎわいとゆとりの舞台へ」

#### 地域づくり方針・目的

「御堂筋にぎわい空間作り（御堂筋オープンフェスタ）」は「御堂筋」を活用したイベントを通して、地域活性化の面的な広がりを持続的なまちづくりの組織の形成を目的とするものである。

平成14年の都市再生緊急整備地域の指定、および地域のまちづくり活動の気運が高まる中、平成15/16年に社会実験として、本年度は本格実施として開催されることとなった。

#### 取り組み内容

新橋交差点南側から難波交差点北側（約900m）を車両通行禁止とし、幅員約44mの御堂筋を自由に散策しにくい空間を提供した。イベント内容は、区間を4つのエリアに分け、周辺の街の特性に合わせたイベントを地元が主体となって企画・運営した。また、開催前の6日間にわたりボランティアや地元関係者など約170名が参加し、約9,000枚の工を取り付け、放置自動車に対する啓発活動も行っている。

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴

### 赤煉瓦のまち“舞鶴”

#### 地域づくり方針・目的

「ふるさと舞鶴」を個性的で魅力あるまちにするため、市内に残る明治・大正期の赤煉瓦建物に魅せられる者が集い、様々なまちづくりの活動を通して、舞鶴の「宝」である歴史的建物を後世に引き継ぎ、赤煉瓦を生かしたまちづくり寄与するとともに全国の赤煉瓦に縁のある都市をつなぐ「赤煉瓦ネットワーク」の運営に参画し、全国の仲間と交流を深め、全国の赤煉瓦を生かしたまちづくりを支援することを目的とする。

#### 取り組み内容

- ・市内の赤煉瓦倉庫の調査研究（赤煉瓦マップ、冊子、書籍の作成、ジオラマの制作）
- ・ライトアップ事業
- ・イベント開催（ジャズ野外コンサート、倉庫活用実践提案、冬季ライトアート事業）
- ・グラウンドワーク推進事業（赤煉瓦ロードの再生、日干し煉瓦制作）
- ・市内でのまちづくり講演会・支援活動
- ・ホームページの開設
- ・赤煉瓦保存基金の創設
- ・ホフマン窯活用計画の策定
- ・市政記念館（赤煉瓦倉庫）の管理運営受託（平成18年度～）

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

（株）伏見夢工房

### 地域資産を活かしたまちづくり・ひとづくり～十石舟の復活と酒造の活用～

#### 地域づくり方針・目的

- 郷土愛づくり  
まちに眠る数多くの地域資産を再認識し組み立て活用し、それらを地域の方々で協働していく。
- 人づくり  
様々なまちづくり活動を町全体に拡げ、地域の方々で活動を重ね積み、地域特有の多くのタウンマネージャーを生み出していく。

#### 取り組み内容

- 地域資産（1）水辺空間での取り組み
  - ①十石舟・三十石船の運航
  - ②伏見万灯流し
  - ③河川清掃
  - ④河川への紫陽花・紅葉・ユキヤナギの植樹
  - ⑤河川ライトアップ
- 地域資産（2）酒蔵を活用した取り組み
  - ⑥酒蔵通り花燈路ライトアップ
  - ⑦伏見のご案内どころ伏見夢百景の運営
- 人づくり
  - ⑧京都伏見ジュニア河川レンジャー活動
  - ⑨We Love Fushimiクラブの設立

## 第1回 関西元気な地域づくり発表会

大津市 都市計画部

### 座・大津

#### 地域づくり方針・目的

大津市はどのように再生しようとしているのか？  
「座」開設（2003/06）  
活性化というみこしの担ぎ手が集まる座  
座の取り持つ様  
市役所ではなく市民役所としての座

#### 活動内容

やる気づくり わいわい会議（2003/06～11）  
大津まちなか元氣回復委員会（2003/12）  
研究会（2004/01～）  
浜大津春待ち灯り（2004/02～）  
都市再生大学校（2004/02 2004/12）  
大津市まちづくりパワーアップ事業（2004/04～）

住みたい、住み続けたいまちを目指して  
①明日都浜大津の再生  
②社会教育会館・町屋といった歴史資産の保存・利活用  
③まちの回遊性の向上と住み続けるまちの基盤づくり

知らせて、知っての機会づくり

## 第2回 関西元気な地域づくり発表会

NPO困炉裏

### 田辺市中辺路町の世界遺産を活かしたまちづくり

#### 活動方針・目的

ふれあいと交流を深めながら、心の温まる魅力ある地域社会づくりをめざして、時代のニーズにあった、ユニークでキラリと光るふるさと活動を推進する事を目的とする。

#### 活動内容

基本的には、なんでも良いし。上記キラリと光るふるさと活動を推進する事を目的とする。に照らして活動内容を決定する。

これまでは、高島集落の未来づくり事業・・・そば打ち、緑の植樹事業  
世界遺産関連事業・・・知事と子どもたちのウォーク、歌碑の建立世界遺産春告祭、熊野山神祭り、古道春仕活動  
その他・・・愛鳥週間集福作り、地域づくり講演会、  
市長とのまちづくり懇談会など  
これからは・・・文化保存事業、行政と協働でソーニック日本風景街道事業

## 第2回 関西元気な地域づくり発表会

「みちカフェ」管理分科会

### 女性の力を活かした道づくり～山里の再生に向けた「みちカフェ」の取り組み～

#### 活動方針・目的

「みちカフェ」は、一般国産178号名道沿道の周辺に住む一般女性が集まり「道づくりに関する検討や意見をを行っている」団体です。もともとは「道づくりに生活者である女性の視点を活かしたい」という富士山交差点南側道事務所からの呼びかけで始まり、平成15年11月に設立された団体ですが、3年の活動を経て、現在はメンバーそれぞれが希望するテーマ（道路管理、道路観戦）に分かれ、自主的な活動を行っています。

自分自身で定めて頂くのは、その年の道路管理をテーマとする管理分科会の活動です。管理分科会では平成16年度に「みちカフェ」メンバー全員で考えた「みちカフェ計画（＝山里の道をテーマ）の実現に向けた活動を行っています。その計画の発表となっているのは名道沿道の沿道に、分科会が改善された道路管理用地（古閑道西京市山門口の急道道路沿い、呼称：みちカフェ計画地）です。管理分科会ではこの道を周辺の山々と同じ山陰（コナラ林）に戻すため、「地域性草木による植樹及び樹陰に関する活動」を進めています。

#### 活動内容

管理分科会では、メンバーだけでなく地元の方々にも協力頂き、以下の活動を行っています。

- 管理分科会では「みちカフェ計画地」に植えた苗木の水まきや除草等の植樹管理の活動を行っています。普段はメンバー11人が4グループに分かれローテーションを組み、週に1回各グループごとには月に1回の活動をしています。平成18年の夏は地元の福祉施設や個人にも協力頂き、週に2回の活動を行いました。また、2ヶ月に1回はメンバー全員が集まる定例会を行い、苗木の管理に関する報告や今後の相談、イベントの企画等を行っています。
- 地域住民の方々と共に「植樹イベント」  
管理分科会の企画・運営、「みちカフェ計画地」の沿道に苗木を植える地元住民参加型の「植樹イベント」を行っています。すでに「第1回植樹イベント」を平成18年3月25日に実施し、「みちカフェ」メンバーの他、地元の小学生が保護者、福祉施設の方や、自治会・婦人会の方々等約100名に参加頂き、周辺の山々から集めた約250本のコナラ、ヤマザクラ等の苗木を植えました。
- 地元小学校の児童と共に「森の学校」  
管理分科会の企画・運営、地元小学校が名道沿道の辺の自然を学ぶ為に「みちカフェ計画地」に植える苗木を育成する場として「森の学校」を開催しています。「第1回森の学校」を平成18年10月7日開催し、一般公募で集まってきた7組16人の方々とともに地域の里山の植生観察と小学校の植え付けを行いました。又、この活動は小学校の総合学習に展開した「森の学校 in school」を平成18年11月6日及び10日に地元2つの小学校で開催し、3年次の児童約200人に約400個のツングリを渡して頂きました。

## 第2回 関西元気な地域づくり発表会

大阪府簡易宿所生活衛生同業組合 大阪国際ゲストハウス地域創出委員会

### 西成区あいりん地区の外国人旅行者を活かした地域づくり

#### 活動方針・目的

西成区あいりん地区（通称・釜ヶ崎）に最盛期で約200軒あった簡易宿所（簡宿）は、日雇いの労働者の高齢化とバブル崩壊後の建設不況を受けて、1990年代半ばから、日雇いの労働市場が縮小するなかで苦境生活者が急増するという地域問題への対応を迫られてきた。その結果として、21世紀に入り、90軒余りの簡宿が延滞通の日雇いの労働者向けに宿泊を提供し、80軒余の簡宿が生活保護受給者向けの福祉マンションやサロニールハウスに転換し、残りの多くは廃業・業種転換することになり簡宿が形成された。10、20年代の簡宿区を予想するならば、若い日雇いの労働者が簡宿に流入し続けなくてはならず、労働者0日の生活保護受給者も減少して行くであろう。近いうちに必ず訪れる簡宿の廃絶の危機に備え、大阪府簡宿組合は2005年頃から大阪国際ゲストハウス地域創出委員会（OIG）を設け、欧米からの（ツングリ）観光客・個人自由旅行者やアジアからの若者、ファミリーなど、新たな顧客の開拓に向けた実務的な取り組みを13軒の簡宿で始めた。

OIGの活動内容は、簡宿の既存設備を最大限利用して簡宿を投資せず、良質な立地条件と簡宿に集まっているという利益を活かし、投資を要する外国人旅行者を積極的に受け入れていくのを重視し、簡宿を本来の宿泊施設として再生する道筋を画策することにある。OIGの活動目的は、各軒からも呼びかけよう、単に外国人旅行者を受け入れるだけでなく、近隣の商店街や町内会・NPO・行政・大学などと協働して、外国人旅行者のニーズを総合的に満たせる国際ゲストハウス地域を創出することにある。OIGの活動は、あいりん地区のまちづくりに新たな気運をうみだす一方で、それにとどまらず広く新古界隈や大阪をも視野に入れ、外国人旅行者の暮らしを介在させて、地域の再生と地域イメージの改善を図るものである。

#### 活動内容

OIGは外国人の個人自由旅行者という新たな顧客を開拓するため、様々な活動を行っている。まず、13軒の簡宿を紹介するパンフレット「大阪の安い宿」を英語・漢語・韓国語で作成し大阪各所の観光案内所に配布している。そのほかは大阪大を起点に展開している。大阪大には大阪大の学生が、また、OIGのホームページ（http://www11.ocn.ne.jp/~7ecom/e/og/index.html）も立ち上げ、パンフレット、三方旗で情報発信を行っている。最近では、近隣の商店街や町内会、釜ヶ崎町生フォーラムなど地元NPOと情報交換して連携を強化するとともに、大阪近郊および京都・奈良といった観光地の情報提供も行い、松村研究室と協働してOIG宿泊ホテル発の大阪下町ツアーも実務的に行った。

一連の活動の成果として、外国人旅行者の増加は顕著に伸びてきている。OIGに加盟する5ホテル（ホテル中央グランド）の統計によると、2004年度の900泊から2005年度の22、000泊へ急増し、2006年は35、000泊に急増する勢いである。外国人旅行者が急増するにつれ、テレビ・新聞などマスメディアの取材申し込みに相次いだが、地域イメージの改善に資するよう積極的に応じてきた。近隣の商店街にも、大阪観光コンベンション協会提供のe-menusでメニューの地産地消化を図り、外国人旅行者のニーズに対応する飲食店も増えている。大学との協働では、松村研究室による外国人旅行者の英語やニーズに関するアンケート調査（06年1月）、大阪市立大学都市研究ラテラが西成区ラテラ開設（06年12月）に協力した。

## 第2回 関西元気な地域づくり発表会

大阪淀川市民マラソン実行委員会

### めざせ1万人！大阪・淀川市民マラソン

#### 活動方針と目的

「ふるさと・夢づくり協議会」が提案する「環淀川市民構想」が原点。大阪の歴史・文化を育んだ母なる川「淀川」を囲む地域住民の連携を深め、世界にアピールできる淀川を見直す。

「河川敷のフルマラソン」市民の夢づくりマラソン（「環淀川と人になやみエコマラソン」を、大阪・淀川市民マラソンならではの特長とし、だれでも参加しやすく楽しめることをモットーとし、ボランティアのスタッフが毎年工夫を重ねながら運営している。制覇時間フル8時間、ハーフ4時間と長良開設定。参加料も他より低く維持。また、エコマラソンとして、ランナーに排気ガスを吸って走って欲しくない、CO2排出を削減するためにの思いから、10年前の第1回より電気自動車や天然ガス車などの低公害車（エコカー）を運営車両のすべてに適用しているほか、「ランナーも淀川美化委員」といった呼びかけで人が増えてもゴミが増えないマラソンを目指している。

#### 活動内容

淀川の河川敷を走るマラソンを実現するため、「大阪・淀川市民マラソン実行委員会」を結成し、近畿地方整備局淀川河川事務所、財団法人河川環境管理財団大阪事務所との共催で「大阪・淀川市民マラソン」を毎年11月の第1日曜日に開催。第1回は参加ランナー約1、800名でスタート。知名度が高まるともに参加申込が増え続け、10年目の「06年11月5日（日）の大会は参加ランナー約6、000名で開催。現在近畿においては福知山マラソン、福山ABCマラソンに次いで3番目であり、フルマラソン全国約60大会のうち18位に入る規模に成長した。一般による「手づくりマラソン」ながら、雑誌「ランナーズ」の人気投票で全国約1700大会のうち常に100位以内にある。また、排気ガスのないマラソンコースとしても注目され、世界に誇れる大会といえる。

一方、ランナーの約47％、一般・企業ボランティアの約85％が淀川流域の市町村から参加しており、スタッフを含め参加者の5割近くが「環淀川市民」であり、全国区のマラソンに成長するとともに、より地域に密着した存在になってきている。

## 第2回 関西元気な地域づくり発表会

井手町まちづくり協議会

### 井手町まちづくり協議会の住民主体のまちづくり再生

#### 活動方針・目的

井手町まちづくり協議会は、町内で別々の活動をしているボランティア団体が連携し、自らの手によつて町の活性化をはかることを目的に平成12年5月に発足した。  
（現在、加入団体は13団体）

#### 活動内容

活動拠点となる「井手町まちづくりセンター構想」の管理運営を行い、来館者のもてなしや特産品の販売、かまど炊き、ガイド、陶芸の体験、野菜市、能力祭等の各種イベントの企画を行っている。

## 第2回 関西元気な地域づくり発表会

伊吹の源流を考える会

### 琵琶湖の源流を下流民と共に考える～エコミュージアムとエコツアー～

#### 活動の方針・目的

地球は「水の惑星」と言われていますが、人間が飲める真水、淡水は1パーセントといわれています。日本で言えばその宝庫が琵琶湖です。琵琶湖にはたくさんの川が注いでいて、川には源流があります。源流を守れば琵琶湖もきれいになります。中でも北近江には、まだまだ豊かな自然が残っています。特に東・北部の伊吹山地には、貴重な動植物も多く生息しています。この自然に触れ、「源流を愛する人を増やしたい」として、未来永劫に水を安全に琵琶湖に注いでいくことが現代の私たちの大切なことと考えたいと会を結成し活動を行っています。

また、旧家蔵を改修し源流の会の拠点としながら一般にも1000円の使用料で解説し田舎体験を味わってもらっています。

#### 活動内容

地域の素材を最大限に活かした活動を行っています。会のメンバーはイラストや動物写真家や植物の先生、猪の生態を調べる大学教授、ベンジョンのオーナー、フランス料理店シェフ、公務員、地元青年など30名で伊吹山周辺の動植物を肌で感じる「伊吹山エコツアー」や「源流曲五色の滝エコツアー」などを企画し、下流の都市の方と地域の皆さんと共に源流を知っていたき源流ファンを多くつくっています。

また、旧家蔵を改修し源流の会の拠点としながら一般にも1000円の使用料で解説し田舎体験を味わってもらっています。

## 第2回 関西元気な地域づくり発表会

大阪商工会議所 地域振興部

### 「大阪ナイトカルチャー」事業

#### 活動方針・目的

大阪にいま、働く人や国内外からの訪客が、「暮らす」「楽しむ」、「遊ぶ」かつ「文化」的なナイトライフを過ごすことができる街・大阪を目指すと共に、新たな夜型都市の開拓と拡大を図る。

#### 活動内容

- 新たなナイトスタイルの企画・普及
  - レイショの開催
    - 主要ホテルや美術館等レイショの企画を働きかけ、ホームページ（http://www.osaka-nightculture.com/）やメールマガジン（週1回約2、500件配信）、ブログ（http://yapple.blogspot.com/）、「大阪ニュース」（大阪商工会議所広報誌：月2回45、000部発行）等で広報・集客に協力。これまでに大阪府庁主要ホールでのレイショ（午後7時半以降開始のコンサート、美術館）が実現したほか、伝統芸能（文楽、歌舞伎、能）、スポーツ（野球、バスケボール）など、様々な分野で開演時間短縮の呼びかけ、夜間予約チケットの発売などが実現した。
    - レイショツアー（飲食店や美術館などの地域イベントの開催・活用）
    - 大阪ナイト、いっぴきホテル、大阪商議所、カルチャーランド世界館、山本建築家、なんばグランド花月、舞臺神社などで、来場者への周辺飲食店マップの作成・配布、レイショと周辺飲食店の食事メニューをネットにしてアップ、レイショと周辺飲食店が対応する飲食店メニューイベント、周辺店舗のレシート表示によるコンサート料返還の企画を提案・実施した。
  - 多様性ある夜型エンターテインメント及び観光メニュー等の開発
    - 美術館展、美術館と夜型エンターテインメントの連携
      - 国内美術館展、大阪国立美術館、東洋館美術館等を平日夜に特別開館し、美術展覧と館内のコンサートや食事を組み合わせたイベントを開催。平日夜にやう美術館展とコンサートを実施したい法人に呼びかけをし、毎週3回にわたる人気企画となっている。
      - 上方伝統芸能のコンサートを開催する会社（パフォーマンスの開催）
    - 観光客や社会人が伝統芸能を気軽に鑑賞できるような、能、狂言、文楽、落語など様々な伝統芸能を一堂に鑑賞できるイベントを平日夜に御園神社や山本建築家で開催。伝統芸能とジャズや音楽を同時上演することで、伝統芸能に馴染みの無い集客の増加に期待している。
    - 新たな夜型イベントの開発
      - 新大阪駅やナガラジ・ヴィンセント、能楽堂の夜型ライブなど、新たな夜型イベントを積極的に企画・実施している。
  - 夜間における観光振興及びナイトライフの振興策
    - 大阪ナイトカルチャー・ミッドナイトチェックイン夜間の普及等
      - 夜間滞在の促進策として、伝統美術館・博物館で夜型展示やライブを行うように、ホテルが毎日午後11時後の空室を大幅割引で提供する制度を企画・実施。平成17年12月には大阪府下主要40ホテルで開始したところから、TVで大きく取り上げられて反響を呼び、平成18年4月より75ホテル、9月からは96ホテルと参加ホテルの拡大。平成18年7月末までに、603ホテル、900館を参加し、宿泊客は約40、400泊にのぼる遊覧観光効果があった。
    - 大阪ナイトカルチャー事業の発展、ブランド向上
      - シンポジウム開催（新聞はと）や、広報誌等での本事業に対する各関係者のインタビュー記事掲載、協賛事業（本事業の開催に賛同するレイショツアーなど）のPRチラシなどのキャラクター・情報発信ホームページ開設などを行い、ブランド向上と普及を図っている。

## 第2回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人釣り文化協会

### 「茅渚の海ふたたび」市民による環境モニタリングシステムの構築について

#### 活動方針・目的

釣り人が中心となって大阪湾の環境をモニタリング（監視）し、釣り人の視点での大阪湾の釣り環境の現状や変化を分析・評価して、市民に生かす情報として発信する。

この取り組みによって、釣り人のマナーの向上と環境意識の高揚を図り、釣り人一人ひとりが大阪湾再生に取り組みと共に、市民や関係機関との協働の裾野を広げ、「市民による環境モニタリングシステム」としてネットワークの構築をめざす。

多くの市民参加により、市民の目標への取り組み（いま）を知り、「茅渚の海」として再生を図る取り組みや「100年後、1000年後も茅渚の海であり続けるための取り組み」につながっていくため、「まず、できることから始めていこう」をモットーに取り組んでいる。（平成18年度全国都市再生モデル調査に選定）

#### 活動内容

多くの市民が参加したモニタリング調査の実施

モニタリングシステム構築検討会議の開催

新鮮な情報を発信する体制の整備

シンポジウムの開催















## 第4回 関西元気な地域づくり発表会

美しい加古川を取り戻そう

### 草木染KAKOGAWACOLOR

#### 活動方針・目的

「川・海・地球が元気になる→私たちも元気になる。まずは、身近な加古川から。少しでも加古川の水が美しくなりますように→加古川の河原の草花のみに染めた上からKAKOGAWACOLORを皆さんに知っていただきたい。」こんなメッセージとともに、草木染教室をしていかなかで知り合った仲間と翼翼に活動しています。

私たちの活動が、一人でも多くの方に、自然を大切にしようと考えきっかけになればと思っています。

#### 活動内容

草木染とは、植物の葉汁で色をつける染色のことです。この染色の方法では、きれいな水を使うほど、美しい色が生まれ、元氣な草木からは選んだ色を選ばせることができます。月に1度、加古川の河川敷に草花を染むために足を運ぶと、四季の移ろいを感じることができます。季節ごとにセイヨウカラシナ、あかつき草、コスモス、風くさ、くす、ススキとさまざまな草花が出現し一面を多彩に咲き染めています。この草花から色をいただき、染める。こんな美しい色が、私たちのすぐそばにある自然から生まれることを知ってほしい。そんな想いから、草木染教室をはじめました。

一方で、河原にいくたびに、私たち人間が自然を汚していることにショックを受けました。ゴミがあふれ、木々のあたりにはビールがまきまきありさま。そこで、草木染から生まれる美しい色を伝えるだけでなく、「自然を守ろう」というメッセージを人々に伝える活動を仲間とともに始めました。

そのひとつとして、年間数回の作品展を開催し、メッセージを伝えるために、絹のストールを流域の皆さんにも使ってもらうことにしました。ストールは身につけただけの意味がありません。身近な加古川で採れた草で染められたものだからきれいなのでしょうではないかと考えました。そして、売り上げの一部は、リバークリーン・エコ旅銀行など、加古川流域で活動する団体に寄付し、水質改善の取り組みに役立ててもらっています。

作品展を通して私たちの活動に賛同してくださる方々とのつながりが広がっています。

自然を守っていくという人々の広がりがいまの私たちの活動の原点になっています。

- ・私たちのメンバーから、ヘアで油をとる
- ・ちょこっとスミをちょこっと川へを広める
- ・私たちのショールを手にしていただいた方は川の水を大切にしてくれる、と願い活動しています。

## 第4回 関西元気な地域づくり発表会

和歌山県 印南町 切目川エコクラブ

### 印南町の切目川を活かしたまちづくり

#### 活動方針・目的

自然豊かな地域、自然が豊かな今だからこそ、自然の大切さを訴えていきたい。

#### 活動内容

人々に自然に親しんでもらえる環境を整備する「ピートープ部」と、様々な体験会などを開く「イベント部」の二つから構成されています。毎年2月下旬から5月上旬にかけて開催するホテルの幼虫の放流（今年は3月に開催予定）、6月には自然のなかで自由に遊ぶフレイパークとホテルの鑑賞会、そして有機農法による無農薬米を栽培するためのアイガモ農法を毎年実施していますが、ほかにも印南町内などのイベントへの出演・参加、現地の生物の鑑賞会などの活動を随時おこなっています。

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

財団法人山本能楽会

### 上方の伝統芸能を活かしたまちづくり

#### 活動方針・目的

大阪は古く歴史あり、他に類をみない「文化集積都市」である。しかしながら、一般には「危険で訪れたくない街」「お笑いとたこ焼きだけの町」といったイメージを持たれがちである。そこで、太極秀吉の時代以来、大阪で育まれた豊かな文化をジャンルの垣根を越え、若人たちが共同で発信し「文化の青い高いまちづくり」を行うのが本活動である。大阪では、単に芸能を鑑賞するだけでなく、実際に観劇をして芸能を味わう人口が多く、その分厚い層によって豊かで多岐にわたる芸能が生まれ、育まれてきた。現在一般的にはそのような文化的な価値観は、忘れられてしまい、逆に文化遺産の価値といった印象すら持たれるようになった。本活動は、大阪の持つその豊かな文化資源を活用し、時代に即した新たな魅力を発掘することで、数百年前と変わらない伝統芸能の世界を活性化し、大阪の街を文化の力で元気にする事を目的としている。

また伝統芸能の世界では遠くはくいく若手に発表会の機会を創出し、次世代を担う若手の育成の場としても貢献である。あらゆるジャンルの芸能が出演する事で、それまで少なかった若人アーティストも本場で活躍に行けることで、お互いの芸能に刺激を与え合い、上方伝統芸能の世界に新たな価値を吹き込む事にもつながっている。今まで能楽、文楽、上猿舞などの伝統芸能と、落語、漫談、漫才といった演芸は、同じ舞台をつとめる機会が少なかったが、お座敷遊び、活動写真などの演目も加え、多岐にわたる大阪に伝わるあらゆる芸能が一舞台を占める場を創出することで、大阪の街が持つ魅力である「ごちやんせえ」とリンクさせ、大阪にしかない、大阪独自の魅力を全国に情報発信し、「大阪の活力」をアピールしていきたい。

#### 活動内容

能、狂言、文楽、上方舞、落語、漫談、漫才、音楽、宝楽、お座敷遊び、活動写真などの中から落語家の母会と賛同により、一戦に4種類の芸能の面白く部分のみをダイジェストで抽しんで公演である。数百年前と変わらないと思われがちな伝統芸能であるが、落語家の笑いや文楽が若者に受け入れられるよう案内をする。また途中の「体験コーナー」で、直接出演者から、芸能を教してもらい体験をすることで、客席と舞台の距離が近くなり、臨場感がし、さらにリラックスしてご覧頂く事ができる。そして、全ての芸能について、その芸能の解説、大阪との関わり、演目の紹介などの資料を配布させて頂き、公演前・あかつき明後日観劇を持って頂けるよう促している。また、能、文楽、上方舞、お座敷遊びなどの芸能は、「何をやっているのかから知らない」といったご意見を多く頂くので、時間を設けるときに、「手廻し」でも解説し、権経で御覧をみなさんが観覧できる工夫をこらしている。

また本活動は毎月第1、第3土曜日の定期公演として、年2回（年間4回）行っているが、2019年春は7公演において、日本橋、浜崎、中區、豊島区による江戸川開港150周年を祝うべく日本に在住の外国人や観光客にご好評を頂いたので、古典芸能の世界においては、他に例のない過渡的なことである。また毎年大晦日には「年越しイベント」を開催し、落語文化対の能楽堂を持つ伝統的な舞踊の中で、日本の文化の素晴らしさを感じて頂き、日本人が忘れていている美意識を喚起して頂く機会を創出できればと考えている。

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

本宮町商工会

### 田辺市本宮町の地域資源を活用した着地型プラン事業で地域活性化

#### 活動方針・目的

世界遺産登録により熊野古道・熊野本宮大社への来訪者は急激に増えたが着地型の事業者にあまり変化がなかった。むしろ宿泊客は年々減少の方向にある。

魅力ある着地型プランの開発が必要という事に気がつき、歴史的な表現と多くの方に関わりを持つものとして平安衣装結緒式・記念日プランの開発して事業展開をすることに至った。来訪者のサービスはもとより、地域における着地型プランとしての向上と地域活力の増進に寄与することを目的とする。各事業者が新たな事業に取り組みることにより地域の活性化を目指す。

#### 活動内容

- ・着地型のマストとして歴史を感じる平安衣装結緒式のモデルプラン実施。
- ・参加事業者の意識の向上、事業体制づくりに向け、繰り返し勉強会と個別の打ち合わせを実施。
- ・着地型をめざし地産を活かした「伝統料理OLD&NEW」や「熊野本宮スイーツ」の研究会・試作会を実施し、参加事業者が伝統的な食から新しい食を開発し、事業クラスターをめざした。
- ・地元、関西圏、中部圏、関東圏の展示会へ出展し、試食実施と着地型に向けたアンケートにより、意識・ニーズ調査を実施。
- ・事業の報告会と各方面の方にご出席いただき参加事業者の発表の場を設け意識向上をはかった。
- ・パンフレット、ポスター、参加事業者MAPによる実店の運動。

## 第4回 関西元気な地域づくり発表会

駒ヶ谷小学校生き物クラブ講師 滋賀県立大学環境生態学科1年生 ○吉村 元貴

### 地元を流れる飛鳥川を通して自然の大切さ、生き物の尊さを学ぶ。

#### 活動方針・目的

活動の目的として子供たちに川を通じ、自然について実際に肌で感じ、感じとってもらうこと。

活動の方針として子供たちにもっと身近な飛鳥川になってほしいので地域の人々と子供たちと行政（土木事務所）で意見を出し合いよりよい飛鳥川になるようにすること。

#### 活動内容

- (ア) 身近な自然・季節の変化を知ろう。  
→身近にはどんな環境があり、その中でどのような生き物が生活しているのかを知る  
→季節の変化を生き物を通して感じる
- (イ) ガサガサで魚とりをしよう。  
→飛鳥川に1年に最低1度入って魚とりをしています。子供たちと一緒に外來魚駆除りなどもしました。
- (ウ) メダカについてもっと知ろう。  
→メダカを知らない子供たちにメダカという魚をもっと知ってもらい、今、減少傾向にある飛鳥川にメダカが増えるように水槽で繁殖をおこなうことを通しメダカについて観む。
- (エ) 飛鳥川にいてもっと知ろう  
川（飛鳥川）について魚・その他の生き物や河川改修で川はどのように変化したのかなど様々な視点から見る

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

さこし船岡を良くする会

### 宝珠山を起点とした村づくり

#### 活動方針・目的

先人が築いた大切な文化遺産や景勝を広く市民や観光に訪れる人に提供し「癒やし場所」を復活して魅力あるまちづくりを目指す。

#### 活動内容

- (1) イベントの実施 史蹟や景勝と地元の海産物や名物を取り入れたガイド付きウォーク
- (2) 観光提案の実施 森の利用 幼稚園 小学校 テーマは森を利用し学ぶ
- (3) 整備清掃 手作り椅子や貸し出し用登山杖の作成及び草刈作業
- (4) 情報発信 会報誌の発行 JRRや大阪湾ベイエリア開発機軸との取り組み
- (5) 名物づくり 弁当、菓子の開発

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

また期待余呉をみんなで作るアイディア会議

### 余呉のええもん“探（たん）験（けん）”企画

#### 活動方針・目的

道楽雑誌と雑誌・浜西市余呉町（旧余呉町）では少子化・高齢化が進捗に達し、自治体としての活動が後退しつつある。一方で、古くから北陸―近畿間の要衝として、歴史や文化の遺産で多く残る町である。2008年度から3年間渡瀬川より「湖北ふるさと体験企画」の催しを受け合計8回の「余呉のええもん探検企画」と銘打った事業を実施した。一連の事業を進める実行組織として、町民の公募により委員を募り、「また来た！余呉をみんなで作るアイディア会議（略称「アイディア会議」）を発足させた。そしてこの「アイディア会議」の目的は、次のように定めた。

- (1) 湖北地域への観光体験ツアーをモデル的に実施し、都市と農村の交流を深める。
- (2) 農村体験ツアーの担い手となる人材を育成し、地域の活性化をはかる。

#### 活動内容

以下のような事業（体験型観光企画）を実施した。

- ◆第1ステージ「谷間の田舎で遊ぶ」  
《池部集落》（そば打ち体験、金沢市）体験、餅くね合戦体験）  
◆第2ステージ「富良野の冬の暮らしを学ぶ」  
《雪（ゆき）を（ふ）く（集落）》（湯田、湯田・打ち上げと、「湯（とう）売場（じゅういん）」体験、雪遊び）  
◆第3ステージ「ようこそ 赤毛の狼の里へ」  
◆第4ステージ「（きん）と（きん）のまちめぐり」  
《長瀬寺（しょうしんじ）楽隊寺の仏像体験、座禅体験、郷土料理」  
◆第5ステージ「（きん）と（きん）のまちめぐり」  
《飯沼集落》（旅館組合の作業見学、北沢湖遊覧、郷土料理「田舎飯」）  
◆第6ステージ「第2回 そばの歴史と町並み 名物の歴史で遊ぶ」  
◆第7ステージ「（きん）と（きん）のまちめぐり」  
《池部集落》（そば打ち体験、金沢市）体験、餅くね合戦体験）  
◆第8ステージ「（きん）と（きん）のまちめぐり」  
《池部集落》（そば打ち体験、金沢市）体験、餅くね合戦体験）  
◆第9ステージ「（きん）と（きん）のまちめぐり」  
《池部集落》（そば打ち体験、金沢市）体験、餅くね合戦体験）  
◆第10ステージ「（きん）と（きん）のまちめぐり」  
《池部集落》（そば打ち体験、金沢市）体験、餅くね合戦体験）  
《湯田、湯田、郷土料理「湯田」、2種類の冬の体験）

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

京都フラワーツーリズム推進協議会

### 花なび（今の京都の花情報）－ソーシャルパワーで地域観光資源を輝かせる！－

#### 活動方針・目的

・目的：京都の四季折々の花の開花状況や地域の観光の魅力などについて、外国人観光客を含めた多くの方々にリアルタイムに情報提供・案内を行い、観光誘客の促進と地域の振興を図っていく。 <http://flowertourism.net/>

#### 活動内容

・概要：観光タクシードライバーや個人がおすすめする京都の四季折々の花をデジタルカメラなどで撮影し、それぞれのWEB上にアップされた最新の観光コンテンツを集め、撮影時刻順に公開。同時に「ハイアットリージェンシー京都」の1Fロビーの大型ハイビジョンディスプレイ、京都信用金庫東横田支店、城南宮、大映通り商店街などの「電子ポスター」によりリアルタイムで配信。

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

阪南大学松村研究室

### 新今宮観光インフォメーションセンターの運営とまちづくりに向けた社会的実践

#### 活動方針・目的

阪南大学国際観光学部（2010年4月より）松村研究室は、教員とゼミ生らが一体となって現場と関わり、現場で実践するなか現場から学び、現場と共に育つ「現場共育」という方針のもと、大阪市の新今宮地域（おいらん地域・新世界も含む）において、まちづくりに向けた社会的実践を展開している。我々の活動の目的は、大阪府難波所生所生活生同業組合（以下、同業組合）・大阪国際ホテルズ地域輸出委員会（以下、OIG）・ホテル中央グループ・地元商店街などと協働して、新今宮地域を外国人個人旅行者（以下、FIT）が楽しみ楽しめる大阪国際ホテルズ地域へと変装させることにある。我々の活動はかつてこの場で紹介させていただいたが、今回はその後の展開について報告したい。

#### 活動内容

新今宮地域におけるFITの誘致は順調に進み、近年の外国人宿泊客数は年間のべ8万人近くにもなる。ゲンジノ、まちづくりでめられているのは、（1）FITに様々な情報やサービスを提供して、関西観光の宿泊拠点化を促進すること、（2）FITと地域社会とを確実かつ適切なつなぎで、FITの満足度を高め滞在の長期化を促し、地域経済の底上げ地域再生を図るとともに、地域全体でFITをもてなす機運を高めることである。

以上の認識のもと、我々OIGホテル中央グループ（なか）を支援を受け、「国際観光」という産学連携の形で2009年7月から「新今宮観光インフォメーションセンター（以下、新今宮TIC）」の常設運営を始めた。基本的には土日のみ、9・8・9月など大学の長期休暇中は毎日9時から16時まで運営している。新今宮TICの場所はホテル中央グループから無条件で無条件で提供、光熱費ほか運営コストは同業組合・OIGホテル中央グループなどから支援していただき、実際の運営は全て我々を中心とする学生ボランティアが行っている。国際観光学部を学ぶ学生ボランティアにとって、新今宮TICはその最前線で実践の学び場であり、講義では学べない貴重な経験を積んでいる。新今宮TICの存在は、利用するFITからは喜ばれ、地域のゲストハウスや高床からも喜ばれ、ボランティア学生も充実感が得られるものであり、産学連携の理想的な事例モデルと見える。

新今宮TICの活動は、（1）主にFITに対する観光情報の提供と旅の相談、（2）FIT向けの現地街歩きツアーの企画と実施、（3）国際観光に関する調査研究活動とまちづくりに関する社会的実践、の三つに大きく分けられる。2009年は約120日間の運営で、1・350件2・347名の利用があり、759名の学生ボランティアが対応した。2009年6月に開催した新今宮TIC後の地域活性化サワー「Let's walk around OSAKA!」では、約78名のFITが93名の学生ボランティアの案内で、大阪の「ありきたりな日常」と「ささやかな日常」を楽しんだ。FIT向けの街歩きは2010年6月8日実施する予定である。新今宮TICは単に旅行者に情報提供するだけの場所ではない。2009年夏には、ここを活動拠点として、FITの実態に関するアンケート調査やゲストハウス経営者への聞き取り調査を行い、2010年春からは、「新今宮地域情報サイト」を立ち上げる活動が本格的に始まった。

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人自然回復を試みる会・ビोटープ孟子

### 孟子不動谷の里山自然を活かした地域活性化の取り組み

#### 活動方針・目的

私たち（特）自然回復を試みる会・ビोटープ孟子は、1998年2月、海南孟子荒糸（通称：不動谷）の一角に水辺ビोटープを掘削し、そこに集まる水生昆虫を地元の小学生とともに観察することから始めた里山保全を目的とするNPO法人です。2002年2月、NPO法人として登記し、孟子不動谷の豊かな里山自然を活かした地域活性化を活動方針として事業展開をしています。

#### 活動内容

- 孟子不動谷の里山保全活動
  - 動物群モニタリング調査
  - 無農薬稲作・畑作
  - 炊飯会
- 環境学習の拠点としての活動
  - 人材登録（和歌山県環境教育アドバイザー）
- 地域団体の参事となる事例
  - モニタリング、史跡研究「北野上・山東地誌」編集（和歌山県海草振興局）
  - 高齢者の生きがいづくり
  - 日本ユネスコ未来遺産登録
  - 「孟子不動谷生物多様性活性化プロジェクト」が採択（平成21年12月）

- （1）間伐材を活用したトンボ池（水辺ビोटープ）の補強緑土緑化推進機動資金
- （2）紀の国森づくり基金の積極的活用 里山資料館改築&大旗山里道改修
- （3）指定管理者制度の活用 海南市わんぱく公園

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

大江まちづくり協議会

### 大阪市天王寺区大江地区の四天王寺を活かしたまちづくり

#### 活動方針・目的

日本最古の仏教寺院である四天王寺を核にして、他の組織・団体を協働しながら小学校区である大江地域の活性化と安全可能な「まちづくり」を推進する。

#### 活動内容

- （1）大江まちづくり協議会の活動
  - イ、四天王寺大毎日・元旦の除夜の鐘、開運・招福の鐘行事に合わせ参道と境内を灯籠で飾り、賑わいを彩る
  - ロ、7月の七夕前後の土日を中心に四天王寺に於いて「七夕のゆづり」を举行（内容）笹トナレ、七夕参道飾り、七夕コンサート、七夕縁日、七夕星上会、天王寺七坂巡り
  - ハ、立派なふれあい街の開催
  - ニ、四天王寺に因んだ新商品開発と販売の推進
  - ホ、タウン誌「わがまち大江」の定期発行、協議会のホームページ立ち上げ。
- （2）地域の他の団体との協働
  - イ、放置自転車の整理と市による駐輪場の設置
  - ロ、大江体育施設開放事業運営委員会との協働
    - ・9月の大江ふれあい祭り
    - ・春の餅つき大会
    - ・四天王寺にての大江小学校児童の卒園会
  - ハ、地域の婦人会との月一度のふれあい喫茶と出前講演などの開催
  - ニ、大阪市街並み集計事業の窓口、門前町の活性化推進

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

近畿総合メンテナンス株式会社

### 田尻町の田尻歴史観を活かしたまちづくり

#### 活動方針・目的

長い間に培って来た建物メンテナンスのノウハウを生かし、古き良きものを利・活用しながら後世に残してゆくという目的をもって活動しています。

#### 活動内容

- ・1階ホール・食堂をカフェレストランとしてオープンし、室内楽やオカリナの演奏会等を開催しています。
- ・洋館の2階は、絵画や陶芸・写真等々のギャラリーとして、また和館では吟行会や会議等に、茶室はお茶会などを活用して頂いています。
- ・そうして建物のメンテナンスをし、この建物を建てられた谷口氏の「生き様」を見学に来られたお客様に聞いて頂いております。（案内はボランティアさんがしてくれています）
- ・レストランでは、田尻町ならではの食材にこだわり、地元で採れた野菜を中心に魚介類も地元所産漁港等から仕入れた新鮮なものばかりです。
- ・案内所は、英語版・中国版・台湾版も作成、関西空港や田尻町にあります国際交流センターのお客様を広く迎えております。

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人日本ウミガメ協議会

### 神戸空港西緑地人工池でのウミガメエコツーリズム

#### 活動方針・目的

日本ウミガメ協議会の活動は、ウミガメの調査・研究の他に、調査や研究でわかったことやウミガメに関する正しい知識を社会へ広えていくことに力を入れています。

2007年より「ウミガメエコツーリズム」というイベントを神戸市で開催しています。神戸空港西緑地人工池で夏場、保護しているアカウミガメとふれあいが、ウミガメの現状などの講演会をおこない、少しでも多くの市民にウミガメに興味と正しい知識を知ってもらいたいと思っています。このイベントをおこないウミガメへの興味をもってもらい、イベント以外の時もウミガメを観察に来てもらうことで、神戸空港西緑地人工池が市民にとってにぎわいの空間になってほしいと思います。

#### 活動内容

夏場、大阪湾内にも多くのアカウミガメが産卵場所や餌を求めて回遊してくるが、船の航行、漁業が盛んにおこなわれている大阪湾では、回遊して来たウミガメが船との衝突や漁網にかかり、傷つき命を落とすことも少なくありません。そこで、大阪湾内で発見、保護したウミガメを神戸空港西緑地人工池に移し保護する活動を2007年より開始しました。

月に1回、ウミガメエコツーリズムを開催しました。ウミガメエコツーリズムでは、当会研究者によるウミガメの講演会、ウミガメの健康診断（体長や体重の測定）、甲らのコケ掃除などを行い参加者がウミガメを間近で観察できふれあえるようなイベントの内容にしました。また、夏休み中、土日休日は神戸西緑地人工池を市民に開放しいつでもウミガメを見に来てもらえるようにしました。必要に応じて監視スタッフがウミガメの解説をおこないました。

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

平成OSAKA天の川伝説実行委委員会

### 水の都を活かし人々の心根をやさしくする地域活性化

#### 活動方針・目的

く川からのにぎわいく・元気づくり

- （1）水都大阪の川面そのものを活用して新たな夏の観光資源とすることをめざす。
- （2）実施時期は、天神祭本祭の始まりとされる「星愛七夕まつり」と期を一にした七夕とし、広く人々への心と希望の光を灯すことをめざす。
- （3）ふだん見られることのない川面を見つめる機会を提供することによって、水資源、水環境に対する感謝の気持ちを醸成することをめざす。

#### 活動内容

一般市民に、LEDを光源とする直径約10cmの光る玉「ゆいり星」の放流権をご購入いただき、七夕の夜に大川に放流し天の川を出現させる。

【実績】2009年第0回 2万個を放流  
2010年第1回 5万個を放流予定 ※人々に定着させ、毎年実施する予定

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

宇陀松山華小路実行委員会

### ダリアの華で地域を元気に！宇陀松山華小路2009

#### 活動方針・目的

奈良県東部の山間部にある国の重要伝統的建造物群保存地区、宇陀市松山。「宇陀のまっちゃま」と呼ばれて親しまれている城下町から商家町へと発展した歴史の町並みである。

制度により景観の維持は図られていくが、暮らしの質としての魅力づくりは地域の人間に委ねられる。そこで地元の人に宇陀松山の景色を愛し、生き甲斐を持って暮らして欲しいと思い平成16年から「茶呑みばなしの会」を立ち上げ、思い出話を拾い集める活動を展開した。しかし、壁にぶつかった。

そこでこの活動を次の段階へと進め、より能動的な姿勢で地域の魅力を発掘し、地域への愛着を育て、まちづくりの担い手を広げる取り組みを始めた。それが「宇陀松山華小路」である。

美しいものに触れる体験が、「まちを愛する心」や「景観に調和する建物をつくる努力」につながることを狙いとした。

#### 活動内容

奈良県はダリアの球根産出量が日本一で、その主力を担うのが、山添村と宇陀市榛原区だと知った。これはもっと発信していかなければ、と思い、生産過程で廃棄される花を買い受け、歴史的町並みの路地を飾るイベントを開催。市内外の地域づくり団体や識者の協力を得て、秋を彩る独特の行事に昇華させた。

春に実行委員会を組織し、夏にデザイン協議、秋は花摘みハーサルと本番、という流れで作業を行った。

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

串本・みんなの海をまもろう会

### 串本の海をまもる、地元「民・官」の協力した取り組み

#### 活動方針・目的

串本の海を愛する人々が一体になり、海をキレイにする活動を通して、日本一すてきな串本の海を守りつづけることを目的とする。（以前まで海岸清掃の取り組みは町内各地で行われていたが、より協力を得る体制をつくらうということで設立。平成25年5月に設立された民・官協力による任意団体）

#### 活動内容（H21年度）

- （1）海岸清掃・・・地域住民、地域団体、行政で協力して清掃活動を行っている。（2回実施）
- （2）海ごみ勉強会・・・海のごみ問題に詳しい人物を招き、海のごみの発生原因や、現状、今後の取り組みの可能性などについて学んでいる。（2回実施）
- （3）環境保全啓発を目的としたイベントの開催・・・海のごみをアートに活用するコンテスト、清掃後の海でサーフィンスクールなどの開催。



## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

### 飛鳥川じゃこ取りネットワーク

## 地域を流れる飛鳥川の自然を通した地域コミュニティ作り

#### 活動方針・目的

飛鳥川は多くの生き物が生息し、豊かな自然が残されている河川である。しかし近年、飛鳥川に生息する生き物は数を減らしている。また、川で遊ぶ子どもたちの姿もかつて飛鳥川のように見られなくなった。昔はたくさん生息していたメダカなどの小さな生き物も近年は大きく数を減らしている。このように生き物の減少や子どもたちの川離れが進むにつれ住民全体の川への意識も薄れ、ゴミが捨てられているような光景も見られるようになってしまった。そこで活動目的・設立の趣意として以下の3点が挙げられる。

- (1) 流域住民に飛鳥河乃すばらしさを知ってもらい、流域住民の手で守り、育てること。
- (2) 最近では減ってしまった「川ガキ」（川で遊び、川に親しむ子）を増やすこと。
- (3) 飛鳥川の豊かな自然を維持すること。

#### 活動内容

上記の目的・設立趣意を達成するために、河川清掃活動・水生生物観察会・飛鳥川自然保全活動（魚類相調査・野鳥調査）を中心とし、活動を展開する。まず、魚類相調査・野鳥調査などで川の生態系を把握した上で、飛鳥川の保全活動を進める。その結果をもとに、地域住民や子どもたちに飛鳥川のことをもっと知ってもらい、飛鳥川に愛着をもってもらうために水生生物の観察会を実施する。また、日ごろから飛鳥川への関心を持ってもらうために、定期的に河川清掃活動を実施する。また、来年度から絶滅危惧種のカワバタモロコの保全活動・飛鳥川について学ぶプログラムを流域の子供向けに展開する予定である。

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

### 兵庫県稲美町経営政策部企画課／稲美野荘園自治会

## 「稲荘農場まちづくりの会」と「ダンボールコンポストによるごみ減量」の取り組み

#### 活動方針・目的

「ゆうゆうライフへの挑戦」第3篇として、自治会内の高齢化率の上昇（毎年3%）および二人世帯や独居世帯の増加が急激に進む中、地域住民の連帯意識と交流の場作りを目的に共同農場を立ち上げ「健康づくり」と「仲間づくり」を育む活動を開始した。

#### 活動内容

「稲荘農場まちづくりの会」を発足し、3事業に取り組んだ。

- (1) 健康づくり事業  
・集団農作業による野菜作りによる健康づくり・連帯感づくり
- (2) エコ事業  
・ダンボールコンポストによるごみ減量運動の展開による住民意識の高揚づくり
- (3) 世代間交流事業  
・商が構成の体験学習による三世代交流の地域戦略づくり

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

### 日野川に砂れき河原をとりもどす会

## 日野川に砂れき河原をとりもどす活動

#### 活動方針・目的

昔ながらの砂れきの河原を復元し、地域住民が川に接する機会を増やし、川を見ながら、自然から受ける癒やしや学びの心を感じ、または、釣りや自然観察や集いの場所として川を活用した地域づくりを目指すことを目的としています。

#### 活動内容

始めの取り組みは、日野川の現状を地域に発信する機会を設けました。

水辺での動植物分布の調査、川の周辺にある歴史的遺産や観光施設の研究・水遊びや川に学ぶ体験活動の実践、川の安全講座、日野川漁協のユウ育成施設の見学、Eポート体験・用水の見学など。これらの活動をスタッフや行政、河川管理者、漁協・用水の管理者など関係者が実体験して、ホームページや新聞報道等も活動しながら周知しました。

次に地域住民全員を対象にした活動を行いました。これが、今回の砂れき河原をとりもどす活動の第一回目です。川に関わる専門家が知識と経験を活かして、これまであるさとの川に接することの少ない地域住民が「日野川に行ってみたい、日野川でやってみたい」と感じられるようなメニューをいっぱい詰め込みました。

平成21年7月26日は、「すだ！川に行こう日野川自然博物館」と題して、30人以上の方々に参加した川イベントを実施しました。子どもたちは、魚のつかみ取りから魚のさばきも焼きも経験し、自然観察では、水生生物観察やEポート体験、企業からは、ソーラーパネル展示や魚道システムの展示、行政からは魚道観察など、イベントの準備・宣伝・実践まで行政・住民・企業が一体となってイベントを盛り上げました。そして、このきっかけを活かして、今年も活動をスタートさせています。

## 第6回 関西元気な地域づくり発表会

### NPO法人原始人の会

## 万願寺地区の田舎風情を活かしたまちづくり

#### 活動方針・目的

一般市民に対して地域の活性化に関する事業を行い、豊かで住みよい地域づくりに寄与する事を目的とする。

#### 活動内容

地元の人々「な〜んも無いところや!」と言います。 都会から来られたお客様は「枯れ果の舞う音が聞こえるなんて 最高の贅沢!」と仰います。

一見何もない山あいには炭焼窯を造ってから10年超、奇妙な名前の奇妙なイベントを重ねに重ね、地元の人でも誰一人訪れる事なかった地に年間1万人近いお客様が ①酒造を求め ②猪・鹿肉や田舎料理に故郷を求め ③古民家を改修した2軒の「田舎暮らし体験施設」へ癒しを求め ④「田舎体験男女ふれあい交流会」へ田舎男性との出逢いを求め ⑤放棄田を復活させた「幸せ食材づくり隊」へ食の安全・安心を求め、また、趣旨は違いが ⑥活動状況の視察等・・・と全国・各地から色々なお客様にお越し頂けるようになって来ました。一方、3年越しで取組んで来た高齢者の定年を守る公共交通問題も、コミパの事業運営を加西市から受託する事が決定し、平成23年2月1日に開業出来る運びとなり、現在の一通8便から一日6便へと交通の便を飛躍的に向上させ、引もとりがちな高齢者が自分でも自由に行動出来る喜びを実感頂く事により、高齢者は元より現役の若者への支援が図れるものと確信しています。また、現状ではマイカー以外当道へお越し頂く術はありませんが、バス運行により、公共交通を利用した市内全域や都市部のお客様の集客にも弾みが付くものと期待しています。

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

### 北大江地区まちづくり実行委員会

## 住・職・楽、みんなで取り組む都心のコミュニティづくり

#### 活動方針・目的

北大江地区は、大阪城の西側に位置し、近畿地方整備局をはじめとする官公庁や、学校、大小の事務所ビルや商業施設、マンションや住宅等の混合する、都心の連合振興町会（自治会）の区域である。北大江地区まちづくり実行委員会（<http://kitaooe.ocolog-nifty.com/blog/>）は、平成10年に発足し、「住み、働き、学び、遊ぶ、全てが快適な都心」を、住み、働き、学び、遊ぶ人の協力で実現することを目的としている。

#### 活動内容

日ごろの活動として、まちの中央部に位置する北大江公園の清掃や花壇の管理、天満橋駅周辺を中心とする路上駐輪や道路の不正使用の罰則活動を行うとともに、近畿地方整備局の職員ボランティアが行っている地域清掃に参加している。また、関係機関に参加を求め、花と緑のまちづくりや人にやさしいまちづくりに関する検討会や学習会など意見交換の場を持ち協働のあり方を探っている。

本会の活動と並行して、地域住民等のワークショップでの計画に基づく公園改造、天満橋駅周辺の自転車等放置禁止区域指定と駐輪場整備などが実現し、大阪合同庁舎前の歩行者空間も拡幅に向け事業が進むなど、行政や鉄道事業者による環境整備も進んでいる。

改造が行われた公演では利用者が増えたとともに自主的に清掃をする人も増えたほか、芝生広場など美しくなった環境を活用し、大阪国際女子マラソンに合わせた冬イベント「あったか北大江まち祭り」、まちの特徴である築路工房などの協力による秋のイベント「北大江たそけコンサートWee k」を開催し、都心の魅力向上を進めている。

平成21年度には、社団法人近畿建設協会の支援を受け、「人間重視の道路創造ワークショップ on 町町」活動として、フォーラムワークショップなどを行った。

## 第5回 関西元気な地域づくり発表会

### 堺すずめ踊り協賛会

## 堺に緑ある“すずめ踊り”を絆とした人が輝き元気な地域づくり

#### 活動方針・目的

「人が輝き、地域を元気に!」を合言葉として堺にゆかりの深い「すずめ踊り」を堺の市民文化として普及し、「すずめ踊り」を絆として人と人とがふれあい、喜びが清く溢れた生きがいと住みかたのある「まち」づくりを目指すことを目的としている。併せて、「すずめ踊り」発祥の地・仙台市と「すずめ踊り」を絆として歴史と文化を共有した政令都市間の市民「文化交流」を進める。

#### 活動内容

平成17年、市民活動提案を受けていただき（社）堺観光コンベンション協会が堺とゆかりのある「仙臺すずめ踊り」を第3回「堺まつり」に招聘され多くの堺市民に感銘を与えた。さらに、その発祥につながる歴史と文化の背景が話題を集め、「すずめ踊り」の普及活動と、それを機軸として「すずめ踊り」を絆とした堺と仙台、両市民の「すずめ踊り」交流が始まった。

地域や企業など、仲間づくりを中心として踊り、お祭りおよびサポーター等実技を構成要素とするグループ（祭連：まづら）が主体となって「堺すずめ踊り普及会」が結成され、地域のまつりや各種団体主催行事へ自主的に紹介、普及活動を始めた。また、6月「仙台・青葉まつり」と10月「堺まつり」など、仙台市と堺市の代表的な「まつり」の機会を活かして相互に訪問し「すずめ踊り」を絆として両市民の交流が始まった。

普及活動の進行に伴い、運営上の課題として大枠の事業企画および日常的な実技普及活動の財政支援がクローズアップし、これら課題の解消を目的として支援体制として「堺すずめ踊り協議会」が、同時に表技のスキルアップおよび普及活動に重点を置く「堺すずめ踊り連盟」が発展的に再構築され、活動内容を改訂し機能分担して普及活動に取り組んでいる。

活動を始めた5年を経過した去年の第3回「堺まつり」（10月18日〜19日）においては、メインプログラムの「大小路シンボルロード」大1人（リードで「すずめ踊り」は「堺のアイデンティティ」のグループに位置づけられ、堺の伝統行事「ふんと太鼓」とともに出演し役目を果たした。

## 第6回 関西元気な地域づくり発表会

### 京都フラワーツーリズム合同会社

## ソーシャルまちおこしICTー地域の人を巻き込んでコンテンツ制作！ー

#### 活動方針・目的

- ・背景と課題
- 1）観光地で見かける光景が変わった。訪日外国人は、あたりまえのように、iPhoneを持ってきている！時代は、スマートフォンを利用したモバイル時代に変入。観光情報の発信は紙からスマートフォンへの移行が求められている。
- 2）観光旅行のニーズが、体験型、着地型に変わってきている。  
観光まちづくりで一番の課題は、いかに地域住民を巻き込むかということ。これからの観光地は、物見遊山のな所旧跡ではなく、地域に密着した生活文化である。来訪者は、「観光地」ではなく、「生活地」を求めており、いかに地域の生活文化的情報を来訪者に伝える手段を構築するかが重要。
- 一方で、まちづくりに参加したいが、どのようにしてよいかわからない、自分の生活や仕事のパターンを変えずに、あるいはそれを活かして気軽に参加したい、という人々が潜在的にたくさん存在する。

#### 活動内容

- ・概要：第5回関西元気な地域づくり発表会で「花なび」の取り組みを紹介したが、その後「花なび」は、上記課題を解決するソーシャルまちおこしICTとして発展してきており、その事例を報告する。
- ・体制：京都フラワーツーリズム推進協議会の事務局を合同会社として分離独立させ、体制を強化。
- ・展開：北海道の富良野へ訪日外国人を含めた観光及びとして情報発信者が負担のビジネスモデルで導入された（富良野広域観光活性化協議会）。出産後の子育て観光を推進すべくファミなび（授乳室、観光地のトイレ、遊び場などの情報発信）の構築をすすめている（京都子連れ観光推進協議会）。

## 第6回 関西元気な地域づくり発表会

### NPO法人五環生活

## 高齢者を対象とした自転車タクシーによるコミュニティ輸送事業

#### 活動方針・目的

交通弱者の実態を把握し、日常的な外出機会を創出する事。また、自転車タクシーをコミュニケーションの場としても提供し、これまで誰もがちな方々の日常生活に対し、新しい楽しみを提供し、生活の質を豊かにする事。

#### 活動内容

対象地区は、旧城下町ということもあり、その雰囲気色を濃く残しているところは一間半（約2.7m）の狭道路に面しており、タクシーなど車が容易に入れない地域が存在している。細街路の奥では移動手段が無い高齢者などが取り残され、引きこもってしまう状況が潜在化している。さらには、コミュニティバスの経営状況の悪化による系統整理及び減便がさらなる不便を招くという悪循環に陥っている。また、移動に困難を抱える交通弱者の問題は、自治会等では少数のために声があがりづらい、市の調査をしても困っている声はそもそも少数であるために把握しにくい。実際に必要とされる人たちに対応したサービス提供ができていないのが現状である。

そこで、自転車タクシーを用いることで、タクシーやバスなどの交通機関ではカバー出来ない部分を補い、移動手段の無い交通弱者にとってドアトドアの輸送を実施する。

会員制として利用者を募ることで、実態を把握し、利用者のニーズに沿った自転車タクシーを創り上げる。

## 第6回 関西元気な地域づくり発表会

輪の国びわ湖推進協議会

### びわ湖一周からはじまる自転車普及社会へ

#### 活動方針・目的

滋賀が誇る「びわ湖一周サイクリング(ピワイチ)」を契機とし、自転車普及社会(低炭素化社会)へ結びつける。自転車の価値・楽しさ・素晴らしさを多種多様な層に再認識してもらう機会を設け、来訪者を増やするという観光効果だけでなく、環境・健康としての創創りを促進する。スロートーリズムとして滋賀が自転車観光のメッカになり、自転車走行環境や協賛ショップにより自転車に配慮した街づくりにつながることで、県民も自転車を利用しやすいまち「輪の国」を目指す。

#### 活動内容

- ①びわ湖一周サイクリング認定証の交付  
びわ湖周辺の道の駅など14カ所をチェックポイントとしてQR(バーコード)を設置(以下QRポイント)。QRポイントを4カ所以上立ち寄り、有料にて申請することで通過時間の記載された認定証と記念ステッカーを発行。
- ②サイクリング情報の提供  
Web上( <http://www.biweko1.jp/> )にてサイクリング情報を掲載。びわ湖一周の基礎知識や、登録会員の情報を元に、「おすすめコース」、「道中情報」、「トイレ・コンビニ・宿泊などの施設情報」を随所に掲載することで、リアルタイムなユーザー参加型のサイトを提供。現在びわ湖一周サイクリングガイドマップを作成中であり、誰もが容易にびわ湖を巡る事ができるような体制を整えている。
- ③協賛店ネットワークの創出  
びわ湖沿岸にある宿泊施設、カフェ等が協賛として活動に参画。協賛店には自転車来訪者に対し「サイクリストに優しい」おもてなしを用意してもらい、当HPやイベント時にてPR等を実施。
- ④サイクリングツアーとレンタサイクル  
誰もが長距離を楽に走れるスポーツバイク(ロード、クロス、MTB等)を常時貸出している。また、滋賀の歴史、自然に触れるサイクルツアーを開催し、自転車の楽しみ方の提案を実施。

## 第6回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 今井まちなみ再生ネットワーク

### 今井町の空き町家を活用支援によるまちづくり

#### 活動方針・目的

今井町伝統的建造物群保存地区において空き家が増えている。このまま放置すると、歴史的景観が守れないとともに、コミュニティが維持できない。そこで、NPO法人が空き家の利活用の推進を支援するため、空き家情報を発信するとともに、所有者とユーザーとの橋渡し事業を行い、平成18年から現在まで17件の空き家成立している。しかし、まだまだ、利活用が進んでいない状況である。そこで、より積極的に支援できる組織のあり方を、平成20年度の「200年住まい まちづくり担い手事業」で検討をしたところである。これを踏まえ、現在引き続き、「江戸時代の請人制度」を現代風に活用できないか検討をする。また、一方で、奈良県内の歴史的町並み地区にも、同様に空き家や空き地が増加しており、そこで、それぞれの地区が単独で活動をするのではなく、奈良県内の歴史的地区全体で情報を一元化して、効率的に空き家の活用を進めることを目的とする。

#### 活動内容

- ① 空き家情報の収集・発信  
今井町の空き家情報をホームページ、情報誌で発信する。また、これから、奈良県内の歴史的町並み地区の空き家の発掘をし、ホームページを立ち上げ、ネットワーク化を図る。
- ② 空き家見学会の開催  
奈良県の数地区で、1泊又は2泊の空き家ツアーを開催し、空き家の内部を実際に見ていただき、まちづくり団体から、各地区の町家の特徴や歴史などを聞き理解を深め、空き家利活用情報を図る。
- ③ 生活体験用宿泊施設への社会実験  
平成21年度に完成した生活体験用宿泊施設「今井庵・家」に短期間滞在していただき、町暮らしについて体験し、そこでのアンケート結果を空き家利活用に活かす。
- ④ 江戸時代の請人制度の研究と現代への活用  
江戸時代家主と借家人との間に立ち不動産のスムーズな流通をしていた家請人制度を研究し現代に支援制度に援用できるかどうか検討する。

## 第6回 関西元気な地域づくり発表会

船場アートカフェ

### 近代建築をはじめとした歴史的建築物等の創造的活用による北船場の都市再生

#### 活動方針・目的

目的は大きく二つある。一つは歴史的建築物の魅力発信を通じて、無機質なオフィス街という街の一般的なイメージを塗り替え、広く地域の内外に向けて、歴史の街・文化の街としての北船場のイメージを定着させること。もうひとつはイベントの企画段階から建築の所有者や地域の方々に参画してもらい、大学と地域の協働を通じて、職業や年齢を超えた、まちづくりを担う都市の新しいコミュニティの核を形成することである。

#### 活動内容

我々は、かつての「大坂殿」の栄華を今に伝える歴史的建築物の多さを北船場の大きな個性と捉え、その創造的活用によって内外の関心を高めることで、地域のまちづくりに取り組んでいる。  
具体的には、2006年より毎年10～11月に「船場建築祭」と題したイベントを開催している。期間中、複数の歴史的建築物を会場として、アートイベントや近代建築めぐり、カフェや音楽ライブなど、様々なプログラムを実施している。とりわけ2008年からは「まちのコモンズ」と副題を加え、建築に限らず北船場の豊かな歴史や文化を様々な角度から紹介するプログラムを実施し、加えて公開空地などのオープンスペース活用を実践するなどして、歴史的建築物を中心としながらも、包括的に北船場の魅力を発信するイベントとして規模を拡大している。

## 第6回 関西元気な地域づくり発表会

やまと郡山環境を良くする市民の会

### 大和郡山市誇りを持てるまちづくり

#### 活動方針・目的

自分たちの街に、誇りを持てるまちづくり。  
身近な壊れた景観、「やまと郡山百景」を選び、市民に知らせ、守り・美しい街を創造し後世に繋いでゆく活動。  
当会では、環境が良くなったと言われる街づくりを行っています。が、「環境」にはいい概念があるため、「環境」を地球・自然・生活・歴史文化で捉えています。この流れは、地球が進化し した方向で、その逆作用が環境問題です。バランスがとれた発展が重要で、その一環としての歴史 文化環境の活動です。

#### 活動内容

「やまと郡山百景」を選定、市民に知らせ美しい街づくりに繋ぐ。  
「やまと郡山百景」の写真展、冊子「やまと郡山百景」制作(2版出版)、講演会開催。  
まちを歩いて見てみよう(講演と現地探訪)の催し実施  
平成21年度 大和様の民家がある集落を歩く  
平成22年度 天船騎降伝承地1 探訪  
平成22年度郡山再発見ウォーク/大和郡山市観光ボランティアクラブが案内  
大和郡山市観光ボランティアクラブと共同で実施する。  
平成21年3月選定の「やまと郡山百景」の地を回る催しを実施、11回実施する。

## 第6回 関西元気な地域づくり発表会

「うるわしのみち 愛宕街道古道を良くする会」推進協議会

### 「もてなし空間、歴史のまち、憩いのまち」に向けて

#### これまでの活動内容と今後の展開

愛宕街道の自然、歴史、文化、風景をテーマとして、NPOうるわしのみち・みちづくり、嵯峨野勝会、研究者等が基盤となって多様な来訪者との交流を重ね、地域の魅力の発信と再発見を重ねながら、美しい地域と魅力的な道空間創造を重ねている。ワークショップや外部アドバイザー・招牌を通して、地域住民や来訪者の愛宕街道の理解を深め、活動の活性化を図っている。リーフレットの作成や地域再発見ワークショップを通じた即地的な課題(道しるべ、空間演出等)の抽出を行っており、その実現化に向けた景観検討を進めている。  
NPOうるわしのみちみちづくりから地域の嵯峨野勝会が指定管理者を引継ぎ伝統的建築の保存、観光資源としての活用を目指して京都府嵯峨鳥居本まち並み保存館の管理運営を行っている。

#### 活動の目標とその達成状況

「愛宕街道(京都鳥居本)」の地域資源の抽出・整理、景観阻害要素の改善の提案、そしてホスピタリティを具体化する装置として、道しるべ等のデザインの検討を行っている。景観を阻害する自動販売機の具体的なデザインを試み、比較的容易な景観配慮型取組として、期待できる結果となった。

意見交換会として、風景賞「たんば三街道」推進協議会「たんば道えし」の視察を受け実施し、相違点を踏まえたうえで、外から見た街道の特徴、生かすべき資源、資源の発信方法についてアイデアラッシュを行うことができた。また、町並みワークショップの開催(地域住民及び外の目から地域を客観的に眺め課題等抽出)により、担い手の面々多くの課題が明らかになり、外部の技術と知恵を活用する必要性を認識した。

## 第6回 関西元気な地域づくり発表会

NPO吹田歴史文化まちづくり協会

### 歴史的古民家(通称浜屋敷)を活用したまちづくり

#### 活動方針

平成15年、吹田市は指定された江戸時代後期の歴史的古民家を保存・修復し、歴史・文化のまちづくりに関わる市民交流の場として「阪田歴史文化まちづくりセンター(通称浜屋敷)」をオープンさせた。浜屋敷は吹田市の公設民営施設として、阪田歴史文化まちづくり協会(平成18年特定非営利活動法人となる)が運営することとなった。以後現在に至るまでNPO吹田歴史文化まちづくり協会(以後協会)は指定管理者として、施設の維持管理及び事業の企画運営を行い、地域のまちづくり拠点施設として利活用している。  
協会は、古民家「浜屋敷」を活かし、歴史と文化のまちづくりを進めるために「市民活動の支援並びに市民相互の交流及び連携の促進」「情報の提供」「講座・研究会等の開催」「地域の歴史資料の収集及び活用」などの活動方針を掲げて活動を行っている。また活動には、清掃ボランティア、まち歩き案内等のボランティアグループの協力による運営という試みを継続している。

#### 活動内容

貸館活動は、年間来館者数約2万人となり市民に活動・交流・情報の場を提供している。事業としては、歴史的建造物「浜屋敷」を生かした様々な事業の企画・実施により地域活性化に取り組んでいる。  
□歴史的古民家(浜屋敷)を活用した伝統行事の実施  
正月飾り・かたまり餅・ひな祭り・端午の節句・七夕祭り・月見茶会・餅つき・年越しそば等様々な伝統行事の実施。  
□地域の民俗資料の収集・保管・公開  
郷土史家加賀眞砂子氏収集による郷土資料を中心とした「加賀眞砂子文庫」の開設など地域の民俗資料の収集。  
□地域伝統芸能伝承者の確保  
市田の伝統に所属しているだんじりの巡回展示・公開。  
郷土史講座の開催による郷土文化・芸能・歴史の継承。  
□地域資源の発信  
ボランティア(吹田まち歩き案内人)が行うまち歩き案内事業による地域景観のまちづくり活動  
公開講座(まち歩き報告会)「阪田の街」「地域のチカラ」等による地域の魅力再発見  
□歴史的建造物の新たな利活用の試み  
現代アート展覧会「阪田まるごとアートまるかじり展」の開催による、古民家の新たな魅力の発掘。  
へつりを使った料理講座、庭園を活用した創作紙など浜屋敷の施設、敷地を活用した新たな試み

## 第6回 関西元気な地域づくり発表会

中区ふれあい事業推進委員会

### 堺市中区フィールドミュージアム構想

#### 活動方針・目的

行基ゆかりの地であり、陶器(須恵器)発祥の地でもある堺市中区では、歴史文化資源に恵まれながらも、地元住民の間でさえもその認知度は低かった。そこで、中区に眠る歴史文化資源を掘りおこし、内外へPRすることで、自らの地域へ愛着や誇りを持ってもらい、地域力を向上することを目的として活動している。

#### 活動内容

中区まちづくり考房は、平成16年に「防災」「魅力創出」をテーマに活動を開始した。平成19年からは「生活環境」「歴史文化」をテーマに活動を展開している。  
「歴史文化」グループでは、月に1回の定例会議に加え、まちあるきなどフィールドワークを実施し、中区の歴史文化資源をいかに地域住民に伝えるか議論を重ねた。その結果、中区全体を博物館に捉える「中区フィールドミュージアム」として魅力をPRしていくこととなった。  
資源発掘のテーマとして、「陶の里」「ため池水系」を選定し、ガイドツアーを開催した。ガイドツアーを開催するにあたり、ツールとしてのガイドブック作成や先進地視察をおこなった。  
また、活動の成果発表として、中区内の自治会役員を対象にフォーラムを開催し、取り組みを他地域にPRした。

## 第6回 関西元気な地域づくり発表会

奈良県山辺郡山添村岩屋「風の会・青葉」

### 岩屋地区の「いなか市」を活かしたむらおこし

#### 活動方針・目的

山添村岩屋地区は、同村内で最も大きな集落でありながら、高齢化が進み、耕作放棄地の広がりなど農地の荒廃がすすんでいる。しかし、地域では、その現状を変えようとする仕組があり、「風の会・青葉」を結成。地域資源を活かし、「いなか市」のとくくみなど、周辺都市住民との交流を通じて、地域の再生・活性化をはかるうとしている。

#### 活動内容

2009年春から農地環境整備事業の導入に際して、耕作放棄地の解消や地域活性化に向けて会合を重ねてきた。同年12月に「第1回岩屋いなか市」を開催、続いて2010年6月に「第2回岩屋いなか市なるホタル鑑賞の夕々」、11月の「第3回岩屋いなか市」を開催し、近隣の三重県名張市など都市住民との交流をはかった。この「いなか市」のとくくみを通して、これまで捨てられていた地域の農産物が、高齢者をはじめとした地域の兼業農家の臨時収入となっている。

## 第6回 関西元気な地域づくり発表会

### 長岡中央商店街振興組合・京都府長岡京市役所 環境政策推進課 “チームアゼリア” 商店街から発信する地域協働の環境まちづくり

#### 活動方針・目的

商店街と地域住民、環境団体、行政等地域を構成する多様な主体と連携し、環境保全と環境都市の実現に向けた取組みを実施することにより、美しい空間・ゆとの空間として「美惑遊創」を創出し、地域に活力を取ります。

#### 活動内容

商店街と地域住民、環境団体、金融機関、行政機関等の連携による「チームアゼリア」を結成し、当時市販されていなかった街灯LEDランプの自作に取りかかる。作製プロセスは小学校の環境教育にも組み込まれ、1年がかりで完成したLEDランプは、現在市販されているLED街灯のプロトタイプとなる。

この取組みにより地域の連携が深まり、「花いっぱい運動」や「打ち水大作戦」、「地産地消の食の祭典」、「清掃活動」、市の環境フェアへの出展など様々な取組みを商店街が中心になって行っている。

## 第7回 関西元気な地域づくり発表会

### K&Y Distribution LLP

### 映像を活用した観光推進と地域活性

#### 活動方針・目的

日本の経済は至るところにひずみと問題を抱え、行き場を失った状態。しかし海外へ目を向けると特にアジア市場では好景気で経済は成長している。幸運にも日本がこれまで培ってきた技術や文化、歴史、産業など海外市場へ展開することで活路を見いだせるものがたくさんあるので、それらを総合的に海外へ発信していくことで、地元経済の活性化と海外からの日本訪問者増を狙い、外貨を獲得することで、結果として日本が元気になる状態を目指している。

#### 活動内容

平成22年度総務省事業「地域コンテンツの海外展開実証実験事業」において、企画が採択され映像作品を製作。その作品はシンガポールの地上波とアジア一帯をカバーする衛星放送局で放送された。その後エアラインでのインフライト番組や韓国でのオンライン配信などで利用されている。作品内で取材した日本酒と、近畿地区の田舎にある酒蔵は本作品をとおして何万人もの視聴者の目の触れるところとなった。

その結果、各酒蔵の商品が売れたり、日本酒に興味をもって日本を訪れる人が増えることを期待している。また酒蔵へ日本酒を飲みに行ってくれたら地方活性にもつながり、波及効果は日本酒業界だけでなく異分野にも広がっていくことを期待している。

映像製作者として、現在の下調べ構造から脱却するために海外のテレビ局と仕事をする事で新しい活路を見いだすことも目指している。同時に海外進出や海外から人やビジネスの誘致を目指す企業に同様の手法での広報、広告などを行うツールを提供することで、新しい市場への足がかりや収入源へのアプローチを可能に出来るようにしたいと考えている。

上記作品は、総務省事業では奨励賞を受賞。その後、全国地域映像団体協議会の全国フォーラムで経済産業大臣賞を受賞。

総務省の予算で製作した作品で経済産業大臣賞を受賞するという、省庁の壁を超えた事業に仕立てあげること、美観の結果や効果を持って各省庁に連携を促している。

## 第7回 関西元気な地域づくり発表会

### 宮津市エコツーリズム推進協議会

### 宮津市の自然・歴史文化・生活技術を活かしたエコツーリズムによる地域づくり

#### 活動方針・目的

従来天候に依存した観光のあり方を見直し、地域の自然や歴史文化・生活技術を住民・団体の工夫によって観光につなげることで地域が一体となって振興を図る仕組みづくりに取り組む。

「ほんものだから、触れたい、出会いたいー宮津天橋立・本物こだわり旅」をキャッチフレーズに、ひと・食・体験で来訪者と地域がつながるプログラムづくりを目指している。地域の当たり前にこだわり、持続可能な取組を目指す。

#### 活動内容

無理をした“ウケリモノ”ではない「今」、「ここ」、「本物」にこだわったガイドや体験プログラムを提供するほか、地域ごとに事業者・加工グループと弁当・食事・土産物の企画、住民参加型ツアーマーケットの実施など。

「観光」を地域活性化に利用する取り組みは世界中で実施されており、これから観光現象の多様化が見込まれる。いわゆる“住民の顔が見えない観光”ではなく、“住民の顔が見える観光”に魅力を感じる観光客が増加しているのだ。

人と人とが貨幣や商品によって繋がれるのではなく、人によって結び付けられるという一見時代錯誤な考えに、人間本来の生き方を垣間見ることが出来るのではないだろうか。

本活動では、地域の資源を他地域へ発信する媒介としての“人”の可能性を考えたい。

#### 活動内容

「ある人を見れば「ゴミ」だが、別の人からすれば「宝物」に見える。」これは、日常生活においてあまり珍しいことではない。この活動も、そういった「ありがた」なところから始まっている。

山には、商品化された市場で売買される木々だけが働いているわけではなく、生育の過程で他の樹木の育成を妨げる支障木や古木も存在する。「ゴミ」と見られていた山の支障木や古木を、いけばな作品に生まれ変わらせたい。そして、いけばな作品で人々に何かを伝えたい。こういった想いを形にすべく、近畿の人々からいけばなの花材提供を受け、地域の魅力を発信している。

## 第7回 関西元気な地域づくり発表会

### 和歌山大学観光学研究科

### 地域の光を観る ～田辺市近露の山から～

#### 活動方針・目的

地域における観光の主体は時代とともに変化している。観光事業者が主体として活躍していた観光形態も発展を遂げ、今では地域住民が主体となった形態が観光を占めている。

「観光」を地域活性化に利用する取り組みは世界中で実施されており、これから観光現象の多様化が見込まれる。いわゆる“住民の顔が見えない観光”ではなく、“住民の顔が見える観光”に魅力を感じる観光客が増加しているのだ。

人と人とが貨幣や商品によって繋がれるのではなく、人によって結び付けられるという一見時代錯誤な考えに、人間本来の生き方を垣間見ることが出来るのではないだろうか。

本活動では、地域の資源を他地域へ発信する媒介としての“人”の可能性を考えたい。

#### 活動内容

「ある人を見れば「ゴミ」だが、別の人からすれば「宝物」に見える。」これは、日常生活においてあまり珍しいことではない。この活動も、そういった「ありがた」なところから始まっている。

山には、商品化された市場で売買される木々だけが働いているわけではなく、生育の過程で他の樹木の育成を妨げる支障木や古木も存在する。「ゴミ」と見られていた山の支障木や古木を、いけばな作品に生まれ変わらせたい。そして、いけばな作品で人々に何かを伝えたい。こういった想いを形にすべく、近畿の人々からいけばなの花材提供を受け、地域の魅力を発信している。

## 第6回 関西元気な地域づくり発表会

### NPO法人南港ウェットランドグループ

### 南港生きものの発見隊&南港生きものの育て隊

#### 活動方針・目的

昭和58年に開園した大阪南港野鳥園には、干潟が人工的に創出されていて、渡り鳥であるシギ・チドリ類の重要な生息地となっています。「NPO法人南港ウェットランドグループ(前身の環境NGO「南港グループ 96」は平成8年に結成)は、この大阪南港野鳥園において「渡り鳥が利用し、多様な生きものが生息する湿地を創出し、その保全が地域の活動となること」を目的とし、①環境の監視と生物総合調査、②湿地を健全に維持するための環境保全作業、③湿地の役割や楽しさを伝えるための教育・普及活動、④ネットワーク参加地間の交流を継続的に実施しています。また、平成18年度からは大阪南港野鳥園の運営管理も行っています。

#### 活動内容

シギ・チドリ類などの野鳥や干潟の生きもの調査、来園者への観察指導だけでなく、月に1回以上、野鳥や干潟の生きものの観察会、環境教育プログラム講習会を主とした「南港生きもの発見隊」、「アオサ取り(大量に発生する海藻類の除去作業)」や、湿地部の清掃などの環境保全作業を主とした「南港生きもの育て隊」を開催し、多くの市民の方に参加していただいています。大阪市住之江区の探鳥会などに協力し、地元高校での環境教育プログラムの実習、大阪市こども青少年局「サマースクールシティ事業(夏休み期間中子どもを対象に調査、観察、環境保全、環境教育などの実習)」も実施し、大阪市港湾局「リフレッシュ瀬戸内」、「クリーンアップキャンペーン」などの湿地の清掃にも協力しています。観察や環境保全作業を通して、大阪湾、干潟を含む湿地、シギ・チドリ類、生物多様性、環境について学習できる場を提供しています。

## 第7回 関西元気な地域づくり発表会

### 「うるわしのみち愛宕古道街道を良くする会」推進協議会

### うるわしのみち愛宕古道街道の観光交流

#### 活動方針・目的

「もてなし空間、歴史のまち、憩いのまちに向けて」をテーマに、千年の歴史が息づく京都嵯峨鳥居本地域の景観を愛し、守る心を次世代に受け継ぐ取り組みを推進している。

#### 活動内容

愛宕街道(京都嵯峨鳥居本)の自然、歴史、文化、風景をテーマとして、「NPOうるわしのみち・みちづくり」、「嵯峨野保勝会」、研究者等が基盤となって、多様な来訪者との交流を重ねながら、地域の魅力の発信と再発見を目指した魅力的な道空間を創造している。

「うるわしのみち愛宕古道街道を良くする会」推進協議会のメンバーである「嵯峨野保勝会」は、観光景勝地である愛宕街道(京都嵯峨鳥居本)の美化の維持や、観光地としての魅力向上のために地域住民によって自主的に組織された団体であり、地域の個性を活かしたイベントを展開している。特に1996年から始まった「愛宕古道街道灯し」は奥嵯峨の夏の風物詩となっている。また、「京都市嵯峨鳥居本町並み保存館」の管理運営を行い、伝統的建造物群保存地区における町並み保存の必要性を啓発する取り組みを行っている。

<平成23年度の主な取り組み>

- ・ワークショップ(フワワーアレンジメント、ポーセリンアートなど)の開催
- ・愛宕古道街道灯しの開催
- ・絵画展の開催

## 第7回 関西元気な地域づくり発表会

### 若狭熊川宿まちづくり特別委員会

### 若狭鯖街道熊川宿のみんながよくなるまちづくり

#### 活動方針・目的

熊川は、国の重要伝統的建造物群保存地区として歴史的景観の保存が図られている地域のため、歴史や自然を活用しながら、ここに暮らす人々が「住み続けたい」、訪れる人々が「また来たい」と思う環境整備を続けています。住民が主体となり行政がサポートしながら活動しており、伝統文化活動の活性化や観光客の大幅な増加につながっています。

#### 活動内容

まずは、住民が快適に住み続けたいと思えるまちづくりを目標に、地域に誇りが持てるよう環境整備を進めました。活動は、定期的な建物の修理、前川用水(平成の名水百選)の清掃作業、街並みを俯瞰できる高台への遊歩道の整備など多岐におよび、これらを継続することで建物補修技術の研究と伝承にも発展しています。地域の誇れる伝統文化として京都の一乗寺郷土芸能保存会との交流により、京都から伝わったとされる「てっせん囃子」を80年ぶりに復活させ、地元の小学校にも出向いて、郷土愛の醸成と文化伝承の活動にも取り組んでいます。このように住民が我が街をより良くしていくことで、観光客増加の波及効果となっています。また、住民と観光客の交流を進めることを目的とした「熊川おもてなし会」を設立し、旧家を活用した喫茶「鮎兵衛茶屋」とお泊まり処「熊川宿助兵衛」を運営しています。さらに若手が中心となって、観光イベント「熊川いっぴく時代村」の開催を定着させ、麓熊川つづりレースなど工夫を凝らした催しがリピーターの獲得に一役かっています。

## 第7回 関西元気な地域づくり発表会

### 兵庫県丹波市・かみくげ恐竜の里づくり協議会

### 山南町の恐竜化石を活かしたまちづくり

#### 活動方針・目的

国内最大級の準食恐竜(丹波竜)化石の発見を千載一瞬のチャンスととらえ、恐竜化石を地域資源に活用したまちづくりを住民一丸となって推進し、地域の活性化と収益性をめざす。来訪者からの経済効果を期待したまちづくり活動を通じて得た収益金を高齢者の福利厚生や子育てにむく若い家族を支援、応援する地域固有の方策で地元還元することを終局の目標とする。

#### 活動内容

恐竜化石発露現場から取り出した小石を割って1億年前の生物の化石(恐竜のほか小動物、貝類、たまごの殻など)を探発発露体験を小学生から大人までを対象にした自然科学の学習を実施。また、発露現場周辺の地層、断層、岩石など地学学習の場として市内外に広くPR。徹底登録された恐竜焼き(地元大納言小豆入りとお好み焼き風味)の販売による丹波竜の里のPR、地元減農薬野菜のほか、恐竜関連グッズの販売や各種イベントの開催など。



## 第7回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 シニア自然大学校

### 地域資源～「菊炭」を活かした伝統文化と次世代に伝える活動・展開

#### 活動方針・目的

H16年8月に菊炭プロジェクト設立（大阪府助成金） 目的：伝統文化・茶の道流を絶やさない事と「後継者育成」を掲げて運動を展開。  
H16年9月 第1回菊炭体験講座(12回分・ス） 開講  
H17年10月 菊炭クラブ設立（20人で活動を開始）

#### 活動内容

- （H23年度は45人で活動をしています）
- ①池田炭の生産技術の継承と菊炭生産の継続（道具炭の販売 等）
  - ②クスギ里山林の整備・炭焼（39回）＆ クスギの森づくり（11回）
  - ③菊炭体験講座の開講と後継者を育てる活動（6回講座 全12回）
  - ④里山体験学習の開催（小学生向け）（4校）＆ 池田炭見学会（地域の市民）（1回）（それ以外に池田炭加工所で菊炭加工品開発を15人で活動）
  - ⑤その間 後継者候補者 2人(30代)程度出ましたが残念ながら長続きしませんでした。その後「グループ」で「池田炭を護る運動」に転換して来ました。4年前には下西名人の門下生として「下西派」を護ってきました。
  - ⑥もう一つは里山を「次世代に伝える運動」を小学生に里山体験学習として大阪府の支援を受けて5年間活動を積極的に展開して来ました。

## 第7回 関西元気な地域づくり発表会

兵庫県 上郡町 産業振興課・赤松校区むらづくり推進委員会・大鳥圭介公生誕地保存会

### 大鳥圭介没後100年を活かした地域づくり

#### 活動方針・目的

兵庫県赤松郡上郡町赤松地区は、南北朝時代の播磨の武将「赤松円心」の郷として多くの文化財を残し、白旗城跡の国指定から約20年間「白旗城まつり」を開催してきた。さらに、もう一人の偉人、幕末から明治にかけて国の近代化に貢献した「大鳥圭介」の生誕地が存在している。2011年9月に大鳥圭介没後100年を迎えるにあたり、地区住民は町と協働で、生誕地を保存し、郷土の偉人を再顕彰し情報発信してきた。

#### 活動内容

没後100年の節目に向けての旗揚げとなったフォーラム開催後、兵庫県の県民交流広場事業の活用と募金をつくり、「大鳥圭介生誕地」に「いきいき交流ふるさと館」を建立。  
町と協働で「圭介まつり」や「大鳥圭介の書展」「歴史ハイキング」を実施するとともに、地元小学生の社会学習として「圭介塾」の実施や「ふれあい喫茶」を定期的に開催することで、全国から圭介ファンが訪れ情報交換を図ることができるようになった。さらに、町では早くも助成を受けて、約100名のボランティアによるアニメ「けいけいじゃ」（全20話）を完成させ、2011年より順次CATV「えんしんネット」において放映した。

## 第7回 関西元気な地域づくり発表会

竹あかりの集い実行委員会

### 協働ですすめる防災イベント「竹あかりの集い」～子どもたちを災害から守りたい～

#### 活動方針・目的

竹あかりの集い実行委員会では、阪神淡路大震災の犠牲者を悼し、ボランティアの輪を広げながら安全な町づくりをすすめてきました。  
このたびの東日本大震災、台風12号の大災害を教訓として、地域の絆をさらに強め、防災の意識を高めることを目的として、3月10日（土）、第9回「竹あかりの集い」を開催します。

#### 活動内容

- ・式典（点灯・防災ずきん寄贈式・若手県幼稚園児への励ましメッセージ）
- ・群群町と若手県「繋がる元気プロジェクト」(パネル展
- ・東日本大震災写真展（写真家 三田崇博さん）
- ・防災スタンプラリー・防災体験コーナー
- ・ボランティア広場（点字・手話・ローソク作り）
- ・全員が心をあわせて「けいけいじゃ」
- ・炊き出し配布（豚汁350食 非常食がやくこ飯300食）

## 第7回 関西元気な地域づくり発表会

養田まちづくり委員会

### 環境保全をはじめ、防災力を次世代につなげる地域づくり

#### 活動方針・目的

阪神淡路大震災を契機に、「地域づくり」がいかに重要かを痛感し、地域の活動を強化した。まだ記憶に新しい兵庫県佐用町の水害は、我々河川沿いの地域にとっては、決して他人事ではなく、平時からの備えを万全に整える必要があり、少しでも減災となるよう活動を継続している。目標は、当地域から犠牲者を一人も出さない事が原点であり今後もこのために活動を展開していく。

#### 活動内容

活動の発端は、地域に流れる養田川の改修問題。小さな小川であったが、土地区画整理事業により川の付替え工事の計画が持ち込まれた。しかし、我々にとってはこれまで慣れ親しんだ貴重な自然空間のため、小川がコンクリートの水路になってしまうことに皆が戸惑い、地域の声によって小川は残しつつ改修として必要な工事（バイパス水路の設置）を進める方針に変更させた。結果として、これまで通り自然豊かな養田川と新しいバイパス水路の2つの川が地域に残った。この一連の地域のアクションがきっかけとなり、地域では養田川の愛護精神が目覚め、年々環境が悪化する養田川の清掃活動が始まった。以降は毎年地域としてクリーン作戦を展開し、地域の絆を醸成することになった。これを基盤として地域をより住みよくするため、各種活動を展開中。特に、防災・防災力の向上には積極的に活動しており、東日本大震災をきっかけとし、一層力を入れている。今では皆が地域づくりの活動に誇りをもっている。

## 第7回 関西元気な地域づくり発表会

（社）石山観光協会、近江しじみ貝塚研究会

### 歴史遺産「石山貝塚、蜷谷貝塚、栗津湖底貝塚」など日本最大淡水貝塚の常設展示館（仮称石山貝塚ミュージアム）開設への取り組みについて

#### 活動方針・目的

当地大津市 石山には約1300年前の奈良時代に創建の名刹「石山寺」があり、西国三十三番霊場第三番札所で、毎年参詣客は40万人にもなり、賑わいを見せている。

周辺は琵琶湖から流れ出る瀬田川の清流もあって、観光明麗であり、観光客による湖上観光も通観される著名な観光地でもある。この石山寺周辺に、今から約6000～7000年前の縄文時代の生活の足跡である「石山貝塚、蜷谷貝塚」また約2km離れた琵琶湖の湖底に「栗津湖底貝塚」が約80年前に発掘されている。その貝塚の存在や発掘された多くの出土品は考古学的に見て非常に貴重なものであり、特に石山貝塚の出土品の土器は石山式土器と命名され、縄文時代早期の標準遺跡として日本の考古学者で知らないものはないとも云われている。

私ども地元の住民、観光業者などは、この貴重な歴史遺産「石山貝塚、蜷谷貝塚、栗津湖底貝塚」をより広く紹介したいものと考えており、これを国指定の史跡に指定すべく昨年度より大津市の（ワーアップ事業の助成を受けて、種々の活動を始めています。

#### 活動内容、期待される効果など

昨年平成23年度は大津市の（ワーアップ事業の助成を受け、下記の活動を行って成果を挙げた。

- ①「栗津湖底貝塚船上見学」「しじみ採り体験」「しじみの食体験」
- ②三大淡水貝塚「石山貝塚、蜷谷貝塚、栗津湖底貝塚」講演会、展示会
- 平成24年度も引き続きいくつかの活動を継続し、私どもの目標としている史跡の国指定、「石山貝塚、蜷谷貝塚、栗津湖底貝塚」など淡水貝塚の常設展示館（仮称石山貝塚ミュージアム）の開設準備を進めたいと考えている。常設展示館では、貝塚からうかがえる縄文人の生活、考古学的な価値などの紹介、貴重な出土品の展示を行うことを目指している。これが実現すれば、石山寺周辺は名刹石山寺の参詣客に加えて、石山貝塚ミュージアムへの多くの来訪者も予想され、観光地としての一層の活性化が期待できる。

## 第7回 関西元気な地域づくり発表会

市民フォーラムおおさか実行委員会

### コミュニティ・コミュニケーションを築く～出会いと学びと実践と“防災・減災”をとおして～

#### 活動方針・目的

市民フォーラムおおさかでは、現在、私たちが暮らしている地域「コミュニティ」のこれからを考えていくために、身近な地域の中でフォーラムを開くことで、多くの方に学びや気づきの機会づくりを目指しています。

#### 活動内容

今年度は、昨年度より引き続き「防災・減災」を重点テーマに、大阪市内各所でこのテーマにまつわるフォーラムを実施し、私たちが住む地域を基盤とした「コミュニティコミュニケーション」を目指します。フォーラムの内実は、NPO団体や市民活動団体など様々な活動をしている実行委員が、福祉、環境、健康、芸術など幅広いジャンルのフォーラムを展開しています。

## 第7回 関西元気な地域づくり発表会

中山台コミュニティ緑化環境対策部

### 花と緑の創出による地域コミュニティ

#### 活動方針・目的

中山台コミュニティは、兵庫県宝塚市の市街地北部に位置する昭和40年代に開発された新興住宅地の地域コミュニティです。中山台コミュニティでは、11の自治会と8つの専門部会で構成され日々住民のための活動を展開しています。当地区内にある自然緑地には、かつて一面にわたってヤシャブシが野生しており、平成6年頃にはヤシャブシによるアレルギー等の問題が深刻化し、その解決が地域の大きな課題となっていました。そこで自治会協議会は平成7年に緑化対策部を立ち上げ（現在はコミュニティの部会の一つ）取り組みを開始しました。当部はニュートクン内を望ましい緑生に復元し住民の健康の維持とふさわしい緑化環境の整備保全を目的としています。約10年でほぼヤシャブシは一掃され、活動は現在花と緑の創出による良好な緑地管理に主軸を移しており、今後の継続と発展を目指し新たな目標として「30年計画」を掲げ、「美しい自然に囲まれた快適な暮らし」の実現に向けて活動を継続しています。

#### 活動内容

当部会は自治会の活動を基本にニュートクン全域の緑化事業を担当しています。自治会間の調整や行政との窓口の役割、全体の作業などを実施しています。

活動により、約10年かかり推定2万本の膨大なヤシャブシが一掃された後には、在来種のツツジやサクラ等がよみがえり、シンボルゾーンとして「ヒベリカムの丘」等を整備し、住宅地としての魅力を一層高める美しい緑地空間に改善しました。「行政だけでなく、住民だけでもできないことを共に協力して～」をモットーに、住民が処理し行政が片づけることなど役割分担を明確にし、取り組み始めてから16年間職員と合同で緑化活動等を定例的に行う等して、官民協働の関係も構築できました。最近では、地区内の5つの公園について市と管理契約を締結して自治会が管理業務を請け負うほか、小学校のPTAや教員も一掃になり、教育活動の一環として学内の緑化活動にも取り組んでいます。

平成22年度の活動実績は費用約253万円、活動回数50回 延べ参加人数818人でした。

## 第7回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人緑化でまちづくりの会

### 公園美化と地域づくり

#### 活動方針・目的・活動内容

（各団体によって多少異なるため、「森町花づくりの会」の事例を記述）

「森町花づくり会」は平成10年11月に立ち上げ、約20名の会員で「私達の方針（抜粋）」として次の項目を掲げて取り組んでおります。（1）ゴミ箱を置かない公園にしよう（2）人が集まる公園にしよう（3）公園でイベントをやろう（4）花ガラはゴミとせす増地化しよう等々。これらは現在も永々と継続されております。平成14年に大阪都市公園緑化推進協議会賞、19年に国土交通大臣賞を受賞しております。

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

A-yan!!関西をアートで盛り上げるNPO

### みんなでつくるおばけ屋敷を通した町の活性化促進

#### 活動方針・目的

地域の子供たちや住民、またその地域を愛する人たちと一緒に企画を立ち上げるところからはじめることで、「自分自身に出会いたい」「非日常的な体験をしてみたい」等自の目的だった人にも、ワークショップや制作活動を通して周りの人や住んでる町の歴史や愛着の再確認、またその気持ちを大阪や関西といったより大きなエリアへ広げて考えてもらえるようにするのが狙い。みんなと一緒に楽しめ盛り上がりながら大阪の地域活性化の一助を担う人材の発掘・及び育成のきっかけを目指すコミュニティアート活動を展開、また他地域からの来訪が見込めるイベントとする。

#### 活動内容

地域イベントなどでの開催を目標に数回のワークショップを行う。  
内容は演技指導だけでなく、郷土史や民話などをベースに地域独自のおばけ屋敷を構築参加者と共考え、地域に根差したおばけ屋敷作りをする。

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

まちなか運営協議会

### 季節を彩るおもてなしを ～名張市旧細川邸「やなせ宿」の取組～

#### 活動方針・目的

名張地区は名張藩家邸跡などの歴史文化資源や伝統行事、築瀬水路や名張川などの豊かな自然資源に恵まれていますが、その一方で全体的な過疎化・空洞化が大きな課題となっています。  
このような背景のもとで、名張地区の既成市街地の再生を目指して、平成17年に市民、事業者、各種団体、行政など多様な主体がメンバーとなって「名張まちなか再生プラン」が策定されました。この中で旧細川邸の改修が位置づけられ、当協議会が名張地区の歴史文化資源、豊かな自然資源を活かした施設運営を始めることとなりました。

#### 活動内容

当協議会は市民、事業者、各種団体などが中心となり組織された団体で、名張川、宇陀川の合流点に近接する立地を活かし、地元名張川漁業協同組合や河川ランジャーとの連携による水生生物調査やホテル再生に向けた取組、ミニ水族館事業などの環境学習、親子釣り体験教室、地元園児連による稚鮎の放流体験などの市民参加型イベントを企画、実施しています。  
また、施設の前面には旧初瀬街道を通じ、江戸時代に宿場町として栄えた風情を残していることから、歴（なばり）街道市などの様々な活動の拠点にもなっています。  
日常的には、地域活動や生涯学習の舞台となる貸館事業と共にまち歩き体憩所として、また市民憩いの場となる喫茶の運営を行い、市民が日替りシェフとなるワンディレストランの事業を展開しています。

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

西播磨なぎさ回廊づくり連絡会

### 西播磨のなぎさによる賑わいづくり

#### 活動方針・目的

国立公園という保護された環境の中で西播磨のなぎさ有する、魅力を最大限に活用し、地域住民、団体、行政が連携し、自主的・主体的な活動の展開、地域内外の人々の交流を進め、なぎさの魅力向上と地域内外の交流により地域の活性化を目的とする。

#### 活動内容

- (1) 西播磨臨海部のなぎさを守る活動
- (2) 西播磨臨海部の魅力あるなぎさを創るための活動
- (3) 西播磨臨海部でより多くの人が魅力あるなぎさを楽しむための活動
- (4) 多くの人が交流する舞台としてのなぎさづくりを進めるための活動
- (5) なぎさに関する情報発信活動
- (6) その他、本会の目的達成に必要な活動

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

NPO法人 羽曳が丘E&L・大阪府立大学看護学部

### 環境と生活が調和するまちづくり

#### 活動方針・目的

昭和37年、羽曳が丘の住宅開発が開始されました。昭和39年には羽曳が丘の各町会が、羽曳野市と公園・バス停・集会所などの設置を協議する羽曳が丘町会連合会を組織しました。現在、羽曳が丘では、19町会・戸数3,800戸・人口11,200人・町会世帯加入率は99％になり、羽曳が丘町会連合会を基盤にして住民活動を継続、実践しています。  
平成16年には、羽曳が丘町会連合会と地域団体が集まって、「NPO法人 羽曳が丘E&L」(EはEcology・LはLife)を設立しました。当法人は行政機関へ住民参加のまちづくりの提案と、環境と生活が調和する住みよいまちづくりの実践が目的です。

#### 活動内容

①NPO法人 羽曳が丘E&Lの活動内容

「環境部」自然環境保全・資源リサイクル・地域交流行事主催と企画  
「生活部」高齢者へ憩いの調理宅配・交流サロン・大阪府立大学学生の実習支援  
「ビオトープ部」ビオトープ整備・ビオトープフェスタ開催・幼稚園と小学校への出前教室  
「管理部」事務会計・集会所管理・広報紙発行・印刷事業

②大阪府立大学との連携活動

当法人は近隣の大阪府立大学看護学部の学生や教員と連携活動を実施しています。地域スタッフが大学の授業に参加して地域活動の説明を行い、学生や教員が地域拠点で実習・測定会・地域調査などを実施しています。地域と大学がそれぞれの特徴を活かすことで、環境と生活と保健の視点が融合され、お互いの相乗効果につながっています。

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

いえしまコンシェルジュ

### 姫路市の離島いえしまにおける観光まちづくり

#### 活動方針・目的

・人口減少化社会における地方都市の自立を目指し、地域住民とともに「いえしま」観光によって活性化する。

#### 活動内容

・いえしまコンシェルジュは、姫路市の離島いえしまにおいて活動しています。  
家島は漁業・採石・海運業で栄えてきましたが、景気の悪化、公共工事の縮減により地域経済が低迷、それに伴う急激な人口の減少が起こっています。これらは今後の日本の都市が直面する地域の課題です。  
しかし、離島で育まれてきた独自の生活文化はほかの地域では見ることができない、少し不思議な魅力であふれています！この魅力を伝えたい！！と思って活動しています。  
・具体的には、島の魅力を伝える島あるきガイド。料理体験やカヌー体験など、島民の協力による体験プログラム。また、今後は空き家を活用したゲストハウスを展開します。

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

歌とピクニック実行委員会

### 「何もなし」を地域資源と捉えたまちづくりとしての「歌とピクニック」

#### 活動方針・目的

事業コンセプト：「都市と中山間部の新たな価値交流」を目的とした、持続可能な自給型まちづくり活動

事業内容：

兵庫県中山間地域に位置する「丹波市」は、良質な農作物の産地として全国的に知られている。また、農業を基盤とした生活文化やコミュニティが色濃く残っている地域でもある。丹波市販売農家数は4,776戸であり、兵庫県下の10％弱を占める農業の盛んな地域ともいえる。肥沃な土壌が広がり、また山新産地地による稲稈の率産量からなる「丹波調」とも呼ばれる独特の濃潤などの地形的特性を持つことから、「丹波米」や「大崎青小豆」など、全国ブランド農作物を世に送り出している。さらに、全国的に農業従事者から「有機農業の聖地」と称されるなど、有機農業の発祥の地として、全国からの新規就農者を受け入れ、安全安心の食文化の規範となり得る基盤がある。

このような全国に誇る「良質な味覚」と、その恵みを生む「豊かな里山」が丹波市には存在する。それを私たちは「おいしい里山」と定義する。しかし、一部企業や自治体の活動により丹波産の農作物のPRはあるものの、「丹波市」自体の観光という面でのPRは弱く、丹波産や歴史的名産、紅葉などの自然風景を含めた観光資源や、丹波市の強みである「味覚と自然の豊かな里山」や「都市部から日帰りで行ける事の出来る立地」を活かしきれていない現状がある。

また、「兵庫県観光地に関するアンケート」によると丹波市を訪れる観光客の平均年齢は39.4才と県内で一番高く、県内の観光客に占める35歳以下の割合が県平均53.6%であるのに対し、丹波地域においては37.7%と県内の他地域に比べ極端に低い状況となっている。

昨年度は初年度の開催ながら、決してアクセスのよいと書けない山奥の「うけいすの森」という自然溢れる会場を舞台に、同事業を10月8日、9日に開催し、大勢の予想を遥かに超える来場者数2000人以上（関係者数を含むと2200人ほど）が押し寄せ、大きな成功を収めた。

特筆すべきは、来場者の約半数は阪神間からの来場者で、これまで丹波市が取り込む事の難しかった20歳～30歳代の若年層、親子連れなどが多く来場する事により、事業自体の目的の成功を収める。  
本事業は昨年度の成功をもう一度見直し、更なる飛躍と効果の発揮を目的とする。

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

特定非営利活動法人 H I N T （ひんと）

### 地域の情報基盤の構築と地域情報の収集・活用

#### 活動方針・目的

生活・医療・教育・産業・観光の地域情報を集積・発信し、産官学と地域住民の参画と協働によるICT利活用の普及と円滑な運用を推進する。H I N Tの活動を広く知って頂き、地域ポータルサイトを活用して頂くための各種セミナー・ワークショップを実施し、地域の情報活用力を高め、地域産業の活性化を循環的に加速させるプラットフォームとなることで、社会生活、医療活動、教育環境、教育環境、経済活動、観光客の活性化の促進に寄与することを目的としています。

#### 活動内容

主に近畿地方（2府4県および兵庫県内6地域）をカバーした地域ポータルサイトを構築運用し、地域情報の受発信を行っています。そして、ビジネスイベント・セミナー等の情報発信、クラウドサービスを用いたホームページ作成・ブログ作成・即戦力となるICTの利活用や広報戦略等についての無料研修の実施による中小企業・各種団体への支援、映像交換システムの提供によるケーブルテレビ事業者への映像コンテンツ流通促進、学校向け（学年などの小規模な単位）メーリングリストの提供による子どもの安全・安心の確保、「自治体とNPO法人の協業による、ポータルサイトとソーシャルメディアを利用した情報発信の可能性について」研究など積極的に取り組んでいます。

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

羽曳野市観光協会

### 百舌鳥・古市古墳群

#### 活動方針・目的

百舌鳥・古市古墳群を世界遺産に！そして自分達の町に誇りを！

#### 活動内容

「みさざナビ」を発信することで、観光客を増やしたい。地域の活性化を図りたい。

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

滋賀県愛知郡愛荘町

### 「麻・藍・布」歴史の結びつきを今日に再生するまちづくり

#### 活動方針・目的

古来、日本人が深く関わってきた「麻」と「藍」。その魅力を再発見し、日本文化のルーツを楽しみながら感じてもらうための体験型イベントを実施し、地域の文化資源を広く発信する。群馬県東吾妻町、徳島県藍住町ならびに本町、県域を越えたこれら三町が歴史の結びつきを現代に再生し連携することによって、相互の文化の発展に寄与し、観光・産業等の振興をはかる。

#### 活動内容

初年度の東京展を皮切りに三町が回り持ちで、本物の体験、展示、販売等を実施する。事業趣旨に沿った他地域の団体等の参加も促し、事業を拡大していく。

〔東吾妻町（群馬県）・藍住町（徳島県）・愛荘町（愛荘町）三町合同企画展〕

| 年度  | 会 場                  | 内 容                                                                                |
|-----|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| H21 | 東京都渋谷区 三木武夫記念館       | 東吾妻町：麻の展示、麻蒔き体験など<br>藍 住 町：藍染の体験、展示、藍染商品の販売<br>愛 荘 町：麻織りの体験、麻布の展示、<br>奈良県奈良市月ヶ瀬奈良橋 |
| H22 | 徳島県藍住町 藍の館           | 上記 + 山形県河北町の紅花染                                                                    |
| H23 | 滋賀県愛荘町 近江上布伝統産業会館    | //                                                                                 |
| H24 | 群馬県東吾妻町 コニファー岩櫃      | //                                                                                 |
|     | 徳島県藍住町 藍住町コミュニティセンター | 上記+山形県河北町の紅花染、久留米餅、河内木綿・シンポジウム                                                     |

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

東堅町自治会文化委員会

### 東堅町の歴史的文化財・人材を生かしたまちづくり「文化祭と文化講座」

#### 活動方針・目的

小さな地域のささやかな活動、地域内に存在する歴史的建造物、文化財、人脈を活用し、歴史に学び、未来を展望し、地域住民相互のコミュニケーションと連携を保ち、望ましい共生環境を整える。

#### 活動内容

文化講座は座学と野外学習で組み立て年各4回を基本とする。

文化祭は10月23～25日、亀岡祭りの期間に合わせて実施する。

どちらも、オープンで町内外からの参加も歓迎して実施する。

2006年より始めた切り絵教室の作品を中心に、同年、手芸、俳句、写真、絵画等を集めた

第1回東堅町文化祭（作品展）を開催。有志による実行委員会形式の活動は5年間の継続を経て2010年自治会の直轄行事に昇格した。含む

せて、数年前から進められていた町誌作成も本格的な取り組みが始まり、同年より、文化講座を開講している。

本年度には町誌完成させる為、編集作業を進めている。

活動内容は東堅町自治会のホームページで紹介している。（<http://www.higabun.web.fc2.com>）

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

特定非営利活動法人ハートフレンド

### 子どもが主人公になる居場所づくりを通じての人と人がつながる町づくり

#### 活動方針・目的

子どもの居場所づくりに関する事業や子どもの基礎力向上のための事業を行うことで、社会教育の推進及び子どもの健全育成を図る。また、地域の大人と子どもとの信頼関係を育み、地域を愛する心を育てるために、子どもの体験事業を行い、地域の保健・福祉を推進していく。そして、地域ぐるみで子育てをしていく活動を推進していく、障がいのある子ども達やその親に対しては、障害福祉事業を実施し、高齢者に対しては、認知症防止や介護支援事業を実施する等、地域における出席から高齢者までの総合的な共生福祉のまちづくり、及び地域の安全・安心のまちづくりを推進していくことを目的とする。

#### 活動内容

- ① 地域子育て支援拠点事業（つといの広場）の実施（委託事業）  
ハート広場（大阪市東住吉区桑津）ふれんど広場・平野おやこの広場（大阪府平野区） 龍華おやこのひろば（八尾市）
- ② こどものてらこや事業（学習支援：学校を地域の方で応援しよう）
- ③ おとなのてらこや事業（認知症予防・早期発見・高齢者の方もいきいきと暮らす）
- ④ 文化館事業（子どものあそびを中心に創作・読み聞かせ・ハンドベル演奏など）
- ⑤ ジュニア・リーダークラブ（子どもの主体性と自主性を育む）、茶道教室
- ⑥ おとなの楽校（ハーモニカ教室）
- ⑦ 児童発達支援等デイサービス（障がいのある子ども達の放課後の居場所づくり）
- ⑧ 東住吉区金魚すくい選手権大会（年1回、すでに8回実施）、子育てフォーラム実施

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

大阪狭山市食物アレルギーアトピーサークルSmile・Smile

### 重度のアレルギーっこの子育ての不安が減少し、保育園・幼稚園・学校生活が安全で安心して過ごせる地域連携協働のコミュニティ

#### 活動方針・目的

・アレルギー・アトピーを持つ子どもたちが学校生活などを楽しく送れること、また、アレルギー・アトピー疾患のいる家族が少しでも治療方法や予防の前進に考え、明るいアレルギー生活を過ごせるようお手伝いすることを目的に平成16年8月に団体を設立。

#### 活動内容

- ・アレルギーとアトピーに関する連続講座の開催  
（連続講座の一環として、学校給食の試食や調理実習を実施）
- ・スクンケアや緊急対応時の講習会を開催
- ・周囲の理解促進、親子交流のためのおそびうたコンサートを実施
- ・乳幼児のアトピー・アレルギーの電話相談窓口を運営（月1回）
- ・ブログやメーリングリストでの情報発信
- ・情報交換・交流の場である定例会を開催（月1回）

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

特定非営利活動法人 住まいみまもりたい

### 捨てるのもったいないものを有効利用する市民の輪を拡大！

#### 活動方針・目的

高齢化社会が進むに連れ、行政サービスや介護保険に含まれていない市民の困りごとが多様化してきていることを実感する。その1つとして、大都市では粗大ごみを外まで出さない回収してくれない。しかし、タンスなど高齢者の方は出せないという現実がある。そのような困りごとをコミュニティビジネスとして取り組むことで、組織の基盤をつくり若者の雇用の場を創出する。また、H18年商店街に拠点を設け、商店街の活性化のイベント事業などに取り組む。平成21年に商店街の理事長に就任、現在は副理事長として活動している。20%あった空き店舗が現在は0%になるという成果もできている。

#### 活動内容

- 1、不用品や粗大ごみの分別、搬出事業
- 2、「もったいない情報サロン」の運営
- 3、ワンコインサービス事業（30分500円のサービスを提供）
- 4、ニートの受け入れ事業
- 5、のぎほんわかスタジオの運営
- 6、商店街の活性化事業

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

K-style（けいすたいる）

### 地域に根ざしたさまざまなコミュニティ作り

#### 活動方針・目的

「K-style」は、2011年2月、京都で唯一住民主導で生まれた総合型地域スポーツクラブです。地域の方々が健康でいきいきと生活できるように、様々なスポーツを体験する場を提供し、さらに地域の多世代の方々が集まることにより、地域内の交流のきっかけの場となるよう努めています。

様々な活動をしていく中で、子育てしている家庭、特に乳幼児を持つ母親をサポートする必要があると感じ、新たに子育て支援の面でも活動を始めました。

これからは地域の方々の皆さんの笑顔のために活動していきます。

#### 活動内容

- ① スポーツ・現在主に小学生を対象とした各種スクール運営。子どもの健やかな心身の育ちをサポートし、次世代につながる人材育成の場として活動しています。
- ② イベント・地域の方々のコミュニティづくりを目的として、年に数回、多世代の方が楽しめるような様々なイベントを開催しています。
- ③ 親子支援（えむすまいる）・乳幼児を持つ母親が、自分の力を生かし、社会貢献・地域貢献できるようにサポートします。

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

パパの育児休業支援センター

### 男性が子育てに積極的に参加する地域コミュニティづくり

#### 活動方針・目的

男性の育児休業取得が進みません。現在、約3割の男性が育児休業を取得したいと希望している一方で、実際の取得率は26.3%にとどまっています。また、日本の男性が子育てや家事に費やす時間は先進国中最低の水準にあり、そのことが女性の継続就業や出生率に悪影響を与えているとも書われています。

パパの育児休業支援センターでは、男性の育児参加に関する調査、研究並びに啓発活動を行うことにより、男性の育児参加を促し、男性も仕事と家庭を両立させ、夫婦で協力して子育てに関わっていくことで、子どもを産みやすく、育てやすい地域社会の実現に寄与することを目的に活動を行っています。

#### 活動内容

当センターは、厚生労働省の「イクメンプロジェクト」に賛同し、地域や行政、社会貢献活動に取り組む企業・団体等とも連携をとりながら、看護の心と技を磨き込んだ「パパの育児で」セミナーを開催するなど、男性の育児参加を積極的に応援しています。

具体的には、これからパパ・ママになる方とご家族の方などを対象に、父親の育児参加についての基本的な考え方、母親の行う育児との違い、実際に男性が育児を行う上で必要な視点や準備等について学んでいただくことで、男性の育児参加に対する関心を高め、地域で子育てに積極的に関わりたいと考える男性の増加につなげています。加えて、仕事と育児の両立に不安や悩みを抱える父親同士の出会いと交流の場を提供することで、子育てにかかる不安や悩み、負担感を軽減し、地域におけるネットワークの構築に取り組んでいます。

## 第8回 関西元気な地域づくり発表会

龍谷大学門前町サークル

### 西本願寺門前町に「にぎわい」を取り戻すまちづくりプロジェクト

#### 活動方針・目的

本活動は、西本願寺門前町に「にぎわい」を取り戻すことを目標にして、地域の人たちにまちづくりへの関心をもってもらうとともに、広く世間に門前町の魅力を伝える活動を行なっている。西本願寺門前町は、京都駅北側に立地しており、京都の玄関口として、今後の京都の発展を支える重要地点である。本サークルは、1000年の都である京都が、大都市圏競争に勝ち残り、今後も発展し続ける基盤づくりを目指している。

#### 活動内容

- ① 門前町の住民にまちづくりへの関心を高めよう活動  
子どもにまちづくりへの関心をもってもらい、子どもから大人へ関心が伝えられることを期待して、下京彦成小学校児童と門前町のまち歩き、それを絵にして絵画展の開催、その絵を組み込んだ伝統産業の製品に仕上げる活動。毎月16日早朝の清浄活動。仏員の「リン」を応用した風鈴の制作・住民に寄贈、「おりんde風鈴祭り」の開催。
- ② 門前町の魅力を世間にアピールする活動  
仏員の「リン」をモチーフにしたマスコット「おりんちゃん」の制作・各地域でのイベントへの参加。毎月16日に手づくり市「門前町いちろく」の開催。「しんらんさんグルメ」と称して、門前町をPRするスイーツの新製品の開発販売。門前町の歴史と現状を紹介したマップ・ガイドの制作。門前町カレンダーの制作（古写真と現在の写真を比較して、門前町の変遷が分かるカレンダー）
- ③ 普段の門前町での活動成果を基盤として、東日本大震災復興支援の取り組み





## 第9回 関西元気な地域づくり発表会

里楽

### 山添村の耕作放棄地の資源を活かしたむらづくり

#### 活動方針・目的

奈良県山添村の耕作放棄地の増加を防ぎ、里山の再生を目的とする。その実現のため荒廃した里山に眠る資源の再発見と農を中心とした継続可能な活用方法を模索する。

農村・都市の住人を問わず広く賛同者を集め会員とし、耕作放棄地再生の過程やその結果を共有し、それから生まれる農産品やサービスを会員に提供すること。

#### 活動内容

里楽（里山再生プロジェクト系農倶楽部の略称）は、平成22年結成された。山添村で増え続ける耕作放棄地を再生すること、またこうした活動を都市と農村の交流、村や里山の活性化につなげていくことを目指します。

最初に取り組んだのは、長年放置されてジャングルのようになった茶畑の伐採、切り開いた圃場内にドラム缶の炭焼き窯を設置し、茶の木を材料に木炭を作る。

整備した圃場には都市住民も参加し、ジャガイモ・玉葱・さつまいもなどを植え、収穫の際は取れたての野菜を使い「ベークュー（使用した炭は茶の木を木炭にしたもの）、など共に取り組んだ。

草刈り作業軽減のため、山添村にある観光施設「めえめえ牧場」の協力を得て、羊3頭を借り受け、春～秋の圃場に放牧しその除草効果を実証した。

また、耕作放棄の茶園に無数に落ちる茶の実に注目、茶の実から搾油する取り組みを始めた。

## 第9回 関西元気な地域づくり発表会

星田山手ボランティア・街づくり推進会

### 郊外住宅地のボランティアまちづくり ーみんなの笑顔求めてー

#### 活動方針・目的

ボランティア活動は自主的な参加により地域住民に貢献し喜んでいただけることであると考え、奉仕活動や各種イベントを取り組み、活性化させることで地域住民が互いに知り合い、技術を発揮し、話し合えることで、みんなの幸せにつなげることを目標としている。

子や孫がいつの日か喜んでUターンいただけるよう、安心・安全に暮らせる住み良い魅力あるまちづくりを進めていく。

#### 活動内容

星田山手ボランティア・街づくり推進会は平成19年に発足、既に活動していた「山ナリエ」（イルミネーション）によるまちおこしを加速してTVや雑誌で取り上げられるなど、又新年の「どんと鍋き」「盆踊ら夏祭り」秋の「コスモス祭り」などのイベントや、交野市との連携による救急・救命講習会、防災訓練、傍示川清掃活動、学童見守り隊の創設など、住民ボランティアによる積極的で多岐に亘る取り組みを行っている。

## 第9回 関西元気な地域づくり発表会

東堅町自治会文化委員会・まちづくり部会

### 小さな自治体・東堅町のまちづくり 地域社会のゴミ処理 現在社会の避けて通れぬ課題の1つ

#### 活動方針・目的

町内の活性化と潤いの基盤は文化活動と生活改善

A 伝統文化と行事の検証と継続は文化部門で企画と実践

B 高齢化社会に対応できる住みよい町づくりは環境部門で企画と実践

活動内容 B部門 小さな町の自治会の抱える諸問題解決の道筋を考え実践する

#### 活動内容

小さな町の自治会の抱える諸問題解決の道筋を考え実践する

## 第9回 関西元気な地域づくり発表会

京丹波町スポーツ少年団本部長

### 『双葉町応援隊 ーKIZUNA-』被災地と心を一つに

#### 活動方針・目的

◆ 友好町双葉町に対して息の長い応援活動に結び付けて行く。

・ 仮設住宅の被災者と色々な角度から応援活動、交流を実施する。

◆ 双葉町を応援するという目標を掲げ地域一体となって人材育成、青少年健全育成に取り組む。心豊かな子供に育てる。

◆ 被災地の現状に合わせた応援活動を現地を訪れ継続的な活動について行政・仮設住宅自治会長と話し合い実行する。

#### 活動内容

京丹波町スポーツ少年団が、東日本大震災復興支援ボランティア活動に立ち上がりました。子ども達ができる活動を・・・ということでも、須知高校の協力を得、「食の宝庫という地元の良さを活かして、自分達でつくった野菜を被災地へ送り、学校給食等でも使ってもらおう。」と平成22年3月にスタートしました。今回で3回目の取り組みとなり子供達も何をすべきか？を理解しリーダーを中心に被災地へ送るメッセージも考えました。関係支援団体と話し合いを持ちながら「双葉町応援隊 ーKIZUNA-」プロジェクトを結成し三ノ宮地域のジャガイモ、野蒜の会の梅干しと一緒に仮設住宅の皆さんに届ける事が出来ました。子供達と地域が一体となった取り組みです。

## 第9回 関西元気な地域づくり発表会

東堅町自治会文化委員会・伝統文化部会

### 小さな自治体・東堅町のまちづくり 伝統文化の継承と発展「猿楽能と町衆」

#### 活動方針・目的

町内の活性化と潤いの基盤は文化活動と生活改善

A 伝統文化と行事の検証と継続は文化部門で企画と実践

B 高齢化社会に対応できる住みよい町づくりは環境部門で企画と実践

活動内容 A部門 小さな町に息吹く文化力の継承と発展 歴史の検証と発展を実践する

地域に息吹く歴史と伝統・その文化力は大切な地域資源

検証と継承で地域資源の枯渇を防ぐことが大切。

節季・節目を忘れた現代社会への継承

便利さにとられ、代償の危険に目をつむる現代社会の見直し・もったいない文化の実践

#### 活動内容

地域に残る伝統芸能「丹波猿楽能と庶民文化を考える」

## 第9回 関西元気な地域づくり発表会

箱の浦自治会まちづくり協議会

#### 活動方針・目的

行政に頼らず、箱の浦地域のことは箱の浦の自分たちで解決する。

「いつまでも箱の浦に住み続けたい、箱の浦で育ってよかった」といわれる地域に！

#### 活動内容

別紙「箱の浦まちづくり協議会」の活動報告

## 第9回 関西元気な地域づくり発表会

パパの育児休業支援センター

### 看護の力を発揮した男性が子育てに参加するまちづくり ～「子ども未来フォーラム大阪～広げようパパの育児休業～」開催を事例に～

#### 活動方針・目的

当センターは、大阪市阿倍野区を拠点に、男性が同様の専門職から育児について学ぶ機会を保障するという活動方針のもと、地域の看護職の立場から、男性の育児参加を支援することを目的としたNPO団体である。

#### 活動内容

平成25年度より阿倍野区子育て支援連絡会に加盟し、地域の子育て支援団体や社会福祉協議会、区役所の子育て支援課等とも協力して、男性が子育てに参加するまちづくりに取り組んでいる。

## 第9回 関西元気な地域づくり発表会

防災かまどベンチ実行委員会

### みんなで作ろう！防災かまどベンチ

#### 活動方針・目的

地震や台風などの災害に備え、万が一被害にあった時も、住民の手で「防災かまどベンチ」を使って食事を供給できることにより落ち着きを取り戻し、すぐに生活再建が出来るための減災力を養う。

#### 活動内容

地域住民・行政・学校・企業・ボランティアなどが協働して、平群町災害時指定避難所に指定されている公共施設など15箇所に、5カ年計画で製作する。





# 第10回

**発表団体募集中！**

**聴講参加者募集中！**

# 関西元気な地域づくり

**発表会**

輝く  
元気



「第10回関西元気な地域づくり発表会」では、地域の魅力や個性を活かした「地域づくり」や「まちづくり」に取り組んでいる元気な皆さまを募集しています。皆さまの活動内容を紹介していただき、お集まり頂いた皆さまとの情報交換・交流や、今後の活動の発展に役立つヒントやノウハウの他、このような地域づくりの輪がさらに広がることを目指しています。関西の元気をお待ちしております！



## 発表団体募集(応募締切は1月30日)

1. 観光交流 部門
2. 地域資源活用 部門
3. コミュニティ・防災減災 部門



## 聴講参加者募集(応募締切は2月18日)

関西元気な地域づくり発表会は、地域づくりのヒントとなる基調講演の開催や地域を元気にしている魅力的な活動を発表する場です。近畿地方の各地から地域づくり団体が集合します。様々な地域づくり活動を見て、聴いて、交流することで、地域づくりの輪をさらに広げてみませんか？ ご参加お待ちしております！！



# 第10回関西元気な地域づくり発表会

**発表会の開催概要**  
**開催日：平成27年2月23日(月)14:00~17:30**  
**会場：大阪合同庁舎1号館 第1別館**  
 (大阪市中央区大手前1-5-44 <地下鉄天満橋駅すぐ>)

## <第1部>基調講演

### 「地域資源を活かした活性化への思い」

高岡 裕司 株式会社吉田ふるさと村 代表取締役社長

S32年に島根県吉田村生まれ。大学時代を東京で過ごす(株)吉田ふるさと村設立準備のため帰郷し入社。H24年代表取締役社長就任、現在に至る。創業期は営業を中心に時には餅つきまでこなし、新規事業は常に先頭となり取り組む。H14に全国で初の卵かけごはん専用醤油「おたまはん」を販売するなど全国に卵かけごはんブームのきっかけをつくった。H24日本醤油協会「醤油地域貢献賞」を受賞。その他「可能な限り自分たちでやる」ことを基本に、水道事業やバス事業など多数の事業を展開。現在、観光振興による定住促進、地域振興に挑戦中!!



## <第2部>分科会 (応募団体による活動内容の発表)

[第1分科会]観光交流部門 座長:森重 昌之  
 [第2分科会]地域資源活用部門 座長:横山 葵  
 [第3分科会]コミュニティ・防災減災部門 座長:田端 和彦

分科会では、応募団体から取組事例を発表していただき、地域づくりに係る課題等について座長、他の発表団体及び聴講者の皆さんも交えて意見交換します。

森重 昌之  
 阪南大学准教授



田端 和彦  
 兵庫大学教授 附属  
 総合科学研究所長



横山 葵  
 NPO法人「人と自然とまちづくりと」  
 理事長



## <第3部>全体交流会 (座長、発表団体、聴講者の皆さんと意見交換)

森重先生、田端先生、横山先生、第2部の発表者や聴講者の皆さんも交え、地域づくりの好事例等を中心に今後の地域づくり・まちづくりについて意見交換します。

## <その他>パネル展示

国や自治体の施策紹介、今年度のゆめづくりまちづくり賞や、手づくり郷土賞受賞団体の活動紹介、これまでの関西元気な地域づくり発表会内容を展示します。

## 発表団体の応募方法

平成27年1月30日(金)17:00 応募締切

応募要領(HP掲載)に従い応募用紙等を作成の上、下記の応募先へ郵送及びEメールで提出して下さい。

下記のQRコード、若しくはインターネットで「第10回関西元気」を検索。 [http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/kansaienken/symposium/150223\\_report/index.html](http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/kansaienken/symposium/150223_report/index.html)

### ◆発表対象団体

※行政機関単独による活動は対象外(行政機関の協働による活動は対象)。※応募内容等により、発表部門は事務局で変更する場合があります。※応募多数の場合は、書類選考を行う場合があります。

近畿2府5県(福井県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県)や周辺地域で、地域づくり・まちづくりに積極的に取り組む活動団体(例:自治会、NPO法人、地方公共団体、学校、民間企業等)を対象とします。

### ◆募集部門

以下の部門で発表者を募集します。

#### <観光交流部門>

観光交流に関連のある地域活性化に向けた取組み

【応募例】

- ・おもてなしの心で地域の魅力を向上させる取組
- ・他地域と交流することで地域の活性化に寄与する取組
- ・地域の食文化や文化などを活かした観光の活性化に発展した地域独自の取組
- ・賑わい空間の創出等の工夫による交流促進の取組 等

#### <地域資源活用部門>

地域のシンボルとなる個性や魅力のある地域資源を活かした地域活性化への取組み

【応募例】

- ・地域の歴史・文化(伝統的な技術、建造物、祭等の継承)を活かした取組
- ・地域資源を発掘・活用し、自立した地域づくりに向けた取組
- ・歴史的な町並みや景観や自然環境を活かした地域づくりの取組
- ・地域の特性を活かしたコミュニティビジネスの取組 等

#### <コミュニティ・防災減災部門>

絆を意識した地域コミュニティの活性化  
 や自主防災組織による安心安全な取組み

【応募例】

- ・地域を自ら住みよくなるための活動とおしたコミュニティ活性化の取組
- ・地域に愛着を持ち、次世代の人材育成を目指した地域づくりの取組
- ・公園や道路等の社会資本(公共空間)の美化活動等から発展した取組
- ・自助・共助に寄与する地域住民が主体となった防災減災に関する取組 等

## 聴講参加者の応募方法

平成27年2月18日(水)17:00 応募締切

◆お申し込みは、FAXもしくはEメールにてお願いします。FAXの場合、参加申込書に必要事項を記入の上、お申し込みください。

◆Eメールの場合、メール本文に、参加者氏名、ふりがな、所属、連絡先、聴講希望の分科会を記入の上送信していただき、事務局に着信確認の電話連絡をお願いします。

※WEBメール(Gメール・yahooメール等)・レンタルサーバーを使用されている場合は、当方のセキュリティ上、メールを受信できない場合があります。大変お手数ですが、念のため着信確認をお願いします。

※ご応募いただいた個人情報については個人情報保護法等を遵守し、本発表会に関する会場運営、次年度企画への参考資料以外の目的では使用いたしません。

### ◆会場へのアクセス

- 地下鉄谷町線「天満橋」駅から  
3号出口徒歩約3分
- 京阪電鉄「天満橋」駅から  
東口徒歩約5分



### お問合せ先・応募先・申込先

「関西元気宣言」発信運動本部事務局 〒540-8586大阪市中央区大手前1-5-44 (国土交通省近畿地方整備局企画部企画課)

TEL:06-6942-4090 FAX:06-6942-7463 E-mail:genki\_happy@kkr.mlit.go.jp



関西元気な地域  
 づくり発表会  
 ホームページ

主催:「関西元気宣言」発信運動本部

後援:一般社団法人近畿建設協会

「関西元気宣言」発信運動は、関西が元気あふれる魅力的な注目すべき地域であるとの認識を広げるため、日本全国さらには世界に向けて、関西の元気を発信するものです。



# 第10回 発表団体決定！ 聴講参加者募集中！ 関西元気な地域づくり発表会

## 発表団体決定



「第10回関西元気な地域づくり発表会」では、地域の魅力や個性を活かした「地域づくり」や「まちづくり」に取り組んでいる元気な皆さまを募集しています。皆さまの活動内容を紹介していただき、お集まり頂いた皆さまとの情報交換・交流や、今後の活動の発展に役立つヒントやノウハウの他、このような地域づくりの輪がさらに広がることを目指しています。関西の元気をお待ちしております！



### 発表団体決定（裏面参照）

1. 観光交流 部門
2. 地域資源活用 部門
3. コミュニティ・防災減災 部門



### 聴講参加者募集（応募締切は2月18日）

関西元気な地域づくり発表会は、地域づくりのヒントとなる基調講演の開催や地域を元気にしている魅力的な活動を発表する場です。近畿地方の各地から地域づくり団体が集合します。様々な地域づくり活動を見て、聴いて、交流することで、地域づくりの輪をさらに広げてみませんか？ ご参加お待ちしております！！



# 第10回関西元気な地域づくり発表会

## 発表会の開催概要

開催日：平成27年2月23日(月)14:00～17:30

会場：大阪合同庁舎1号館 第1別館  
(大阪市中央区大手前1-5-44 <地下鉄天満橋駅>)

### <第1部>基調講演

#### 「地域資源を活かした活性化への思い」

高岡 裕司 株式会社吉田ふるさと村 代表取締役社長

S32年に島根県吉田村生まれ。大学時代を東京で過ごす(株)吉田ふるさと村設立準備のため帰郷し入社。H24年代表取締役社長就任、現在に至る。創業期は営業を中心に時には餅つきまでこなし、新規事業は常に先頭となり取り組む。H14に全国で初の卵かけごはん専用醤油「おたまはん」を販売するなど全国に卵かけごはんブームのきっかけをつくった。H24日本醤油協会「醤油地域貢献賞」を受賞。その他「可能な限り自分たちでやる」ことを基本に、水道事業やバス事業など多数の事業を展開。現在、観光振興による定住促進、地域振興に挑戦中!!



### <第2部>分科会 (応募団体による活動内容の発表)

[第1分科会]観光交流部門 座長:森重 昌之  
[第2分科会]地域資源活用部門 座長:横山 葵  
[第3分科会]コミュニティ・防災減災部門 座長:田端 和彦

分科会では、応募団体から取組事例を発表していただき、地域づくりに係る課題等について座長、他の発表団体及び聴講者の皆さんも交えて意見交換します。

森重 昌之  
阪南大学准教授



田端 和彦 横山 葵  
兵庫大学教授 附属 NPO法人「人と自然とまちづくりと」  
総合科学研究所長 理事長



### <第3部>全体交流会 (座長、発表団体、聴講者の皆さんと意見交換)

森重先生、田端先生、横山先生、第2部の発表者や聴講者の皆さんも交え、地域づくりの好事例等を中心に今後の地域づくり・まちづくりについて意見交換します。

### <その他>パネル展示

国や自治体の施策紹介、今年度のゆめづくりまちづくり賞や、手づくり郷土賞受賞団体の活動紹介、これまでの関西元気な地域づくり発表会内容を展示します。

## 18発表団体の紹介

関西で活躍中の地域づくり・まちづくりに取組んでいる18の団体が集合し、3部門に分かれて地域の個性や魅力を活かした活動内容を発表します!

### <観光交流部門>

- 田舎を活かしたまちづくり (奥大野区)
- 全国ご当地鍋フェスタ「鍋ー1グランプリ」について (全国ご当地鍋フェスタ実行委員会)
- 地域資源の掘り起しと地域情報誌発行を活かしたまちづくり (NPO法人 奥播磨夢倶楽部)
- 地域主体の連携による環境にやさしい街づくり (長岡中央商店街地域活性化委員会)
- ピンチをチャンスに変えた花の街づくり (六甲アイランドCITY自治会ローズガーデンファミリー)
- 野菜と花と緑のタテニワ菜園花壇で地域の環境緑化づくり (ララファーム)

### <地域資源活用部門>

- 人と自然が共生するカタクリ100万本の里山 (矢環境緑化実行委員会)
- 京田辺市の自然を活かしたまちづくり (NPO法人 やましろ里山の会)
- 全ての人が出すごみを媒体としたまちづくり、人づくりを目指す (ふるさと倶楽部)
- 東堅町の地域環境と伝統文化を生かした生活とまちづくり (亀岡市東堅町自治会文化委員会文化部門)
- “めざせ1トン 学校地域をあげての生ごみ回収”小学生でもできる循環型社会 (長岡京市立長岡第四小学校)
- 貝塚市の豊かな自然再発見のまちづくり (橋本夏次)

### <コミュニティ・防災減災部門>

- 天王寺区下寺町における地域課題解決プロジェクト「お寺deハロウィン」 (特定非営利活動法人 MIRAI PLUS)
- 地球温暖化防止活動の推進による明舞団地の活性化 (NPO法人環境21の会)
- たのしく! むりなく! みんなでつくろう! 五月田の避難所運営マニュアル～事業避難所運営訓練 HUG(ハグ)の実施～ (五月田校区自治連合会)
- 東堅町の地域環境を生かした生活とまちづくり (亀岡市東堅町自治会文化委員会環境部門)
- 書を通じて青少年の防災教育を担うまちづくり (特定非営利活動法人 健康まちづくり推進協会)
- ～みんなでオモロイことで繋がる～コミュニケーションアートで繋がるまちづくり (A-yan!!関西をアートで盛り上げるNPO)

## 聴講参加者の応募方法

◆お申し込みは、FAXもしくはEメールにてお願いします。FAXの場合、参加申込書に必要事項を記入の上、お申し込みください。

◆Eメールの場合、メール本文に、参加者氏名、ふりがな、所属、連絡先、聴講希望の分科会を記入の上送信していただき、事務局に着信確認の電話連絡をお願いします。

※WEBメール(Qメール・yahooメール等)・レンタルサーバーを使用されている場合は、当方のセキュリティ上、メールを受信できない場合があります。大変お手数ですが、念のため着信確認をお願いします。

※ご応募いただいた個人情報については個人情報保護法令等を遵守し、本発表会に関する会場運営、次年度企画への参考資料以外の目的では使用いたしません。

### ◆会場へのアクセス

- 地下鉄谷町線「天満橋」駅から3号出口徒歩約3分
- 京阪電鉄「天満橋」駅から東口徒歩約5分



## お問合せ先・応募先・申込先

「関西元気宣言」発信運動本部事務局 〒540-8586大阪市中央区大手前1-5-44 (国土交通省近畿地方整備局企画部企画課)

TEL:06-6942-4090 FAX:06-6942-7463 E-mail: genki\_happy@kkr.mlit.go.jp

主催:「関西元気宣言」発信運動本部  
後援:一般社団法人近畿建設協会

「関西元気宣言」発信運動は、関西が元気あふれる魅力的な注目すべき地域であるとの認識を広げるため、日本全国さらには世界に向けて、関西の元気を発信するものです。

### 参加申込書

|       |   |               |
|-------|---|---------------|
| ふりがな  |   | 聴講希望分科会<br>番号 |
| 代表者氏名 |   |               |
| ご住所   | 〒 |               |
| 電話番号  |   |               |
| ふりがな  |   | 聴講希望分科会<br>番号 |
| 参加者氏名 |   |               |
| ふりがな  |   | 聴講希望分科会<br>番号 |
| 参加者氏名 |   |               |

※複数人での参加希望の場合は、参加希望者全員分の氏名をご記入ください。(複数枚提出可)

所属団体名

※地域づくり団体に所属している場合はご記入下さい。



関西元気な地域  
づくり発表会  
ホームページ

聴講希望分科会 ①観光交流 ②地域資源活用 ③コミュニティ・防災減災



**「関西元気宣言」発信運動本部事務局**

**(近畿地方整備局企画部企画課内)**

〒540-8586

大阪市中央区大手前1-5-44 大阪合同庁舎第1号館

TEL:06-6942-4090 FAX:06-6942-7463

この事業は(社)近畿建設協会の後援を受けて実施しています。